ナイトメア　the GazettE　有村竜太朗(Plastic Tree)　ムック　LM.C　SuG　Ko-ki(ViViD)

平成9年12月5日第三郵便物認可平成23年6月1日発行第220号(毎月1回1日

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX

6月号 Vol.220
2011 月刊 980YEN

2大特典
特別付録:両面ピンナップ
ナイトメア
有村竜太朗(Plastic Tree)
応募者全員サービス
ご希望のフォトカードを
サービス!!

NIGHTMARE
Special Front 24 Pages Edition

杂志迷
zazhimi.com

the GazettE　有村竜太朗(Plastic Tree)　ムック　LM.C　SuG　Ko-ki(ViViD)
THE KIDDIE　少女-ロリヰタ-23区　真緒(Sadie)
ギルガメッシュ　DaizyStripper　HERO

蝴蝶网
hudie.com

杂志迷
zazhimi.com

BORN

脈打つ鼓動、開眼する本能
最凶なるモンスターチューン。

NEW SINGLE

DEMONS

2011/6/15(WED) Release

【初回盤】限定：2,000 枚
PSIM-30028 / ¥2,625(tax-in)

01. DEMONS
02. GARBAGE

[DVD 収録内容]
「DEMONS」MUSIC CLIP
2010/11/7 Shibuya O-WEST の LIVE 映像

【通常盤】PSIM-20022 / ¥1,575(tax-in)

01. DEMONS
02. GARBAGE
03.【beauty;beast】

PS COMPANY PRESENTS BORN ONEMAN LIVE

URGE OF DEMONS
2011/10/8(SAT) 新宿 BLAZE

OPEN17:30/START18:00 前売¥3,900 / 当日¥4,500(税込)/Drink 代別¥500
7/16(土)より一般発売開始
チケットぴあ 0570-02-9999[P:136-401] / ローソンチケット 0570-084-003[L:73340]
イープラス http://eplus.jp (PC/携帯共通) / GET TICKET [PC]http://www.getticket.jp/[携帯]http://k.getticket.jp/
info.DISK GARAGE 03-5436-9600

【SHOXX 先行】

[ディスクガレージ 03-5436-9600]

PS COMPANY PRESENTS BORN 主催

bug screamo Vol.8 ~ 11

5/7(SAT)、5/13(FRI)、5/21(SAT)、5/28(SAT) at 高田馬場 AREA

PS COMPANY PRESENTS

TRIBAL ARIVALL TOUR 2011

6/3 (FRI) 秋田 Club SWINDLE
6/4 (SAT) 青森 QUARTER
6/7 (TUE) 長野 CLUB JUNK BOX
6/8 (WED) 富山 MAIRO
6/9 (THU) 岐阜 club-G
6/11 (SAT) 岡山 CRAZYMAMA KINGDOM
6/12 (SUN) 高知 CARAVAN SARY
6/14 (TUE) 鹿児島 CAPARVO HALL
6/15 (WED) 熊本 DRUM Be-9 V1
6/17 (FRI) KYOTO FANJ
-TOUR FINAL-
6/25 (SAT) SHIBUYA-AX

●info. バックステージプロジェクト 03-5786-2400

PS COMPANY PRESENTS

キラキラ☆サマー☆タイフーン!! Tour 2011

●7/20(WED) Zepp Nagoya ●7/21(THU) Zepp Osaka ●7/22(FRI) Zepp Fukuoka
●7/25(MON) Zepp Sapporo ●7/27(WED) Zepp Sendai ●7/28(THU) Zepp Tokyo

●info. バックステージプロジェクト 03-5786-2400

PS COMPANY PRESENTS

Peace & Smile Carnival 2011 SHIBUYA 7 DAYS at C.C.Lemon Hall

●info.DISK GARAGE 03-5436-9600

-LIVE SCHEDULE-

●4/22(FRI) 京都 FANJ ●4/23(SAT) 岡山 CRAZY MAMA KINGDOM
●4/25(MON) 鹿児島 CAPARVO HALL ●4/26(TUE) 博多 DRUM Be-1 ●4/28(THU) 大阪 BIG CAT
●4/29(FRI) 名古屋 ELL ●5/3(TUE) Shibuya O-EAST

-INSTORE EVENT SCHEDULE-

●6/26(SUN) 新宿 ZEAL LINK Info.03-5379-7155 ●7/2(SAT) BRAND X Info.03-3880-6780
●7/10(SUN) 自主盤倶楽部 Info.03-3371-3851

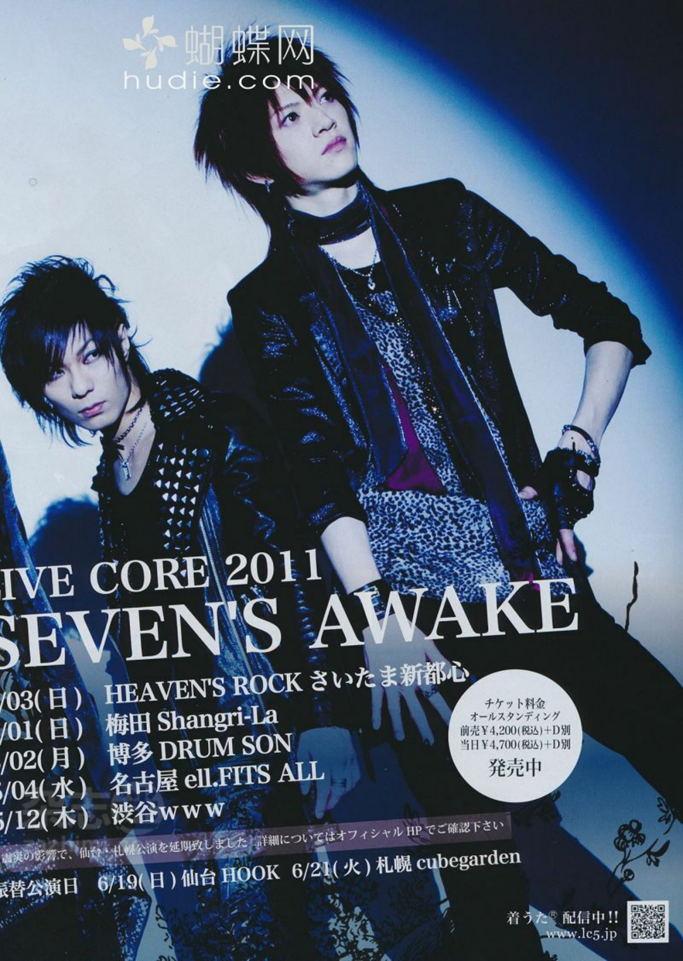
インターネットラジオ LIVECAST
「ブラック セオリー レディオスター」第1・第3月曜 21:30～22:00 ON AIR http://livecast.jp/

【TOTAL INFORMATION】
PS COMPANY Co.,Ltd. / Indie PSC.

PS COMPANY OFFICIAL MOBILE SITE
PSmobile

OFFICIAL WEB SITE http://www.indie-psc.com/born

蝴蝶网
hudie.com


蝴蝶网
hudie.com
IVE CORE 2011
SEVEN'S AWAKE
/03(日) HEAVEN'S ROCK さいたま新都心
/01(日) 梅田 Shangri-La
/02(月) 博多 DRUM SON
/04(水) 名古屋 ell.FITS ALL
/12(木) 渋谷www
チケット料金
オールスタンディング
前売¥4,200(税込)+D別
当日¥4,700(税込)+D別
発売中
震災の影響で、仙台・札幌公演を延期致しました 詳細についてはオフィシャルHPでご確認下さい
振替公演日 6/19(日) 仙台 HOOK 6/21(火) 札幌 cubegarden
着うた® 配信中!!
www.lc5.jp

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
NEW SINGLE
ファン!ファン!TOMORROW!!
6月1日 ON SALE
【初回盤】(CD+DVD) 2枚組　2曲+[DVD] Music Clip
RSCD-036/037 ¥1,890 (tax in)
【通常盤】(CD) 3曲収録
RSCD-038 ¥1,260 (tax in)
発売元:Resistar Records

蝴蝶网
hudie.com

CONTENTS

139 少女-ロリヰタ-23区
ロリータニジュウサンク
145 真緒(Sadie)
マオ（サディ）
148 ギルガメッシュ
074 DaizyStripper
デイジー・ストリッパー
076 boogieman
ブギーマン
078 HERO
ヒーロー
080 V[NEU]
ニュー
082 DOG inThe パラレルワールドオーケストラ
ドッグ・インザパラレルワールドオーケストラ
084 KISAKI
キサキ
086 アンド
098 Versailles
ヴェルサイユ
102 樹威
ジュイ
108 Ap(r)il
エイプリル

連載
116 SHOXX MODE
厳選してお届けする最新情報!!
ベルベット
リルト
PERESTROIKA
ペレストロイカ
124 一筆入魂!!
ザ・ミッション
129 ARTIST'S BOX
136 プレコン WORLD
138 大島暁美のロックンロール日記
135 編集後記＆次号予告
035 応募者全員プレゼント

>> マークの説明 <<

●マークがついているアーティストは
携帯サイト「音楽せんか？」とリンクしています。

■アクセス方法
>>i-mode「メニューリスト」→「音楽／映画／芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか？」
>>EZweb「トップメニュー」→「カテゴリーで探す」→「エンターテイメント」→「音楽」→「音楽せんか？」
>>vodafone「メニューリスト」→「芸能・映画・音楽」→「映画・音楽」→「音楽」→「音楽せんか？」

Editorial in chief／Yoshio Suzuki
Editors／Misako Shida, Junko Arasawa, Atsushi Takami

Art Director／Noriaki Ishimatsu (Kelsyo Design)
Design Stuff／Yoichirou Fujii, Maki Yoshikawa, Hitomi Ikeuchi(Bakery37.1), Nakane(amulet label), Yukako Takayama, Noriaki Ishimatsu, Youki Maenohama, T.O.MAMMOTH graphics, Asaka Yamamoto(glitter glow)

VISUAL & HARD SHOCK MAGAZINE
Vol.221は2011年5月21日(土)発売
http://www.ongakusenkasha.co.jp
発行所／株式会社音楽専科社
104-8228 東京都中央区銀座6-2-3Daiwa銀座アネックス5F
TEL／03-3574-0201(代表)
発行人／荒井敏行
編集人／鈴木佳男
製版・印刷／株式会社プロスト／凸版印刷株式会社
発行日／2011年6月1日
特別定価／980円本体933円

SHOXX

2011
6月号
Jun Vol.220
Cover Model：ナイトメア
Photo：
Susumu Miyawaki(PROGRESS-M)
Design：
Noriaki Ishimatsu(Keisyo Design)

010 **ナイトメア**
Part1 ：ロング・パーソナル・インタビュー〜今、想うコト〜
Part2 ：東日本大震災支援 LIVE『publish & recover !』2011.3.31at 新木場 COA

038 **the GazettE**
ガゼット
最新シングル『VORTEX』インタビュー＆
ZEPP TOKYO レポ

046 **有村竜太朗**(Plastic Tree)
アリムラリュウタロウ（プラスティックトゥリー）
強く想うこと ——。

052 **ムック**
日本武道館漏洩
計画第２弾

057 **LM.C**
エルエムシー
共鳴していれば、
いつでもつながれる

060 **SuG**
サグ
今、出来るコトを…。

066 **Ko-ki**(Viv
コーキ（ヴィヴィット）
パーソナル企画・第2
『もしも、ミュージシャン
なっていなかったら

070 **THE KIDD**

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

NIGHTMARE

VERMILION.

“現在(イマ)”を生きる5人が、感じる想い

【Nightmare unexpected LIVE『publish!』】が行われる予定だった2011年3月11日。
日本観測史上最大の大地震が東日本を襲い、日本は未曾有の自体に陥った。
むろん、この日の公演は延期――。仙台出身でもある彼らは、何か力になれる事を…と、
3月31日に【東日本大震災支援LIVE『publish&recover!』】とその名前を変え、公演を行った。
5月18日にリリースされるNEW SINGLE「VERMILION.」も初披露されたこの日。
今回は、そんなライヴの模様をレポートするとともに、
今それぞれが感じている事・NEW SINGLE「VERMILION.」に込めた想い等を、
ロング・パーソナル・インタビューにてお届けします。

Photography: SUSUMU MIYAWAKI (PROGRESS-M)
Art Direction: NORIAKI ISHIMATSU
Interview&Report: YUKA SUGIE (YOMI/柩/RUKA/LIVE)
NAOKO TAKEICHI (咲人/Ni~ya)
Hair&Make-up: YORIKO MATSUDA / NATSUKI KOJIMA

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

hudie.com

et cheeks
omeday
urely flap

YOMI

濡らした頬は何時か乾いて きっと 羽ばたけるから…

——先日の新木場スタジオコーストでのライヴ、言葉で伝える役割のYOMIさんとしては、これまでに経験したことのないプレッシャーがあったのではないですか？

「うん、あった。いつも、そこまで硬いMCってあんまりしないし…基本、伝わりやすいように、自分がしゃべりやすいようにしゃべってるからね。きちっとしたMCは初めてだったし、言葉を選びながらしゃべらないといけなかったし。MC以外の部分でも、いつもとちょっと違うなって感じたライヴだった。全体的に、やっぱり難しかったのかなぁ、って思う」

——まぁ…自粛ムードの中での開催でしたし、そうもなりますよね。

「お客さんのテンションをもうちょっと持っていけるかなって思ってたんだけど、実際にやってみると、お客さんもそうだし、自分たち自身も、まだどこかしら、はっちゃけきれない何かがあって。もう少し、俺たちが明るい感じのバンドだったら、雰囲気も違ったのかもしれないけど…どうしても、ナイトメアって重い曲とか、暗い曲が多いじゃない？」

——それはMCでも言っていましたよね。

「そうそう。だから、余計雰囲気が重くなっちゃったのかもしれないな、って」

——普通だったら、SEが鳴ってメンバーが登場しますけど、SEなしで、点灯した上でのスタートでしたから…いきなりライヴモードに自分を持っていかなければいけない難しさも、あったことでしょう。

「そうなんだよね。確かに、今までナイトメアがやってきたライヴの中で、一番難しかったんじゃないかなって思う。でも、ファンの子の顔を見ただけで、安心はしたし。あのライヴは、やっぱりやって良かったな、っていう気はしてるけどね」

——MCでも、〝ライヴをやるべきかどうか迷った〟と言っていましたけど…きっと、観に来た人も、〝来て良かった〟と思ったことでしょう。

所の人とかと、ナイトメアとしてどういう行動をすべきなのかっていう話をしてたんだけど…まぁ、難しいよね」

——ライヴひとつとっても、〝こんなときにやるべきじゃない〟という人もいれば、〝こういうときだからこそやってほしい〟という人と、意見はさまざまですからね。

「そう、何をやっても賛否両論があるのはしょうがないんだけどね。あと、募金活動にしても、〝本当に被災者の方たちのために役立ててくれるのか〟っていうことを、不安に思う人もいるかもしれないし。そこは、ファンの人たちにちゃんと明確にしていかないといけないね、っていう話はしてるんですけど」

——そういう意味では、先日のライヴで、YOMIさんが〝あしなが育英会〟に募金することを明らかにしてくれたじゃないですか。そのことで、安心できた人はいると思います。

「うん、それはちゃんと言わなきゃなって思ったから。ただ、言い忘れちゃったことがあって。なんで〝あしなが育英会〟かっていうとね、地震が起きたのが午後2時半ぐらいなんだけど、その時間帯って、子どもたちが保育園や学校に行っていて、親は仕事していて、離れ離れでしょ？　だから、地震や津波の被害を受けにくい学校にいた子どもたちは助かったんだけど、お父さんお母さんとか、お祖父ちゃんお祖母ちゃんは亡くなっちゃった、っていうケースがすごく多いらしくて」

——〝あしなが育英会〟への募金は、そういう親御さんや保護者を亡くした子どもたちのために役立ててもらえますもんね。

「もちろん、他にも大変な目に遭った方は大勢いるけど、俺たちはこれからの未来を創っていく子どもたちを、ピンポイントで支援していこうって。最初は、みんなに協力してもらったお金で、ナイトメアとして仮設住宅を建てようとか思ったりもしたしね」

——そうやって考えることはもちろん、一歩踏み出すことが、まず大事なこと

この間のライヴで、あしなが育英会への募金箱にすごくたくさんのお金を入れてくれてて。もうね、本当にありがたいな、っていう気持ちになった」

——もしかしたら、ナイトメアの存在、YOMIさんの言葉をきっかけに、募金しようと思った人もいるかもしれませんし。

「そういう意味では、少しは役に立ててるのかな、っていう気はする。震災に関して、いろんな人がいろんなことをしてるけど、詐欺をはたらくような人以外は、悪気があってやってる人って、本当いないと思うんですよ」

——表に立って呼びかけている人であれ、個人的にであれ、きっとそうですよね。それを〝偽善〟と言う人もいますが、それは乱暴な気がします。

「そう。賛同したり賛成したりすることはあっても、批判したり、否定したりっていうことは、ファンの人たちにも言ってほしくないな、と思うんだけどね。ま、できるだけ多くの人に信頼してもらえるように、いろいろ明確にしていきたいし、そうしなきゃな、とは思ってる」

——ともあれ、YOMIさん自身は被災はしなかったものの、ナイトメアの故郷である仙台をはじめ、東北の大部分が言葉を失うほどの被害を受けたわけで…そのショックたるや、計り知れないな、とも思います。

「報道を見ててもさ、子どもを探すお母さんの姿とか…正直、辛くて見られない。しかも、地元の言葉だからさ。余計感情移入しちゃう。だからね、生活そのものは、時間が経てば徐々に復旧はしていくと思うんだけど…どちらかというと、被災者の方たちのメンタルな部分は、傷がなかなか癒えないと思う。どういう言葉を使ったところで、慰められる自信もないし」

——〝頑張れ〟と応援したい気持ちもわかりますが…正直、頑張れだなんて、とても言えないなって思ってしまったりもします。

「本当にそうだよね。ただ、音楽の良いところは、メロディや曲に乗ること

のね。より気持ちがこもって相手に届くっていう部分では、音楽ってすごいって思うし。すぐに被災地の役に立てるものではないかもしれないけど、後々、傷付いた人の心を癒してあげたりとか、ラクにしてあげたりとか…これからが俺たちの仕事なのかな、っていう気はしてる」

——被災地の方々が立ち上がろうとするそのときにこそ、音楽が役に立てるのかもしれませんね。ちなみに、この震災に関して、ブログとかツイッターなどを介して、ファンの方と交流していたりもするんですか。

「俺、ブログもツイッターもやってないんだよね。言葉ってさ、難しいじゃない？」

——公に言葉を発する場合は、なおさらそうでしょうね。

「自分の発言したことに対しての責任もあるしね。良い結果を生むこともあるんだろうけど、マイナスに働いてしまうこともあるだろうし。俺は、マイナスに働くことが怖いなと思うから、いまだにやってない。ブログやツイッターをやってほしいっていう意見はよくもらうし、やってあげたいなっていう気持ちもあるんだけどね。でもさ、バンドとかアーティストの人たちって、今でこそブログやツイッターでプライベートを明かすようになったけど、本来は謎のままでいいって思うんだよね」

——言われてみれば、その昔、X-JAPANやLUNA SEAのプライベートって見えなかったぶん、ロックな都市伝説も生まれたりしていましたね（笑）。

「そうそう。でも、俺はそれでいいと思う」

——加えて、言葉によって人を傷つけたくないという想いの裏には、YOMIさんの優しさもあるのかな、とも思うんですけどね。

「まぁ…過去に、そういうこともあったからかもしれないけどね。優しいって言われるときもあるけど、メンバーには〝薄情だ〟って言われたりもする

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

Your wet cheeks dry someday you can surely flap

YOMI

ないから、そう言われるのかなぁとは思うんだけど…優しいのか薄情なのか、自分でもよくわかんない」

―とはいえ、震災を受けての自宅待機後、メンバーに再会したときは、安心したり、感動したりしたんじゃないですか？

「それがさ、地震のときは、やるはずだったライヴのリハーサル中で、メンバーみんな一緒にいたから…再会っていっても、そんなに感じなかったかも(笑)。RUKAさんは、安心したし感動したって言ってたけどね(笑)。俺は、両親の安否が確認できたときのほうが、安心感があったかな」

―あ、そうですよね。離れているぶん、心配でしょうし…震災直後は、きっと連絡もなかなか取れなかったでしょうし。

「そうそう。ずっと連絡が取れなかったからさ。親、親戚、友達…知ってる人みんな、無事でしたけどね。でも、後々、被害の大きさを知って、本当に驚いた」

―そういった衝撃が、YOMIさんに何かしらの変化をもたらしていたりもするんでしょうか。

「今まで、自分的には音楽を信じてきたし、良い仕事だと思ってやってきたんだけど…震災の後、3、4日自宅待機してる間に、いろいろ考えてたのね。そのときに、自分は役に立つことができない、ってことに気付いて。自分の無力感を、すごく感じたっていうか。そこは、変わった部分かもしれない」

―自身で思い込んでいた自分と違う自分が見えると、動揺するじゃないですか。

「うん、動揺する。自信がなくなるよね。だから、この間のライヴにしても、自分の中に迷いみたいなものがあった気がするし。かといって、自分の仕事にまったく自信が持てなくなった、っていうわけではないんだけど」

―その迷いは、自分自身に対してなのか、歌そのものの力に対してなのか…どちらに対してのものなんでしょう。

「それはね、どっちもかな」

―歌が誰かを救うし、傷を癒すものであることも信じている一[illegible]懐疑的になってしまっている自分もいると。

「そうそう」

―そんなことって、初めてのことですよね。

「初めてだね。俺はずっと音楽で救われてきたから、みんなも勝手にそうだろうって思ってたけど…被災地では、音楽を聴ける環境もないし、炊き出しはあっても、弾き語りをやってるような人はいないわけじゃない？ さっき言ったみたいに、最近になって、今は俺らの出番じゃなくても、これから役立てるはず、って思えるようになってきたけど…うん、まだ少しの迷いはあるんだよね」

―それはきっと、時間の経過とともに移り変わっていくものでもあるでしょうし…とにかく、移籍第1弾シングル「VERMILION」で、ナイトメアは11年目のスタートを切るわけですからね。

「うん。「VERMILION」の歌詞は、プラスの意味に捉えてもらえる内容だと思うし」

―〝壊れ、救えない世界〟を〝まだ今も愛してる〟わけですしね。

「そうそう。ナイトメアでは暗い曲が多いけど、この曲はすごく、みんなを元気にしてあげられる曲なんじゃないかなって。それは、PVを撮ってても思った」

―先日のライヴで聴いたときも、歌詞のテーマは別として、バンドの高揚感を感じましたし。

「確かに、聴きやすすぎず、バンドのグルーヴも出てるよね。移籍第一弾のシングル表題曲として、ピッタリだと思う」

―それから、「ByeBye」に関しては、柩さんが〝エセダンス〟と称していたんですが…YOMIさん的に、ノリやすい曲でした？

「ノリやすいとは別かもしれないけど、歌いやすい曲。最初、半音低かったんだけど、レギュラーチューニングにしてもらったことで、一気に歌いやすくなった。で、Bメロは同じ言葉が繰り返されるから、語尾でフェイクを入れ[illegible]違って聴こえるように、自分なりに歌い方の工夫はしてる」

―そういうちょっとした試みが、曲の印象をより鮮やかにすると。曲に対してのアプローチが浮かぶか浮かばないか、これは経験値によって左右されそうですね。

「それはあると思う。実際、昔よりパッと浮かぶようになったからね。ビブラートに関しても、前は適当にやってたけど…最近は、伸ばしてからビブラートに入るのか、最初からビブラートするパターンにするのかとか、レコーディングのときに細かいところまで作曲者と話をしたりするし。自分でも、経験値だなって思う」

―咲人さん作詞・作曲の「trauma」では、重厚感の中に歌が際立っていますが…やっぱり、歌い手が試される部分はありそうですよね。

「楽器がガチャガチャしてたり、「VERMILION」みたいにメロディがパンって前に出てたほうが、歌いやすいからね。「trauma」はしっかり歌わないと、ヘタに聴こえる。本当、試されたよ」

―ちなみに、「VERMILION」「ByeBye」はRUKAさん、「trauma」は咲人さんの歌詞じゃないですか。それぞれ、歌い手としてはどう感じ、どう捉えました？

「今回に限ったことではないけど…毎日メンバーと一緒にいるせいなのか、すごく共感しやすいんだよね。自分になぜか当てはまる言葉も多いし。もしかしたら、作詞者の意図は別のところにあるのかもしれないけど、自分に重ねられるな、3曲とも。「VERMILION」は、今のナイトメアの状況、今の自分たちを歌詞にしたのかなって思うし。勝手な解釈だから、後でRUKAさんに怒られるかもしれないけど(苦笑)…自分たちがあと何年、ナイトメアとして生き続けられるかわからない、っていう気持ちが入っているように感じるしね。で、「ByeBye」は、お互いが離れていく〝バイバイ〟っていうよりは、相手だけがいなくなるとか、〝消えろ〟っていうイメージが強くて」

―イヤな部分なのか、確かに強く決別を願っていますよね。

「そうそう。そういうモードで、歌ってた。「trauma」は、自分との闘いなんだけどね」

―でも、〝愛して欲しい〟わけですよね。

「どこかで思ってるよね。〝こんな俺でも愛して欲しい〟っていうことなのかな？ とか、いろいろ深読みもできるかなって」

―さて、現在はさらなる新曲たちが生まれつつあるようですし、年内にはアルバムも発売予定ということですが…大変な年ではありますけど、心機一転、ナイトメアとしては鋭意進んでいく年でもありますね。

「地震の影響もあるし、移籍して環境が変わって、まだ不安定な部分はあるけど…単純に、10周年が終わって、レコード会社移籍が決まって、シングルが出ることになって、やっと新たなスタートっていう気持ちがあるのね。だから、ここからかなって思う、本当」

―以前、YOMIさんがインタビューで〝ナイトメアのこれか[illegible]まだまだ見せていきたい〟と[illegible]のことを言っていましたけど、[illegible]能性は、先日のライヴでも、今回のシングル「VERMILION」でも、[illegible]と感じられましたから。

「うん、まだまだ昇るんだっていうことを、ファンの人たちにも示[illegible]たいからね。今年、メジャー[illegible]8周年になると思うんだけど、[illegible]で長くメジャーのシーンにいられるってありがたいことだし、ここまで[illegible]たら、メジャーデビュー10周[illegible]目指[illegible]たいし」

―バンドが続くこともすごいですけど、メジャーで10年活動できたら、相当誇らしいことですよね。

「でしょ？ 移籍したばっかりだし、どうなるかわからない部分もあるけど、まだまだナイトメアがみんなをビックリさせられることもあると思うしね。今年後半、俺たちの力を発揮できる環境が整うと思うから、楽しみにしててほしいな」

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

――コーストでのライヴに関してお聞きしますが…ステージに立っているとき、どんなことを感じていましたか。

「うん…それまで、今日のライヴは一体どうなるんだろうな、って思ってたのね。終わったらどういうライヴになってるのかな、って。で、ステージに出ていって、黙祷して、演奏が始まった瞬間…いつもと全然違うなと思った。人によっては、いつも通りのライヴだって感じたファンの人もいると思うけど、自分の気持ち的には、明らかに違ったから」

――当然、そこに至るまでに、言い難い葛藤もあったでしょうし。

「葛藤はあった。ライヴができるっていうのは嬉しいことだけど、被災地のことを思うと、手放しでは喜べないから。でも、そういう気持ちばっかりでステージに立つっていうのは、来てくれるファンの人にも、支えてくれているスタッフにも失礼だなと思って。やるからには、みんなが元気になれるような、明るくなれるようなライヴにしていかないと意味がないから。とは言っても…複雑な気持ちではありましたけどね」

――ステージを降りた後には、もしかして何らかの変化がありました?

「終わってからは、すごく安心したんですよ。みんなの顔を見ることができて嬉しかったし。いつも以上に、みんなの笑顔だったり、体を動かして楽しんでいる様子だったりを、感じることができたから」

――ただ、ライヴ当日にあの震災があったわけで、同じ場所でライヴを行なうにあたっては、記憶がフラッシュバックするというか…多少の不安感もあったのではないかなと。

「正直、怖かった。会場入りしてから、同じことをするわけじゃないですか。リハーサルのメニューにしても、地震当日とわりと近かったし…地震が起きた瞬間に演奏してた曲をやったときは、無意識のうちに周りが揺れていないかを確認して、不安になっちゃったりして。でも、リハーサルが無事に終わったときに、そういうトラウマみたいなものを切り替えることはできたんだけど」

――本番に関しては、いつもならSEがあって、大歓声に迎えられるわけじゃないですか。それが、SEもなく、黙祷での始まりだったので、エンジンのかけ方は難しかったのではないかな、とは思うんですが。

「うん、精神的には…難しかった。悩んだのは、ステージで笑顔になっていいのかっていうことで。笑顔を見せたとして、それが受け手にどう伝わっちゃうんだろうっていう恐怖感っていうものもあったし。もしかしたら、来てくれている人たちの友達とか、親戚とかが、被災しているかもしれないわけだからね。そういう中で、自分たちがステージでただ楽しそうにしているわけにはいかないんじゃないかなって。かといって、無表情でやっているのは、逆に不謹慎に捉えられちゃうかもしれないし」

――ステージに立つ以上、ちゃんとショウを見せて、楽しんでもらうべきだと。

「そう。もちろん、亡くなられた方が大勢いて、まだ見つかっていない方、被災地で苦労している方もたくさんいるけど、日本っていう国としては、大震災に対して前向きになっているわけじゃないですか。みんなで協力し合って、団結力も高まっているし。そう考えたら…自然と笑顔になれたんですよね。で、いつもみたいに頑張ったり、首を思いっ切り動かしたりしないで、1人1人、みんなの顔をしっかり見たいなと思って」

――だからでしょうか。私からも、枢さんの顔がよく見えました。

「それなら良かった。それこそ、ライヴをやること自体に賛否もあったけど…うん、俺はやって良かったなって思う」

――ただのライヴではなく、会場にはあしなが育英会への募金箱を設置していましたしね。

「すごいんですよ、みんなの募金額が」

――若い人も多いというのに。

「本当、すごく力を貸してくれていて。っていう話ではないけど、チケット代より高い金額を入れてくれた人もいたし。金額の大小にかかわらず、自分のお金を募金箱に入れてくれたその気持ちっていうのは、嬉しいですよ。実際、小銭より断然お札が多かったから、募金箱自体はそんなに重くないのに、びっくりするぐらいの金額になったみたいですからね。みんなの力と想いに、本当感謝してますよ」

――正直なところ、地震そのものの被害や計画停電などの余波で、そもそもの集客数は維持できないかと思っていたんですが…フタを開けてみれば、驚くほど人がギッシリ入っていましたしね。

「俺も、埋まらないだろうなって思ってた。でも、来てくれた以上、全力でやらなきゃなって思ってて。そうしたら、すごくたくさんの来てくれてましたからね。中には、はるばる遠くからきてくれている人もいるだろうし、地震当日にすでに会場まで来てたのに中止になって、また今回も来てくれた人もいるだろうし。"求められている感"は、すごく感じた。全体にやっぱり、落ち込んでるじゃないですか」

――自粛ムードもありますし、気分的にも、なかなか浮上できずにはいますよね。

「そうそう。もともとみんなが好きだったもの…ライヴも、震災後、すっかりなくなっちゃったわけだし。でも、今回のライヴに多くの人が足を運んでくれて、楽しんでくれたことは、すごく嬉しかったですよ」

――そのことで、自分たちがステージに立つ意味を、いつにも増して考え、噛みしめたりもして?

「うん。もっと頑張んなきゃ、って思わされたし。みんな、見返りを求めて応援してくれているわけではないと思うけど、気持ちの面で、まだまだみんなに返せていないと思うし。これからどんどん新しいものを届けていきたいし、"伝える力"がもっと必要だなっていうことも思った」

――今は不謹慎の連鎖で、表に立つ人も難しい立場にあると思いますけど…

「そうそう。言葉を選びすぎると、みんな同じことしか言えなくなっちゃうし、平面になっちゃうじゃないですか。だから、いろんな表現の仕方、伝え方があって良いと思うし」

――ナイトメアのみなさんは、被災地である仙台出身なわけで、それぞれに言い難い想いを抱えているとは思うんですが…枢さんは今、何か語れそうですか。

「俺の両親、親戚、友人はみんな無事だったんだけど…実家から近い仙台空港とか、近所の港は、津波の被害を受けてて。女川とか気仙沼とか牡鹿半島とか、行ったことのある土地が大打撃を受けて、たくさんの人が亡くなってしまったっていうのも、すごく辛い。でも…よく、"東北の人って温かいよね"とか"東北の人は優しいね"って言われるんですよ。東京に出てきてからは特に。だとすれば、人と人の助け合いは、すんなりできると思うんですよね。実際、震災後、被災された方同士でも助け合ったりしているし。その団結力は、絶対に欠かさずにいてほしい。もちろん、家とか、思い出とか、育った街並みとか、あるいは家族、親族、友人、大切なものを津波で流されちゃった人が多くいて、そのショックは想像できなかったりするけど…天災だからしょうがないとか、仕方がないとか、そういう言葉では片付けたくないなって。俺自身は、被災していないし、被災地にもいないけど…一生かかっても癒えないだろう傷を、他人が埋めるのって難しいと思うのね。かといって、そっとしておいてあげるっていうのも違うんじゃないかなって。だったら、そういう人たちを言葉だったり、感情的なもので支えられたらいいなと思う。これから他に目を向けられるようになったときに、サポートしたいなって。それが具体的にどういう行動なのか、まだ考えきれてはいないんですけどね」

――これは、非常に難しい問題ですよね。被災した方たちにとっては、これからがまた苦難の道程でしょうから…

your strength
will be decide
you have a

枢

夢があるか無いかで、そいつの強さが決まる

被災しなかった人間も、長期的に支えていかなくてはいけませんね。

「そうそう、今だけじゃなくてね。その一方で、人災というか…犯罪を犯す人がいるわけじゃないですか。そういうのが、本当に許せない」

——津波で流されてしまった家、地震で倒壊した家、避難区域の家に侵入して、火事場泥棒をする人がいるというのもまた、現実なんですよね。

「たくさんの人が犠牲になっている惨状で、どうして便乗して、弱みにつけこんで犯罪を犯せるのか、その神経が解らない、本当に。被災地でなくても、募金詐欺があったりするし…この世の中に必要のない存在って、そういうことをする人たちだと思う。どう考えても要らない」

——多くを失っても立ち上がろうという強さ、助け合える優しさが報道される一方では、そういう汚い現実も見えてしまって…本当にやりきれない思いです。

「うん、人の優しさや強さが、表面的には見えてるけど…反面、良くない部分も見えてきているからね。人が人に対してする、良いこと、悪いことの両極端が見えてきたときに、そういう物事に対しての自分の感覚とかバランスが、崩れそうになる。こういうときに何をするべきか、とか。〝悪いやつほど長生きする〟って言って、そういう人たちは一生かけて罪を償わないといけないから長生きするんだろう、とは思いたいけど…本当、どうしても許せない」

——犯罪ではなくても、自己防衛が過ぎると、他の人を救えなくなっちゃったりもしますしね。

「ね。もちろん、原発問題も長引いてるから、みんなが不安になる気持ちもわかるし、特に赤ちゃんとか小さい子どもがいる家庭にとっては切実な問題だろうけど…みんなで一気に買わないで、みんなが1日2日で消費できるぶんだけを買うようにすれば、被災地以外は、ある程度需要と供給のバランス

安にさせたり、困らせてしまうと考えれば、安易に行動できないはずです。

「自分が買い占めることで、誰かを不安にさせるっていうことを、ちょっとでいいから考えたらいいのにって思うよね。ちょっと我慢すれば、何人かの人が助かるかもしれないんだから。あと、野菜とかもね…ニュースなんかを見たら当然不安になるだろうけど、安全な野菜を作っている農家も、買い控えでかなりの打撃を受けているし」

——手塩にかけて育てた野菜や家畜が、いきなり無価値なものになってしまったりもしているわけですからね。

「あまりにも…ね。だから、ちゃんと見極めないといけないな、とは思う。こういうときだからこそ、ネガティヴになりすぎちゃダメだよね。気をつけるとか、意識するっていうことは大事だろうけど、みんなでネガティヴになっちゃったら、負の連鎖にしかならないからさ。だからこそ、俺たちはレコーディングを再開したし、ライヴをやった」

——そういう意味では、先日の新木場スタジオコーストで、ナイトメアがもっとも活きるのはライヴというものだなと改めて思いましたし、「VERMILION.」「ByeBye」という新曲を聴けたことで、ナイトメアの未来をもっと知りたいとも思いましたし。

「そう思ってもらえたなら、良かった。[illegible]は思う、うん」

——でシングル「VERMILION.」に収録されている3曲すべて、どれも曲としての力が強いなと。〝当たり前ではなくなる日常〟を描いた表題曲に関して、[illegible]さんが語るなら?

「歌詞の内容は、ネガティヴ方面じゃないですか。でも、曲としては新しい一面を見せているんじゃないかな、って思いますよ」

——特にライヴで聞いたときの印象としては、歌詞の内容は別として、高揚感があるなと思いましたし。

「うんうん。きっと、ナイトメアのバンド力みたいなものは、すごく出てい

Your strength will be decided whether you have a dream
Hitsugi

「RUKAさんがどう言うかはわからないけど…俺の中で、〝エセダンス〟なナンバーだと思った」

——それ、わかります。決して悪い意味ではなく、あくまで〝エセ〟なんですよね。

「そう、良い意味でね。ダンスっていう感じじゃないの。サビのリズムとか、どっちかっていうと、ロックっていうよりは、ファンクとかフュージョンっぽい方向性なのかなって」

——そういえば、以前、「MASQUERADE」を、RUKAさん自ら〝エセファンク〟と称していましたし…言い得て妙だと思います。

「あ、〝エセファンク〟って言ってたんだ。じゃあ、〝エセダンス〟も褒め言葉になってるのかな。〝ダンスっぽくしようって思ったわけじゃない〟って口では言ってるけど、実はちょっと意識したぐらいのね(笑)」

——後で、RUKAさんにその旨、ぶつけてみようかと思います(笑)。咲人さんの作詞・作曲による「trauma」に関しては?

「結構前にレコーディングして、ライヴでも演奏してた曲だから、ライヴでの印象が強いかな。わりとゆったりしてて、テンポが速いわけじゃないんだけど、すごく力のある曲だなって思う」

——サビで力が解き放たれる感じ、トリ肌が立ちます。

「持ち上げてくれるよね。テンション上げてくれる、とかじゃなくて。Bメロとか、ちょっとポップな部分もあるけど、すごく力強い曲」

——2011年という新たな年、メーカー移籍した11年目の門出に相応しいシングルになりましたよね。そして、現在はさらなる新曲たちが生まれつつあるわけで、ナイトメアとしては希望の灯に向かっていけている、と言えますか。

「そうですね。「VERMILION.」のリリース前には、ツアーもあるし…とりあえず、アルバムまでは突っ走るしかないかなって。きっと、新しいアルバムを

生まれた感情…それらは、これからの作品に、フィードバックされるであろうと。

「今の時点(取材当時)で、まだ震災から1か月も経っていないし…もちろん、ナイトメアとしての軸がブレることはないけど、多かれ少なかれ、いろいろな変化は、きっと起こるんじゃないかな」

——とにもかくにも、個人的には、先日のライヴでメンバーがステージに立つ姿を観て、安心感のようなものを覚えたし…YOMIさんの高笑いにも、救われたような気はします。

「ゾジーさんは、笑ってばっかだからね」

——いつまでも下を向いていてもダメだな、と思いました。被災地のためにも、被災していない我々が日常を送らなければ、と。

「そうそう。俺たちが前向きに進んでいかないとね。一概には言えないかもしれないけど…後悔する出来事ではないと思うんですよ」

——あ、この度の震災について、ですよね。

「うん。被災した方の中には、〝あのとき一緒に出かければ良かった〟とか、〝あのときこうしていれば助かったんじゃないか〟とか、亡くした人への後悔が拭えない人もいるかもしれないけど…被災していない人間は、後悔しようがないでしょ? そうであれば、後ろ見て悔やむのではなく、前を見て、しっかり歩いていかないといけないんじゃないかなって」

——そうじゃないと、やがて被災地の方たちが立ち上がろうとするときに、私たちも復興に向け力を発揮できませんもんね。

「そうそう、そういうことだと思う。今は音楽ってそこまで役に立てないかもしれないけど、普通の生活が送れるようになったときには、音楽を聴きたいと思う人もいるだろうし。そういうときに楽しんでもらえるように、ナイトメアは新しい曲を作って、楽しめる

蝴蝶网 hudie.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶 hide.com

咲人

心が向かいたい方に向こう

he direction
heart
want to go

——咲人と言えば。前々号のSHOXX、完売店続出だったそうで。初ヌード。

「あぁ（笑）」

——音楽雑誌業界に衝撃が走ったと思うよ。ムックの逹瑯くんがツイッターで表紙の画像アップして〝SHOXXすげぇ〜！〟ってつぶやいてたって編集の子が言ってたけど。

「あのSHOXXが出た後、逹瑯さんに会う機会があったんだけど、〝あれ？今日服着てんじゃん！〟って言われたからね（笑）。そりゃ着てますわっていう（笑）。賛否あるとは思うけど、プラスの方に出たのなら良かったというか、少しでも力になれたならやって良かったって思える。恩返しが出来たらいいなって思ってたから。育ててもらった雑誌でもあるからね、SHOXXは。ナイトメアを担当してくれてる編集の志田さんは、1番最初からウチらを見てくれてる人でもあるし、どうやったらウチらの魅力を引き出せるか解ってくれてる人でもあるから、前回の表紙にしても、今までのページ作りにしても、任せられるというかね。自分たちでは客観視出来ないところを、ちゃんと客観視して見てくれてるって思うからね」

——そうだね。仙台に居た頃からずっと変わらず同じ編集担当だからね。

「そう。長い付き合いだよね。やっぱ感謝する部分は大きい。音楽的な面とはまた別のことではあるけど、こうやって自分たちを見せていくということもウチらにとってはすごく必要なことだからね」

——そうだね。ヴィジュアルシーンはバンドの音としてはもちろん、エンタテイナーでもあるからね。

「そう。俺、アーティストって赤裸裸にプライベートを口外しちゃいけないモノだと思ってるんだけど、ふと見える人間性みたいなとこってグッときたりするよね。自分自身昔憧れていたアーティストのそういう面を、こういう雑誌のインタビューとかで垣間みれるのがすごく好きだったから」

——それ、すごく解るな。最近咲人もツイッター始めたらしいけど、ずっとやっていなかったのはそういう理由？ 地震以降始めたらしいよね。

「理由は2つあるんだけど。自分が何か発言することで誰かがちょっとでも安心出来るのならいいなと思った部分と、地震が起こって、仕事も一時的に中断した状態でずっと独りで家にいたから、自分自身がすごく不安定になってて、どんどん気持ちが落ちていくのが解ったから、何か繋がりが欲しかったっていうのがあったんだよね。実際やってみて、良い面と悪い面がすごく見えた気がする。やってみて改めて自分には向いてない部分も多かったって気付かされたとこもあって。最近はあんまり更新してないんだけど。向き不向きもあると思うから、否定も肯定もしないけど、自分にとって精神的にプラスに作用するモノであればいいと思う。それに、実際今回の地震ではツイッターで連絡取れた人も多かったみたいだし、それがいい方向に作用するのは本当にいいことだと思ってる」

——そうだね、それは本当に良かったと思ってる。雑誌もツイッターもファンの子たちにとっては、憧れのアーティストとの繋がっていられる大切なツールでもある訳だからね。

「そうだね」

——憧れの人のことはちっちゃなことでも知りたいし、咲人がさっき言ったみたいに発言の中で垣間みれる人間性にすごく惹かれたりもする訳で。咲人だっていまだにMORRIEさんのライヴ見たさに名古屋まで飛んで行くくらいなんだから。

「そう（笑）」

——すごい行動力だよね。MORRIEさんを好きになってから、彼から受けた影響を自分自身が感じることはある？

「いっぱいあると思うよ。本当に尊敬するというか」

——よく文学の話してるよね。そこは歌詞に通ずる部分でもあると思うけど。

「うん。MORRIEさんの歌詞は、簡単に入り込める部分じゃないっていうか。MORRIEさん独自の世界から学べることってたくさんあるんだけど、俺の歌詞とはまったく別物な訳で。単語の選び方や言葉の使い回しとかが独特で文学性を強く感じるんだよね。あと、MORRIEさんは、ヴォーカリストで終わっていない。アーティストなんだよね」

意味のアーティスト性を感じると。

「そう。メロを考えるときの話を聞いたときも、すごくアーティスト性を感じた。曲を作るときってだいたい、メロを鼻歌で歌っていたりとか、コードにして、そこからいいなと思うメロを探していくものだったりすると思うんだけど、MORRIEさんがメロを考えるときって、鳴ってるコードの音に対して9度の音から入ったらどうなるかな？とか、まずそこから考えて曲を作っていくらしいんだよね。芸術性が高いというか、音を探求してる人なんだなって。いろいろなパターンがあるとは思うけど、とにかく音楽的な探究心の強い人だなって思った。ミュージシャンが音を探求するとマニアックになりがちだから、MORRIEさんが作る曲も難解なモノも多かったりはするけど、曲を細かく分析していったりするとすごく面白いんだよ。本当によく考えて作られてるんだなって思う」

——咲人自身も探究心のある人だからね。まさに、曲を細かく分析してみようと思うところがそうだし。

「たしかに（笑）。俺が個人的に好きになる曲って、そういう細かい部分がツボだったりするんだよね。曲全体がなんとなく好きっていうより、この曲のこの部分がとにかく好きっていう。そういう好きなポイントが1つでもあると、急激にハマったりするからね、俺」

——あぁ、そういえば前に〝ここ！この部分がツボなんだよ！〟って何度も同じ曲のその一カ所をリピートして聴かされたことあったね（笑）。

「そうそう。本当に〝ここ！〟っていうポイントなんだよね」

——文学に関しても言えることだと思うけど、そういう探求の仕方はMORRIEさんと近いところあるよね。

「俺が自分で言うのもおこがましいけど、たしかに近い部分はあるなって思うことはある。感覚的な部分とか。ベクトルは同じ方向を向いているのかなって思う」

——今まではギタリストを好きになっていたと思うけど、MORRIEさんの場合ヴォーカリストだし、そういう感性に強く惹かれている部分を感じるからね。歌詞は咲人にとってどういう

「歌詞は曲の一部としてとらえてる感覚。自分が書くときもそうだし、聴く音楽もそう。最初歌詞カード見て聴かないからね。そこの言葉の母音が何であるかで随分印象が変わってくるし。響きとしてとらえてるんだと思う」

——洋楽的な聴き方だよね。

「そうだね。SUGIZOさんを好きになって、中2からギター始めてから、とにかくSUGIZOさんの好きなモノを片っ端から聴いたけど、俺の好みとは違うモノもあったりしたし。最初に自分でちゃんとCD買って聴いた洋楽はレッチリだったんだけど、当時は資料的に聴いてた部分もあったからね、洋楽は。今はまた違った聴き方してるけど。昔はとにかく、ロックミュージックと呼ばれる音楽のルーツを知りたくなったからね」

——ほら、やっぱり探究してる。

「そう（笑）」

——でも解るな、好きアーティストが好きなモノを知ってみたくなる感覚。聴いてみて好きになれたモノも、残念ながら好きになれなかったモノもあったけど。

「それ解る（笑）。俺もSUGIZOさんが好きだって紹介していた、デヴィッド・シルヴィアンのソロはあまり馴染めなくて。中学生の頃ってどうしてもロックに激しさを求めてるところがあるから、しっくりこなかった。好きなアーティストが好きだからって、自分がそれを好きになれるかっていうのはまた違ってくるからね。それって不思議だよね。あと、定番どころだけど、ディープパープルとか聴いてた。その頃、五線譜を読めるようになりたくて吹奏楽部に入ってサックスやってたんだけど、そこでジャズとかマーチ系の音楽を学んだことによって、そっちの音楽にも興味を持つようになって。マイルス・デイヴィスとか大好きでよく聴いてた。ブルース系のロックもいっぱい聴いていたから、今でも適当にギター弾いていても自然とペンタトニックになってたりするし。そこでクラシックにも触れるきっかけになったし」

——その探究心が今のナイトメアの曲に繋がってるんだって、納得出来る話だね。

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

Advance to the direction your heart want to go

sakito

当時養われた感覚っていうのが、今に活きてるのかもしれない。それに、こんな俺でも一応プライドはあるから、憧れの人のただのフォロアーで終わりたくはないっていうところから、なんとか自分らしさの探求もしてるし。やっぱりこういう場を与えてもらっている以上、何か自分が生きた証みたいなモノを残したいって思うからね」

——そう思うがゆえに、作る曲が難解なモノになってしまっていた時期もあったんじゃない？　「Ultimate Circus」（2003年12月にリリースされたアルバム）のあたりなんてそれを強く感じた。

「そうだね。その頃は、緻密で難解なモノだけど、聴きやすいっていうところを目指してた時期だったかも。そこを必要以上に求め過ぎていたのかもしれない。だからそれがちょっと消化不良になっちゃってたのかも。自分自身、曲の全体像が理解出来ないまま1曲としてパッケージしてたとこもあったからね。あの頃の俺の曲って、歌メロも〝コレ、歌えんのか？〟っていうようなモノばっかだったからね。あの頃は若かったし、そういう経験も必要だったと思うけど。今振り返ってみると、もっと出来たんじゃないかなって思うね」

——今現在、咲人が曲を作る上で考えていることってどんなこと？

「ナイトメアの曲ってわりと演奏も複雑だったりするから、ライヴでやってても手元は常にガッツリ意識してる感じなんだけど、今、俺が1番必要だと思っているのは、難しくても簡単でも、演奏していてとにかく楽しい演奏が出来るモノなんだよね。難解な曲も好きだからどうしても作ってしまうと思うけど、演奏が楽しいと思う曲を作れたらいいなと思ってる」

——手数多いからね、咲人のギターは。

「特に俺のパートはね。昔は、難解なフレーズを弾きこなせることに達成感を感じてたんだけど、今は、単純な単音のカッティングを楽しんで弾けるような曲もやりたいんだよね。曲に合ってるギターというかね。自分の意識的にはそっちの方向に向かってる気がする」

——なるほど。でも、それは今回の「VERMILION」でも既に感じられるね。このテンポの早さであの手数の多さはさすがだけど、聴く側としても難し過ぎる聴きにくさ的なモノがないというか。

「うん、そうかもね。これからはフレーズ自体はシンプルになっていくような気がする。どこか難解なモノに対して躍起になってるとこあるからさ、俺。これはギター考えるのすごく大変だった。俺、天の邪鬼だからなんかやりたくなっちゃうんだよね。独自のフレーズを生み出そうと頭を悩ませた1曲だったね。RUKAさんから間奏部分のギターへのリクエストがあって、後半部分はハモリにしてほしいって言われたから、そこもただのハモリにしたくなくて、ハモって途中掛け合いを挟んで最終的にハモリに持っていった感じだったんだよね。面白くなったんじゃないかな」

——今回3曲中「trauma」が咲人曲だけど、これはテンポやフレーズが大人なハードロックを感じるね。

「結構古い曲なんだけどね、去年の曲だから。「trauma」を作ったときは、最初のアルペジオから浮かんできて、そこから広げて行った感じだったんだよね。イントロのギターのリフも結構早い段階で固まった曲だった」

——でも、「trauma」はリフで攻めていく感じの曲じゃなくない？

「リフって曲を作る上で1番難しいんだよ。テーマ的なフレーズを繰り返せばリフに聞こえるのかもしれないんだけど、俺の中で印象的なリフを創り出すのって永遠のテーマなんだよ。だから、この曲もリフっぽい部分が出来てからはスムーズだったというか」

——でも、ナイトメアは印象的なリフが存在する曲が多いと思うけどね。ループする感じも1つの個性になってると思う。

「でもまだまだ。「スモーク・オン・ザ・ウォーター」とか「ジャンピング・ジャック・フラッシュ」とか一発で解るじゃん。あれなんだよね、あれこそが理想型のリフなんだと思う。難しいことやってるとかじゃなくて、曲中に何回も出て来る度に印象的というか。そういえば、MORRIEさんも言ってた、〝リフが出来れば勝ちなんですよ〟って（笑）。本当、そうだと思う。「スモーク・オン・ザ・ウォーター」なんて歌始まる前に一発で解るからね。あのリフがなければ「スモーク・オン・ザ・ウォーター」じゃないから。あれくらい印象的なリフを作ってみたい。レッド・ツェッペリンの「移民の歌」だってそうだよね。あの頭のリフがなければ成り立ってないからね。本当、難しいんだよリフ作るのって。ギタリストにとっては永遠のテーマでもあると思う。中毒性のあるリフを作れるギタリストになりたいって思うね。って、散々リフについて熱く語ってしまっておきながら、「trauma」はリフを押出そうと思って作った曲じゃないんだけどね。これを作ったときは、頭の中に景色があったんだよ。夜中で、遠くに山が見えてて、湖がある場所。その湖に波紋が広がってる景色を想いながら曲を作っていった気がする」

——夜なイメージはあるよね。すごく心地よい暗さがある曲だからね。

「俺、基本暗い曲の方が好きだったりもするからね」

——歌詞は？

「書いたときは、何かすごく想うことがあってここに吐き出したんだと思うけど、人って本心だけで生きてないでしょ。他の誰にも見せない本心を持って生きてる生き物だと思うから。そんなことを想いながら書いた歌詞だった気がする」

——前シングルだった「a:FANTASIA」の歌詞は最初RUKAかと思ったけど、今回の「trauma」の歌詞は咲人っぽいよね。

「曲調も含めカップリングの人間だからね。今回も表題曲はRUKAさんに任せてるというか、狙ってカップリング曲を作ってるつもりはないけど、自然とそうなっちゃうんだよね、根本的にそうだから。作詞作曲をすることを職業としている商業作家の人たちは逆にすごいなって思うし、尊敬する。ある意味それはそれでアーティストだと思う。昔の歌謡曲は本当にすごいと思うからね」

——それこそ、前に中森明菜の曲で〝ここ！　この音がツボでさあ〟って何度もその部分だけリピートして聴かされた。

「「サザン・ウインド」のイン[illegible]スネアの音（笑）！　あのビー[illegible]あの音だけで酒飲めちゃうって[illegible]らいツボだね（笑）」

——おかしいでしょ、それ（笑[illegible]

「部分で聴いちゃう癖があるんだ[illegible]」

——「trauma」は既にライヴでもや[illegible]てる曲だけど。

「そう。でも、ライヴでやるよう[illegible]てからレコーディングしたって[illegible]じゃなくて、出来た直後くらいにレコーディングしたものだから、[illegible]れたてをパッケージしたっていう感[illegible]はある」

——「ByeBye」は？　すごく細[illegible]ノリを感じる1曲だったけど。

「これは結構こまごまとやった。ライヴで弾くことをまったく考えずにギター入れたからね。この曲は曲の中で遊べそうだなと思ったからかなり自由に遊んだ。いい意味でふざけられる曲だったというかね。「VERMILION」にはそういう要素がなかったんだけど、原曲を聴いた瞬間に〝あ、この曲遊べるな！〟って感じたこともあって、その想いに忠実にふざけてみた感じ（笑）。その分演奏が大変だけど。メインのバッキングを柩に弾いてもらって、俺はいろんな場所で遊んでるイメージ」

——今回のシングル「VERMILION」は咲人とRUKAの個性を色濃く感じる楽曲であり歌詞でもあるけど、歌詞の書き方の違いがはっきり出てるもんね。

「RUKAさんは口語で俺は文語って感じだよね。タイプが違うよね。俺は抽象的にしたがるけど、RUKAさんは現実的というか。「VERMILION」はRUKAさんっぽいし、「ByeBye」は口語的な書き方で、そこもRUKAさんっぽいし。このシングルが移籍第1弾になるから、環境が変わることで自分たちがまた一歩進めたり成長出来るきっかけに出来たらいいなと思う。環境が変化することで新しい風が吹いてきたらいいなっていう期待を抱きつつ、これは永遠のテーマでもあるけど、とにかくいい曲を作っていけたらいいなと思ってる。まずは新たなスタートとしての一枚を多くの人に聴いてもらえたら嬉しいです」

蝴蝶网 hudie.com
杂志 zazhi...

――今回は久々のシングル「VERMILION」とレコード会社移籍についてと、近況を語ってもらおうと思いますが。

「よろしくです。シングルは本当に久しぶりになるからね。そこももちろん近況を語る上では大きな分岐点でもあるけど、まず、今の時点では東北地方太平洋沖地震のこと無くしては語れないというか……。まさに、今回のシングル「VERMILION」も、地震の起きた3月11日の新木場コーストでのライヴでレコード会社移籍の発表と共に初披露する予定でもあった訳で……」

――そうだね……。

「地震のことに関しては、本当に語り出したら語り尽くせない程の想いがあるんだけど……。本当に、今回この地震が起こったことで、いろんなことを考えさせられたからね。自分が音楽をやっていること自体もね。本当にいろいろと考えたよ。けど、やっぱり、俺は音楽をやり続けることしかないって自分に言い聞かせたというか……」

――根本的なことまで遡って考える時間になったよね。

「うん。そうなんだよね。すごく単純なことが、どれだけ大変なことで、大切なことなのか。これまでのこともそうだし、これからのこともそうだし、とにかくいっぱい考えた。物に対しても物事に対しても、人に対しても。正直忘れかけてた大切なことを改めて教えられた気がして。でも、だから良かったってことではないんだよ。本当は、こんな大変なことが起こらなくても、人間として失っちゃいけないことは自分たち自身で自覚していなくちゃいけないことなんだと思うから。けど、平和ボケっていうのか、どうしてもそうなりがちで、大切なことを見失ってしまうんだよね、人間って。今回、こんなことになって、自分が何も力になれないことにすごく無力さを感じた。被災地に行って、自衛隊の人たちやレスキュー隊の人たちや赤十字の人たちと同じように直接被害にあった人たちの力になれるのかって言ったらそうじゃない訳だし、行ったところで迷惑なだけだし……って思ったら悔しかったけど、やっぱ何か力になりたいと思った

とで精一杯力になろうって。本当は、3月11日の振り替えになった3月31日のライヴも、最初はやりたくなかったんだよ。ぶっちゃけ、まだ被災地の人たちからしてみたらライヴどころじゃないし、もっと言えば音楽なんてまだ今は必要としてないと思うんだよ。避難所生活をしている人たちだって、まずは、生きる上で必要最低限に必要な水だったり食料だったり電気だったりガスだったり、この先自分たちが住む家のことや仕事のことも不安だらけだろうし、家族や大切な人たちを失った人たちの気持ちを考えたら、不謹慎とか自粛とかそんなんじゃなくて、自分の気持ちとしてライヴをやる気持ちになれなかった。電気が不足してるって言ってんのに、電気いっぱい使ってライヴしていいのか……とか考えたら本当にきりがなかった」

――当日もライヴが始まる直前まで、〝今、本当にやるべきなのか?〟って葛藤してるって言ってたもんね。

「そう。ステージ立つまではずっと疑問に思ってた。けど、実際やってみたら、やって良かったって思えたんだよね。純粋にライヴっていいなって改めて思えたし、来てくれたみんながライヴを楽しんでくれてる顔を見たら、俺にはこれしかないんだな、これをやることで力になっていくしかないんだなって改めて思えて。今回のライヴの収益の一部を被災地に寄付することも出来たし、来てくれたみんなも、それ以外に会場に置いた募金箱にたくさん募金してくれたし。みんなで一緒に力になれてる気がしたっていうか。被災地の人たちが音楽を楽しめるのは、正直もう少し先のことになると思うけど、その日が来たら、絶対に楽しませてあげたいと思うし。だから、今は自分が出来ることで精一杯力になろうって、それは一生懸命今までどおり音楽を続けることなんだって思えたんだよね。11日の地震があった日、ちょうどステージでリハーサルしてたのね。それもあって、そのときの感覚が31日にステージに立ったときも鮮明に蘇ってきて……。俺、一生この感覚を忘れることはないんだろうなって思った。それに、これで終わった訳じゃない。これから先だからね」

s Progress

Ni~ya
前進あるのみ

てしまう生き物だからね……。

「そうなんだよ。忘れる生き物だけど、絶対に忘れちゃいけないことだと思う。忘れられないと思うし。形あるモノが失われてしまった悲しみはもちろんなんだけど、景色すらも失われて……そこにあった思い出もすべて無くなっちゃったのが辛くてね。日本の何処で起こっても、同じ気持ちではあるんだけど、特に自分が生まれ育った宮城っていうのが余計に辛くて……。だから、正直ライヴどころの騒ぎじゃないって気持ちが強かったんだけど、やっぱライヴしてみて、〝これしかないんだな、やれることは〟って思ったんだよね」

――自分たちがやってきた音楽を通して力になれるというのは嬉しいことだよね。

「そう。本当に音楽があって良かったと思った。……思えたって言った方が正しいかな。地震が起こったすぐ後くらいは、何も力になれないって思った。自分が情けなかった。けど今は音楽があって良かったと思ってる。自分たちだけじゃなく、みんなで力になれてる気がして」

――そうだね。ナイトメアは前も(2008年6月14日午前8時43分頃に岩手県内陸南部で発生したマグニチュード7・2の地震・岩手・宮城内陸地震)チャリティー・ライヴしたりしてたよね。自分たちだけじゃ何も出来ないかもしれないけど、自分たち発信で出来ることがあるって素晴しいと思う。

「うん。むしろ、それしか出来ないからね、俺たち。義援金を送ることも、俺たちだけじゃ出来ないことで、来てくれて力を貸してくれるファンの子が居てくれてこそだから。今回のライヴだってそう。本当に感謝してる。〝ライヴやって良かった〟〝俺たちのやってることって、無駄なことじゃないんだ〟って、そう思わせてくれたことに感謝してる。最初は、俺らがやってることって娯楽だから、力になれないどころか、迷惑なんじゃないかとすら思ったからね。真っ先に自粛すべきところなんじゃないかって。すごく悲観的に思ってたし、こんな言い方したらすごく誤解を招くかもしれないけど、やっぱり俺も、節電って言ってんのに、

いっぱい電気使って営業してるの見たとき腹立ったのね。けど、そこを仕事として生活をしている人たちは、それをやるしかない。ライヴハウスだって、ライヴをやる俺たちだって職種は違うけど同じことだから。自粛って言って、いつまでも娯楽に携わることを仕事にしている人たちが何もしないでいたら、日本はどんどん暗くなっていってしまう。しっかりしなくちゃ……って思ったんだよ。だんだんそう思えるようになった」

――すごく解る。考えさせられるよね、私も同じこと思ったからすごく解るよ。私たちがやっていることって、生きていく上で絶対に必要なモノか？ と問われたら必要じゃないのかもしれないけど、

「そう。不必要なモノでもないんだよね。非力だけど、無力ではないのかなって。実際に俺が被災した立場だったとしたら、そんなとき、音楽は必要としないと思うんだよ。けど、少し経ったら、きっと求めるんだろうなって思うからね。日常の中で、やっぱり落ち込んだときには、自分の気持ちを重ねれるような音楽を聴きたくなるしね。俺の場合は、明るく背中を押してくれるような元気な曲じゃなく、自分の心境に近い曲を選んで聴いちゃう方なんだけど、今回少し自分の気持ちが落ちついて音楽を聴きたいって思ったときに聴いたのは、ユニコーンだった。なにかそこに救いを求めたのかもしれないね。無意識に」

――音楽ってそういうモノなのかもね。

「うん。そういう意味で言うと、ナイトメアの曲って、手放しで背中を押せるような曲ないからな……。だから、ウチらの曲聴いて元気になってもらえたら……とは言えないんだけど…（苦笑）」

――まぁ、たしかに歌詞の内容も重要ではあるけど、一生懸命な姿に人は心を動かされるモノだと思うよ。

「まぁそうだね。実際、地震直後は親とも連絡がつかない状態が結構続いたから心配で心配で、何も手につかなくて……」

――……それは心配だったね……。連絡付かないのが1番心配だからね。

「飛んで行きたかった。車で行こうと

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

there is Progress Ni~ya

行けなかったし。まだ顔を見れてないから、電話口で元気に振る舞ってるだけなんじゃないかって思ってたりもして」

—本当にそんなときにも仕事をしなくてはならなかった心境を考えると……辛かったね。

「そう。なんかごめんね、まだこうして話してても、どうしても地震のことが頭から離れなくて。幸い家族は無事だったんだけど、たくさんに人たちが犠牲になってしまった中、〝良かった！〟って手放しで喜ぶのも……でも、本当に家族とか友達とかの大切さを改めて感じた」

—地震が起こっていなければ、その時期はバンド的に何をしてる時期だったの？　曲作り期間？

「レコーディングとか、もろもろスタジオ作業してた時期。11日のライヴは単発ライヴだったから、本当ならば11日のライヴを挟んで、またスタジオ作業に戻る予定だった。でも、やっぱり他のメンバーも同じ状態で家族となかなか連絡が取れなかったから、少しの間スタジオ作業は中断して、家でずっとニュース見てた。地震から1週間くらい過ぎてからは、スタジオ作業に戻った感じだけどね」

—それは今回のシングル「VERMILION」の作業ではないよね？

「うん、もっと先を見ての作業。アルバムも随分と出していないから、そんなことも考えつつのね」

—「VERMILION」はバップからエイベックスへの移籍第1弾作品となる訳だけど、そこを意識しての選曲でもあったと言える？

「いや、曲調に関しては、特にエイベックスだからっていう意識はないかな。例えば、何かの主題歌に沿った曲が欲しいっていう依頼をされた上で、そこに合う曲を作るのはアリだと思うよ。コラボという意味でね。けど、エンタテイメント性の強いレコード会社だから、そこの色に合わせて曲を作るとか、そういうことはこの先も無いと思う」

—じゃあ、クラウン、バップ、エイベックスと、今回で3回目の移籍だけど、それぞれ気持ちの違いはある？　クラウンは本当に初のメジャーデビューを経験したレコード会社でもあったし。

「バップは「DEATH NOTE」との出逢いをくれたレコード会社でもあったしね。それぞれ一緒にいい時間を過ごせてきたと思う。それぞれに色のあるレコード会社だと思うけど、そこに関しては、自分たちがそこに合わせようとは思っていないから、そういう意味で意識はしてないけど、去年無事10周年を迎えることが出来て今年から新たな1年がスタートするという意味で、また新しい環境でスタートが切れたってことは嬉しく思う。ナイトメアらしく、でも、守りに入ることなく攻めていけたらいいなと思う」

—「VERMILION」はいつ頃作られた曲なの？

「「VERMILION」は、年末にRUKAさんが持ってきた曲。今、10曲ちょっとくらい録りためた曲があるんだけど、「VERMILION」もそんな中の1曲で、シングルの選曲会のときにあって。俺的に、最初に聴いたときから〝絶対表題曲はコレでしょ！〟って思った曲だったんだよね。「VERMILION」が1番輝いてた気がして。結構早い段階から事務所の人にも、俺は「VERMILION」を表題曲にしてシングルが出したいって言ってたし。レコード会社の人たちと一緒にやった選曲会でも、今回のタイミングでのシングルはこれでいこうっていう意見が多くて」

—ナイトメアらしい疾走感を持った曲だよね。感想のギターフレーズとかも、すごく色濃くナイトメアの個性を感じたし。

「そうだね。すごく〝らしい〟よね。「VERMILION」はテンポも速いし、ギターが結構派手なアプローチだったりするから、敢えてベースは支える側にまわってる。細かくフレーズを絡めていくことも出来なくはなかったけど、邪魔したくなかったというかね、この曲に関しては。イントロからすごくいいギター弾いてくれてるから、そこを邪魔したくなかったし」

—そういう意味で言うならば、Ni~yaがベーシストとして、プレイヤーとしてかなり入り込んで弾いてると感じるのは、咲人作曲の「trauma」だよね。

「そう。「trauma」はミディアムテンポだし、曲調的に絡めたくなった1曲だったから好きにやらせてもらったって感じ。気持ちよかった。今回いつも以上にRUKAさん曲はRUKAさんらしいし、咲人は咲人らしい個性が素直に出てる感じがする。楽曲にしても歌詞にしても。その両極がはっきり出てる気がする。「VERMILION」の歌詞的には、1番ラストの〝風と太陽〟っていうワードで締めくくられている感じがすげぇ好きだったりするし。そこに集約されてる気がしてね。「ByeBye」の歌詞とはまた違ったRUKAさんらしさを感じたというか」

—そうだね。RUKA曲のカップリング「ByeBye」は、ナイトメアらしいというか、RUKAらしいと言う方がしっくりくるというか（笑）。

「完璧にRUKAさん節だよね、これは。リズムの感じや、細かいノリや、歌詞も、すべてがRUKAさんらしい（笑）」

—そうだね、かなり吐き捨ててる（笑）。「WORST」を彷彿する。

「あははは。そうだね。「WORST」の歌詞も相当何かにムカついてたんだろうなっていう歌詞だったもんね（笑）。「WORST」も「ByeBye」もRUKAさんの悪たれっぷりはすごいね（笑）。曲調的にはすごく面白いと思う。ノリ良く進んでいくんだけど、サビではいきなり唄モノっぽい展開になったりしてて。構成が面白い。この曲は結構古いんだよ。去年の早い段階にはあった曲だったんだけど、プリプロでいろいろと弄って変化した曲でもあって。ベース的には、ギターとのユニゾンが肝となる曲でもあったからそこは崩さず表現したんだけど、この曲もギターが派手に動くから、敢えてベースは派手にしなかったんだけど、もうちょっと動きを付けても良かったかなって思ってたりもしてる」

—いや、すごくいいバランスだと思ったけどな。

「そう？　それなら我慢して良かったけど（笑）。その分「trauma」で主張したからいっかって（笑）」

—「trauma」も古いの？

「うん。「trauma」も古い。原曲は一昨年の夏くらいにはあったんじゃないかな。「trauma」は去年の春のツアーでもやってたしね」

—ナイトメア的には、音源化される前にライヴでやるって珍しいパターンじゃない？

「そうだね。ないね。「trauma」に関しては出来上がったときに、珍しくライヴでやっていこうかって話になったんだよ。俺、個人的に「trauma」はギターのリフがすごい好き。すごいカッコイイと思う。あんまりいままでになかった感じのリフだと思うから。あと、最初3拍子で後に4拍子になっていくっていうところも面白いと思うし。最初の方は生ドラムが入っていないのもあって、そこまで3拍子感を感じないかもしれないけど、ちょっと注意しながら聴いてみると3拍子と4拍子の変化が楽しいと思う。歌詞も咲人らしいからね。使ってるワードは少ないんだけど、ここから伝えようとしていることがすごく伝わってくる歌詞だと思うしね。いいスタートが切れる1枚になったんじゃないかな」

—そうだね。10周年という大き[illegible]つの節目を超えて、11年目に向[illegible]新たな目標はある？

「ここでライヴがしたいとかいう具体的な目標の設定はな[illegible]やっぱりこうやって生かされて[illegible]上、やれることを精一杯やる。それしかないと思ってる。もっともっと[illegible]イバンドになって、ウチらの曲[illegible]てくれる人たちが増えてくれ[illegible]を目標としたい。そうなれば、もっとウチらが出来ることって増えてくと思うから。バンドとしても、[illegible]てもね。まずは、このシング[illegible]の人たちに愛してもらえたり、少[illegible]も力になれたらいいなと思う。ウチらも精一杯頑張るから、本当にみんなも一緒に頑張ってほしい。今はどうしても、被災地の人のことばかりを考えた発言になっちゃうけど、ウチらはとにかく今、やれることを精一杯頑張るから、この先、またライヴに来れるようになったら、また一緒に楽しめる日を約束するから。もちろん、被災地の人たち以外のウチらを支えてくれてる全国のファンの人に向けても同じ気持ち。みんなにとっての恩返しがしていけたらいいなと思ってる。ウチらが大きく成長していくことを嬉しく思ってくれると思うから、今は、とにかく、みんなが喜んでくれるように、出来る限りの力で頑張りたいと思います」

蝴蝶网
hudie.com

ove roken World

RUKA
壊れた世界を まだ今も愛してる

hudie.com

「俺、今回は震災のことは喋らないよ、一切。もう決めた。最低な人だって思われるなら、それでいいし」

――だとすれば、まずは3月31日に新木場スタジオコーストで行なわれたライヴのことからお聞きしますが…オープニングからしていつもとは明らかに違った流れの中で、何を思い、何を感じていたんでしょう。

「……俺、インタヴュー、ムリだな」

――もちろん、あれだけの震災の後ですし、他方では音楽を楽しめる状況にない方が大勢いて、二次被害、三次被害による不安感も色濃く支配していましたが…震災前、日常に当たり前にあったライヴを、どういう形であれ執り行なえたことには、意味があったと思うんです。

「でも……イヤだ。自分から話をしたくない。本当に今、空だからさ。何を聞かれても、出てこない。相当、幼児化してるよ（苦笑）。実際、ステージでも何も感じなかったし。いつもと何も変わらなかったからね」

――迷いだとか葛藤だとか、負の要素に引っ張られることも、なかったということですか。

「うん…仕事はしゃあないからね」

――観ている側としては、テンポも良かったですし、感情過多になることもなく、1本のライヴとして、2011年の第一歩として、良いライヴだったのではないかなと思いますけどね。

「ああいう状況だったからって、いつものライヴより良く見えちゃうのは、不本意ではあるけど…そう思ってもらえたなら、何よりかな。個人的には機材トラブルが多すぎたから、大変だったけどね。まぁ……言葉を使う職には、二度と就きたくないと思った」

――自分が発した言葉が何かしらの波紋を呼んだから、そう思ったわけですか。

「だってさ、作詞にしろこういうインタビューにしろ、読者と対面しての会話じゃないわけじゃない？　だから、言葉がどんどん嫌いになってるからね。どうせこれも伝わりにくいんだろうけ

カだな〟って書くのって、全然違うわけじゃん。俺とゾジーさんの関係性を知ってて、日常的に話されている言葉だと思えば、そんなに大きな意味では捉えられないでしょ？　それすらおかしいことではあるけど、俺たちにとってはそれが普通なわけだしさ。だけど、〝おめぇバカだな〟っていう言葉を活字で見たら、それはもう、すごい罵声なわけじゃない？　そういうのが、本当にイヤだ。話したくないし、活字にしたくない。〝頑張ってください〟っていう言葉だってさ、その人の目を見て直接言うのと、活字でただ書くだけでは、まったく違うしね。目を見て言うことができないなら、俺は〝頑張ってください〟なんて、薄っぺらくて言いたくもない」

――言葉に責任を持つって、きっとそういうことなんでしょうけど…ツイッターでも、同じような難しさを感じていますか。

「もう辞めようと思ってる、ツイッター。人間の汚いところ、全部見たから。理由を話すつもりもないけど、辞めるっていう答えが出たから、それで察してほしい。とにかく、震災に関することなんか一言もしゃべりたくない。何より、まず被災地に行ってから言うべきだよ。……俺は、仙台に行ったのね。実家だけだけど。で、行って、見てきた上で、しゃべらないって決めたから」

――仙台まで、車で行ったわけですか。

「うん、車で。東北道は開通してるからさ。実際、ニュースで映るのは一部の地域であって、あれより被害が少ないところもあれば、あれよりひどい光景もあるし。だから、なんかね…ギャップがすごいんだろうな、とは思った」

――ちなみに、実家に行ったというのは、やはり心配だから、ですか。

「地震があって、仙台はまず、電気、ガス、水道が止まったのね。あ、俺の親が住んでる地域に限定してしゃべるよ？」

――わかりました。

「割と復旧は早いほうで、2日後に、とりあえず電気は通ったのね。でも、仙台から新潟までのバスが出てたし、上越新幹線はすぐ復旧してて。そのルートだと8時間ちょっとはかかるんだけど、両親と犬と、まずこっち（東京）に来いって言って。親父はずっと会社に行くって躊躇してたんだけど、1日かけて説得したのね。で、ナイトメアチームの照明さんの奥さんの地元が、たまたま俺の実家の近くで、そこに救援物資を届けに行く日と、俺の両親がこっちに来る日がちょうど重なったから、〝乗せてきてください〟って頼んで。結局、俺の家に6日ぐらいいたんだけど、親父は会社があるからって、新潟経由で帰って。母ちゃんは、その後4日ぐらいいて帰ることになったんだけど、さすがにその8時間ルート、母ちゃんと犬だけで帰せないからさ。だから、俺が車に乗せて、仙台に帰ったの。そのときに、すべてではないけど、目にしたから…被災者へのメッセージとか、俺は簡単に言いたくない。なんて言えばいいのかわからない」

――では、自宅待機の期間は、どんなことを考えていました？

「……特に考えなかったな。実家と、メンバーと、この後にくる恐慌のことぐらい。……言えば言うほどイヤになるな」

――離れているぶん、ご両親のことは、とにかく気がかりだったわけですね。

「そりゃそうだよ。男のほうが、マザコン、ファザコン、多いと思うしね。今も、心配はしてる。両親も、おじいちゃん、おばあちゃんもいるから、俺は、上の世代の延命じゃないけど、ちゃんと寿命をまっとうさせてあげたいな、とは思う」

――実は…というのもなんですが、孝行息子、なんですね。

「ここしかねぇと思って、発動した（苦笑）。ま、敵も増えたけどね」

――ということは、今後、そういった歌詞が生まれてくる可能性はありますね。

「うん、今書いてる。何しろ、いろいろ見えなかったことが見えたからね」

――ともあれ、10周年を迎えた去年、〝11年目からどう歩むかが大事である〟目を迎えてみて、実際にはどう感じていますか。

「正直、そんなの吹き飛ばされちゃったかな。しばらく、そういうことを考えるのはムリだな、俺は」

――そういう中でも、自宅待機後、メンバーに再会したときは、安心感はあったんじゃないですか？

「うん、安心感はあった。感動もしたし。だからって、特別な会話はなかったけどね。もともと別の人間が5人いて、生活環境も違うからさ。もし、今誰かが落ち込んでるとしても、超人じゃないんだから、それでいいと思うし。みんな心があって、一喜一憂する1人の人間だからね」

――それぞれの在り方を尊重するお互いの距離感は、変わらなかったと。

「そう。それは変わらなかった」

――いろいろなことが大きく変わった中で、それは少しの救いであるような気はします。では、シングル「VERMILION.」に関してお聞きしていきましょう。2曲を作詞・作曲されていますが、できた時期は、それぞれいつごろなんでしょう。

「「Bye Bye」は去年の早い段階からあった。「VERMILION.」は、すべて録り終わったのが今年の2月かな」

――それぞれの曲なり歌詞なりを書くための原動力になったものは、何だったんでしょうか。

「……締め切りだな。引き金なんて本当小さすぎるからさ。たとえば100円のものを買うのに、小銭がなくて1万円札しかなかったとするじゃない？　仕方なくそれを出すと、崩れちゃうじゃん。それにイラっとするとか、本当、「ByeBye」なんかはそのレベルだからさ。なかなか言いづらい（苦笑）」

――ただ、「VERMILION.」はまた違うんじゃないですか？

「あぁ…「VERMILION.」は一番最近書いた歌詞なんだけど、テーマが明確かもね。歌詞を書くときに書こうとした内容は、〝当たり前じゃなくなる日〟だから」

――YOMIさんは、〝バンドに重な

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

I still Love the broken world RUKA

に会って、リハやって、っていう日常だった[illegible]れが突然なくなる日っていうのを書いた。ただ…時期的に、ある意味かわいそうだと思うな」

―奇しくも、まさに現状と重なってしまいましたね。なんという偶然かと、私も驚きました。

「もうさ、[illegible]なったよ。PVも最初に撮ろうとしていた内容だと撮りづらいから[illegible]た。自分としても、聴くと思[illegible]曲になると思うし。スゲエ良い曲なのに」

―純粋に一つの曲として捉えれば、シングルの表題曲としても、11年目のスタートを切るにあたっても、相応しい曲ですもんね。

「うん、これは絶対に表題曲になるなって思ってた。歌とキーボードが入った段階で、久しぶりに自分の曲で泣いたもん（笑）」

―RUKAさん的には、メンバーの反応、どう感じました？

「それは…わからない。ウチはみんなドライなんで（笑）」

―そこも相変わらずなんですね。で、特にBメロですかね、リズムとか譜割りがちょっと変わっているなという印象です。

「うん、自分で演奏してても難しい」

―自分で作っているのに、どうしてそうなっちゃうんでしょう。

「それはね、パソコンがすべて悪い。フレーズを考えるときってさ、家にドラムセットなんてないから、エアードラムでやってみるのね」

―そうだったんですか!?

「うん（笑）。で、エアーでやると、何でもできるんだよ。それでできた気になって打ち込むと、いざドラムの前に座ったときに、驚くことになる」

―人間ですから、本当なら学習能力が働くはずじゃないですか。

「いや、いつも学習してるんだけど、〝これぐらいできるだろう〟って過大評価しちゃうんだよね、自分を（笑）。で、いつも困る」

―ということは、先日、ライヴで演奏してみた感触は？

「緊張した。ライヴで最初に曲をやるときって緊張するけど、いつもと同じと一緒で曲ってかわいいからね。それは思ったかな」

―先程も話に出た歌詞に関して言うと…〝目を背け続けて 近づきすぎた太陽 優劣を裁くなら 焼かれるのはそう〟というくだりは、個人的に衝撃でした。

「アインシュタインね。天才でしょ？ 本当は頭いいんだよ、俺（笑）」

―その〝太陽〟にかけるなら、RUKAさんを照らしてくれる〝太陽〟は？

「家族かな」

―先程も行っていたように、今のRUKAさんにとって、ご家族は守り、守られる存在なんですね。

「うん。昔は全然、違ったけどね。でも、ツアーのたびに仙台に帰ると、見る度に親が老けていって…それからかな」

―あと、タイトルにも結び付く、〝朱く染まる退屈な街〟がどこなのかというのも、気になりました。

「曲作り期間に実家に戻って書いたんだけどさ、その間、炊事、洗濯をしなくていいし、仙台に友達が少ないから、人とも遊ばなくなるのね。家族以外としゃべらないし。で、自分の好きな景色が、近所の歩道橋から眺める景色なんだけど、キレイな夕焼けが見えて。それで、〝VERMILION〟なんだよね」

―それも、愛すべき風景であると。

「うん。そこが震災で壊れてなかったから、良かったなって」

―ということも含めて、たとえ〝救えない世界〟であっても〝まだ今も愛してる〟わけですね。

「うん、そう。どうしようもないことがいっぱいあるけど、でも好きだから音楽をやっているしね。矛盾はしてるけど、それは本当のことだよ」

―ナイトメアを愛してる、その想いも、今、より強く胸にあるんじゃないですか？

「そう聞かれると…そうでもないな（笑）。1週間会わないと寂しくなるけど、1週間会い続けるとどうでもよくなってくる（苦笑）。でもさ、それが幸せだよ」

―きっと、そういうことなんでしょうね。何しろ、言葉や想いが、いつにも増して、痛いほど刺さってきます

まくって、真っ直ぐになっちゃったっていう気はする」

―その歪みがなければ、真っ直ぐにもなれなかったんでしょうし。

「そうそう。歪みまくったから、「Bye Bye」みたいな歌詞も書けたわけだし」

―「ByeBye」に関しては、柩さんが〝エセダンス〟という形容をしていたんですが…作曲者的には、どういった思惑があったんでしょう。

「エセダンスか…でも、ちょっと滑稽に聴こえるリズムは意識したかもしれない」

―だから、ただ〝ダンスっぽい〟というよりは、奇妙なダンス感があるんでしょうね。

「かもね。そういう意味では、狙い通りにできた曲かな。あと、同期の音が一切入ってないから。バンドの音だけ」

―ナイトメアとしては珍しい試みじゃないですか？

「うん、5人だけの音って久々だね」

―エキセントリックなギターフレーズは、RUKAさんのリクエストで？

「リクエストではないけど…俺の曲が変態なのは、咲人のギターが一番影響してると思う」

―それって以前から言っていますけど…そのコンビネーションならではの面白さが生まれるんですね。

「確かに。そういえば、咲人が昔、〝自分で曲を作るときと違って、全体を見なくていいから面白いことができる〟って言ってたかな」

―歌詞は歌詞で、シニカルに遊び心が加わった印象ですし。〝恵の雨？〟のクエスチョンマークも、表裏一体を表わしていますよね。

「そうそう。恵の雨って言うけど、酸性雨問題なんかもあるしさ。歌詞はね、書き方を変えたんだよ。普段しゃべるような言葉も、入れるようになったから」

―どういう理由から、そうなったんでしょう。

「疲れたし、ボキャブラリーが乏しいから、それもありかなって。ま、普段の言葉遣いが汚いから、ダメな言葉ばっかりなんだけど（苦笑）。それは困りもんだよ」

―「trauma」に関して、同じ作曲者としての目線で語るなら？

「咲人の曲って、ゾジーさんの歌と歌詞が入って、倍くらい良くなるんだよね。それはいつものことでもあるんだけど、すごく不思議」

―格段に化けるということですね。

「そうそう。メロディの印象がすごく変わる。「trauma」のメロディ、良いよ」

―さて、さらに新しい曲たちが多く生まれつつあるということですが、RUKAさん自身の現状の作曲ペースは？

「どうだろう…俺、日常的に曲を作るっていうことはしないからさ、1週間とか休みをもらって、そこで集中して作るのね。だから、ペースはこれまでとあんまり変わってないかもしれない」

―期限が迫れば、自然にエンジンがかかってくるし、今回も例にもれずそうであると。では、そうやって生まれてくる曲に対して自己評価するなら？

「……普通。何曲、日の目を見るかなぁ」

―年内中にはアルバムが発売される予定ですから、心待ちにしておきます。ともかく、生きている限り、歩き続けるしかないですからね。

「まぁね。俺さ、こういうことになったら、真っ先に逃げると思ってたの。自分のことを過小評価してたっていうかさ。でも、逃げなかったから、それはスゴイなって思った」

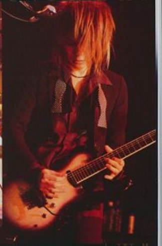
―どうして、逃げなかったんでしょうね。

「実際、周りで逃げてるやつを見たんだけど、なんかカッコ悪いなと思って。〝なんで逃げてんの？〟って。親父みたいに、母親と犬だけ避難させて、自分は残るって言える方がカッコ良いと思う。あとさ、これは言っておきたい。俺は昔から買いだめしてるから。男の独り暮らしは大変なんだよ。家での主食がカップラーメンだったのに、棚からカップラーメンが消えてさ、超困る。だから、俺がもしスーパーで買いだめしてるのを見掛けても、非難しないでほしい」

―あくまで、日常の風景であると。

「そう！ ま、音楽に関しては現実逃避だからさ。俺は続けるよ」

蝴蝶网 hudie.com



NIGHTMARE
東日本大震災支援LIVE

Live at 新木場STUDIO COAST 2011.3.31

ナイトメアが11年目の第一歩を力強く歩み出すはずだった、あの日。彼らの故郷・仙台にも深い爪痕を残す大きな揺れが、東日本を襲った。

当然、ライヴは中止を余儀なくされたわけだが、メンバーは、すでに会場近辺に訪れていたファン、万事繰り合わせて自分たちのライヴに足を運ぼうとして叶わなかった人すべてを、始終気遣っていたという。

さらに、次第に明かされていく津波や地震の甚大な被害、原発による二次被害、三次被害がもたらす暗澹たる不安感に、彼ら自身いかに胸を痛めたか、察するに余りある。家族、親族、友人…彼らを支えるたくさんの人々が、未曾有の惨事の渦中にあるのだ。

それでも、彼らはステージに立つことを決めた。平常時でも、アーティストの一挙一動には賛否両論がつきまとう。ましてや非常時である今、〝こんなときに〟という声が上がるのも承知の上で、だろう。結果、新木場スタジオコーストは人々で埋め尽くされたが、多くの失われた命、失われた風景、失われた日常に対して、誰もが無力感、喪失感を拭えない中で、後にも先にも体験することないであろう一夜が幕を開けた。

まず、冒頭から明らかに、様相が違った。SEのないまま静かにステージに登場したメンバー。YOMIが、一度大きく息を吸い込んでから、意を決したように言葉を発した。

〝こういう状況下でライヴを行なうべきかどうか、迷いました。でも、必要最低限のセット、照明、機材で、ライヴをすることに決めました。俺たちの想い[illegible]前たちの想いが、被災地に届きますように〟

黙祷を捧げ、静まり返った場内に[illegible]までになく重々しい空気に響いたのは、「Parade」だった。RUKAのス[illegible]ロールをきっかけに重なってい[illegible]が、いつもより慎重に聴こえるのは[illegible]せいだろうか。ステージに立つメンバーも、受け手であるオーディエンスも、きっ

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

【セットリスト】
1.Parade
2.Can you do it?
3.Mr.trash music
4.ジャイアニズム究
5.ネオテニー
6.Criminal baby
7.MASQUERADE
8.ByeBye
9.Cynical Re:actor
10.ジャイアニズム罰
11.NAKED LOVE
12.メビウスの憂鬱
13.惰性ブギー
14.ジャイアニズム碌
15.Lost in Blue
16.Morpho
EN1.VERMILION.
EN2.クロニクル
EN3.a:FANTASIA
EN4.ジャイアニズム天
EN5.Star[K]night

何も変わらない。…そうなのだ。日常を失ってしまった人たちのためにも、日常を送れる自分たちがいつまでも下を向いているわけにはいかないのだ。

〝みんなの中にも不安な気持ちがあるだろうけど、それを少しでも拭えるようなライヴにしたいと思います〟

YOMIの言葉も後押ししたのか、音に身を任せて踊った「MASQUERADE」、大きな声を上げた「Cynical Reactor」と、オーディエンスも少しずつ〝ナイトメアのライヴ〟を取り戻していく。

〝ナイトメアって暗い曲ばっかりだから、こういうときにどうなんだろうって思ったけど…俺自身、根暗だからなのか、落ち込んでいるときって明るい曲より暗い曲を聴きたいし、そういう人もいるかなって〟

少し不器用だけど、YOMIなりの言葉。そこにウソはない。

その上で聴いた、本編最後の2曲。〝もう一度生まれて また僕に生まれて〟という「Lost in Blue」しかり、空を舞う青い蝶のような自由に焦がれる「Morpho」しかり、せめてかえらぬ命へのレクイエムとなってほしい、そう願わずにはいられなかった。

付け加えるなら、彼らは今、多くの新曲を生みつつあるそうだ。この日、シングル発売に先駆け、表題曲である「VERMILION.」、カップリング曲「Bye Bye」も聴くことができた。年内には、アルバムも発表予定である。ブレずに歩みを止めないことが、彼らなりの被災地支援だ。

ちなみに。ライヴ会場に設置された募金箱には、メンバーが驚くほどの金額が集まったという。募金先は、あしなが育英会。震災で親を失った子どもたちの助けになりたいという、メンバーの切なる想いからだ。音楽で大きく世界は変わらなくとも、音楽を通して人々に呼びかけ、立ち上がろうとする人の支えになることはできる。彼らの決意と行動が、きっと今だけではなく長いスパンで、愛すべき東北の復興に力を添えてゆくことを信じよう。

杂志迷
zazhimi.com

<伊達漢>〒162-0831 東京都新宿区横寺町32TR神楽坂Bld. TEL:03-3268-7213(受付時間・平日12:00〜18:00) dateotoko@nightmare-web.com

GPS VOL.1

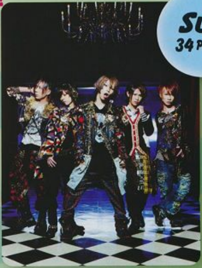
A4ワイド版
定価1,890円(税込)
雑誌コード:04538-06
SHOXX 2011年6月号増刊

SHOXX POSTER MAGAZINE

月28日、全国書店にて一斉発売!!

年から2010年の間に発行してきた『glitterpop』の中から、
の記事をピックアップしたオムニバス版が登場!!
ん、特大ポスターも5枚付き!!
しか手に入らないオリジナル!!!

LM.C
10PAGES



SuG
34 PAGES

ック
語ー

ViViD
24 PAGES

THE KIDDIE
16 PAGES

蝴蝶网
hudie.com

がない場合はインターネット及び携帯サイトからもご注文、ご購入いただけます。 http:// www.ongakusenkasha.co.jp

杂志迷
zazhimj.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
zazhimi.com

SHOXXスペシャル企画

オリジナル・フォトカード 応募者全員サービス!!

ご希望のフォトカードを1枚、
応募者全員にサービスしちゃいます
全部で14パターン。
応募券1枚でご希望のフォトカードを
1枚あなたのお手元に!!

ナイトメア

A-1:YOMI

A-2:柩

A-3:咲人

A-4:Ni~ya

A-5:RUKA

有村竜太朗(Plastic Tree)

B-1

B-2

B-3

B-4

ムック

C-1:達瑯

C-2:ミヤ

C-3:YUKKE

C-4:SATOち

Ko-ki(ViViD)

D

●応募に必要なもの(応募方法が少し変わりました。よく読んでご応募願います。)
・80円切手2枚(お客様が編集部に送信する封筒に貼るもの&返信用)
・定形封筒2枚
・応募券(このページの左下にあり)

【応募方法】
①フォトカード(9cm×13cm)が入る大きさの定形封筒(定形外の大きな封筒での応募は無効になります。ご注意下さい)2通と、80円切手を2枚用意します。
②1通の封筒に80円切手を貼り、表にあなたの住所、氏名を記入。封筒の裏には希望のフォトカードのナンバー(例えばナイトメアのYOMIであればA-1)のいずれか1つを大きく書いてください。この封筒は、編集部から応募者に写真をお送りする返信用封筒になります。
③②の返信用封筒をもう一通の封筒に入れ、あて先のヨコに応募券がはがれないようにしっかり貼って、右記の住所まで送ってください。

【あて先】
〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F 株式会社 音楽専科社 SHOXX編集部 皐月のフォトコーナー●係(●の中には返信用封筒に書いた希望写真のフォトカードナンバーを必ず書いてください。例えばナイトメアのYOMIであればA-1)。

【締め切り】
2011年5月21日(当日消印有効)

【発送】
2011年7月下旬からになります。8月10日になっても届かない場合は8月31日までにご連絡ください。※8月31日以降のお問い合わせは、対応できない場合があります。
(03-3574-0205/月~金 11:00~18:00)。

【お願い】
・希望のフォトカードナンバーが未記入の場合はこちらで選んだパターンを送らせていただきます
・応募券のコピーは不可です。コピーの場合は無効になります。
・応募券1枚につき一通の応募でお願いします。複数お申し込みのお客様はその数分の応募でお願いします。
・発送は日本国内のみになります。海外への発送は出来ません。
・We do not ship outside of Japan.

SHOXX VOL.220
皐月のフォト
応募券

nudie.com

蝴蝶网
hudie.com

2011年4月号増刊号
定価980円(税込)
4ワイド判 雑誌コード 01594-04
RL=http://www.ongakusenkasha.co.jp/

ROCKSTAR vol.12

特別付録★ピンナップポスター ゴールデンボンバー ピコ

表紙&巻頭30P大特集!!

ゴールデンボンバー

ツアーって楽しいな【野望編】

今人気絶頂のゴールデンボンバーを大特集。ポップでおバカで、カッコイイ4人に大接近。超端麗フォトの他に今回は"ボディー&メンタルチェック"と題してメンバーのヒミツにクローズアップ!!
メガトン級のボリュームであなたにお届け!!

春爛漫!
ロックなスターが乱れ咲く!
絶好調12弾。
全国書店にて絶賛発売中!!

巻末特集14P

ピ°ω°コ

1stアルバム『1PIKO』をリリースするピコを特集。キュート過ぎる彼の超端麗フォトを一挙掲載。必見ですぞっ!!

★サーターアンダギー

1stアルバム『サーターアンダギー』リリース。
最新フォト&インタビュー!!

★ココア男。

ニューシングル『Soldier』リリース。
どこよりも早くこの最新アイテムに迫る!!

★X JAPAN

代々木第一体育館で行われたファッションショー『ASIA GIRLS EXPLOSION』を完全レポート!!

★SCREW

㊗ 結成5周年記念
インタビュー&パーティー!!

★ダウト

バルーンアートに初挑戦!
超レア取材決行!!

zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

――先月、「VORTEX」のレコーディングが終わった段階でどんなシングルになっているのかを聞く機会があったとき、"自分たち的に安心感のある1枚になると思う"。"東京ドーム前の3枚のシングルとは少し違った印象の1枚になったと思う"って言っていたけど。

RUKI：奇をてらう訳でもなく、特別なことをしようと思った1枚でもなく、曲出しはいつもと変わりなかったんですけど、自分たちがやりたいと思ったことをやっていこうっていうスタンスで作っていった感じでしたね。

れいた：でも、東京ドームが終わってから出す1枚だから、勢いのあるモノにしたいってそれぞれ思っていたんじゃないかな。

麗：いつも以上にthe GazettEらしいハードなモノを選んだ感はあった。

葵：今回タイアップを意識する必要がなかったこともあって、曲作りに対しては自由度が高かったのは確かだから、そういう意味で、自分たち的に安心感のある楽曲作りになったっていう感じ。

れいた：純粋に自分たちが思うカッコ良さを目指せたんじゃないかと。ハードだけど、コアなディープさではなく、アッパーなハードさだったりするからね。

戒：いままでと違う良さもあるし、いままでどおりのカッコ良さもあるし、すごくストレートなモノになったかなと。

――「VORTEX」はハードなサウンドとデジタルなサウンドが融合しているというより、同居しているっていう感じだよね。作詞作曲はRUKIですが。

RUKI：うん。泥臭くないロックにしたかったんですよ、この曲は。作ったのは東京ドーム明けではあったけど、でも、そこを狙って作ったというより、今の俺の気分がそこだったっていう感じなんですよね。ずっと長くライヴの定番曲としてセットリストに居続けるようになりそうな曲を作りたかったというか。どうしても、シングルとなると、一般の人が解りやすい曲っていうのを意識するし。これは悪い意味じゃなく。もちろん、いままでのシングル曲を否定している訳でもない。けど、今回の「VORTEX」に関しては、いっさい聴きやすさとかそうい

――音色や、ハモリ具合や、細かいフレーズに強いこだわりを感じた。

葵：最近RUKIがいままで以上にギターを弾けるようになってきたので、今回も原曲を持ってきた段階でかなり出来上がっていたのもあって、逆にどこでどう遊ぼうかなって考えたんです。それで、2回目のAメロでいろいろと遊んでみたんですよ。メインリフはガッツリと作り込んであったから、そこは遊びたくなかったというか、そのままを活かしたかったから。ギタリストとしては、やっぱりデモのままを弾くというより、どこかにギタリストとしての自分らしさを出していきたいですからね。

RUKI：2回目のAメロはラフな感じにしてあったので、そこで遊んでくれたのはすごく良かったですね。

麗：みんなが目指しているところって、the GazettEのラウドな部分だと思うんだけど、そういう部分をより出せている作品になったんじゃないかなと。毎回レベルアップしたモノを出したいっていう想いでやっているんだけど、「VORTEX」はそれが出来る曲だったんです。ミュートでズンズンきたりするシーンもあったり、止める部分があって一気にドンッと吐き出せる部分があったので、そういう部分を存分に発揮できたんです。フレーズ以上に間にこだわった曲でした。

――文章で言う段落的な部分だよね。

麗：ニュアンスっていうかね。そこはかなりこだわった。レコーディング前にスタジオに入ったときに、いろいろとシミレーションしましたからね。いろんなパターンをやってみて、この完成型に辿り着いたっていう感じ。

――溜める感覚もすごくカッコ良かった。ある意味、そこが肝となる曲だよね。

麗：そうなんですよ。溜めが多いんです。そういうのって、いままでthe GazettEの曲にはなかったですからね。なかったというか、やれなかったというか。今回はそれが出せたので、かなり進歩のある1曲になったんじゃないかなと思いますね。難しかったけど、これはRUKIからの我々楽器隊への課題でもあったのかなって思いましたけどね（笑）。

聴きやすさとかを意識せず、
趣味に突っ走ってみたっていう感じなんですよね

2010年に自らに仕掛けた東京ドームという起爆剤。the GazettEは今、そこをバネに、更に大きく新たな一歩を踏み出そうとしているように思う。5月25日にリリースされることが決まった2011年一発目となるシングル『VORTEX』は、まさに、"現在"の彼らが、azettEとしてやりたいことを素直に表現出来ている1枚になったと感じさせてくれる。the GazettEらしく。そして、新しい。今の彼らを存分に感じてほしい。

Interview:NAOKO TAKEICHI

感覚が欲しかった！"ってのを作り出せたのは確かですね。今回曲作りの際に借りていたギターがズンズンする感じの音が出るギターだったこともあり、そこから受けたインスピレーションはデカかったのかもしれないですね。たまたま弾いていたら思いついたニュアンスだったりしたんです。

れいた：ベース的には、「VORTEX」に限らず3曲共、今作はピッキングを減らそうと思って挑んだんですよ。いままでは間の部分で詰め込んで弾いちゃっていたんですけど、弾き過ぎをなくすことで、ローが途切れるからまとまるんじゃないかなって。

戒：ドラムは、この曲でレコーディングでは初めて24のキックを使ってみたんです。チューニングをかなり下げて、皮の出というか、アタックの音を出す感じでやってみたんですけど、そこは上手くハマったんじゃないかなと思いますね。

――歌詞的には、ストレスを発散したような印象を受けるけど。

RUKI：近況報告というか、常に疑問に思っていることだったり、腹が立っていることだったりを綴っている感じなんですが、でも、今回はちっちゃなことに対しての怒りではなく、広い意味での怒りっていう感じですね。その疑問をかいくぐって、いかに生きていくかっていうのは、生きていく上での課題でもあって。

――そういうのは、置かれた環境に対して誰もが少なからず感じることでもある訳だからね。PVは？

れいた：結構作り込んだ感じになっていますね。今回PVとアーティスト写真が繋がっているんです。久々にセットを組んでPVを撮ったから、せっかくだからそこから関連させていこうっていう思考で。円の中にスピーカーがたくさん積んであって、その中で演奏していたりする映像なんです。

戒：セットを組んで撮影するのは『紅蓮』、アルバムでは『DIM』ぶりになるのかな？結構ロケが多かったので、そういった意味でもちょっと印象が変わるかもしれないですね。

――「UNCERTAIN SENSE」はフェードインな感じで。美しいギターの旋律とハードさの対比が絶妙なロックだね。こう単純な発想から作った曲だったんです。

――ラウドなだけじゃなく、ギターのフレーズの綺麗さも際立っているけど。

葵：ん～、"そこ"が嫌だったんですよ。もっと男らしいだけのロックがやりたかったんですよ、ホントは。なんか、いつもラウドなだけのロックを作ろうと思っても、マニアックになっちゃったり、ギターが綺麗になっちゃったりしていたので、今回こそは"ラウドなだけ"の曲を作るぞ！と思っていたんですけど、結局男っぽいだけにはならなかったっていう（笑）。一歩間違うと、ヴォーカルのメロがマニアックな方向に行きそうだったんだけど、なんとかそこは軌道修正して。「AN UNBEARABLE FACT」（原曲：葵）のときもそうだったんだけど、もうちょっと土臭くしたかったというか。

――そのニュアンスは解るけど、あの綺麗なギターがあるからこそ際立っていると感じたから、これはこれで最高の形かなと。

葵：ギター的に「AN UNBEARABLE FACT」みたいなオシャレなコードじゃなくて、もうちょっと単調なコードを使ってみたらどうかなっていうところから作っていったので。俺、歌メロに関してとか他のパートに関してとか、あまり口ださない方なんですけど、今回は珍しく言った方だったんですよね。そこで、"なんだ。RUKI、言ったら結構やってくれるんじゃん！"って思った（笑）。優しいな、コイツ、って（笑）。

RUKI：いやいやいや（笑）。やっぱり歌い手としても、作曲者が意図するところがある場合は知っておきたいですからね。「AN UNBEARABLE FACT」のときは、すごくイメージが解ったんですよ。こうしたいんだろうなっていう。「UNCERTAIN SENSE」の場合もなんとなく受けとめたイメージがあったんですけど、完成型とはまったく違っていたんです。もっと暗い感じ。で、ちょっと試しにツイッターで呟いてみたんですよ。"こんな感じなのかなぁ"って。そしたら、"違う"って返ってきて（笑）。

麗：ツイッターで呟いたの（笑）!?

RUKI：そう（笑）。で、"あ、違うんだ！"って思って、そこからいろいろと考えましたね。マニアックにしては明る

蝴蝶网 hudie.com

……スは投げていたんですけどね。マニアックにはしたくないっていうのもなんとなく伝えて。ほら、俺、優しいからハッキリ言えないので。

RUKI：あははは。一応"OKOK"とは言ったものの、俺の土臭いって感じる感覚と、葵が土臭いって感じる感覚ってまったく同じではないと思うからしばらく悩んだんですよ。土臭い感じって言いながらもコードが今回もオシャレでしたからね。俺からしたら土臭く感じなかったし、繊細だなって思いましたからね。

――この曲は英詞だけど、やっぱり曲のニュアンスを活かすために？

RUKI：そう。日本語にしちゃうと伝わり過ぎちゃうというか、言葉も音にしたかったっていうか。

――感覚で伝わってほしい曲というかね。内容的には、1人の人に向けて書かれたものだったりする？

RUKI：そうですね。最後にオチがあるんです。相手が死んでしまっている感じで進んでいくんだけど、最後で、本当は自分が死んでしまっていたっていうオチがあるんです。すごく優しい曲なんですが、最後の方で裏返るっていうか。蝦蟇ガエルっていうか。

一同：………。

――が……蝦蟇ガエル!?

葵：この一連の流れ、絶対書いて下さいね。（RUKIに向かって）絶対に原稿になったとき、削るなよ！

RUKI：大丈夫。誌面上でスベるのは怖くないんで。【一同：………】の後のRUKIのところ、蝦蟇ガエルにしておいて下さい。

――シュール過ぎる（笑）。で、どうしてそんな展開を思いついたの？

RUKI：なんとなくだったんです。歌詞書いていて、最初の方がすごく優しくなって自分でも感じたので、そこからひっくり返したくなったんです。

――その発想の転換は面白いね。麗くん的にこの曲に対して抱いた感覚は？

麗：個人的には、曲に対してはやっぱりその土臭さっていうものは感じたんですよね。でも、作っていく段階で、それとは真逆な感じになっていったというか。人間っぽいギターのノイズとかはバッサバッサ切っていったんですよ。どっちかっていうと、俺はこの曲はデジタルな

――その感覚はすごく解る。「BREAK ME」は逆に人間っぽいノイズや生々しい音を欲している曲だもんね。

麗：そうなんですよ。そういう意味でいったら「BREAK ME」とは真逆にある曲だと思いますね。だから、「BREAK ME」に比べて、「UNCERTAIN SENSE」のフレーズ作りは細かい作業でしたね。

――個人的に、間奏のたたみかけられるギターとドラムの絡みがすごく好きだった。

麗：うん。絶対的に崩せないラインみたいなものがあって、その中で、そこを更に装飾する感じってどんなだろ？って追求していく感じで作っていきましたね。土台的には、葵独特の"余計なノイズは入れない"っていうところからのスタートでしたからね。だから、そういうところも、泥臭いっていうのとはまた真逆な作業でしたね。

葵：この曲に限ってはノイズは入らなかったからね。

麗：生っぽいノイズを必要としていない曲だったからね、この曲は。

れいた：俺、最初、サビとかベースはめちゃめちゃ動いていたんですよ。葵もそれに対して何も言っていなかったし、いいのかなと思って。そしたら、RUKIに、ベースはあんまり動かないで欲しいって言われて。

RUKI：俺的に葵が言っているラウドっぽい曲っていうイメージの中で、ベースが動くっていうのがどうしてもハマらなくて、そこをれいたに言ったんですよね。

れいた：でも、サビはラウドな印象がなかったから敢えて動いちゃったんです。

葵：ほら、俺言えないから……。

れいた：えっ!? 嘘っ！ なんか、長期的な詐欺にあった気分だよ、俺。

一同：（爆笑）

れいた：でも、結局ドラムを直したことによって、ベースも直すことになって、あまり動かないベースに差し替えたんです。ドラムは当日変えたんだっけ？

戒：そう。当日、葵から"こっちのパターンもちょっと叩いてみて"って言われて。そっちも叩いてみたら、なるほどって。さすが、作曲者だから曲の色を理解しているのもあって、葵の言ったパターンに

……すると最初に葵が……が浮かび上がってきたんですよ。

れいた：ドラムを葵が言ったパターンに変えたことで、ベースも葵がもともと入れていたベースとも合ったんですよね。それもあって、ドラムが変わったことによって、そこに合うベースに差し替えたっていう感じだったんですよね。

葵：動かないベースが好きだっていう訳じゃないんだけど、この曲に関しては結構ギターが2本とも動いているから、ベースが動かなくてもいいのかなっていう。

れいた：今回、この曲をやって再認識したんですよ、ベースってやっぱりベーシックなフレーズが1番なのかなって。

RUKI：れいた、昔は動かないのを売りにしていたベーシストだったはずなのに、最近よく動くんだよ。

麗：たしかに、最近やたらと動いてるな。

れいた：俺、本当は動かないベースが1番好きなんですけど、あんまり動かないのもヤダなと。本当は今も動かないベーシックなベースが1番好きなんだけど、本当にルート弾きだけにしていると、なんか言われそうで怖い。

葵：でもその感覚解る解る。ホント解る（納得）。俺もあまりに単純なフレーズは避けるもんね、れいたと同じ理由で。そういうのもやるんだけど、"淡白だよね"っていう言葉が1番怖い。

――今のれいたと葵の発言は性格が出ていて面白いね（笑）。

葵：やっぱりみんな原曲をより良くしようと努力するから、自分が原曲を退化させるようなことは出来ないっていう責任感もあるしね。

RUKI：たしかにあるね、そういう責任感。退化させちゃったら、詐欺泥棒だからね。

戒：詐欺泥棒って（笑）。

麗：詐欺で泥棒って、最悪だ。帰ってくれって話だよね。

一同：（笑）

――たしかに（笑）。間奏部分のギターとドラムが作り出している雰囲気はもともと原曲の段階からあったの？

戒：あそこのニュアンスはもともと原曲の段階からありましたね。ブレイクのカッコ良さがある曲だったので、そこは崩したくなかったんです。

――あの部分もこの曲の肝だと思うから

……RUKIの曲だけど。これ、個人的に相当好きでたまりません。**

RUKI：この曲が好きっていうのはだいたい歳の多い人だと思う（笑）。海外のプロレスを見ながら作っていたんです。曲を作っていたときに映像が流れていて、こういう曲作ってみようかなって思ったんです。ガンズ・アンド・ローゼズがやりたかったんです。

――ガンズとは思わなかったけど。

葵：うん。ガンズではないよね（笑）。

――でもギターソロなんて最高に痺れた。

葵：解る！ 俺もカッコイイと思った。麗、いいソロ弾くわ。"そうそうそう！"っていうツボな感じ。

RUKI：ギターソロを弾いているときだけ短パンって感じじゃない？

戒：まさにLAメタルだね（笑）。

RUKI：あまり小賢しいことはやりたくなかったんですよ。音重視にしたくて。

麗：たぶん、RUKIの中でイメージしたギターの音がはっきりあったと思うんですけど、でも、そのギターの音色が難しいんですよ。言っていることとイメージしていることのギャップが広すぎて。ガンズって言ってたから、ずっとガンズの音を聴いて、ガンズとはなんぞや？ってガンズを追求していたんですよ。それで弾いてみると、"違う！"っておもいっきり否定されるから、訳が解らなくて。そしたら、ギターの音色はニッケルバックがいいとか言うから、頭の中ごちゃごちゃで。

――とにかくアメリカな感じだったんだね。でも、イギリスのハードロックバンド的な感じもしたんだけどな。ジョン・サイクス的なギターだなとも思ったし。

RUKI：なんか、アンプから直に聴こえてくる古い感じの音が良かったというか。そんな綺麗な洗練された音じゃなくて良かったんです。

麗：だから、マーシャルから出ている音なんじゃないの？って思うと、またそこが微妙に違ったりして。音的にはモダンで、フレーズ的には古くさいモノがやりたかったらしく。そこを融合させるのが難しかったんです。

RUKI：音圧は置いておいて、響きが重要だったんです。ドラムも重要です。

戒：スネアの音がすごく悩んだ。みんなに聞いてもらって、こんなのはどう？っ

……ラム的にこだわったのは、常に大きなノリを意識したっていうところですね。個人的にすごくやりやすかったし、叩いていて気持ちよかったですね。生っぽくない海外のドラムの音っていうのを目指しましたね。現在ある機材でそのままを再現することは難しいし、聴き比べちゃうとやっぱり空気も違うからまったく同じ感じにはならないんですけど、そこはウチらしい目指すモノが作れたのかなって思いますね。

れいた：この曲はライヴでやるの難しそうだな。ノリは良くなるのは確実だと思うけど、その日のノリや気分に左右される生っぽさがあるのかなと。やっていることはベーシックだけど、ニュアンスがすごく大事っていう。動いたら逆にカッコ悪い曲だからね。ユニゾンとかがカッコイイっていう。

戒：ベース録り、めちゃめちゃ早かったですからね。

れいた：俺の見せ場としては、ギターソロに入る前のスライド2回。そこを抜いてほしいね。

麗：え？ そこ映像の話してるの？ 気が早すぎるから（笑）！

れいた：（笑）。この曲は、みんなの詰め詰めじゃないリフの余韻を感じてもらえたらいいなと思いますね。

――テーマリフも相当カッコイイし、余韻が重要な曲だよね。

葵：ディストーションの音で刻んでいるだけっていうAメロの曲をthe GazettEでやるっていうところが新鮮で。そこも面白いんじゃないかな。

RUKI：歌詞は2重人格みたいな話だけど、もうちょっとサイコな話というか。ブラックジョーク的なイメージで書きましたね。共感してもらえるっていう歌詞ではなく。この曲で何かメッセージを伝えようというところではなく、感情任せな歌詞にしたんです。

――今回見事に3曲違うノリで楽しめる1枚なんじゃないかな。

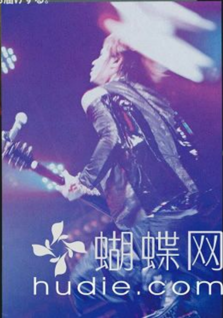
戒：ですね。またこの先、ライヴも始まるし、精一杯頑張っていけたらと思いますね。このシングルを披露するタイミングはまだ決めていないですけど、出来るだけ早く、時期をみてライヴでも届けていきたいと思うので、楽しみにしていて下さい。

the GazettE

9TH BIRTHDAY 9-NINE-
2011.3.10 ZEPP TOKYO

2011年3月10日、結成9周年をめでたく迎えたthe GazettEが、ZEPP TOKYOで[9TH BIRTHDAY 9-NINE-]を行った。
ファンクラブ限定ということもあり、普段のライヴよりアットホームな空気の中、集まったファンはメンバーと共に記念すべき日を祝った。
懐かしい曲が披露されるというサプライズもあったこの日の模様をお届けする。

Photography:KISEKI
Report:NAOKO TAKEICHI



杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

＜セットリスト＞

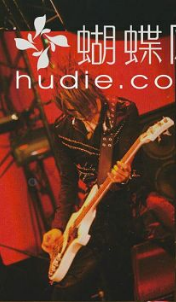
01.LINDA～candydive Pinky heaven～
02.赤いワンピース
03.Psychederic Heroine
04.Hyena
05.AGONY
06.Maggots
07.VOICELESS FEAR
08.紅蓮
09.PLEDGE
10.HEADACHE MAN
11.VERMIN
12.HESITATING MEANS DEATH
13.COCKROACH
14.DISCHARGE
15.Filth in the beauty
-ENCORE 1-
16.Ride with the ROCKERS
17.Ruder
18.泥だらけの青春
19.THE $OCIAL RIOT MACHINE$
20.関東土下座組合
21.☆BEST FRIENDS☆
-ENCORE 2-
22.貴女ノ為ノ此の命

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

the GazettE

9TH BIRTHDAY 9-NINE-
2011.3.10 ZEPP TOKYO



2011年3月10日。ライヴ・タイトルは［9TH BIRTHDAY 9-NINE-］。この日はthe GazettEの9周年を讃える特別な日だった。

会場にはそんな記念すべきthe GazettEのバースデーを祝おうと詰めかけたファンたちが、いつも以上の熱気を漂わせていた。いや、きっとこの熱気はそれだけではない。昨年、共に挑み実現させた東京ドーム公演を経た後のバースデーライヴという節目の1本とあり、いつものこの日以上の気迫がそこにはあったのかもしれない——そう感じたのだ。

毎回"ヤバイ!"と感じる最高の時間を届けてくれる彼らゆえ、またとんでもない感動を残してくれるに違いないという期待値は日に日に強くなっていく。きっと集まったオーディエンスも同じだろう。

いつものようにライヴ中のマナーや注意を促す影アナが流れ、待ちわびたその瞬間が訪れた。オーディエンスの轟音のような声援が彼らを迎えた。"ここから3時間弱、共によろしく!"そんな双方の声が聞こえてきそうなその瞬間が、私は何よりも好きだ。

この日、彼らはド頭から粋な仕掛けをしていた。1曲目が「LINDA～candydive Pinky heaven～」であったのだ。オーディエンスから人気の高いこの曲は、ライヴ中盤に置かれることが多いが、オープニングとは。曲の並びが違うことだけでもライヴの印象は相当違ってくる。ここに「LINDA～」が置かれていたことで、オーディエンスは狂ったように踊りまくった。特別な日の1曲目に置かれていたこともあり、歌詞に込められた意味がココに集まったオーディエンスに贈られるべきモノであったことを再確認させられた瞬間だった。

シニカルな想いが渦巻く「Hyena」で助走を付け、ダークなリズミックさが魅力の「AGONY」で会場を揺らし、中毒性の強い「Maggots」でさらに畳み掛けていく。もうフロアの熱が下がることは無い。「Maggots」が届けられた後の沈黙に、オーディエンスは渇望の声を上げる。ここからどう攻めるというのか。

奏でられた美しいアルペジオは「VOICELESS FEAR」のイントロだっ

らの流れにバラードを選んでいた。「紅蓮」から「PLEDGE」に繋がれた時間。時計が逆さまに刻まれ、体感したことの無いような、じんわりとしたあたたかな孤独感に襲われた気がした。孤独感というのは、ポツンと独りで居るときではなく、雑踏の中で強く感じるモノである。まさにこのとき、そんな感覚に苛まれたのだ。しかし不思議と冷たくない孤独。あたたかで心地よい孤独が身を包んでくれた気がした。

彼らが生み出した極上のバラードたちを愛おしく思った。

"本日わたしたちthe GazettEは、9歳になります。バースデーにお越し頂いちゃってありがとうございます! まだ9年かという思いもあります。もう20年くらいthe GazettEやってる気がしていて。メンバーとの仲も30年くらいに感じています(笑)。無事に9年目を、こうやってビシッと衣裳着て、こうやってステージに立ってライヴ出来ていることが嬉しいです。まだまだ牙は抜けてないぜ!"

RUKIから届けられた言葉にオーディエンスは"おめでとう"の声を贈った。しかし、彼らは口を揃えて言う。"ありがとうの言葉しかない"と。ここにこうして居られるのは、ファンたちが支えてくれたからこそだと。だから、この日は、お祝いしてもらう日ではなく、ウチらが感謝する日なんだと。そんな感謝の想いを素直に届けていたのはアンコールだったような気がする。昔から彼らを支えて来てくれたファンへの特別なプレゼントのような気がしてならなかった「泥だらけの青春」と「THE SOCIAL RIOT MACHINES」。なかなかやることのなくなったこの曲たちにオーディエンスは歓喜の声を上げていた。

「泥だらけの青春」の曲中に葵がれいたに絡み前後に並ぶと、まさかのEXILEダンスを披露! 東京ドームでは見ることの出来なかったアットホームな空気感も、この日ならではの魅力だったように思う。

"これが、俺たちからのお返し——"

鳴り止まなかったダブルアンコールを求める声に、彼らは「貴方ノ為ノ此の命」を贈った。

蝴蝶网
hudie.com

有村竜太朗

Plastic Tree

Arimura Ryutaro

強く想うこと――。

願わくば。当たり前であったことが、誰しもにとって少しでも当たり前でありますように。昨年中にいくつかの大きな局面と向き合うこととなった竜太朗は、そこであらためて“こゝろの形”を残していきたい、という想いに駆られたそうだ。表現者であり続けることの過酷さを知りながらも、なお表現者であり続けようとしている竜太朗が、今何を思い、何を見据えているのか…。話の焦点はそこだ。

Photography:SHINJI TANAKA
Hair & Make-up:DAISUKE BOB TANAKA
Interview:YUKI SUGIE
Location thanks:牛久大仏 http://daibutu.net/

zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

自分には、プラがあるから。

——今年もまた、春がやって参りました。現在Plastic Treeは、4月6日に発売となったばかりのアルバム『アンモナイト』に付随するかたちで、ライヴハウス・ツアー「アンモナイト（小）」で全国を行脚中ですが、一部の公演は諸事情により延期になったケースも出ていますね。

「えぇ、ホントにとっても残念なんですけどね。でも、これはあくまで延期だし、振替公演は絶対にやりますから。ただ、何しろ今は状況が状況なので、会場の復旧状態や空き具合、各イベンターさんの都合、あとは電力の問題なんかも含めて、これから全てを考え合わせた上で、徐々に決めていきたいと思ってます。だから、みんなにはその日まで待っててもらえると嬉しいです」（編集部注：4月21日現在、振替公演が発表されています）

——分かりました。ちなみに、この取材当日（3月末）までの段階でも、何本かはライヴを行なっているのですよね？

「はい。今のところだと、長野、名古屋、清水でやって来ました。ウチは悩んだんですけど、どうしてもやれないっていうところ以外は極力やろう、っていうことになってます」

——先月のアルバム取材の際、竜太朗くんは〝アンモナイトの成長には、ここからきっと時間がかかると思います。でも、その分だけ先は未知数です〟と発言されていましたよね。まだツアー序盤戦ではあるものの、今のところライヴという場で『アンモナイト』の楽曲たちと向き合っていく中では、どんなことを感じていますか。

「あぁ、実際やってみて初めて〝実はこんなに熱を持った曲たちだったんだな〟っていうことは、けっこうライヴの度に感じてますね。しかも、今までやった3本のライヴに関してはまだアルバムも出てない状態でライヴをやってるのに、ファンの方々のほうがしっかり僕らと曲を共有してくれてるんですよ。そこは良い意味で意外でした」

——中でも、その傾向が現段階で特に顕著なのはどのあたりの曲になりますか。

「『Thirteenth Friday』でしょ、「アイラ

動的に身体を動かしながら聴いたほうが楽しめる曲もあるし、逆にただ頭の中で曲を感じてるだけでそれが正解っていうタイプの曲もわりと多いんでね。今回は「アンモナイト（小）」っていうことで、ライヴハウスを中心にやるのを前提に、演出的な面でも密室の中ならではの、前からやってみたかったことも実現できてて凄く面白いですよ」

——と言いますと？

「今回、映像を垂れ流し状態にしていて、音と絵を合わせてるんです。正面から映してるんで、メンバーにも映像がかかった状態というか」

——ということは、ピンスポットなどはほぼない状態でやっているわけですか？

「うん、たまにかなり暗いです。手元にしても足下にしても、ほぼ見えてないんで今までにない緊張感が漲ってますよ（苦笑）」

——なるほど。アルバム・インタビューの際にも、『アンモナイト』は〝夜〟を想起させる要素が多く含まれたアルバムになったというお話が出ていましたから、その〝見せ方〟は実に興味深いですね。

「はい。なのでぜひとも、生で観てみて下さい。自分でも、こういうライヴって新鮮だなぁって日々感じてるので」

——ところで。この毎年恒例のインタビューは、だいたいいつも誕生日を迎えた頃の竜太朗くんに、〝この1年〟を振り返ってもらうかたちになっております。今回の場合、〝この1年〟は必然的に『アンモナイト』を作っていた時期とも重なっていたことになりますよね。

「そっかー、そうなりますよね。今回はアルバム作ってた期間も、相当長かったしなぁ。結局、今までいちばん時間をかけたというか、かかっちゃったアルバムだった」

——そんな『アンモナイト』の中には、「さびしんぼう」という曲が収録されていますが、こちらについて竜太朗くんは先月の取材にて、〝時期的にアルバムの中では最後の最後に書いた詞だし、内容もパーソナルな要素が強くなった〟と言っていたではないですか。あの言葉が、その後ちょっとばかり気になっていまして。

ね。たぶん、今あの曲の詞を書いたら、また全然違ったものになってたろうな、とは自分で思いますよ」

——ひとつには、年末に入院されていた頃のことも、ここには色濃く反映されているのですよね？

「うん、そうなりました。入院したっていうのもだし、あとは病気のこともだし。今まで考えてもみなかった状況になって、とにかく寝てるしかないっていう時間ばっかりになっちゃったから、必然的にいろんなことを考えさせられることになりました。この「さびしんぼう」は、そういう自分の心境を投影しやすい曲だったんでしょうね。ただ、最初に自分の気持ちをそのままぶつけるようにして書いてしまった詞は、意外にも〝なんか、これはちょっと違うなぁ〟っていう感じだったんですよ。あまりにも、個人的な独白だけに終始してしまうのはイヤだったというか。だから、この完成形の詞はそこをベースとしては残しつつも、ちゃんと作品として成立するように手を入れ直した」

——だとしても、ここに書かれている言葉からは生々しさを感じますけれどね。〈～埋もれてく僕がもう／見えなくなって　居なくなっても　こゝろの形は残ってほしい〉というくだりからは、竜太朗くんが表現者として持つ切実な〝性（さが）〟のようなものさえ感じ取れました。

「んー。何でしょうね。あの病気のことだけじゃなく、去年はいろんなことがあったせいもあるんだろうな。身内で不幸があったし、急に友達が亡くなったり…あそこまで正面からそういうことと対峙しなきゃいけないのって、自分にとっては初めてのことだったんです。もうそこそこ長いこと、生きて来てるはずなのに。今まで感じたことのない、大きな喪失感だったし」

——何と申し上げればよいものか…ただただお察し致します。

「いえいえ（笑）。そうやっていろんなことが起きた後に、今度は自分自身も病気になっちゃったわけで、それで余計に考えさせられたとこもあったんでしょうね。でも、俺にはバンドっていう還れる場所

「うん。だけど、それだけいろんなことがあって、考えるにはあれこれ考えたけど、結果的には何の答えも出なかったです。人間的にちょっと分かったことがあるけど、基本的な自分はまんまだし。そういう意味では、今もまたずっと相変わらずですよ。唯一、願いとして改めて自覚したのは、何かを作っている立場である以上、その証となるものには残っていってほしいなとか、これからはもっとそういうものを残せる人でありたいなとか、そのくらいじゃないかな」

——だいぶ昔話にはなってしまいますが、過去の竜太朗くんは詞の中で時折、〝消えたい〟という旨のことを書いていたことがありませんでしたか。

「あぁ、ありましたね」

——そこと敢えて対比するならば、残ってほしい、残せる人でありたいという願望を持っている今の竜太朗くんは、あの頃とはずいぶん対照的だと思うのです。

「そうか。そうなりますね、うん」

——先ほど、竜太朗くんは何の答えも出なかった、とはおっしゃいましたけれども…少し長いスパンで考えれば、人生観や死生観の類いはいくらか変化して来ているのではないでしょうか。

「うーん…自分ではよく分からないですけど、でも〝あの頃〟と今では違うんでしょうね。もちろん、良くも悪くもあの頃のままでいる自分もいるんですよ。幸い、ずっとおんなじバンドをやって来てるっていう部分で。でも、一方ではしっかりと俺も〝重ねて〟ますから」

——年輪をですか（笑）。

「そうそう、Plastic Treeっていうだけに（笑）」

——あはは（笑）。

「だからね、以前とは違う価値観を持ってる部分もあるなとは思います。それが作品に反映されていくのも、また自然なことなんでしょうし」

——痛みや悲しみを作品として昇華し、そこで得たことをさらに活動の中に還元していかなければならないアーティストという仕事は、我々が思う以上にシビアな生業なのでしょうね。

「でも、それは別にアーティストに限っ

hudie.com

hudie.com

それ日常に戻んなきゃいけない瞬間はあって、そういう時は抱えてるものを奥のほうにしまった上で、そこからまた仕事に戻ったり、普通の生活に戻って生きてくんじゃないかなぁ。やっぱり、〃やることがある〃っていうのは大きいですよ。俺のことで言えば、お葬式の次の日にPV撮影があるとかね。そうなったら、もうやるしかないじゃない?」

――悲しんでいる間もなく、表情からして崩してはいけないシチュエーションというのは…過酷ですね。

「冷静になって考えれば、わりと無慈悲な話だなぁとは思えますけどね。でも、そうやって強制的にカラダだけでも自分を日常に戻すって、実は大切なんだと思いますよ。前にアキラの親父さんが亡くなった後にライヴがあった時も、見ててツラいんだろうなっていうのは分かったけど、今思うとあれはあれで良かったんじゃないかなって思うしね。もちろん、そこにちゃんと気持ちのほうが追い付いてくるのはもっともっと後の話だとしても、引きこもって元には戻らないことを悲しみ続けるよりは、無理してでも自分のやるべきことを全うするほうが、まだ気持ちの整理がつくんじゃないかな」

――今のお話を伺っていて、ひとつ思い出した場面があります。昨夏の武道館公演[テント②]で、最後のほうに「バンビ」を演奏した時、曲が終わったと同時にアキラくんが竜太朗くんのほうに歩み寄って行って、ハイタッチを促したのですよね。あの瞬間、不覚にも私は涙腺が崩壊してしまいまして。

「あー、実際、俺とナカちゃん、おんなじことしてますからね。そういうことがあって、曲を書いて…っていう」

――アキラくんは、当時「lilac」(2003年発表のシングル『水色ガールフレンド』カップリング)を書いたのでしたっけ。あの頃、本人から直接そういう説明をされたことはありませんでしたが、あの詞を見れば歴然でしたものね。

「だからこそ、あの武道館で「バンビ」をやった時にはナカちゃんも思うとこがあったのかな。今の話を聞いたら、今度はこっちが決壊しそうですよ」

――あれ？ ということは??

「すいません。俺、ホントのこと言うとあの時は単純に〃オマエ、良いギター弾いたじゃん!〃みたいなことでハイタッチされてるのかな、としか思ってなかったです(苦笑)」

――とにもかくにも、そういった事情もあった「バンビ」も、今回の『アンモナイト』には再録されましたし、このアルバムは竜太朗くんの人生においても、一際重要な位置を占める作品となったのではないですか。

「去年の全て、それも12月31日までのことが集大成的に詰まった作品になってるのは確かですね」

――同時に、『アンモナイト』はケンケンくんが作詞・作曲に挑み出した作品でもあり、バンドとしても大きな転機となったアルバムになりましたが、竜太朗くんにとってもひとつの転機となっていく可能性がありそうですね。

「そういうことは、これまでもいつもアルバムを作る度に思ってるんですよ。でも、今回はよりそうかな。ただ作りましたっていうアルバムではなくて、ちゃんと理由も意味もある作品に仕上げることが出来て良かったです。時間と手間をここまでかけた甲斐がありました」

――それから、これはひとつ確認事項として伺っておきたいことがあります。その後、体調はよろしいのですか?

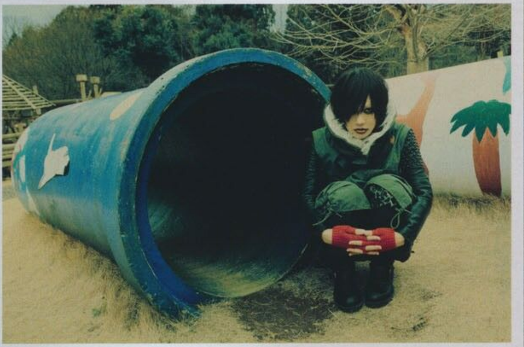
「全然大丈夫ですよ。今、まさにツアーも元気にやってますしね。完治して以降は再発もまず起こらない病気らしいんで、そういう意味でも大丈夫そうです」

――元来、竜太朗くんは健康への気遣いに対してはほとんど無頓着であるというイメージが強いのですけれど、今回の件により、多少は健康や身体について考えるようにはなりました?

「んー。んーと、多少は」

――何か、最近になって心掛けるようになったことはありますか。有村流健康法のようなものがあれば、ひとつご教授願いたいところです。

「健康法ですか…ないっす(笑)。何でしょう? 気にはしてるんですよ、ちゃんと。でも、ホントに気にしてるだけなんですね。でも、これでもまだ良いんですよ。前は、その、気にすることさえ一切してなかったんですから」



――論法が大胆すぎますよ(笑)。

「だってほら、病は気からって言うでしょ? 気にかけるだけでも、俺は違うと思いますけどね」

――何ともベタな話ではありますけれど、今後もPlastic Treeを良いかたちで続けていくためには、竜太朗くんには何より健康でいてもわらないと困りますからね。この際、気にするだけでも良いのでお願いしますよ!

「いやホント、そこが重要だっていうことだけは去年のことで思い知りましたから。そうですよね、今年は何かちょっと俺も頑張ろう」

――ぜひそうして下さい。それと、また話題はかわるのですが、ここ1年での変化というと、竜太朗くんがTwitterを始めたのも去年後半のことでしたよね。

「とは言っても、そうマメには呟いてないですけど…(苦笑)」

――何をおっしゃいますやら。先日の震災の後には、リツイート(注:他ユーザーの書き込みの引用)も含めて活発に書き込みをされていたではないですか。

「あの時はだって、ホントにいろいろヤバそうだったんだもん。想像したんですよ。あれだけの地震が起きて、あっちこっちが混乱してて、情報を得られるものは携帯くらいしかないとしても、もしTwitterが出来れば少しは何かが伝えられるかなって」

――情報網としてのTwitterは、今回良くも悪くもその強い影響力を世に広く示しましたよね。そもそも、竜太朗くんはなぜTwitterを始めたのですか?

「何でって、バンド界隈の友達がやってるから。周りが軒並みやってると、話題にもついていけなくて…会う人、会う人みんなやってて、〃じゃあ、またTwitterで〃みたいになると、完全に浮いた感じになっちゃって寂しくて(笑)」

――つまり、コミュニケーションツールとして必要だったと。

「はい(笑)。さんざんいろんな人に勧められて、自分でもどうしよっかなぁって悩んだ挙げ句、決め手はYUKKEのこの言葉でしたね。〃呟くのなんて、「ヒジが痛い」とかそんなんでもいいんですよ〃って(笑)」

――それはヒドい(苦笑)。

「でも、そこで自信持ちました。今はおかげでファンの声も聞けるし楽しいし。特に、ツアー中はいいなぁと。ライヴ終わった後とか最高なんです」

――それはどういう意味ですか?

「祭りの後じゃないけど、ライヴの後って妙に寂しくなるんで(笑)。みんなでゴハン食べてからホテルに帰って来て、そこから寝るまでがもう…身体は疲れてても頭は冴えてるし、どうしよう、っていう時に、Twitterが大活躍するんです。今日のライヴの感想とか、みんなの声がたくさんあるんで全部読んでるうちに、安心して眠れるようになるんです」

――さて。ここで最後に、もうひとつ質問をさせて下さい。波乱万丈であった昨年は昨年として、今年これからの日々は願わくばどうあってほしいですか。

「願わくば、ですか。正直なことを言えば、今まで当たり前であったことが、誰しもにとって少しでも当たり前でありますようにというのが今はリアルに思うことですね。今は、それ以上のことは何も願えないです」

――Plastic Treeは、それこそ当たり前のことを当たり前に長く続けて来たバンドではないですか。みなさんの存在は、このシーンにおける奇蹟と言っても過言ではないと思います。

「奇蹟か。化石って言われなくて良かったー(笑)」

――『アンモナイト』だけに? (笑)

「うん(笑)。何て言うか…大きなことは何も言えないけど、これからもプラはちゃんと続けていきます。特に、ライヴはホント大事なもので、これだけネットだTwitterだとは言っても、直にみんなの顔を確かめられるのがいちばん良いし。今回ツアーが延期になったところにしても、今はまだ音楽の出番じゃないのはよく分かってるんで、またその時が来たら、僕らは誇りを持ってみんなのところに会いに行きたいと思ってます。みんなで作ってきたプラのライヴだし。今はちょっと歯痒いけど、どうか待ってて下さい」

蝴蝶网
hudie.com

ムック

CHAPTER-2
メニュー組み立て編

我、在ルベキ場所。
彼らにとっての其れは、今も昔もライヴ空間であることにほかならない。
今年、ムックは久々に日本武道館のステージに立つ。5月21日の[“Chemical Parade” FINAL]、
翌22日の[MUCC history GIGS 97～11]。2デイズに渡って彼らが繰り広げる世界には、
一体どんな音たちが溢れているのだろう。ムックがムックであることを証明するような…確かな音を聴きたい。

Photography:SAIKO NISHI…URA(SELF PSY'S)
Hair & Make-up:DAISUKE …BOR… TANAKA(JET SPEED…)
Interview:YUKI SUGI…

…月2日に新宿ロフトにて行なわれた［LIGHT UP IBARAKI］というライヴに急遽参加されていましたよね。各方面でイベント等の見合わせが続出していた中、ずいぶんと迅速な動きをみせるものだと感心してしまいました。

達瑯：今回のあれは、自分たちで動いたっていうよりはロフトのほうから誘われたんだよね。

ミヤ：突然、前日に連絡が来たんです。

——まさに、〝急遽〟だったのですね。なお、今回のイベントはムックの地元でもある茨城を支援する内容のライヴだったそうで。

達瑯：結局、今回の地震って被災地が凄く広いじゃないですか。そうなると、どうしてもみんなの関心はより被害の大きい岩手とか宮城とか福島に向きがちだし、物資とかもそっちに回されがちなんだけど、茨城もそこまで酷くはないとはいえ、わりと酷いことには変わりないんですよ。物資の面でもついスルーされがちっていうことを聞いて、それで参加することにしたんです。

——なるほど。みなさんの御実家のほうは、大丈夫だったのですか？

ミヤ：そうっすね。

YUKKE：特に被害はなかったです。

達瑯：ウチのほうは、この間ちょっと見に行ったら壁とか壊れてました。崩れてるところまでは行ってなかったんで、良かったんですけど。SATOちもこの間、行って来たんでしょ？

SATOち：…家に何もなかったけど、店とかあんまりやってなかった。何とかやってるとこ見つけて飯食ってたら、今度は震度5くらいの大きめな余震が来てすげーびっくりしたし。衝撃波が下からドン！って来て、最初は店にトラックでも突っ込んだのか!?と思ったくらいでしたね。

——なお、今回の件がバンド自体のスケジュールに影響を及ぼした点は多少ともありますか？

hudie.com

達瑯：いや、ウチはほぼなかったって言っていいんじゃないですか。

――ということは、5月21日～22日に日本武道館にて予定されている2デイズ・ライヴ『〝Chemical Parade〟FINAL』と『MUCC history GIGS 97～11』も、敢行すると考えていいのですね。

達瑯：そうっすね、今んとこその方向で動いてます。

れども、まだ時期的に不確定要素もたくさんありました。その後、話はだんだんと詰まって来ましたか？

達瑯：どうかなぁ、まだ意外とボヤけてるとこもありますよ（笑）。

――確か、前回の取材の際には初めて1回だけリハに入ったとのお話でしたよね。あれから、リハも何回かあったのではないです？

――えっ。〝もう1回〟だけですか!?

YUKKE：すいません（苦笑）。

ミヤ：でも、すでに『MUCC history GIGS 97～11』のほうに関してはだいたいの曲順の流れも決まってるんで、あとは通しリハをしながら細かいことを徐々に決めてくだけです。

――過去の楽曲を演奏していくとなった時に、例えばアレンジの面で今のテイス

ミヤ：それはまぁないですね。ただ、アレンジを変えてやるつもりはなくても、歌い方ひとつ、弾き方ひとつが当時とは違ってくるわけで、結果的に違って聴こえるっていうのはあると思いますけど。

達瑯：気持ちの込め方とか、歌い方とか、これまでの時間を経過して来た中で変わってきたところは当然あるでしょうね。もっとも、俺なんかは逆に〝ここは

てほしくないなっていうところとか、あるんで。そんなことを考えながら前の曲をやってくっていうのは、なかなか楽しいもんですよ。

――達瑯くんが、曲の中で変えたくないと思うのはどんなところが多いのです？

達瑯：曲によっても違うけど、それぞれの曲の中にはフックになるような部分ってありますからね。そういうところはなるべく当時に近い感覚で歌ったり、その当時ならではの荒々しさを残したりしながらやっていきたいんですよ。昔ならではの独特な勢いとか、そういうとこはちゃんと残しておきたいなと。

――YUKKEくんは、今度の武道館公演ではどんなプレイを心掛けたいと考えています？

YUKKE：うーん。俺は、当時ライヴでやってたプレイとはけっこう違って来るような気がしてますね。昔の曲であればあるほど、俺はかなりヘンなことやってたんで（苦笑）。

ミヤ：今思うと、あのアウトロいらなかったかな？とか俺もありますもん。なんか、いろいろと若気の至り的な部分が多いんですよ（笑）。

――あはは（笑）。

ミヤ：もちろん、当時は当時でよかれと思ってやってたんだから、それは別にいいんですけど、今だったらやんねーなっていうのは実際ありますからね。

YUKKE：だから、そういう部分は今の自分が納得行くやり方をしたいです。

蝴蝶
hudie.com

り来るはずだし。

――YUKKEくんの場合、昔の曲の中に〝今だったらアップライトを使ったほうが良いのでは？〟と思うようなものもあったりはしませんか。

YUKKE：あぁ、そうですね。そこに関しては、もうすでにアップライトをライヴで使うようになってから、アップライトのほうが曲に合ってるなと思うものはその度に使う楽器を切り替えて来たんで、ピックで弾いてたものを指弾きにしたりっていうのも含めて、今回も曲によって対応を変える必要が出て来た時にはそうすると思います。変えないで済む曲はそのままピックで弾くだろうし、そこは柔軟にやっていきたいですね。

――SATOちくんは、今のところの1回目と2回目のリハを通して、どんな感触を得ています？

SATOち：それがですね、2回目のリハって、1回目ではやってなかった曲をやる感じだったから、自分にとってはどっちも〝1回目〟だったんですよ（笑）。

――まぁ、ムックもかれこれ曲数の多いバンドですしねぇ。

SATOち：ただ、2回目のリハは1回目の時より〝難しいな〟って思う曲が多かったかもしれないです。

――具体的には、どのあたりの楽曲になるのでしょう。

SATOち：えーと、「我、在ルベキ場所」（2003年発表のメジャー・デビュー曲）とか。1回目の時はまだ〝最初だから〟っていう気分もあったけど、この間はそろそろ5月のことをちゃんと考えなきゃなっていうのもあったし、あの曲に限らず当時より今聴いたほうがカッコ良い、って思ってもらうためにはどうしたらいいんだろう？って考え出したら、これは思ってる以上にプレイの難易度が高いんじゃないか？っていう気持ちになって来ちゃったんですよねぇ。

――今度のライヴはプレッシャーとの闘い、という側面もあるわけですね。

ミヤ：バンドとしても、プレイヤーとしても、ここまで成長して来て〝オトナになった部分〟ってあるわけじゃないですか。そういうのがあるから、それこそ〝ここは若気の至りだったな〟って分かったりもするんですけど、反対にオトナになったことで忘れかけてる部分っていうのも、確実にあるんですよ。そこをひとつずつチェックしながら思い出してくとも、今度のライヴまでには必要だなって思ってます。

――ちょっとしたニュアンスひとつで、音の印象って劇的に変わって来ることがありますものね。

ミヤ：前に再結成したとあるバンドのライヴを観に行った時、昔の曲で〝モサいな〟とか、〝ツマらなくなってる…上手いけど〟って思ったことがあったんですよ（苦笑）。ああいう、妙にイヤな感じだけは感じさせたくないし、自分も感じたくないんでね。

達瑯：でも、久し振りの曲をやるとはいえ、ムックはずっとバンドとしては続いて来てるわけだし、昔の曲もたまにだけどちょこちょこやってはいるじゃないですか。そういう意味では、大丈夫なんじゃないですかねぇ。

――YUKKEくん。今度の武道館2デイズで、ムッカーのみなさんをより楽しませるために心掛けようと思っていることは、何かありますか。

YUKKE：たぶん、両日ともいろんな人たちが来てくれるんだと思うんです

い知ってるかって、けっこうバラバラだと思うんです。だから、古くから知って詳しい人はもちろんですけど、最近のムックしか知らないとか、シングルの曲を何曲か知ってるくらいの人たちもみんな、ちゃんと面白いって感じてもらえるようなライヴにしたいです。

達瑯：あくまで予想ですけど、ツアー・ファイナルらしい熱さと、ショーとして

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

の完成度を出せるだろうっていう点で、1日目の『"Chemical Parade" FINAL』のほうはみんなで体力を消耗しながら（笑）、心地好い疲労感が感じられるライヴになるような気がするんですよ。2日目の【MUCC history GIGS 97～11】はレアな曲が多い分、ああいう初期ならではの緊張感が出て来るだろうから、派手に盛り上がるのとはまた違う、精神的な部分で楽しめるライヴになるんじゃないかなぁ。こっちはマジで、どうやっても聴きながらカラダを動かしようがないタイプの曲とかありますから（笑）。

——密室系としての真髄を感じさせるような初期の楽曲たちは、確かに圧倒的な威圧感を持っていますものね。

達瑯：そうそう。昔よくライヴハウスの中で作ってた、あのシーンとした重くて静かな何ともいえない空気感っていうんですか。それを武道館っていうデッカい会場でも作れるのかな?っていう部分が、自分でも今から楽しみでしょうがないんですよ。

——その"静かなるムック"を今回初めて体験することになる方たちは、きっと新鮮に思えるでしょうね。

ミヤ：数的には、絶対そういう人たちの方が多いはずですよ。

——しかし、両日で陰と陽の間を端から端まで行き来しつつ、各時代の曲たちをランダムに演奏するとなると、SATOちくんも屋台骨役としては大変ですね。何か、両日に向けての対策はありますか?

SATOち：今度の2デイズって、ドラマー的には全く違う2日間になるんですよ。1日目はクリックを使う曲が多いのに対して、2日目はほぼ使わないかたちになるわけですから。

——そうですよね、その差は大きいに決まっています。

SATOち：だからもう、この際なんでヘンに"上手くやる"ことは考えないようにしようと思ってます。1日目はある意味普段通りにやって、2日目は当時みたいにとにかくガムシャラにやれれば、そ

姿…実に楽しみです（笑）。

SATOち：行きすぎちゃうかもしんないですね（笑）。

——昨年、この2デイズについての告知があった時には、"わりと先の話だなぁ"と思っていたのですが、気が付けばこの号が出る頃には、武道館公演まであと約1ケ月です。いよいよですね。

ミヤ：今回の武道館は、会場の使い方

すよ。普通にやってもつまんないし、みんなが会場入った時から、セットを見ただけでちょっとテンション上がるような感じにしたいっすね。

——武道館公演以降の、今年下半期に向けての告知はまた当日にいろいろあるのだと思いますが、今年ここからのムックがどう動いて行くのかも楽しみですよ。

達瑯：あのね、ぶっちゃけ何も決まって

GIGS 97～11】でしょ？　でも、『カルマ』（最新アルバム）って出たの2010年じゃないですか。ここに含みがあるってことだけは、言っておきます（笑）。

ミヤ：あと、今度のライヴは各日1万人、合計約2万人が集まるわけですよね。当然、そこで何か出来ることってあると思うんですよ。というか、2万人もいて何もしないっていうのもあれだし、俺たち

えたら嬉しいです。

達瑯：今、いろいろ自粛とかあるでしょ？　でも俺たちは、それとは違うかたちで協力していきたいっすね。だって、映画行ったり、美容室行って髪の毛綺麗にしたり、ライヴ行ったり、そういう娯楽ってほんとに贅沢なものだけど、人生にはただ生きるっていうことだけじゃなく、時には楽しみも絶対必要じゃないですか。そう

CONNECT ANYTIME!!!

L.M.C

何もなくても、感じ合える関係性

迷うことなく"何としてでもハッピーになるしかない"と、mayaは言い切った。
シングル『SUPER DUPER GALAXY』の発売日、全国ツアー、そして日比谷野外大音楽堂公演
[~Go to the 5th Anniversary~ LM.C LIVE 2011 YAON de FEVER FEVER!!]が全て5月に順延となった中、
LM.Cの2人が選択した"今出来る、最大限のこと"たちは、きっとここから未来を変えていく。

Photography:SUSUMU MIYAWAKI(PROGRESS-M)
Interview:YUKI SUGIE

——本来であれば、4月2日に開催されるはずだった日比谷野音公演[LM.C LIVE 2011 YAON de FEVER FEVER!!]が、このたびは諸事情により5月29日に延期となってしまいました。と同時に、すでに始まっていた全国ツアー[LM.C LIVE 2011]も、4本が延期となってしまったのですよね。

Aiji：ライヴだけじゃなくって、『SUPER DUPER GALAXY』のリリースも、当初の日程からズレて、5月18日に出ることになってますね。

maya：ライヴも、国内以外で海外分2本が、これも延期になってます。

——ただし。ここから先がLM.Cの凄いところで、なんと3月中には延期になったはずの公演を〝物理的な距離を超えての疑似ガチライヴ〟略して〝★BKK-GGL★〟と名付け、ネット上でブログとTwitterを駆使しながらエア開催していたそうではないですか。

maya：ヴァーチャル・ライヴってやつをね、4回ほどやってみたんです(笑)。

——つくづく尊敬します。よくそんな奇想天外なことを思いつきましたよね??

Aiji：画期的でしょ(笑)。ただ、実は前からmayaは似たようなことやってたんですよ。

——と言いますと?

maya：前に、『GIMMICAL★IMPACT!!』(アルバム)を出した時に、せっかくだからみんなで一緒に聴きたくなって、なんか良い方法ないかなぁって考えたんですよ。って言っても、どっかに集まろうっていうのも大変じゃないですか。時間を合わせて、会場も見つけて…とか。それだったら、とりあえず開始時刻だけ決めて、勝手にそれぞれがいる場所で一斉に聴いたらいいんじゃね?って思ったのが最初です。で、そのリスニング・パーティーのタイトルが、〝物理的な距離を超えての疑似合同試聴会〟だったんですね。略して〝★BKK-GG[illegible]★〟。要は、そうやってみんなと遊んでたのの延長線上で今回の〝★BKK-GGL★〟も思いついたというか。単純に[illegible]イヴ延期になっちゃってヒマだったんですよ(笑)。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

Aiji：確かにそれはあったよね、ホントならこの日はライヴだったのに、っていうのが。

maya：そう。いきなり時間が出来ちゃったから、せっかくだし長野に帰って曲でも作ろうかって流れで、自分は実家に帰ってたんですけど、〝そうか。明日、富山でライヴやるはずだった時間にまたみんなで盛り上がればいいんだ！〟って、閃きました。

——流れとしては、まず当日ブログでセットリストが発表され、それを元にみなさんがプレイリストを作成するなり何なりして、開演時刻に各環境にて再生スタートとなり、以降Twitterで時間を共有し合う、というものだったのだとか。

maya：基本的に、開演時刻にスタートさせました。

——当日は、Aijiくんも参加されていたそうではないですか。

Aiji：そうっすね。〝やる〟って言うから、俺も参加しよっかなって思って。

——その際、セットリストはどのように組んでいったのですか？

maya：そこはいつも通り、本来のツアーとおんなじように考えていったところ、エアライヴっていうところありきで考えた部分、両方ありましたね。あとはタイミング的なところで、『SUPER DUPER GALAXY』はまだ出てないから、それは除いたりとか。

——実際問題、エアでライヴというのはどういう状態になるんですかね??

Aiji：曲を流して、それに合わせてギターを弾くかたちですよ。まぁ、言い方を変えれば普通に練習してる状態、ってことにもなりますけど(笑)。初日は俺、本気で弾きすぎてTwitterにはあんま参加できてなかったくらいです。

——なるほど、キーボードを打ってる間もなかったと(笑)。

maya：リアルのライヴと違って、曲間とかMCなしでガンガン進んで行きますもんね(笑)。

Aiji：ヤバかったっす。マジであれは、すげー疲れた(苦笑)。

——さすがは先輩。部屋の中で、ひとり全力プレイだなんてカッコ良すぎます。

Aiji：傍から見たらきっとアレです

事情だったとはいえ、根本的にはライヴ飛ばすとかってホントにイヤなんで。気分的にその日ちゃんとライヴのモードになれたっていうのは、凄く有意義でした。

——mayaくんも、長野の御実家でマジ歌いだったわけですよね。

maya：当然ですよ。部屋ん中は暗くして、曲を爆音で流して、その状態で歌ってく…みたいな。関係ない人からしたら、これほどおバカなこともないでしょ(笑)。だけど、そこが最高っていう。

——実は、富山公演にはわたしもこっそりお邪魔していたのですけれど、mayaくんは途中でお母様から、〝ゴハンが出来たわよ〟的なことを言われていませんでしたか？

maya：あぁ、ありました(笑)。なんかね、しかもそれやってるとちょっと端っこのほうからこっち見てたりするんですよ。そのうち、今度は〝今日はライヴ何時からなの？〟〝曲順はもう決めたの？〟って言って来たり(笑)。そういうとこまで含めて、あれはなかなか面白かったです。

——協力といえば、あのエアライヴにはサポート・メンバーのみなさんも参加されていましたよね。

maya：そうそう。別に誘ったとかでもないんですけど、けっこう自発的にみんな参加してくれてました。

Aiji：まぁ、みんなも急にスケジュール空いちゃったからヒマだったんじゃね？っていう(笑)。

——ちなみに、〝★BKK-GGL★〟におけるお2人の格好というのは、どんなご様子だったのですか。

maya：えっ？ あぁ、そりゃあもう、バッチリ完全フル装備ですよ！

Aiji：もちろん、当たり前じゃないですか(笑)。なぁ？

maya：っていうことにしといて下さい、ここは(笑)。

——分かりました(笑)。

Aiji：まぁでも、とにかく今回はあんなヴァーチャルなのに、リアルタイムでみんなと気持ちを共有できたっていうのが何より貴重な体験でしたよね。

maya：なんか、あの4本が終わった後も、例えばこれも延期になったFC限

蝴蝶网
hudie.com

Aiji：そういうのって良いよね。音楽の楽しみ方っていろいろあるっていうことを、L.M.Cとしてみんなに提示できたっていう意味でも、あれはやっぱやって良かったよ。

maya：一応、5月に決まった振替公演に関しても、基本はあのセットリストに基づいてやってこうと思ってるんで、今度は実際に生でやった時にどうなるかも楽しみなんですよね。

——では、5月29日に行なわれる、仕切り直しの日比谷野音公演［L.M.C LIVE 2011 YAON de FEVER FEVER!!］についてはどうなっていくのでしょうね。日程がズレたことによって、何かしらの変化が生じてくることもあるのでしょうか。

Aiji：出て来るでしょうね、必然的に。まだ余震が続いているっていうことや、電力的なことなんかもあるんで、演出的には当初考えてたプランからすると、ステージセットの高さや、照明機材の調整をする必要が出て来るだろうし、現実的な面とか物理的な面でいくつか制約が増えるのは確かです。

——そこは致し方ありません、何より安全が第一ですし。一方、内容や構成についてはどうでしょう。

maya：そこも、ホント自然と変わってくる部分はあると思います。意図的に何かを変えるつもりはないですけど。まだ、今日（取材日）は3月でしょ？ 何となく、4月2日（当初の野音公演当日）を越えたところで、もしかしたら自分の中で気持ちが変わって来るところも出て来るんじゃないかな、っていう予感はしてますね。

——ぜひとも、今度は〝物理的な制約を超えてのリアルなライヴ〟を思い切り展開していただきたいものです。

maya：結局、大事なのは気持ちですからね。あの〝★BKK-GGL★〟をやったことで、目には見えなくても確かにみんなと繋がってるんだっていうことが改めて分かったし、そのことは今度の野音にもきっと反映されてくと思います。

——スケジュールが変更になったことにより、5月29日までの間は少しまた時間が出来たわけですけれど、その期間は何をされる予定なのです？

maya：新曲の制作ですね。っていう

やってるんですよ。元々この時期にやるつもりではいたんだけど、少し前倒しで野音以降に出す予定のものを今から作ってるんです。

——そうでしたか。その言葉を伺ったからには、今回はこのことについても質問しておきたいと思います。今、日本で起きている出来事たちというのは、今後お2人がアーティストとして物事を表現していく際に、多少なりの影響を及ぼしていく可能性があると思いますか。

maya：こういうことがあって思うのは、いろいろなことについて忘れて行きたくないなっていうことなんですよ。もちろん、忘れてくことが人にとって救いになる時もあるけど、こういう場合は被災の中心じゃないとこにいる僕らのほうこそ、ずっと忘れていっちゃいけないよなって思ってます。

Aiji：俺は…言葉にしようと思うと難しいんですけど、こんなに自分自身が〝生きたいんだな〟って自覚したことなかったですね。あれだけの揺れを経験したのも初めてだったし、その後に被災地の状況も知ったりしていった中で、自分が思っていた以上に〝生〟に対して執着していた自分に気付かされたんですよ。今までもそういう姿勢ではいたつもりだけど、より後悔しないように生きなきゃいけないなって、その気持ちが強くなったっていうか。

——そこ、非常に同感です。

Aiji：ここからは5年、10年っていうスパンの話じゃなく、自分がステージに立っていられる間は復興支援していきたいなって思ってますしね。僕らもみんなも、それぞれが出来ることをやっていけばいいんじゃないかなぁ。

maya：生きてる以上、やっぱりみんなで何としてでもハッピーになるしかないんですよ。じゃあ、ハッピーって何なの？ってなるかもしれないし、簡単にそんな風にはなれないっていう人もいるかもしれないけど、何も全て充たされることだけがハッピーっていうわけじゃないですからね。そんなの、気持ちひとつなんですよ。間違いないです、我々は未来に向けてハッピーになってくしかないです。

みんなが笑顔になれるように

3月9日(サグの日)に、【海賊たちの船上遊園地】がテーマとなっている、ALBUM『Thrill Ride Pirates』をリリースしたばかりのSuGから、NEW SINGLEリリース情報が届いた！　タイトルは「☆ギミギミ☆」(6月15日リリース予定)。5月28日に公開予定の映画「ポールダンシングボーイ☆ ず」の主題歌にも決定している今作。今回は、いち早く、NEW SINGLE「☆ギミギミ☆」の話を聞くとともに、3月11日に東日本を襲った大地震をうけて、今、自分たちに出来る事、しなくてはならない事について、語って貰いました。

Interview: YUKA SUGIE

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

SuGというバンドの持つ楽しさ、スリル、冒険心が過去最大に極まったボリューミーな作品だったわけですが、リリース後の手応え、どう感じています？

武瑠：うーん…何しろ、震災がありましたからね。

yuji：そうなんですよね。リリースが3月9日で、直後にあの震災が起きて。

Chiyu：だから、少し落ち着いてから、"やっと聴けました"っていう反応があったりして。でも、まだまだ、落ち着く環境にない人も多いんじゃないかな。

武瑠：そういうことを差し引いたら、これまでで一番、反響はあるんですけどね。ファンのみんなからもらうひとつひとつのメッセージが、これまでより深いと思うし。深く突き刺さってくる内容が多い気はします。

shinpei：あと、被災地の人から、"アルバムをまだ聴けていないけど、SuGの曲を思い出したり、歌ったりとかして、元気な気持ちになれました"っていうメールをもらったりもして。

武瑠：避難場所でライヴDVDを観たりとかね。

――自分たちの曲やライヴ映像が、そうやって少しでも生きる糧になれているということは、救いですよね。

masato：ただ、ツアーに関しては、仙台や郡山は中止になってしまって…。

shinpei：行けることなら、行きたかったんですけどね…震災から1週間くらいは特に、すごくいろいろ考えました。被害の大きさがわかっていくにつれて、辛いですからね。

――ブログやツイッターという、平常時は便利なツールにおいても、言葉を選ぶ必要があるでしょうし。

Chiyu：そうなんですよね。自分の中でのモヤモヤが、それぞれにあったと思います。

masato：うん、すごく難しかった。

shinpei：何ができるんだろうっていうことを、それぞれ考えたと思うし。

yuji：僕自身、怖いなって思いましたからね。

shinpei：普段飄々としている…真面目なことを書いてたもんね。

――であれば、これからのみなさんの意識や発言や行動に、何かしらの影響も出てくるかもしれませんよね。

shinpei：直接的な行動としては、やっぱり募金が役立つと思うんですけど…ステージに立つ人間としては、音楽を使って何かができるんじゃないか、とはずっと思っていますね。

masato：今まで、僕たちはいろいろな人たちに応援してもらっていましたからね。ツアーも中止になってしまったところはあるけど、みんなに逢いに行くことに関しては、早く行動したくて。行けなくなってしまった場所にも、また絶対に行くから、待っててほしいなって思いますね

Chiyu：俺は、阪神大震災を経験しているんですけど…当時はまだ子どもだったこともあって、"友達大丈夫かな？"っていうぐらいしか思わなかったんですよ。でも、今は自分が少なからず影響力のある立場にあるので、ニュースをケータイカメラで撮って、ブログに上げたりして。当日、渋谷のタワーレコードでインストアライヴの予定だったので、遠征してくれるファンの人は状況がわからないだろうから、少しでも役に立てたらいいなと。表に立つ人間としての自覚が、少しは出てきたのかなと思いましたね。

yuji：僕は正直…自分が発信することに対してとか、全然考えられないんですよね。うん…ちょっと、時間がかかるかもしれないです。

武瑠：単純に、今まで生きてきて、ゲームとか、ドラマとか、映画でしか見たことのないことが現実に起こったから、まず不思議な感じはあるんですよ。俺は関係性が深い人のお葬式にも行ったことがなかったから、本当に人間は死ぬんだっていうことを、初めて感じたし。その影響は、直接的にではなくても、これから書く歌詞に表われてくるんじゃないかなって。あと、"不謹慎"っていう言葉の連鎖に負けないように頑張ろうとは思ってますね。

――来たるべき日に備え、自分のできることを粛々と進めようと。

武瑠：そう。被災した方たちが復興しようとするときに、何も面白いものがなかったら哀しいし、そのときに、楽しいもの、面白いものが救いになったらいいなって。縮こまらないようにし

際、"不謹慎じゃないか"っていう意見ももらったけど、そうやって経済全体が止まっちゃったら、どうするんだ？って思うし。連鎖被害って怖いですからね。

――確かに、被災していない地域が日常を取り戻さない限り、被災地にも日常は戻りませんよね。しかし、東京も相当揺れましたから…震災後、お互いの無事を確認できるまでは心配だったでしょうね。

武瑠：確かに、確認できたときは、ちゃんと生きてた！って思いましたよ。

masato：その日インストアライヴがあるはずだったから、みんなが外に出るっていうのがわかってたけど…連絡は取れないし、みんながどうなっているのか、まったくわからなかったし。

shinpei：僕、yujiくんとは丸1日連絡が取れなかったですからね。

yuji：次の日にメールを確認できたんですけど…心配してくれてました。

shinpei：ほぼ毎日一緒にいて、それが日常でしたからね。連絡が取れなかったり、逢えなかったりして、4日ぶりに逢ったときはホっとしましたよ。

Chiyu：うん、そうやな。

shinpei：インストアライヴは中止になっちゃったけど、ファンのみんなのことは、次に逢えるツアーでホっとさせてあげたいなとは思います。

――そして、6月にはシングル「☆ギミギミ☆」がリリースされますしね。詳しくは次号で触れるとして、shinpeiさん作曲の表題曲は、アッパーでキャッチーなキラーチューンだなと。

武瑠：すごく良い曲ができたよね。

yuji：最初、構成がメチャクチャだったんですけどね（笑）。

shinpei：そうそう、そういえば、yujiくんとは曲についての電話を結構しました。まとめるのが大変だったよね（苦笑）。

yuji：ただ、ペーさんは自分より歌がウマいと思うんですよ。だから、歌心はあるのかなって思いましたね。

shinpei：もともと、Mr．Childrenさんとかが好きですからね。この曲はSuGに加入して初め

きなポップスの色が濃く出ているのかなとは思います。

Chiyu：メロディのクセって個人個人あると思うけど、これまでのSuGで聴いたことのないメロディやなっていう印象ですよ。

masato：うん、憶えやすいしね。あと、シングル表題曲に関して、サビ始まりって初めてだし。世の中にはあるスタイルだけど、自分たちにとってはすごく新鮮ですよ。

――それから、「キニシィヤンキーズ」の遊び心、「契約彼女、生贄彼氏」のR&Bテイストも、新風を吹き込んでいるかと。

shinpei：確かに、バンド感とは違う方向だもんね。

yuji：表題曲は1年近く前に録っておいたものなんですけど、カップリングは最近録ったもので。ライヴの本数が多くないので、カップリングをライヴでやるっていうことを考えなくていいぶん、できることかもしれないですね。

masato：確かに、カップリングではいろいろ試せるようになりましたよ。

――では、ツアーに関して、改めて個々の想いをお聞きしておきましょう。

Chiyu：震災後、初めてみんなに逢えますからね。メンバーと逢ったときと同じ感覚になると思うんですけど、ちゃんと顔を見られる喜びも噛みしめながら楽しみたいですね。ライヴができるっていうのは当たり前じゃないんやって、改めて思いましたから。

yuji：うん、それを肝に銘じて、やることをやろう、っていう感じですよ。

masato：ライヴをやる以上、来てくれた人には、楽しかったって思ってもらいたいですからね。みんなの日常が普通に戻れるきっかけになればいいなと思います。

shinpei：みんなに逢える時間が、すごく楽しいんですよ。だから、しっかり練習して、良いライヴをして、笑顔でファイナルまでいきたいですね。

武瑠：アーティストであり、エンターテイナーなので、人を楽しませたり、喜ばせたりすることしかできないので。不謹慎という風に負けずに、たくさん笑わせて、たくさん泣かせて、たくさん叫ばせに行きます!!

SuG ☆ギミギミ☆

(問)PS COMPANY
〒168-0064　東京都杉並区永福4-19-17-1 F
TEL:03-5305-3813(平日12:00〜18:00)
http://www.pscompany.co.jp/sug/

Ko-ki from ViViD

Presonal Series Part.2
If I do not become a musician…

負けず嫌いの努力家

先月から始まりました、ViViDパーソナル・企画。毎回、『もし、ミュージシャンになっていなかったら…』をテーマに、メンバーそれぞれがミュージシャンになっていなかったら就きたかった職業を体験——。第二弾となる今回は、Dr.Ko-kiの登場です。日頃から、ViViDのお洒落番長としての名が高いKo-kiが選んだ職業は、ショップ店員。実際、ショップ店員として働いていた事もあったと言うだけあり、その姿は様になっています!!

Photography:HIROE YAMAUCHI(PROGRESS-M)
Interview:YUKA SUGIE
Hair&Make-up:ASAMI YAMADA(PS COMPANY)
Styling&Location: RHYDEAL(☎03-3477-8188)

蝴蝶网 hudie.com

Display

Fitting

と言っていませんでしたっけ？

「確かに、本当の夢は役者だったんですけど…より現実的な夢はショップ店員だったんですよね。実際、ViViDを始める直前まで古着屋で働いていたし。シンがヴォーカルに決まっていなかったら、そのままショップ店員を続けていたかもしれないですね」

――人あたりの良いKoichiさんだけに、接客業は合っていたと。いろいろと人間観察もできたでしょうね。

「メンズフロアもレディースフロアも担当していたから、本当いろんな人がいるなって思いましたよ。一緒に働いている人たちも個性的で。幸いにも自分が担当してたフロアは売上も良かったし、お客さんをコーディネートするのもやりがいがあったし、すごく楽しかったですよ。ま、一番テンションが上がったのは、カワイイお客さんが来たときですけどね(笑)」

――それは当然の心理です（笑）。オシャレには、小さいころから興味があったんですか。

きり目覚めたのは中学のときですけど、見た目には幼稚園のころから気を遣ってましたからね。とにかく目立ちたがり屋だったし、相当ナルシストで、小学校のころから髪の毛にジェルをつけて学校に行っていたし」

――怜我さんも同じようなことを言っていましたけど…早熟ですよね。

「床屋っていう言葉が嫌いだったし、常にクシも持ち歩いてましたからね。あと、幼稚園のころには[illegible]も言えたし、漢字も書けたし」

――神童じゃないですか。

「学歴人間のばあちゃんの影響もあって、"東大に行く！"宣言までしたからね。勉強、そのときは楽しかったですよ。小学生のときは、勉強もできたら、カッコイイ感じで目立てるかなと思ってたし」

――そういう男子はモテるはずです。

「一番モテたのは、小2のときかな。バレンタインのチョコを一番もらった年で、14コもらいましたからね。ランドセルにチョコが入らなくて困ったこと、今でも憶えてますもん」

――周りの男の子からすると、羨望の的ですよね（笑）。

「あ、チョコが入らなかったのは、数が多いっていう理由だけじゃないんですよ。そのころ、石を集めるのが好きで、学校で見つけたキレイな石を持って帰ろうと思ったら、両方は入らなくて。自分にとっては、チョコより石のほうが嬉しかったんですよね」

――子どもならではの価値観、微笑ましい。

「今思うと、石なんてどうでもいいですけど…何をカッコイイと感じるかも、変わっていったし。小学生の頃は明るくて人気者であることがカッコイイと思っていたけど、中学生になると、みんなでワイワイするのがダサいなと思って、ダークな感じになっちゃって。勉強もだんだんつまらなくなって、中学に入ると一切しなくなっちゃったし」

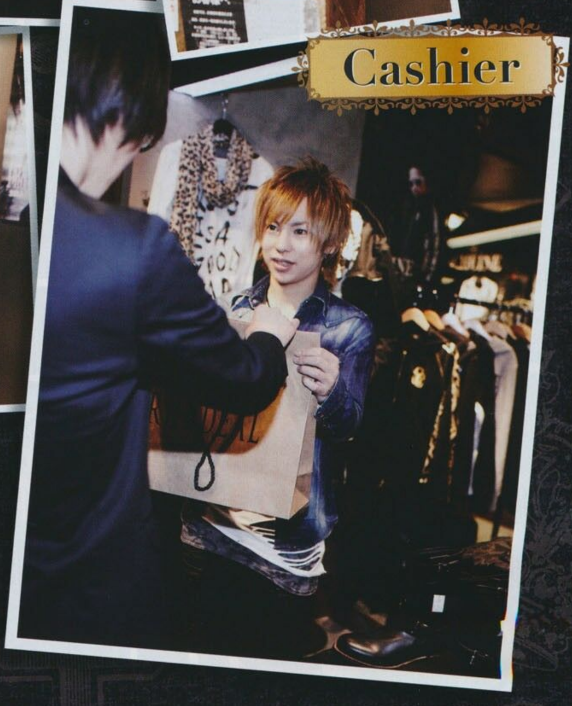
――じゃあ、高校時代は？

「高校に入って、価値観が変わったんですよ。中学生のときは勉強とか興

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Cashier



味なくなっちゃったし、好き放題やっていたけど、すごく勉強をするようになって。勉強しておいてほうが、将来いろいろ役立つだろうなと思って」

——学生時分にそれに気付けるかどうか、ですよね。しかし、そうやって自分自身のキャラが変わると、友達もバラエティ豊かなのではないですか？

「そう、俺、友達の幅がすごく広いんですよ。東大とか早稲田とか慶応に通っているやつもいれば、チンピラみたいなやつ、美容師目指しているやつ、お笑い芸人を目指しているやつ、政治家目指して頑張っているやつもいて」

——全方位網羅できそうな人脈ですね。

「オールマイティですよ（笑）。この間も、政治家目指してるやつとご飯食べに行って、政治論をアツく語られましたけど、それが楽しかったですもん」

——自分の好きなことを突き詰めるのも好きだけど、知らない世界をのぞくのも楽しいと。

「そうそう。俺自身、自分のやってい

るなら、友達として応援したいし」

——向上心を持つ人に共鳴するんでしょうね。

「だから、バンドも〝絶対てっぺん獲ってやる〟って必死でやっている人が好きなんですよ」

——という人が揃っているのが、ViViDであると。

「本当そうですね。ViViDじゃなかったら、バンドはやっていないだろうし」

——中でも、てっぺんを獲ることにかけて一番アツいのは自分であるという自負もあったりして？

「売れることに関しての意識は強いと思いますよ。わかりやすく言うと、街を歩けないぐらいになりたいし。プライベートがなくなってみたい。今の自分たちのレベルじゃ、低すぎて話にならないですもん（苦笑）。満足度で言ったら、10％ぐらいかな。ま、何をしても成功する人、何をしても目立つ人って絶対いるけど、俺はそういう生まれつきのスターじゃないって自分でわかってるから。雑草魂で頑張ろうって決めました」

——そう決めたのは、いくつのときなんでしょう。

「たぶん、高校のときかな。物心ついたときから、テレビに出る仕事がしたいとは思い続けていたから、勉強はちゃんとしつつ、バンドを始めて。芸能系の高校だったから、既にタレント活動をしている子もたくさんいたし、CDデビューしてた子もいたけど…俺は地道に頑張ろうって。バンドの自力で昇っていく感じが好きだし」

——努力家じゃないと、できないことでもありますよね。

「基本、負けず嫌いの努力家ですね」

——自分の中の怠惰や甘えには負けないですか。

「俺、最近はゲームをしないんですよ。遊びに行くのもそうだけど、その時間がもったいないなって思って。楽器知識とか音楽理論以外にも、学ぶことってたくさんあるし。良い曲を作るだけでは、いろんな人に音楽を聴いてもら

ション戦略的なことまで、アーティストである自分も考える必要があると。**

「そうですね。むしろ、それが一番楽しい。次はこういう衣装とメイクで、こういう曲を出そうっていうのを考えるのが、好き。だから、アーティスト気質ではないのかもしれない。占いでも心理テストでも、〝論理的人間だから数字を扱う職業に就いたほうがいい〟って言われるのはショックなんですけどね（笑）」

——確かにアーティスト＝右脳派なイメージは強いですけど、左脳派ならではの分析力、客観性でバンドを導いてきた部分もあるんじゃないですか？

「よく、関係者の人に〝最終的に鶴の一言を言うよね〟とは言われますね。ファッションにしろ音楽にしろ、常にいろんな情報を知っておこうとはしているし…ま、情報オタクですよ。普通の人がゲームをするような感覚で、数字データを調べたりしますからね。たぶん、マネージャーやったらバンドが育つかなって思う（笑）」

——もちろん、自分たちの情報も正確に把握しているということだと思いますが…それってシビアですよね。

「そうそう。でも、それって必要なことだと思うんですよ。良いことを知ればもっと頑張ろうと思えるし、悪いことを知れば次どうするべきかを考えることができるし。ま、ViViDじゃなかったら、続かないですけどね。ViViDは心から カッコイイと思えるし、絶対いろんな人に聴いてもらえるって思えるからやっているので。自己満足だけで続けることだけは、したくないし、しないと思う」

——夢を追いつつも、現実主義者でもあると。そういうKo-kiさんの視点、これからも欠かせませんね。

「今は、現実7割、夢3割って感じですけど…頑張ったぶん、結果が出れば嬉しいし、報われますからね。僕らの想いが伝わっているんだなっていうことがファンのみんなからの反応でわかると、それだけでゴハン3杯食べられますもん。これから先も、それが続く

COMPANY
〒0064 東京都杉並区永福4-19-17 1F
5305-3813(平日12:00～18:00)

蝴蝶网
hudie.com

THE KIDDIE

Nutty Nasty

固定概念からの脱皮

5月25日に待望のニューシングル「Nutty Nasty」をリリースするTHE KIDDIE。今作は、メジャー1stアルバム『BRAVE NEW WORLD』後初の音源となるが、アルバムとはまた違った視点で、"これからのTHE KIDDIE"を体現している作品となっている。表題曲「Nutty Nasty」は、サビが印象的な1曲。今まで以上に"サビ力"を感じる彼らの音を詳しく探っていこうと思う。

Interview:NAOKO TAKEICHI

——前作「Calling」から約8ヶ月ぶりと随分期間が空いたけど、今作はメジャー1stアルバム『BRAVE NEW WORLD』後、初の音源でもあることからの新たな一歩という意識は強かった?

ユウダイ：そうですね。『BRAVE NEW WORLD』でいろんな経験が出来たことが、すごくいい形で活かせたんじゃないかなと。アルバムを作っていたときは、とにかくアルバムモード一色だったんで、次のシングルのことを考える余裕は正直なかったんだけど、アルバムリリース後にツアーをやって、そのツアー中に今回のシングルの曲作りが始まって。固め出したのは、年明けてからでしたね。

——シングルに向けての曲作りの際に意識したことってあったりしたの？

揺紗：ありましたね。コンセプトってことじゃないんだけど、今までの自分たちの曲を見直す機会にもなったっていうか。ちょっとカッチリし過ぎてんじゃない？っていう話をみんなでしたんです。なんか、優等生っぽい曲が多かったんじゃないかなって。普段の俺たちって、やる時はとことんやる、遊ぶ時はとことん遊ぶ、余裕ある大人の男でしょ。そんなとこ出していきたいねって。

ユウダイ：なんか変な分析だけど、もっと人間臭い部分も出してっていいんじゃないかって話になったんだよね。

揺紗：そう。アルバムの中では、ちょろっとそういう部分も出してきたけど、やっぱシングルとなるとどうしても優等生になっちゃってたとこあったんで、思い切って人間臭いとこ出していこうってことになって。音的にTHE KIDDIEって、すごく耳になじみ易いバンドだと思うんですよ。そこはウチらの個性でもあると思うから、そこに残しつつ、冒険出来るところは冒険してみようっていう。

——そこはすんなりクリア出来たの？

ユウダイ：いや、この3曲を選ぶまでに3回曲出ししたんですよ。なかなか"コレじゃない？"っていう手応えが得られなかったというか、かなり模索しましたね。"いいんだけど、なんかもうちょっと欲しいよね"っていうのが1回目、2回目と続いて。THE KIDDIEと

hudie.com

かったんで、一言でポップだねとか、ロックだねっていう言葉で言い表せないような曲を作ってみたかったんです。

そらお：アルバムでも新たな挑戦をしたってのもあったんで、そこと同じようなことをやってもしかたないし、自分たちが掲げたテーマを頭では解っていても、なかなか形に出来ないでいたんですよ。でも、3回曲出しをやったことで、だんだんやりたいことが自分たちなりにも見えてきたんです。なので、3回目の曲出しのときは、案外すんなりとこの3曲に絞れた感じでしたね。

――なるほどね。今回のシングルを最初に聴いたとき、かなりマニアックに演奏を楽しんでるなって思ったんだよね。でも、揺紗が言ったように聴き辛くはなっていなくて、キャッチーさはちゃんと残っていたから、すごくバンドとしての成長が見える1枚だなって思ったというか。

佑聖：そうなんですよ！　結構弾きまくってるんですよ、ギター。個人的に、クラブっぽかったりパーティーっぽい音楽を好んで聴いていた時期でもあったんで、ユウダイくんが「Nutty Nasty」を持ってきたときは、一発で"コレだ!"って思ったんです。そこで自分が弾きたいギターも見えたくらいイメージが一気に沸いてきた感じだったんです。

――揺紗曲の「BRUTUS」[illegible]のド頭のテイストとかダンスシーンを思わす入りだったりするからね。

揺紗：そうなんですよね。俺も目指すところはそこだったというか。

――でも、「BRUTUS」は[illegible]印象をずっと引きずる訳ではなく、怪しげなロックに変化していくところが面白かったりもしたし、「Nutty Nasty」[illegible]スっぽいテイストがありながら疾走感あるロックが軸になってる感じだしね。

揺紗：うん。たしかに。いろんなテイストが混ざってる感じになってますね。

――淳くん曲の「グリムキャット」も、かなり古めなロックを感じたからね。

淳：ですね、そこ狙いました。

――「BRUTUS」と「グリムキャット」は後々聞くとして、まずは「Nutty Nasty」から詳しく聞いていこうかな。

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

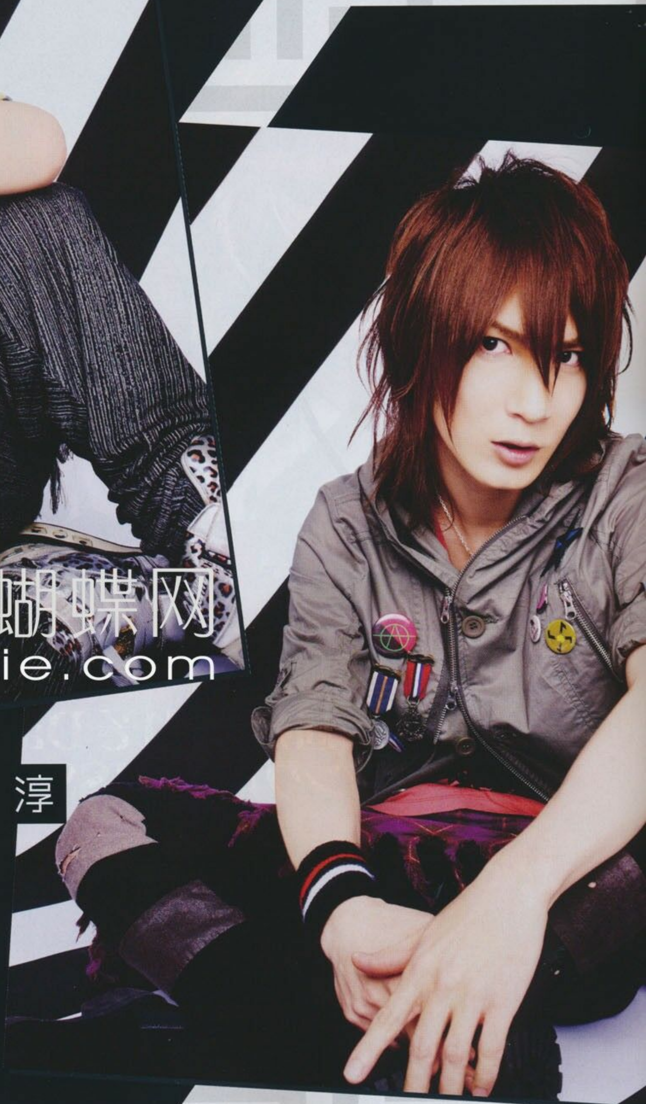
そらお

ユウダイ

佑聖：俺、「Nutty Nasty」は曲の感じも好きだったんですけど、歌詞も大好きなんですよ！　これ、揺紗くんがユウダイくんをモデルに書いた歌詞なんです。
揺紗：まさに、この歌詞の主人公はユウダイくんなんですよ（笑）。ユウダイくんがいつも持ってくる曲って、ロックっぽい曲が多いんですけど、今回ユウダイくんにしてはキャッチーな楽曲を持ってきたんで、よし、これは主人公をユウダイくんに設定して書いてみよう！　と思って書いたんですよ。我ながらかなり上手く表現出来たと思ってますね（笑）。【Nutty Nasty】の意味って、〝おっ！ヤバイ、キテル！〟っていう感じのニュアンスなんですよ。つまり、ユウダイくんが一目惚れをしたときをイメージして書いた歌詞なんです。
――そうやって聴くとユウダイに対して親近感沸くね（笑）。
ユウダイ：あははは。でも、まさに俺、一目惚れするとこんな感じなんで、自分的にも気に入ってますね。曲調にもこの浮かれた感じがすごく合ってるし。
揺紗：この曲、よく聴くとサビが〝ユウダイNutty Nasty!〟に聞こえるんですよ（笑）。ホントは〝U A the Nutty Nasty〟って歌ってるんですけどね（笑）。
――すごいギミックだ、面白い！
揺紗：でしょ（笑）。でも、きっと人間って誰でも、珍しいモノに出会ったときとか、一気にテンション上がると思うんで、すごく共感してもらえるんじゃないかなと思いますね。
――今回音色にもこだわりを感じた。「BRUTUS」のアコギのクリアな音色とかすごく活きてるよね。
淳：そこはドラムのタムまわしに合わせて考えた部分でもありましたね。佑聖くんが怪しげな感じのアルペジオを弾いてくれているんで、そこを前面的に活かしたいと思って意識的にすごくこだわった部分でもあったんです。
佑聖：Aメロのギターはかなり怪しい感じなんで、そこはかなりオススメです。
――ギターが遠くで鳴ってる感じが魅力的だなと。
ユウダイ：おっ、良かったね、佑聖そこ

佑聖

蝴蝶网
hudie.com



淳

(問)〒162-0831東京都新宿区横寺町32 TR神楽坂Bld
☎03-3268-8804(平日12～18時) http://kiddie.jp/

ホールで、ポツンと独りでギター弾いてる感じにしたかったんですよ。そんな感じが伝わってくれたら嬉しいですね。

──そらおのベースが曲に絡んでいくところも魅力的だよね。

そらお：そうですね、Aメロの絡み具合がいいですよね。ライヴで生で絡んでいい味を出していけるかが心配ですけど(笑)、まぁ、僕らも4年目なんで、そんな自然と醸し出せるバンド感がライヴで見せれたらいいですね。

揺紗：「BRUTUS」の歌詞は、〝友達に裏切られないためにはどうしたらいいか〟っていう質問がラジオにきてたこともあって、そこをテーマに書いていったんです。あんまりテンポも速くないし、いろんなことにチャレンジ出来そうな曲でもあったんで、畏れずにいろいろと詰め込んだ1曲になりましたね。インディーズの初期にやってた感じになったんじゃないかなと思います。とにかく、怪しい感じを出したかったんで、それを楽器隊のみんなが上手く表現してくれたんで、満足してますね。

──なるほど。「グリムキャット」「BRUTUS」両方に入ってる鍵盤の音がドアーズ（1960年～70年あたりで活動していたアメリカのバンド）的なサイケデリックな感じだったし。

揺紗：その鍵盤の音色は俺のこだわりでもありましたね。

──個人的に、間奏開けのユニゾン感がすごく好きだった。

淳：THE KIDDIEではやっていなかったんで新しいかも。弦楽器隊全員でユニゾンしてる感はポイントですね。

そらお：「グリムキャット」を最初に聴いたとき、言い方がちょっと悪いけど、なんかネチネチした感じがしたんですよ(笑)。そんな張り付くような感じを出したくて音色にこだわりましたね。淳くんからイメージをもらってたんで、そこと上手くからめながら弾きましたね。

揺紗：この曲はイントロから永遠とループするイメージがあったんで、自問自答を繰り返してる歌詞にしたんです。今回は3曲でいろんなチャレンジを詰め込めたと思ってるんで、何かしら新しさを感じてもらえると思うので、ぜひ聴いてみて下さい。

Daizy Stripper

蝴蝶网
hudie.com

“進化”と“回帰”これぞDaizyStripper――
最新シングル『KISS YOU』リリース！

――柔らかい音が特徴的な「KISS YOU」は、どのようにしてできあがった曲なのですか？

風弥：3年ぐらい活動してきて、デイジーストリッパーの存在意義を改めて考えたとき、ファンの子と俺らの絆って相当深いものになっているなと。それで、全てを包み込める曲を作りたいって思って完成させていったんですけど、俺らの原点がよく出ている曲になったんじゃないかなと思います。

夕霧：風弥が持ってきたデモを聴いたとき、自分が守られている感じがしたんですね。何ていうか、「KISS YOU」が流れている5分間だけは強くなれた気がして。それで、自分に自信がないって思っている子たちも、この曲を聴いたら勇気付けられるんじゃないかなって。

風弥：自分に素直になって作っただけに、すごく純粋なところが出たと思いますね。

――成長した上での原点回帰。それが自然と出せたのは素晴らしいことですよ。演奏面でも、そこは意識されました？

まゆ：包まれるような愛情は僕も聴いて感じたことなので、原点に立ち帰るということでも、自分のフレーズはそういったところを意識して弾いていきましたね。前と比べても、フレーズの入れ方も変わってきたと思うし。そもそも、僕はベーシックに支えるようなところがありつつもウワモノのギターが好きなので、ここではヴォーカルとの兼ね合いを考えてフレーズを作っていきました。ここから一歩踏み出すためにも、この曲は必要不可欠だなと思います。

なお：僕も、「KISS YOU」を聴いたとき、これぞデイジーストリッパーだなって感じたんですよね。誰が聴いてもかっこいい曲だなって思ってもらえるだろうし、10年後の僕らが演奏してもかっこいいって言える曲になるだろうと思い、やりたいって思ったんです。そう思える曲って、なかなかないじゃないですか。

――確かに。それに、そう簡単にできることではありません。

なお：ですよね。まぁ、何が言いたいかっていうと、風弥はすごいんだぞっていう。

――そ、そこ？

なお：これぞ、優しさ貯金です(笑)。まぁ、それはさて置き、ここでは下を支えつつ、良い具合に自分を主張できたかなって思いますね。アレンジに関しても、デイジーストリッパーですって自信を持って言える仕上りになったかなと。

――ギター陣を始め、この曲は5人のバランスがとても良くて。誰かが抜き出ているわけでもなく、引きすぎてもいない。その絶妙な感覚がたまらなく気持ちいいんですよね。みんなの体温が感じられるというか。

風弥：今回、空間、いわゆる音のない隙間ってすごく重要だなって思っていて。隙間を作る音っていうのは心がけたところでもあります。それと今回は、なおちゃんと一緒に録っていったんです。そうすることでバンド感がより出たかなって。

なお：あの試みは良かったよね。

――呼吸を合わせるって大事ですね。

夕霧：僕はスネアを意識して歌っていったんですよ。そのおかげで、曲に対して歌がどんどん入ってきて。今までで1番良いグルーヴが出せたと思います。

Rei：あと、この曲は、耳に残るメロディってこともあり、自分の音が想像しやすくて。一周して原点に帰ってきただけあって、新しいデイジーストリッパーが見せられるって思いましたね。ちなみに、大阪と名古屋でやったライヴでは、すでに披露しているんですけど、反響がすごく良いんです。早く音源として出して下さいっていう声をたくさんもらっていたので、俺たちとしても、そこに応えられることが嬉しくて仕方がないんですよ。

――覚えやすい楽曲だからこそ、初めて聴いた人たちからもすぐに愛されたのでしょうね。

Rei：初めて聴くにも関わらず、みんなが口ずさんでくれていましたからね。それだけに、代表曲のひとつとして育てていけたらなって思います。

――「last note」は、展開の多さに目を奪われました。

なお：実はこれ、けっこう前にできていた曲なんです。でも、ライヴでやったことは1度もなくて。それで、今回収録す

蝴蝶网
hudie.com

「KISS YOU」が流れている5分間だけは強くなれた気がした

リリース日が当初告知されていた5月18日から、6月15日へと変更になったDaizyStripperの最新シングル『KISS YOU』。この最新シングルからは、自分たちの楽曲で人を幸せにしていきたいという想いがひしひしと伝わってくる。こんな時期だからこそ、彼らの音楽で癒されてほしい。また、この後にはニュー・アルバムがリリースされることが決まった。夕霧が宣言してくれたとおり、過去最高の作品になることを期待して、彼らの成長を見守ることにしよう。

Interview:ERI MIZUTANI

た。

まゆ：なおちゃんが作る曲って、いつも面白いものを出してきてくれるんですけど、今回はポップ感が溢れるものを、なおちゃんテイストにして持ってきたなって思いましたね。

——得意とするところを詰め込んできていますよね。

なお：はい。僕としては、イントロから1サビにいかにして早くいけるかっていうのを意識したところもあって、面白い具合に自分流が出せたかなと。それに、ストレートな表現がすごく曲に合っていると思うんですよね。

——ちなみに、ラストノートとは、香りの段階を表す言葉ですが。

夕霧：香水を付けた瞬間の香りをトップノート、その次がミドルノート、最後に残る香りのことをラストノートと呼ぶんですけど、消えかけの香りで切なさを表現したかったんですよね。甘い香りが鼻の奥に残るような、そういった感じを出していきました。

——そこは曲調にも表れています。第1セクションでは強めの印象を与えながらも、次では爽やかさを漂わせつつ、ラストにはいつまでも忘れられない余韻を残していくという。

夕霧：香りって、脳に印象を残すそうです。なので、この曲もみんなの脳にいつまでも残るものであってほしいなって。

——余談になりますが、ここで描かれている切ない恋愛模様、皆さんとしても共感できる部分はありますか？

まゆ：わかりますね。読んでいると、あぁ、切ないなって思いますよ。

なお：最後の一行、《消えていく優しかった貴方の香りが今日も誰かの隣で笑っている》なんてところは、キュンってしますね。

Rei：きっと、誰もが共感できる歌詞なんじゃないかな。そこを表現すべく、自分としては風を感じるような音を目指したんですけどね。

風弥：ラストノートって、最後の音を表す言葉でもあるんです。だから、最後のアコギの部分はすごく余韻を残すものになったと思いますね。悲しいという感情はあるんだけど、前向きな感じも受け取

——香り同様、音もまた、弾く人によってガラリと印象が変わってくるものです。それだけに、1音1音、大切に演奏しているなと感じられました。それは「七色の花束を」にも言えることですけどね。

夕霧：ライヴで何回か披露している曲ということもあり、これを歌っているときは、ファンのみんなの笑顔と手拍子が浮かんでくるんですよね。

——結婚式ソングとして作られただけに、全編に渡って幸せ感があふれています。

風弥：実際、ぎりっちょの同級生の結婚式で使ったこともあるんですよ。

夕霧：そうそう、かざみんと2人で歌いに行ってね。あと、"結婚式で使います"って言ってくれたファンの子もいて。

——あら、素敵じゃないですか。

夕霧：ただ、そのときはライヴバージョンでしか音源化されていなかったので、"式で流そうと思ったんですけど、夕霧さんのオーイッ！っていう煽りが気になってしまい、使おうかどうか迷っています"って。それ聞いて、ごめんねって（笑）。

まゆ：そこはもう、謝るしかない（笑）。でも、結婚式に限らず、人の背中を強く押せる曲だと思うので、こういった曲を演奏できるのはアーティスト冥利につきますね。

なお：この曲を聴いていて思うのは、当たり前のことがこんなにも幸せなんだなって。

Rei：俺もそう思います。日常生活を送る上で感じる小さな幸せってあるじゃないですか。それを、この曲は、大きな幸せに変えてくれる気がして。それだけに、曲を通し、一緒になって愛を育んでいけたらいいなって思います。

風弥：これも、長く愛してもらえたら嬉しいですね。

——今後はアルバムのリリースも決定していることですし、ますます愛される楽曲ができあがることを期待しています。

夕霧：アルバムはシングルとはまた違ったアプローチをしていこうと考えているので、面白くなると思いますよ。自分でハードルを上げてしまいますけど、過去最高の作品になることだけは約束しておきます。

ユアナ Gt

柊 Vo

蝴蝶网
hudie.com

boogieman

“初期”衝動第2作、『monopolize』完成!!

boogiemanのニュー・シングル『monopolize』が4月20日にリリースされた。現編成で初めてステージに立ってから約4ヶ月、驚異的な勢化を続けるboogiemanの、“初期”衝動がパッケージされているという今作。6月5日には渋谷WWWにて、ワンマン・ライヴ「鼓膜 ジ・エが行なわれることも決定している。彼らの次なる衝動は、果たしてどこへ向かうのだろうか!?

Interview:TAKAYUKI MURAKAMI

――新生boogiemanのここまでの手応えは、いかがですか？

柊：納得しています。僕が加入して最初のライヴは、渋谷C．C．Lemonホールのイベントだったんですけど、その時はちょっと別物という感覚があって。本当のスタートは、boogiemanが主催したイベントの初日（2月5日）だった気がしますね。初めて長いライヴをやったので、C．C．Lemonホールでは気づかなかった課題がたくさん出てきて。その時は3デイズ続くこともあったので、見つかった課題をすぐに次のライヴで試してみることが出来たんです。無難にこなせば平均点のライヴは出来るだろうけど、多少ダメな部分が出てもいいから、後につながるライヴにしようと思って。そうやって迎えたファイナルの恵比寿リキッドルームでは、一つの集大成を見せられた感覚がありました。そこで新たな課題が見つかったことも含めて、良い形でスタートがきれたと思います。

晃：ライヴをするたびに課題が見えたけど、柊はイチイチ言わなくても自分で分かってて、完璧とは言わないけど、次のライヴで結果を出したので。かなりの速さでboogiemanに馴染んできている感じがありますね。

万作：ライヴに関しては、見た目が若返ったのがいちばん良いことじゃないかなと思います（笑）。ステージ上の空気もいいので、もう全く心配なくて。あとは、照明や出音といった外のことですね。そういう部分の作り込みをきっちり考えていけば、まだまだやれることはあるなという手応えを感じています。

ユアナ：ここにきて、バンドの輪郭がはっきりしてきましたね。柊が入ったことで新しい可能性を見つけられたし、シングルを2枚作ることで、細かい部分を詰めることも出来て。すごく良いペースで前進できていると思います。

ユウイチロー：ライヴを重ねることで、柊の間合いとかが分かってきたし、柊はみんなで決めたことは、きっちりやってくれるから。今はどんどんバンドに磨きが掛かっているし、そういう部分は音源にも反映されてて。今後の俺らには、かなり期待してくれていいよ。

――バンドの状態が良いことは、最新シングルからも感じられました。

ユアナ：そう言ってもらえると嬉しいです。タイトル曲の「monopolize」は、前作の「Howling」と同時期に作った曲です。作り方は、いつもどおりでしたね。柊がどういうヴォーカリストなのかが分かった上で、みんなでステージに立ってる姿を想像して。今のboogi

今の5人の初期衝動は全て吐き出した

うし、こういう曲があると面白いんじゃないかなと思ったものを形にしました。

柊：この曲はデモを聴いた時に、温かみと、切なさの両方を感じさせる曲だなと思って。そういうところから自分と重なるイメージを受けたんです。今の僕はいろんな人と別れて上京してきて、新しい出会いや、初めてのことをたくさん経験して、いろんなものが上書きされていってて。それはすごく良いことだけど、戸惑いや淋しさもあるんですよね。そういう感情を歌詞にしました。

ユウイチロー：最初はロック・バラード的な匂いを感じたんだ。力強くて、シンプルな曲という印象だったけど、音を合わせてみたら意外と曲の中で強弱が必要で、一本調子のドラムはフィットしないことに気づいて。そこで頭を切り替えて、歌詞も踏まえつつ、曲中のダイナミクスや流れを意識したドラムを叩くことにした。曲の波を作るのが難しかったけど、仕上がりには満足してる。

万作：この曲は、オケだけの時は無機質で冷たい感じだったのが、柊の歌が入ったことで一気に人っぽくなったんです。だったらベースも違うアプローチでいくべきだなと思って、人間味のあるベースを目指しました。イントロとかのフレーズは、完全に歌メロにインスパイアされて出てきたものです。それに、ベースの音色にもこだわりました。より下のほうにいるベースにしたくてエンジニアといっぱい話し合ったけど、結局理解し

水の中の深いところで、ゴボゴボいってるような音にしてくれと言ったんです。この曲の世界観には、そういう音がフィットすると思って。

晃：この曲のギターは、すごく自由でしたね。ユアナが持ってきたデモは、メイン・テーマになっているアルペジオがずっと鳴ってて。その印象が強かったので、それを軸にしたギターを考えればいいなと思ったくらい。あとは、この曲は歌メロが付いたのが、すごく早かったんですよね。歌メロが見えていたし、テーマのアルペジオもあったので、俺はその周りでウロウロしていればいいかなっていう感じでした（笑）。

ユアナ：ウロウロって（笑）。自分のパートに関しては、デモを作った時からほとんど変えていません。ギター・ソロだけは、歌を聴いてから、歌にうまくつながるように考えましたけど。

万作：最近ユアナのソロは、どんどんシブくなってきてる気がする（笑）。

ユアナ：いや、もう若くもないから（笑）。最近は、タイム感だったり、ビブラートやチョーキングのニュアンスで持っていくようなソロを弾けたらなと。ちょっと、みんなに申し訳ないなとも思いますけど（笑）。

――そんなことないでしょう（笑）。

晃：カップリングの「倒錯の傘」は、「monopolize」が出来た後に作りました。「monopolize」に対する2曲目となると、ある意味ブチ壊すものがいいだろうと思って。粗い肌触りのものを持ってくることで、それぞれを際立たせることが出来たんじゃないかなと思っています。

――確かに。歌詞は、"諦めないと人生やっていられないよ"ということを歌いつつ、"そうじゃないだろう"というメッ[illegible]め[illegible]内容です。

柊：これは前から思っていたことなんですけど、自分も去年の末くらいに、そういう悩みにあたってしまって。曲を聴いた[illegible]フィットするんじゃないかなと思[illegible]そういう心情を書きました。歌[illegible]中[illegible]な人生に満足している感じだけど、サビのパートで本心を出すことで人間の[illegible]を[illegible]ています。

ユウイチロー：この曲のドラムは、結構大変だった。俺はハードロック乗りのスクエアなリズムが基本になってて、シャッフルのハネたグルーヴはあまり自分の中に[illegible]。だから録り終わった

やかなビートになっているし、イントロの2バスとかで自分の色も入れることが出来て。新しいところに挑戦しつつ、結果を出せたんじゃないかなと思ってる。

万作：この曲はノリ重視でいくことにして、そういう想いの元にベース録りを始めたんですけど、最初はどうも調子が出なくて。それで、4テイク目くらいかな。イントロから良い感じだなと思って弾いていたら、いきなりエンジニアとプロデューサーがリズムを取りだして。"あ、みんなノリノリじゃん！"と思っていたら、そうじゃなくて、2人とも地震で揺れていたんです。

――えっ、そうなんですか？

万作：はい（笑）。笑い話にするのは、不謹慎ですけど……地震が来たけど調子が良かったので、僕は超揺れてる中で弾き続けて。最後まで弾き終わると同時に、外に逃げました。結局、その時のテイクが生かされているんです。どれだけダメでも、このテイクを使わないと…という空気になっていたので、納得のいくテイクが録れてて良かったです。

晃：俺は、この曲はイントロのリフが弾ければ満足だったので（笑）。そこは、こだわったかな。単音のリフとワウが頭の中で鳴っていたから、ユアナに無理を言ってワウを踏んでもらったんです。難しくて、めんどくさいことをやってもらうことになったんですけど（笑）。

ユアナ：うん、あのワウは難しい（笑）。手と足のタイミングが違うんですよ。でも、あとは特に難しいこともなく、気持ちよく弾けました。

――この曲のエモーショナルなギター・ソロも必聴と言えます。

ユアナ：僕は、ギター・ソロの入り方や抜け方に癖があると言われることが多いので、この曲はいつもと違うことをしてみたいなと思って取り組みました。そこは意識しましたけど、ニュアンスとかは自然というか。今の自分にとって心地好く感じられるのは、こういうソロなんです。これもシブい感じで、みんなに申し訳ない感じですけど…。

――だから、そんなことないって！（笑）

晃：3曲目の「DECOY #2」は、「Howling」を聴いてくれた人は分かると思いますけど、曲数合わせのインスト・トラックとかではなくて。意味のある1曲だし、きっと楽しんでもらえると思うので、最後までじっくり聴いてほしいです。

ユウイチロー Dr

万作 Ba

蝴蝶网 hudie.com

ソプラノ

原点と新しさの融合

4月29日に、自身最大キャパとなる赤坂BLITZでのワンマン・ライヴ『KNOCKOUT』を控えているHERO。そんな彼らが、6月8日にニュー・シングル「ソプラノ」をリリースすると言う情報が入って来た。どこよりも早く、そのニュー・シングル「ソプラノ」の話を聞くべく、メンバー4人に集まって貰い、そこに込めた想いをたっぷり語って貰った。「ソプラノ」最速インタビューをここにお届けいたします!!

Interview:YUKA SUGIE

HERO

――キャッチーでいてバンド感溢れる表題曲しかり、シングル「ソプラノ」の制作には、アルバム『Life』で得たものがフィードバックされているんでしょうか。

JIN：僕は、歌詞ですね。特に、どうしたらよりアタック感が出るかとか、語尾なんかにも気を遣ったりしました。小さい〝っ〟て大事だなとか、改めて思ったりして。

yuta：僕はですね、アルバムだと曲がたくさんあるから、フレーズを入れすぎてみたり、抜きすぎてみたりして、いろんなパターンを試したし、SARSHIくんとの駆け引き次第でどうなるかっていうこともわかったんですよ。その上で、今回はSARSHIくんといろいろ相談し合って臨めましたね。

――話し合うことで、自分だけでは思いつかない発想が、お互いに生まれてきたりしそうですよね。

SARSHI：もちろん、そういうことはありますね。あと、『Life』では、いろいろ話し合った表題曲を除いては、個人個人が好き勝手やった部分が多かったんですよ。結果、お互いを活かしきれていない部分も見えてきたんですけど、そういうことに関しても深く話し合えたし。細かいリズムもお互いがわかりながら、歌を前に出すことができたと思います。

yuta：「ソプラノ」と「セツナウタ。」は結構話したよね。特に、「セツナウタ。」は一番話したかな。

SARSHI：そうやね。ユニゾンが多かったので、〝こういうリズムでユニゾンしよう〟とか。

Yusuke：そういう細かい部分のアレンジを、これまでになくじっくり話し合えたことで、いろいろ試行錯誤できました。

yuta：で、歌うのはJINくんなので、実際に合わせてみたときに、さらにアレンジを見直したりして。

――そうなると、当然、より歌を乗せやすくなるわけですよね。

JIN：歌を乗せやすいし、気持ちいいですよね。歌っててテンションが上がるリズムだけでなく、弦楽器にもちょい口出しをしましたよ。

yuta：そのことで、すご[illegible]まったかなとは思います。

――作品を重ねるほどに、意志疎通や[illegible]共通認識が深まっている証でも[illegible]しょうね。

yuta：そうなんですよね。あと、作品を作ってすごく手応えを感じ[illegible]も、日が経つと〝こうしておけば良かった〟っていう反省点みたいなものは、絶対に出てくるし。だからこそ、どんどん改[illegible]して、個人としてもバンドとしても成長できるし。本当、終わらない旅ですよ（↑ちょっとドヤ顔）。

JIN：〝終わらない旅〟って言いたかったんでしょ？（笑）。

――情○大陸かと思いました。

yuta：頭の中に〝終わらない旅〟って浮かんだ瞬間に、〝超言いてぇ！〟って思っちゃって…すみません（笑）。

Yusuke：でもさ、それは大事なことだよね。進化していくっていうのはさ。

SARSHI：俺は、『Life』を作って以降、正直言うと、自分の中にイメージが何も出てこなかったんですよ。でも、初心に戻って、バンドやりたてのころに聴いていた音楽を聴いたりとかして。

――自分の原点に立ち返ってみたら、見えてきたわけですか。

SARSHI：そう、そうなんですよ。『Life』までは新しいことを追い求めてましたけど、自分にとっての根っこを見つめ直したら、それが新しくなったというか。自分の原点と新しさが、良いバランスで融合したと思いますね。

JIN：なおかつ、俺とSARSHIは、考えられるすべてのパターンを出して、可能な限り時間を費やそうって思うようになっていて。

SARSHI：うん、考え方は広がってるよな。

JIN：で、Yusukeは今、上領亘（超絶ドラマー）さんにアドバイスをもらっていて。

Yusuke：そうなんですよ。以前は感覚に頼る部分が多かったですけど、JINくんやSARSHIくんみたいな考

蝴蝶网 hudie.com

JIN

断できるようになってきているので、その感覚をもっと磨きたいですね。

yu-ta：ま、俺は感覚で生きているような人間なので、スタジオで合わせたときに感じたまま弾いちゃうんですけど…それを家で弾き込む中で、より良いものにしようっていう意識は、高まっているのかなって思います。

——そして歌詞なんですが、何しろ「ソプラノ」は、哀しくも優しいなと。世界で一番幸せなのは、二番目に幸せな君の手を引く人であって、自分は三番目なんだ、とは…なかなか言えませんよ。

JIN：あのくだり、特に良いでしょ？本当、良い歌詞が書けたなって思ってますよ、自分でも。ま、実際はムリですけどね。だって、これ歌詞ですもん（笑）。

——そう言ってしまったら身もフタもないですが（笑）、メンバーのみなさんは、同じ男子としてどう思います？

Yusuke：特に、サビの部分の〝世界で一番幸せだって思った事はあるよ？〟は、めっちゃ良いと思った。スタジオで合わせてるときから、すごく入ってくる言葉だなって。

——自分と重ねたりとかもして？

Yusuke：あ、若干はありましたね

yu-ta：え、重ねるんや（笑）。

Yusuke：うん、基本、重ねる。

yu-ta：俺も、Yusukeくんが言った部分はグっときた。深い歌詞を書いたなって思いましたよね。これまではわかりやすい書き方をしてきたと思うんですけど、なんか本を読んだ人みたいな感じだな、っていうか。

JIN：週刊◯春、毎週読んでるからねっ。

——そっち!?（笑）。

SARSHI：でも、俺も思いましたね。一度読んだだけじゃ解らなくて、読み直したりしたんですけど…コイツ（JIN）も大人になったんやなって。

——ということですが、JINさんの中で、変化をもたらす何かしらのきっかけがあったわけですか。

JIN：何かきっかけがあったというよりは…時間をかけたんですよね、今回は。睡眠時間は平均2時間、みたいな状況が、常に続いてましたもん。

——じゃあ、何度も書き直したりして？

JIN：そうそう。サビだけで、5パターンくらい書いたし。今回、3曲とも何パ

SARSHI

yu-ta

蝴蝶网
hudie.com

Yusuke

いいなって思いましたよ。

——結果、「セツナウタ。」では無償の愛を、「Ready」では物事の表裏を描く中に、哲学も見えたりして。

JIN：物事のすべては表裏一体だと思うんですけど、それをキレイに書いたのが「ソプラノ」で、汚く書いたのが「Ready」なんですよ。それこそ、仲間であるメンバーだって、違うバンド同士であればライバルかもしれないし。それって、国とか人種間でも言えることだけど、今回はスケールを小さくして書いてみようかなって。ま、自分の思っていること、考えていることを、具体的に形にできるようになったんでしょうね。きっと、コツを掴んだんだと思いますよ。たとえば、何気ない会話の中から、発展させて書けるようになったし。ついに見つけたなっていう手応えはあるので、それをまた、今後の作品に活かしていきたいなって。

——後々、この作品が岐路だったんだなと振り返ることになるかもしれませんね。さて、4月29日の赤坂ブリッツワンマンも間近ですが…それぞれの想い、聞かせてくださいっ。

yu-ta：超個人的に、きっと赤坂ブリッツで皮がむけると思います、ベロベロっと。自分自身、楽しみですよ。

JIN：表現が汚いなっ（笑）。ま、内から湧き上がる勢いって、出そうと思っても出せないですからね。ワンマンツアーに慣れてしまった上で、どう自分を追い込むか、それが課題ですね。良い意味の緊張感が伝わるようなライヴにしますよ。

Yusuke：HEROにとって大事な舞台ですからね。新たなスタートを切るつもりで、自分にとってもお客さんにとっても、刺激的なライヴにできたらいいなと思います。

SARSHI：この間、1stワンマンの映像を久々に観たんですよ。めっちゃ粗いし、めっちゃヘタなんですけど、〝やったるぜ〟的な勢いがあって。最近は、全体を意識しすぎちゃって、自分の良さを出しきれていなかったんじゃないかなと。もちろん、バランスは考えた上で、ブリッツでは攻めるライヴをしますよ。

(問)http://hero-izm.com/

蝴蝶网
hudie.com

ヒィロ：今（取材は4月上旬）は、まだ知っているのも周りの関係者だけなので、発表された後に気持ちが変わると思うんですけど、たずさわってくれる人が増えたので、〝こんな風に動いていくんだ〟というのは感じていますね。

Яeー：決まったときは、漠然とした感じで、嬉しい気持ちはあるんですけど、何が変わっていくのかわからなくて、実感もわかなくて。でも、少しずつ人とつながりが増えて、その人たちがパートナーになって、家族みたいな関係性になっていくにつれて、責任感を感じてきたんですね。それで自分が変われたのが一番大きい変化だと思います。

華遊：プレッシャーを感じていますね。これから先の人生、このメンバーとずっと一緒だし、これが人生の全てになる思うので、ニューというバンドをかっちりしないといけないし。メンバー同士の信頼関係とか絆も深まりましたね。

タクミ：最初は他人事のように思っていたんですけど、徐々に実感するにつれて、プレッシャーを感じてきました。リスナーの方も増えるだろうし、このままじゃいけないなと思って、今はプレッシャーと戦っています。

――やっぱりプレッシャーはありますか。

みつ：半年ぐらい前から、このままじゃダメだねっていうのはメンバー内で話し合っていたし、〝今日ダメなライヴをしたらデビューの話はなくなる〟とか、そういうつもりでやってきたので、だいぶ前から責任感は感じていたと思うんです。俺は、今になってワクワクしてきましたね。

ヒィロ：メジャーデビューの話が来た頃から、僕らの中で意識が変わってきたし、実際メジャーが決まって、何のために音楽をやっているのかとか、自分たちがやっていることに対する責任とか、そういうことをメンバー各々が考えるようになりましたね。でも最近は、楽しい気持ちが強くなってきました。

――メジャーデビューの話は、ご家族に報告したりしました？

みつ：皆、言った？

Яeー：俺、親にも言ってない。

ヒィロ：まだ？

一同：（笑）

――みつ君は？

みつ：俺、暗い話になっちゃうんですけど、今年の1月に親父が亡くなったんですよ。その前から体が悪くて、バンドを早くやめろって言われていたんですけど、仕事として認めてもらえる形になったということは話しましたね。うちはデビューはゴールじゃないと思っているんですけど、親はメジャーって聞くとそこが一種のゴールみたいに思うみたいなので、安心させられたのかなとは思います。

ヒィロ：今までニューにはいろいろあったじゃないですか。長い間、何年もやり続けてきて、いろんなトラブルがあった上での今だし、それは親も知っているので、すごく喜んでいましたね。バンドをやめなくてよかったねって言われました。

――確かに。ファンに向けては、本来だったら4月3日のライヴで発表する予定だったんですよね。

ヒィロ：僕らが思っているメジャーデビューのイメージと、ファンの子が思っているメジャーデビューのイメージって違うと思うし、本当は言葉で伝えられればよかったんですよね。離れるとか遠くなるとか、変わっちゃうとか、そういうのがありがちじゃないですか。でも僕らからしたら、常に変わっているし、今も変わっているし、変わってきたから今があるし。その変化が大きくなるだけなんですけど。

みつ：デビューしたら、ファンの子もビックリするような展開があると思うので、それがわかれば逆に安心させられるんじゃないかなと思います。ワンマンでは伝えることができなくなったんですけど、もう会えなくなるわけじゃないし、ワンマンではなくても、他のライヴでファンと向き合ったときに言っていこうと思います。

ヒィロ：クアトロワンマンは5月にやるので、そこでまた思ったことはちゃんと伝えたいですね。

――今はデビュー作品の制作中ということですが、制作する環境は大きく変わったんじゃないですか。

みつ：それが一番大きいことですね。

ヒィロ：曲を作るということに関しては変わらないんですけど、その曲に対し

蝴蝶网
hudie.com

デビュー・シングル『RED EMOTION～希望～』リリース決定!!

7月6日、ν[NEU]がメジャーデビューを果たす。当初の予定では、4月3日渋谷CLUB QUATTROでのワンマンで、メンバーの口から発表される予定だったが、震災の影響でライヴが延期となり、ネット上で発表されたので、もうご存知の読者も多いだろう。目下、彼らはデビュー作となる『RED EMOTION～希望～』の制作真っ最中だ。一体どんな作品を引っさげてメジャーシーンへと向かうのか、いち早く話を訊いた。

Interview: MIYUKI MURAYAMA

スカッションがすごく長くなったんです。デビュー作をレコーディングするにあたって、デモを作って、何回もアレンジして、アレンジして、1曲に対して何ヶ月もかけています。1曲に対してどうしたいのかを綿密に練っていますね。

みつ：この曲はどういう曲なのかを皆に話して、曲に対するイメージを皆で固めて作ったので、歌詞に関しても、バンドとか皆の意見が入っていると思います。

――実際にこれまでと違うところはどういう点で感じていますか。

華遊：長い期間レコーディングに挑んだので、何度もアレンジが変わって、テンポも変わって、練り直し、練り直しっていう感じでしたね。

みつ：そういうのを経て、難しいことがいいということじゃないんだなというのがわかりましたね。高度なテクニックとか、いっぱい詰まっていることが、いいんじゃないんだって。

ヒィロ：お互いの楽器もそうだし、メロディーもそうだし、歌詞も、全部の流れを尊重しないと、本当にいい曲ってできないんですよね。僕らはすごく詰め込むことが多くて、それが武器でもあったんですけど、そこをもっと研ぎ澄ましていくのが、もっと広いところにいったときに武器になるんじゃないかなと思います。

みつ：そこで本当にいいのかなというのはありましたけどね。今まで詰め込んできて、それで上手くいってきたので、悩みはしました。

ヒィロ：でも、いろんな方のアドバイスをいただいて、自分たちで消化して、消化した上でまた何回もアレンジして。結果的にすごくいいものが出来上がったと思います。

Яeー：音楽をやっていく上では、やりたいことをやっていったほうがいいと思うんですけど、それでも一回ちょっと引いて自分とか曲を見ると、もっと歌を活かせるアレンジとか、ギターとの絡み具合とかが見えてくるし、そういうのを全部ひっくるめてニューなので。今までの自分を殺すわけではないんですけど、皆と合わせている感覚の気持ちよさを自分の満足に変えていけるように、日々考えていました。今までは、ただ自分が叩いバーしたりしようとしていたんですけど、今回は音の一発一発に気持ちをこめたというか、一音一音に集中して叩きました。

タクミ：今回のレコーディングは、新しい道を教えてもらった感覚でしたね。いつも弾いているフレーズだと今までどおりって言われて、直したのだと味気ないみたいな。どんどんやり合いしている中で、こういう道もあるんだ、こういうアプローチの仕方もあるんだというのを教えられて、シンプルだけども美味しい調味料もあるっていう、そういう味付けを学びましたね。

――まだタイトル曲の「RED EMOTION～希望～」しか聴いていないのですが、これはデビュー作のために書き下ろした曲なんですか。

ヒィロ：違いますね。曲自体は前に作った曲です。自分の中では一度ボツになった曲なんですけど、なぜかレイボンが押してくるんですよ。

Яeー：昔の曲も、今でも通用する曲ばっかりなので、放っておくのはもったいないと思ったんです。

――ニューのサウンドのイメージからは意外な選曲だと思いましたが。

ヒィロ：確かに意外だと思います。ぶっちゃけ今までの路線で、「PULSE」とか「wave」みたいな、バリバリ4分打ちの同期音楽で、緑の衣装を着て、バーンってやるのが、ニューの王道ですよね。

みつ：でも、それだったらメジャーに行く必要がないと思うんですよね。それだったら、メンバーだけで出来たし。せっかく環境が変わったのに、今まで持ってたものしか使わないんだったら、メジャーに行く必要ないですよね。最初、この5人のニューを始めたときは、〝変わってるね〟って言われたんですけど、それを続けてきて、その印象が強くなってきたので、だからこそメジャーというフィールドに行って、一回さらにして、また壊し続けて行こうかなと思うんです。そういう意味での挑戦でもありますよね。メジャーに行ったら成功、終わりじゃないんですよ。あくまで挑戦だと思っているんです。昔から言っていることですけど、これからメジャーになっても、常に違うことをやっていきたいですね。

蝴蝶网
hudie.com

DOG inThePWO

パラレルワールドオーケストラ

蝴蝶网
hudie.com

“みんなで共有する”という音楽の本質

東名阪ワンマン・ツアー『犬交パーティー』を大成功のうちに終え、6月1日にはシングル・リリースも控えているDOG inTheパラレルワールドオーケストラ。ますます勢いに乗る彼らの実情を探るべく、シングルの制作状況と合わせて、バンド内の関係性をも聞いてみた。予想以上に、アヤシイ関係が暴露されてしまった…!?(笑)

Interview:TAKAYUKI MURAK

行なった東名阪ワンマン・ツアー「犬交パーティー」の感想を、お願いします。

春：DOG inTheパラレルワールドオーケストラ（以下DOG）は、『ONE』の制作に入った頃からすごく良い状態になってて。だから「犬交パーティー」では、そのテンションをぶつけるライヴをしたいと思っていました。ただ僕は、1月末から気管支炎になってしまって、2月頭のリハーサルに参加できなかったんです。そういう状態になったのは初めてだったので、とにかく歌いたいし、ライヴをしたくてたまらなくて。すごくストレスが溜まっていたので、それをぶつけられて今回のツアーは最高でした（笑）。

メイ：僕は、ずっとワンマンに対して構えている部分があったんです。イベントの時は、他のバンドを観に来てるお客さんも混ざってる会場の空気を、どうやって持っていくか…というところで燃えるんですけど、ワンマンではDOGだけを観に来てる人たちをどうやって満足させればいいかを、ずっと模索していたんです。でも、今回の「犬交パーティー」を終えて、そういう迷いが自信に変わりました。なので、これからはワンマンも楽しんでやっていけると思います。

ミズキ：俺は、ワンマンであろうがイベントであろうが、常にステージに立つ意識に変わりはなくて。今回のツアーもモチベーションを高く保ちつつ、そこにいかに自分の力を足していけるかが勝負だなと思って臨みました。すごく楽しいツアーだったけど、課題もたくさん見つかりましたね。もっといけたと思うし、もっとお客さんを盛り上げたかったなと思って。今後は、その辺りをどんどん突き詰めていきたいです。

準々：僕は、いつもどおりでした。僕はライヴの時間が10分でも1時間でも気持ちは変わらないし、お客さんが多かろうが少なかろうが100点満点のライヴしかしないので。だから「犬交パーティー」も特別なことは一切なかったです。

春：『ONE』の曲を最初に披露したのは2月13日の無料ライヴだったんですけど、その時点では、初めて曲を聴くお客さんのほうが僕らよりも『ONE』を理解していたと思います。それを感じて、〃ゴカン！〃と思って、その後、大阪と名古屋を廻って渋谷O-WESTでやった時は、僕ら自身が『ONE』を昇華できていることが感じられて。すごく短いツアーだったけど、アルバムが完結していくというのは、こういうことなんだなと思いました。僕らが作った音楽をファンのみんなと共有して、楽曲が育つことを実感できたことが嬉しかったです。

――今後のライヴで、さらに曲が育っていくのが楽しみです。ツアー中、印象に残るようなことなどはありましたか？

春：どうだろう？ 今回は、特になかった気がしますね。

ミズキ：昔の話でもいいですか？

――いいですよ（笑）。

ミズキ：前に、俺と準々とメイくんの3人が同じ部屋だったことがあって。その時は疲れてて、俺は10時くらいに眠ってしまったんです。寝ていたら、急に〃ドン！〃という衝撃が走って。パッと目が覚めたら、準々が素っ裸で襲いかかってきてたという（笑）。本気で寝てる状態だったのに、目が覚めてみたら目の前に真っ裸の男がいたら衝撃じゃないですか（笑）。ビックリして、準々をベッドから引きずり降ろしました（笑）。で、メイくんが、その一部始終をムービーで撮ってたという（笑）。

メイ：（準々に）指示したのは、僕だったんです（笑）。普段は遅くまで起きてるミズキが珍しく早く寝たから、これは良くないなと思って（笑）、準々に〃ミズキ寝ちゃったけど、どうする？ 侵入しちゃう？〃って聞いたら〃うん〃って。そうしたら、僕は何も言ってないのに、全部脱ぎ始めたんですよ（笑）。

春：全裸は自分選択だったんだ（笑）。

準々：うん、サービスの一環で（笑）。

春：サービスって（笑）。でも、気持ちは分かる。僕と準々は、ミズキに裸を見せるのが好きなんです（笑）。準々は、メイの裸も見たがるし（笑）。

ミズキ：そう（笑）。メイくんがシャワーで頭を洗ったりしてるところの後ろを、ウロウロしているんですよ。シマウマを狩る前のライオンみたいに（笑）。

準々：オカシイかな？ 純粋に、ただメイメイの裸が見たいだけなんだけど。下なくて、純粋に見たいだけなので。

メイ：オカシイでしょ、言ってることがっっ！（笑） それが初ツアーの時で、もうビックリして。

次のシングルは、単純に“DOGのいちばん良い曲”です

――大変ですねぇ（笑）。話を音楽のことに戻しますけど、春さんは『ONE』が完成すると同時に、〃よし次！〃と思ったと前に言っていましたよね。その時点で、〃次のDOG〃のイメージがあったのでしょうか？

春：具体的に、こういう曲を…というようなイメージはなかったです。アルバムが完成したことで、1年間にわたった音源制作のゴールテープを切った感じがしたんですけど、若干物足りなさもあって。それで、すぐに次の曲に取り掛かりたかったんです。

準々：春の言葉に違和感はなかったですね。僕もアルバムの曲を作りながら、次のシングルの曲も作っていたので。用意は出来てるぞ…という感じでした。

メイ：僕も同じ気持ちでした。アルバムが完成した時には、大きな達成感があって。良い作品が作れたことを感じると同時に、次の作品を作る自分たちを早く見たいなと思ったんです。この後のDOGがどんな曲を作って、どんな展開になっていくのかが楽しみでした。

ミズキ：俺も〃もうガンガンいってやろうぜ！〃みたいな感じでしたね。俺は、みんなで新曲を作る作業が好きなので。だから、アルバムが出来た時も〃やっと終わった〃という感じは全くなくて、もっと曲を作りたいと思いました。

――意欲的ですね。準々さんがシングル用に作ったのは、どんな曲でしょう？

準々：単純に、〃DOGのいちばん良い曲〃です。アルバムを出して、いろいろやって、一区切りついたところに、こういう曲が来たらいいな…みたいなことを意識して作りました。その時は、2曲同時に作ってて。両方良かったので、まだアルバムのレコーディング中だったけど、早くこれもやりたいなと思っていました。

――ということは、次のシングルのタイトル曲は、その曲になる？

春：まだ内緒です（笑）。いつもどおり次のシングルも僕らが出来ることの中で最先端の3曲を、きちんと並べた形にな を言ってしまうと、挙がっている曲が全部良すぎて、どれをタイトル曲にするか、まだ決まってないんです（笑）。

ミズキ：次のシングルは、『ONE』を聴いてくれた人は絶対気に入ってくれるだろうし、初めてDOGに触れる人も好きになってくれると思います。こうやって話してると、早くみんなに聴いてほしくなりますね（笑）。リリースを楽しみにしててください。

メイ：僕の中では、次のシングルも良い意味で今までと変わらないです。これまで出してきたシングルも毎回自信作だったし、次の音源も〃DOGって、やっぱりいいね〃って思ってもらえる作品を目指す。それに尽きますね。

――みなさんと話をして、春以降のDOGが一層楽しみになりました。

準々：僕らも楽しみです。DOGに関しては、ずっと聴いてもらえるバンドになりたいという想いがあって。若い時は熱心に聴いたけど、大人になったらもう聴かない…というバンドではなくて、年月を経てもDOGの曲を聴きたいと思ってもらえるところに行きたい。そういう存在にならなければ、単なる一過性のバンドで終わってしまうし、リスナーの人生とずっと共にある音楽を創っていきたいと思っています。

春：DOGは、『ONE』の制作や「犬交パーティー」もそうだったように、今後も一つずつゴールを設定して、そこに向けて、それぞれが大事に思うことを突き詰めていくことでバンドとして成長していくと思います。個人的には、去年は我慢していた部分があったんです。本当の自分は、人に受け入れられないタイプの人間だと思うんですよ。バンド名にしても、元々は〃GOD〃にしたかったけど、さすがにどうかと思って〃DOG〃にしたんです。それと同じように、ヴォーカリストとして可愛いカモフラージュみたいなものもあったけど、今年はいらないかなと。去年は自分のことを犬だと思ってライヴをやってたし歌詞も書いてたけど、今年は自分のことを神だと思ってやっていきます。周りのみんなは、僕を崇め、称えればいい。今年は、それくらい強い気持ちでやっていこうと思ってます！

蝴蝶网
hudie.com

ベントが大阪であったので、11日は後夜祭的なオールナイトのイベントだったんです。11日に起きてテレビを観たら、地震の緊急速報が流れていて。大変だなとは思ったんですけど、イベントの準備やリハーサルがあったから、そこまで深刻な状況になっているとは考えてもいませんでした。でも、イベントが終わって自宅でテレビを観たらとんでもないことになっていて、これはただ事じゃないなと。でも、何をしていいかもわからないし。ずっとテレビを観ていました」

――そこから、自分達が直接何かしようとすぐ考えたんですか。

「実際にはすぐっていうのは難しかったけど、まずはライヴやリリース等をどうするべきかと。こういう事態だから、いつに振替公演が出来るのかも分からないですが、まずはUNDER CODEレーベルとしてやらないといけない事、やるべき事を考えて、イベンターとかライヴハウス、イベントの他の出演バンドとかに連絡を取りまくっていましたね。でも、西日本みたいに比較的無事な地域で自粛しまくってどうするのかっていう疑問もあったし、まわりの話を聞いていると自粛じゃなくて萎縮なんじゃないかと感じた事もあったんです。でもいくら考えても、単純に募金や基金くらいしか思いつかなくて。最初は、大阪でイベントをやることで、その元気が東北に届くのかって思いもあったんです。正直届くとは思えなかったし。でも、同じ大阪バンドでもあるSadieが6周年のワンマンを18日に大阪で控えていたんですけど、それを急遽チャリティイベントに変更するっていうことで、彼らの事務所であるフェイスミュージックの社長と話をしている中で、自分たちで募金活動をして、ちょっとでも被災地のみんなに届くようなイベントにしたいという趣旨に賛同して、僕らも参加したんですよ。ライヴの空気とかも全く読めなかったんですけど、やってみたら、こういう震災があったからこそ、西日本が何かをやらないとっていう気持ちがひとつになったのかなって思うんですよね。お客さんとかいろんな関係者の声を聞いている中で、今、俺達が西日本でやらないとダメになるなって一人でも二人でも救われればっていう気持ちも出てきたし。それで、ライヴハウスからも協力をもらって、大阪のアーティストだけで、被災地の方に向けて何かやろうと立ち上がったんです。もともとはSadieのイベントがあったからですね。あれをやって、できる人間だけでも立ち上がっていかないとダメだなと思わされたんです」

――それはワンマンの予定がイベントになったんですか。

「6周年のワンマンを急遽チャリティイベントに変えるっていう、その姿勢や勇気に感動したところがあるんですね。イベントもSadieのメンバーが旗振って、進行からすごく頑張ってやってくれて。僕からすると、後輩のバンドがそこまで頑張っているんだから、俺らはもっと何かやらないとなって。それで、チャリティイベントをやることに決めました」

――2箇所同時開催で、たくさんのバンドが出演しますね。

「全て大阪在住のバンドばかりです。事務所が大阪でも、東京に住んでいるバンドとかは入っていないんです。無料でやるので、出演してもらってもお金の話はできないし、主旨に賛同できるバンドさんってことで、いろんな人の協力があって一気に33バンドが決まりました」

――UNDER CODE所属でも、東京とか名古屋に住んでいるバンドは出演しないんですね。

「今回は外しました」

――チケットは無料で、募金に協力する形になるんですか。

「募金とチャリティアイテムを発売するので、協力してほしいですね。僕らも直接募金活動したいと思っているし、なんならライヴハウスだけでなくてもいいかなって。町中で呼びかけるのもありかなと思っているんです。いろんなことを皆で協力してやりたいと思います」

――正直、チャリティって、いろんな見方をされることもあるかと思うんですが。

「僕らもいろいろ言われますよね。トラブルがあったりするから仕方がないと思うけど、そういう風に思われるのは心外だし。これだけのアーティストが大阪でひとつになれることってなかったと思う

もともとはSadieのイベントがあったからですね。あれをやって、できる人間だけでも立ち上がっていかないとダメだなと思わされたんです

東日本大震災のためにさまざまなチャリティ活動が行われている中、KISAKIが立ち上がった。UNDER CODE PRODUCTIONのコンピレーションアルバム『UNITED LINK for JAPAN』と、凛のライヴDVD『OFFICIAL BOOTLEG DVD VOL.1』をチャリティアイテムとして発
さらに4月30日には大阪BIG CATとOSAKA MUSEの2箇所でチャリティイベントを同時開催する。
ミュージシャンとファンの純粋な想いが、被災地の復興へとつながってほしい。

Interview: MIYUKI MURAYAMA

とか関係者が動いてくれて決まったんです」

――今までの交友関係を超えたイベントになりますね。

「音楽業界、ヴィジュアル系ってくだらないしがらみも多いんですけど、そういうのは全部取り払えたかなと思いますね。これだけのバンドが賛同してくれたのは、純粋に嬉しいですね」

――イベントに先駆けて、チャリティアイテムも発売されますね。

「レーベル内で何かできることをしようということで、UNDER CODEのコンピレーションCDと、凛のライヴDVDを出すことにしました。凛は、未発表の新曲を収録して、他のバンドも被災地に向けたメッセージをブックレットに掲載し、急遽制作に入りました」

――凛の「Feeling Universe」は、最近作った曲なんですか。

「もともと作っていて、90パーセントぐらい完成していた曲だったんです。俺が主催で立ち上がってやっている以上、良い音源を届けたいので、急遽無理やりスタジオを空けてもらって、仕上げました」

――KANATA君作曲ということなんで、一言どうぞ。

KANATA：これは凛の中で、一番明るいんじゃないかなっていうぐらいの曲ですね。自分のやりたいことを出してみたら？っていうところから始まったんですけど、一番明るくて、希望っていう感じのある曲に仕上がりましたね。

――作品の主旨に相応しい曲ですね。

「急な話だったので、100パーセント作品の主旨に合わせるのは難しかったんですけど、出来る限り沿ったものにしようと思って作りました。本来だったら次に出すシングルにと思っていたぐらい思い入れの強い曲です。落ち着いたときに言ってもらったら、このCDも被災地の人には無料で送ってあげたいと思っています。ちょっとでも喜んでくれる人がいるんだったら、できることはしたいですね」

――そして売り上げを寄付すると。

「そう思っています。僕らはそれぐらいしかできないんですよね」

――DVDは、今までのライヴの映像が収録されますね。

と思っていたDVDだったんですけど、チャリティアイテムにすることにしました」

――このアイテムはどこで販売するんですか。

「通販とライヴハウスですね。ショップに並べるかどうかはまだわからないですね。急に決めたことなので、この情報がどれぐらい広まるかも不安なんですけどね。この取材時（3月末）ではまだ発表もしていないし」

――チャリティイベントをやることについて、何か反響はありましたか。

「頑張っていいイベントにしてほしいっていう声は、沢山もらいましたね。被災地の方、東北の方からのメールが多いですね。そういうのに俺らも後押しされて、いいイベントにしないとなって思っています」

――こういうことがあると、自分にできること、逆にできないことを感じさせられると思うんですが。

「できないことのほうが多いんですよね。俺らごときがって思うし。でも、俺でも少しはできると思って、それが集まって形になれば、1が100になるのかなと信じてやっていますね。思う気持ちのほうが大事だし、それがあれば伝わるかなって。震災とか関係なく、音楽をやっている以上、気持ちが入っていないものは何も伝わらないと思うんです。俺がやろうと思ったことに対して、これだけのバンドが賛同してくれるんだし、今は成功させるしかないなと思っています。いろんな人が力を貸してくれるので、来れる人は集まってほしいし、少しでもいいから募金に協力してもらえれば嬉しいです」

――凛としては、その日からライヴを再開して、その後は当初の予定どおりに活動を進めるんですか。

「決めていたとおりですね。CDのリリースを止めることも考えたんですけど、4枚目のシングルも予定どおり5月25日に出します」

――まずはイベントを成功させて。

「大阪からパワーを出せたらいいかなと思いますね。少しでも時間のある人は集まって、協力してもらえたら嬉しいです」

蝴蝶网 hudie.com

アンド

-ECCENTRIC AGENT-

の引金が新たな始まりを告げる

麗なところだけを見せるのは何か違うし、伝わるものも伝わらない

KAJIが加入し新体制となってから、積極的にリリースとライヴをこなしてきたアンド。どうやらそれは、相当の自信となったようだ。
5月4日にリリースされるニュー・ミニ・アルバム『TRIGGER』には、さまざまな曲調の楽曲が収録されている。
れは、どこまでも素直であり、メンバー全員の成長が伺える。ぜひとも、これから始まる「激撃」任務と併せて、注目してもらいたい。

Interview:ERI MIZUTANI

蝴蝶网
hudie.com

んがコンポーザーとしての実力をいかんなく発揮されていますが、ご自身としては、どういった色をアンドに加えようと思って作曲に臨まれたのでしょう？

KAJI：アンドが今までやってこなかったことをエッセンスとして入れられたらなと思って、曲を持っていったんですけど、うまく隙間をうめられたんじゃないかなって思います。

キリ：前のCDでもKAJIは1曲出しているんですけど、自分とは違うタイプの曲を持ってきてくれるだけに、今回も何も言わずとも面白い曲を作ってくるだろうって思ったんですよね。ただ、「TRIGGER」というタイトルを掲げたからには、そこに基づいて、何かの始まりだったり、きっかけだったりを表したいなと。

——ここに収められている曲は、どれも刺激的なものばかり。1曲目の「_naught」は、ドロッとした質感が印象的だけれど。

KAJI：簡単に言うと、“無”というか。トラックは1なんですけど、自分の中では0（ゼロ）っていう意識があって。0というからには何でもありだろうと思って、色んな要素を詰め込んでいったんです。なので、ブラストビートとかも入っているし。変に整理されていないところが聴きどころになっていると思いますね。

キリ：この曲、激しいだけじゃないところがいいんですよね。サビでメロディがハーフになるおかげで、落ち着いて聴けるというか。

PECO：一見、ごちゃごちゃしているように感じるかもしれないけど、流れが良いからこそ、自分で演奏していても気持ちいいんですよ。

——違和感なく聴けますからね。あと、ここで肝になってくるのは低音かなと。

けん：ベースは、KAJIが作ってきたドラムに対して、その場で思い付いたのを弾いただけなんですよね。それがそのまま、レコーディングに反映されて。それよりも、最後のまとめのミックスがうまくいったかなと思います。これからアンドがやっていこうと思うものが提示できたと思うし、そこは自信にもつながりましたね。

キリ：細かいところをしっかりやろうっていうのがあって。前と比べてもジャッジ

——そうして、このようなスタイリッシュさが出せたわけですね。

郁磨：とにかく、この曲で感じてほしいのは、世界観なんです。オケから深さを感じ取れたので、混沌とした中での自分というものを歌で表現していったんです。俺の場合で言うと、自分というものを意識したのは中学の頃。何ていうか、物体として存在することが不思議で。そういった感覚をここでは描いていきました。

——どこかモヤモヤした気持ちの「_naught」、感情を爆発させた「TRIGGER」。同じ線上にあるけれど、異なる要素を持っていて。

キリ：「TRIGGER」は、作っている段階から、暴れたい、楽しみたい、っていう気持ちがあったんですよね。単にライヴノリを意識したというわけではないんですけど、すごくロックな曲調になっていると思います。

郁磨：今までだったら、こういう曲には強気な歌詞を乗せていたと思うんです。でも個人的に、今回の作品では、自分を投影しようというテーマがあって。それで、弱い自分というのを書いてみたんですよね。エージェントロックをやっていく中で、最も大事なのは感情を見せていくことかなと。やっぱり、綺麗なところだけ見せるのは何か違うし、伝わるものも伝わらないと思って。

——そうすることで、さまざまな感情が活きてくると思います。

郁磨：力強さは感じてもらえると思う。

KAJI：とにもかくにも、曲調がロックなので、ドラムは激しく叩くしかないかなと。やりたい放題やってみたんですけど、伝わりましたか？

——ええ。好きなところを詰め込んできたなと思いました（笑）。でも、そこが、郁磨さんが意図していたものとぴったり当てはまったなと。

けん：俺も、KAJIと同じで激しい感じでやっていったんですけど、Bメロでは歌詞に添ったアプローチをしていきましたね。悲しい気持ちとかは特に。

——細かなニュアンスは得意とするところですからね。

けん：そうすることで、ただのロックでは終わらなかったかなと。他にも色々なこと

蝴蝶网
hudie.com

らいたいなって思います。

PECO：俺は、自分の演奏の際にドラムをしっかり聴いたんですよね。これ、思った以上に速いので。

KAJI：自分で言うのも何だけど、速くておいていかれそうになる。

PECO：怖い曲だよ（笑）。けど、今まで以上に伝わる曲になったと思うので、ライヴでどうなるかが楽しみですね。

——そして、中盤の2曲は、どちらもKAJIさんの曲ですが。

KAJI：「dope」と「torch」は中性的な感じをイメージして作っていったんです。基本的に、てんこ盛りの曲が好きなんですけど、あまりに極端なじゃないものにしたくて。「dope」は、歌詞を見てもわかるように、救いがあるのかないのかわからない感じになっています。これは俺の意図を完全に汲んでくれたなと。

郁磨：KAJIの曲って、聴いていると映像が見えるんですよね。なので、そのままを描いていったというのはあります。

——それにしても、こうやって自分を追い込むような言葉を並べていると、歌っていて辛くなってきたりしませんか？

郁磨：確かに、「dope」では過去への執着を歌っているので、歌っていると苦しくなってきます。それこそ、ずっと下を向いてしまうぐらいに。でも、そうまでして歌にリアリティを求めたのは、自分を見せたい、知ってもらいたいっていう気持ちが強かったんですよね。そうしてリアリティを求めた結果、シチュエーションは違えど自分の経験が出てきたんでしょうけど。その上で、聴いてくれる人に対し、“君たちはどう思う？”って聞いているところもあって。

PECO：そういう表現ができるようになったのは、郁磨の感受性が高くなったからだと思いますよ。歌詞もそうだけど、「dope」は俺の心をえぐってきた曲で。その感情を表すべく、はりつくような音をイメージして弾いていったんですよね。他の曲とは違うアプローチになっているので、自分としても収穫が多かったです。

けん：俺も。ベースソロも今までにない感じだし。

KAJI：逆に、「torch」は実験的な曲で

うのをテーマにしただけに、声の重要性はもちろんのこと、スピード感はあるけれど綺麗なメロディを意識して作っていきました。

郁磨：依存心を扱っているんですけど、すごくナチュラルに表現できましたね。こうやって新しいキャラクターが出せたのは、実験的な曲のおかげかなと。

——ありのままなのは楽器陣も同様に。

けん：伸び伸びと演奏することができましたね。歌モノっていうこともあり、良い色付けがベースでできたと思います。

PECO：俺、ここではギターソロを弾いたんですけど、温かみのある表現ができたと思いますね。スライドの位置も当日まで決めていなかったんですけど、そのおかげで感情が込められたと思います。

キリ：俺は、この録りの直前にアンプが壊れたんですよ。で、普段使用しているやつを使ったんですけど、思っていた以上に良くて。トラブルの中にも発見ってあるんだなって思いましたね（笑）。

——「暖色のセカイ」（Bタイプのみ収録）「basis」「砕～cross border～」の3曲はキリさんが作曲を手がけられていますが、こうきたか！って感じがしましたよ。

キリ：「暖色のセカイ」は唯一のバラードですからね。でも、それだけに、素直な自分たちのメッセージが詰め込まれていると思います。

郁磨：無の世界から始まり、自分を見つめ、この曲でようやく人を受け入れる準備ができたと思うんです。そこで、誰かのための居場所を作ることができたし、自分も素直になることができたかなと。

——だからこそ、最後の2曲で、これでもかというぐらいの感情をぶつけることができたんですね。

キリ：聴く人に訴えかける力で言うと、今までやってきたもの以上のところが出せたと思うので、そこはこれから始まる「激撃」任務で確かめてもらいたいです。個人的に思うのは、ライヴという空間で、集まってくれた人たちと同じ想いを分かち合いたいなと。いつものことですけど、普通のことをやっても面白くないと思っているので、新しいことを作り上げていきたいなと思います。

蝴蝶网
hudie.com
IEW MINI ALBUM TRIGGER
2011.5.4 (WED) RELEASE!
ECCENTRIC A
TRIGGER アンド
TYPE
ENTRIC AGENT
TRIGGER アンド
B-TYPE
■「TRIGGER (A-TYPE)」EAR-018A ￥2,730-(tax in)【CD(6曲)+DVD(1曲)】
■「TRIGGER (B-TYPE)」EAR-018B ￥2,415-(tax in)【CD(7曲)】
※初回出荷特典：AGENTバトルカードNo.31～No.36をCD対1にてランダム
※商品に関するお問い合わせ：ONG DISTRIBUTION (TEL:03-5784-9662)
<INSTORE EVENT>
5月8日(日)新宿ZEAL LINK
6月6日(月)大阪ZEAL LINK
6月19日(日)ブランドX
6月2日(木)博多SKULLROSE
6月10日(金)タワーレコード名古屋近鉄パッセ店
6月26日(日)渋谷ZEAL LINK
7日(水)よりアンド携帯ファンクラブ「AGENT VIP ROOM」内より「TRIGGER」先行配信決定!! ※非会員の方でもご利用頂けます。
日(水)より「TRIGGER」収録曲全曲配信開始!!アンド携帯ファンクラブ「AGENT VIP ROOM」内「着うた」コンテンツ/music.jp/mu-mo/オリコンサウンド/レコチョクetc
アンドオフィシャルサイト
http://and-eccentricagent.com/

アンド
&
-ECCENTRIC AGENT-
蝴蝶网
hudie.com
平成二十三年上半期「激撃」任務
六大都市単独公演巡業任務
-naught of TRIGGER-Tour
5月28日（土）郡山#9
5月29日（日）仙台HOOK
残少!!
6月3日（金）博多DRUM SO
残少!!
6月5日（日）心斎橋CLUB D
残少!!
6月11日（土）名古屋ell FITS A
SOLD OUT!!
6月25日（土）新宿BLAZE
各プレイガイドにて好評発売中!!
※詳しくはアンドオフィシャルサイトをご覧ください。
携帯ファンクラブ会員限定LIVE
「AGENT VIP ROOM'2011
～庵怒羅射舞集会～美怖流宇夢～～」
5月22日(日)渋谷屋
SOLD OUT
ライブスケジュール
4/25 鹿児島CAPARVO
4/26 博多Be-1
4/28 大阪BIG CAT
4/29 名古屋E.
5/3 渋谷O-EAS
アンド携帯ファンクラブ「AGENT VIP ROO
着うたダウンロードや着ボイス、フラッシュ待ち受け画像や期間限定コンテンツ、チケットの優先予約、会員限定グッズ通販など盛りだくさんの携帯ファンクラブ!!
入会方法 ：専用QRコードよりアクセスし、会員登録フォームより手続きを行ってください。
※ドメイン指定している場合は指定アドレスに「@fmb.excite.co.jp」を追加してください。
着うた、メールマガジンは会員でなくても利用できますのでまずはアクセス!!

11.5.25 Release『CRACKER$』
CKER$ 2.FutureSight 3.InnocentSTAR
1,575-(tax-in)/S.D.R-223

2011.4.27 Release『Heart 8eat!!』
1.P(r)izm 2.Heart 8eat!! 3.MAXXBUG 3songs/¥1,575-(tax-in)/S.D.R-222

2011.6.22 Release『FUZZ GRAPHIX』
3songs/¥1,575-(tax-in)/S.D.R-224

グル発売記念
催公演開催決定!

1/5/15 高田馬場 AREA
主催公演『P(r)imal Galaxy Vol.1』
開演 17:00 ADV/DAY 2,800 円 (D別) / 3,300 円 (D別)
/BUNNIEIS/Spica/POPCORE/DragonWAPPPPPPER/DOPES./ ハルシオン
: A001-100 4/18 (月) 東高円寺二万電圧 Ap(r)il 物販にて先行販売
: B001-200 4/23 (土) ローソンチケット (L コード : 74514)
にて 5/25Release『CRACKER$』先行発売★★

2011/6/15 高田馬場 AREA
Ap(r)il 主催公演『P(r)imal Galaxy Vol.2』
開場 16:30/ 開演 17:00 ADV/DAY 2,800 円 (D別) / 3,300 円 (D別)
出演 : Ap(r)il/Lips/POPCORE/DragonWAPPPPPPER/SCAPEGOAT/ ギャロ /FEECHE
【チケット】
●A チケット : A001-100 5/13 (金) 池袋 BlackHole Ap(r)il 物販にて先行販売
●B チケット : B001-200 5/14 (土) ローソンチケット (L コード : 74518)
★★物販にて 6/22Release『FUZZ GRAPHIX』先行発売★★

edule
田馬場 AREA 5/13 池袋 BlackHole 5/26 高田馬場 AREA 6/17 名古屋 Electrid Lady Land 6/18 OSAKA MUSE
袋 Black Hole 7/1 高田馬場 AREA

Event
ライカエジソン東京店 19:00 内容 : 来店イベント 対象 : S.D.R-222「Heart 8eat!!」ご購入の方
宿 ZEALLINK 15:00 内容 : トーク・握手・5 ショット撮影会 対象 : S.D.R-222「Heart 8eat!!」ご購入の方
ブランドエックス 19:00 内容 : トーク・5ショット撮影会 対象 : S.D.R-222「Heart 8eat!!」S.D.R-223「CRACKER$」S.D.R-224「FUZZ GRAPHIX」どれか 1 枚ご購入の方

ww.april-web.net/ ♦TOTAL INFORMATION:《SPEED-DISK》〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-8-609 TEL 03-5386-6016 OFFICIAL WEB SITE:http://www.xxxrecords.jp/speeddisk/

前作「赤い乗車券」に続く貴女のアリスシリーズ第二弾!
蝴蝶网
hudie.com
2011.6.15
Release
黒い招待状
収録曲:1.時計仕掛けのMASQUERADE 2.チェシャ猫亭 3.Les MISERABLES〜レミゼラブル〜
NNCR-0041 1,575円(税込) 発売元:NINE
Vo. ジキル
LIVE SCHEDULE
4月21日 高田馬場AREA
5月03日 新宿Holiday
5月06日 池袋Black Hole
6月17日 池袋RUIDO K3
6月29日 高田馬場ESPホールCl
7月22日 池袋RUIDO K3
8月19日 池袋RUIDO K3
G. 琉尚
Dr. ネク
Ba. 27-NINA-
「黒い招待状」先行発売＋27-NINA-BIRTHDAY＝3rdワンマン
27ック・ヴァンパイア
5月30日 池袋RUIDO K3
開場17:30 開演18:00 前売3000円 当日3500円(ドリンクチャージ別)
★来場者全員に無料配布物あり(全4パターン)
TOTAL INFOMATION NINE
1-1-11-406 Okubo,Shinjuku-ku Tokyo 169-0072 Japan
TEL 03-5287-3455 FAX 03-5287-3454
http://www9.plala.or.jp/elm_/

蝴蝶网
hudie.com

LIVE SCHEDULE

- 04/17 高田馬場AREA — PS COMPANY PRESENTS
- 04/18 高田馬場AREA — SHOCK WAVEアポロ PRESENTS
- 04/24 高田馬場AREA — PS COMPANY PRESENTS
- 05/07 高田馬場AREA — BORN PRESENTS
- 05/14 高田馬場AREA — PS COMPANY PRESENTS
- 05/31 高田馬場AREA — UNiTE. PRESENTS

ユナイト初主催イベント

United
Stars
AREA

05月31日(火)
高田馬場AREA
OPEN 17:00 / START 17:30
前売 ¥2,800 / 当日 ¥3,300
出演:ユナイト/レミング/愛狂います。
OA:コドモドラゴン / 他

告知有り

ユナイト Official Site
http://unite-jp.com/

◆インフォメーション◆
〒170-0013 東京都豊島区東池袋
1-20-3 (MAKIビル2F)
池袋サンシャイン通郵便局留
(※メンバー名を忘れずに記載して下さい。)

F no.01

結成記念2ヶ月連続リリース決定！

06/01 1st Maxi Single
U -smeh-

タイプA (CD 2 Songs + DVD 1 Song) / ¥1,890(tax in) / CAUN-001A
CD (01.U -s·m·e·h- 02.Chronus) DVD (01.Eniver)
タイプB (CD 3 Songs) / ¥1,575(tax in) / CAUN-001B
CD (01.U -s·m·e·h- 02.Ms.Fabbit 03.失踪イン マイ ルーム)

各2000枚限定生産
発売元 : Creative Association 販売元 : 株式会社ライカロリーポップ

07/13 2nd Maxi Single
ミドルノート

タイプA (CD 2 Songs + DVD 1 Song) / ¥1,890(tax in) / CAUN-002A
CD (01.ミドルノート 02.ディストリー) DVD(01.world wide wish)
タイプB (CD 3 Songs) / ¥1,575(tax in) / CAUN-002B
CD (01.ミドルノート 02.snow slow 03.不完全I/F)

各2000枚限定生産
発売元 : Creative Association 販売元 : 株式会社ライカロリーポップ

hudie.com

オリガミ
New Single
Feel ?
DTR-033 ¥1,260(tax in)
Feel ?
5/25wed on sale
LIVE INFO
4/23（土）3man in L@N Akasaka
（オリガミ動員は無料）
5/05（木）浦和ナルシス
5/07（土）浦和ナルシス
6/11（土）HOLIDAY SHINJUKU
Official WEB
http://origami.xxxxxxxx.jp/
発売元：Death trap Records　販売元：《SPEED-DISK》TEL 03-5386-5828　http://www.xxxrecords.jp/speeddisk/
GremlinS
合同レコ発Live！
6/18・7/20
渋谷RUIDO K2
合同主催
【Sacrifice】
蝴蝶网
hudie.com

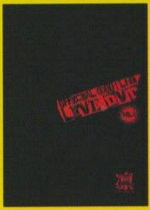
Gremlins
-グレムリン-
hudie.com
両A面シングル
極楽蝶 / 餓死
DTR-032 ¥1,260(tax in)
5/25wed on sale
LIVE INFO
4/25（月）池袋サイバー
5/01（日）池袋サイバー
5/07（土）浦和ナルシス
5/23（月）池袋サイバー
6/29（水）池袋RUIDO K3
7/11（月）高田馬場AREA
死ノ危険ヲ感ジロ
http://music.geocities.jp/anima666skull/anima.html
Death trap Records
Speed-disk
XXX
発売元：Death trap Records 販売元：《SPEED-DISK》TEL 03-5386-5828 http://www.xxxrecords.jp/speeddisk/
3カ月連続 オリガミ &
渋谷RUIDO K2
無料2man
5/20【神vs怪物】

銀座よろず屋本店 仮想店舗『柿ノ元』

■東日本大震災チャリティーアイテム■

■2011.3.11 東日本大震災支援
COMPILATION ALBUM
「UNITED LINK for JAPAN」
¥2,625【UCP-9】

全8曲入
[収録曲]
1.Megaromania
→「Oath-cross of eternity-」
2.Dali →「スロウメロウ」
3.PERESTROIKA →「HEART」
4.Cu[be] →「断罪の雪」
5.朱→「曲ガル睡蓮`駆ケル[11ul]」
6.シンディケイト
→「濱 NIGHT ☆ CITYBOY」
7.Arc →「メッセージ」
8.凛→「Feeling Universe」
※未発表新曲



■凛「OFFICIAL BOOTLEG DVD VOL:1」
¥2,625【ULI-17】

全3曲入
[収録曲]
1.FREEDOM(2010.10.24 大阪服部緑地野外音楽堂)
2.Metamorphose(2011.1.07 なんば Hatch)
3.Fake Dance(2011.1.07 なんば Hatch)

凜
-the end of corruption world-

■オリジナルミラー
¥1,000【ULI-12】

■ポラロイドファイル
¥2,500【ULI-13】

■最新アーティスト写真A ¥1,500【ULI-18】

■オリジナルストラップ ¥1,000【ULI-9】

■サイン入りチェキ
2枚組(ランダム封入)
¥1,000【ULI-16】

追加スケジュールは、OFFICIAL HP をチェック!! http://www.under-code.jp/

■Dolly リボンポーチ
¥2,300【FDO-5】

Dolly

■Dolly ペンライト
ピンク・ホワイト・ブルー
各¥1,600【FDO-6】

■Dolly
携帯ストラップ
…0【FDO-4】

■Dolly
アクセサリースタンド
¥1,500【FDO-3】

…ジナル Single
…oting Star-」

…gle (CD+DVD)
…トディスコ」

[MSDL-022] ¥2,41…(tax in)
【CD】全3曲収…
【DVD】ムーンラ…ディスコ
(MUSIC …

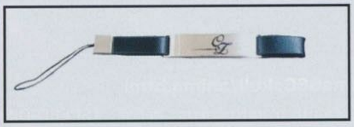
活動詳細は Dolly Official Site をご覧ください。
http://www…

…ji Production inc.
Creative Office

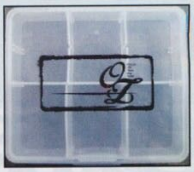
Hatuki
Aki
Tama
Nao
Zakki
OZ

■シュシュ
¥1,000
【LOZ-34】

■コインケース(黒/紫)
各¥500【LOZ-35】



■ストラップ ¥1,500【LOZ-37】



■ピルケース
¥1,000【LOZ-36】

■タオル
¥2,000【LOZ-33】

Loop Ash RECORDS 【INFORMATION】〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-18-3 目黒第一花谷ビル 602 号室
(有)ループアッシュ -OZ- web saite ⇒ http://www.territory-oz.com/

蝴蝶网
hudie.com

R 指定

マスク ¥500【SRS-16】

写真 3-A ¥1,500【SRS-19】

チェキホルダー
¥1,500【SRS-18】

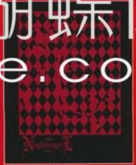
Ap(r)il

写真 4-A ¥1,000【SAP-22】

メンバー全員入り
チェキ（4 人）
¥1,600
【SAP-20】

ストラップ
¥1,500
【SAP-17】

NightingeiL



コンパクトミラー
¥1,000
【SNI-12】

写真 2-A ¥800【SNI-14】

写真 3-A ¥800【SNI-15】

UnsraW

写真 -A ¥1,000
【SUN-11】

写真 -B ¥1,000【SUN-12】

Speed-disk

※ 注意事項
・バックナンバーの受け付けは終了となりました。
・今月号のグッズの締めきりは 5/21 到着分までとさせていただきます。

● SPEEDDISK のイベント
★ SPEED DISK PRESENTS
～『森羅万象 tour'11#1』
4/20（水）金沢 AZ
4/22（金）京都 FANJ
4/23（土）岡山 CRAZY MAMA KINGDOM
4/25（月）鹿児島 CAPARVO HALL
4/26（火）博多 DRUM Be-1
4/28（木）大阪 BIGCAT
4/29（金・祝）名古屋 E.L.L
5/3（火・祝）渋谷 O-EAST
OPEN 16:30/START 17:00
前売り ¥4,000/¥4,500(税込)
Cast：R 指定 /xTRiPx/Moran
Guest：AYABIE/ アンド / ケミカルピクチャーズ /DuelJewel/BORN
※ 各会場ごとで出演者が異なりますので詳しい内容は各バンドの HP か SPEEDDISK の HP をご覧下さい。

★ SPEED DISK PRESENTS
～『森羅万象 Another Story』
6/10（金）名古屋 E.L.L
6/11（土）大阪 FAN J-twice

OPEN 16:30/START 17:00
前売 ¥3,500 当日 /¥4,000(税込)

Cast：Moran
Guest:amber gris/ アヲイ (6/10 のみ)/-OZ-/9GOATS BLACK OUT/highfashionparalyze

★ SPEED DISK PRESENTS
～『桜華乱舞』
・5/25（水）高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00
前売り ¥3,000/¥3,500（税込）
Cast:CatfisT/DIAURA/DEPAIN/NightingeiL/BIOSPHIA/Luzmelt /Lucky13

・5/26(木) 高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00 前売り ¥3,000/¥3,500(税込)
Cast:Ap(r)il/THE VELVET/ ダウナー /NEXX/BugLug/Blu-BillioN/POPCORE

SPEEDDISK のイベント詳細は HP をご覧下さい。
http://www.xxxrecords.jp/speeddisk/

xTRiPx

パスケース
（ブラック × ピンク）
¥1,500
【STR-2】

ミラー
¥1,500
【STR-3】

ミニタオル ¥1,000【S

愛狂います。aicle

■チェキ【えみる ルビ さらん 玲音】（メンバー選択可）¥500【NAI-36】

■アルクトートバック（黒地にシルバー）
¥1,500【NAI-45】

■新衣装アーティスト写真 B 2L(サイン入)
¥1,000【NAI-37】

■アルク T シャツ [半袖](黒地にシルバー)(サイズ S・M) ¥2,500【NAI-38】

■アルク T シャツ [七分袖](黒地に紫)(サイズ S・M)
¥2,500【NAI-40】

■アルク T シャツ [七分袖]（紫）(サイズ S・M)
¥2,500【NAI-41】

■アルク B セット ¥1,000【NAI-42】

■アルク
マフラータオル (赤)
¥2,000【NAI-43】

■アルクストラップ
(20mm) ¥1,000
【NAI-39】

■アルクステッカー
(90mm)
¥500【NAI-44】

TOON-FACTORY

■マフラータオル
2010 限定ピンク ver.
¥1,500【WSG-6】

■アーティスト写真 ¥1,000[WSG-9]

■申し込み方法
商品をお申し込みの方は、郵便局に備え付けの振り込み用紙にて、定価＋送料 700 円を下記口座までお振り込みください。なお、通信欄には下記事項をお間違いないようご記入ください。
■郵便振替番号　00180-9-603494
■金額欄　定価に送料を加えた金額をご記入ください。(複数種お申し込みの方は定価の合計金額＋送料 700 円をご記入ください)
■加入者名　株式会社　音楽専科社
■通信欄　柿ノ元・希望商品名・商品番号・各商品の数量
■振込人住所氏名欄
あなたの住所、氏名、電話番号を丁寧にご記入ください。
【お問い合わせ先】
株式会社　音楽専科社『柿ノ元』
〒 104-8228　東京都中央区銀座 6-2-3
Daiwa 銀座アネックス 5F
TEL03-3574-0203　FAX03-3574-8548

銀座よろず屋本
仮想店舗
『柿ノ元

蝴蝶网
hudie.com

Versailles
hilharmonic Quintet

Versaillesにしか 出来ないこととは――

『Holy Grail』――Versaillesが現在制作中のアルバム・タイトルである。
"自分たちに出来ること"を突き詰め、"Versaillesにしか出来ないこと"を大切にしたアルバム制作になっているという。心の揺らぎや確信を経ながら作り上げていったアルバムの話題を中心に、Versaillesの近況をKAMIJOとHIZAKIに訊く。

Interview:RINGO AOMORI

状況の中でのリリースになってしまいましたね。
HIZAKI：リリース日（3月16日）に、東京に（商品が）なかったですからね。
——じゃあ、ファンの方からの反応なども、あまり聞けてない状態？
KAMIJO：最近、〝やっと手に入りました〟って声もありました。
——3月に行なわれる予定だったツアーも延期にもなりましたし、今回の震災に際しては、ヴェルサイユとしても直面した問題もありましたね。
KAMIJO：震災直後は……ホントにバンドどころじゃなかったですね。
——3月は、聞けばアルバムのレコーディングを続けていた時期でしたよね。
KAMIJO：あの日も、2ヶ所に分かれてレコーディングしてました。HIZAKIくんとTERUくんがギターを書いていました。スタジオ内に一人だけだったんで、怖かったですね。
HIZAKI：僕も凄く怖くて、TERUとギターを担いで外に出たんですけど、その時は状況が全然分からなくて。だから、〝そのままレコーディング続けるか？〟って悩んだんですけど、余震が続いてたんで、やめようと。
KAMIJO：僕もHIZAKIくんたちがいたスタジオに、書いた詞を持って行こうと思ってたところだったんですよ。〝良いの出来たぞ〟って。そしたら電車も動いてなければタクシーも走ってない。マネージャーに来てもらおうと思っても電話も通じない…もう、状況が把握できなかったので、とにかく行こうと思って、（HIZAKIたちがいる）スタジオに歩いて行きました。
——KAMIJOくんは二人に会えた

KAMIJO：会えました。丘を2つぐらい越えて、1時間半ぐらい歩いて。
HIZAKI：でも、次の日からの凄い報道で現実を知らされて、自分がホントにこのままミュージシャンでいられるのかどうか、不安になってきましたね。もっと他にやらなければいけないことがあるかもしれない、と。やっと最近は、東京に限ってですけど、少し落ち着いて来たから、自分たちに出来ることというのをだんだんちゃんと真剣に考えられるようになってきて。それで今回、個人的になんですけど、その想いを込めて1曲作らせていただいたんです。
——4月1日にアップされた「Prayer」というインストゥルメンタルの曲ですね（注：YouTubeのWARNER MUSIC JAPANのチャンネルで試聴可能）。曲自体、落ち着きを取り戻してから作り始

HIZAKI：いや、全く落ち着いてない時ですね。地震があって2日目ぐらい。何が起こるか分からない状況だったんで、ずっとテレビを観ていて、それを観ていて感じたというか。何をしようっていうわけじゃなかったんですけど、ミュージシャンなので、〝想い〟というのは曲になって出て来るんですね。だからそれをまとめていってたんです。で、出来上がってからですね、みんなに聴いてもらいたいって思ったのは。
KAMIJO：始めは、アルバムの曲の作業も全部終わってるはずなのに何をやっているんだろう？って思ってて。でも、HIZAKIくんはいつもは、ギターを一人で集中して弾いてる時って、興奮してるのが凄く分かるんですけど…その時はそれで凄く分かるんですよ。目つきがなかったんですよね。全然いつもと違う感じでギターを弾いてたから何だろう？と。で、HIZAKIくんからこの曲のことを言われて、〝あぁなるほど〟って。そういったところからの第一歩は大事だなと思いましたね。
——バンドとして考えなくてはいけないことに対しては、それぞれどう対処していったのですか？
KAMIJO：まず、それを考えた時に、自分も一人の人で、いつもはステージに上がっていますけど、こういった天災を相手にしたら、ホントにイチ人間にすぎないんだなって思ったし、出来ることは読者のみなさんと同じようなことだと思ったんです。読者の方々も、例えば…販売店で販売している人だとしたら、その仕事に誇りを持って仕事をしていると思いますし、もしそれが今貴重になっている水を販売するお店だとしたら、いろんな気持ちを感じながら販売してると思うんですね。それと一緒で、僕たちは音楽で仕事をしているというのもありますけど、仕事だということ以上に音楽で気持ちを伝えて来たので、音楽を奏でるこ

えられる立場にいるなぁと思ったんですよ。だから、復興に向けて、それから今苦しんでる人たちに対して、気持ちのキッカケを何か作れたらなぁと思いました。それが、ちょっとしたブログでの発言であったり、こういったインタビューであったりするかもしれないんですけど、やっぱりみなさんには持っていないもの、僕たちアーティストだから持っているものっていうのは、〝キッカケを作ること〟かなと思いますね。僕は、そういう風にまず考えました。
HIZAKI：みんながみんな怖がっているというか、怖いのは僕も当たり前ですけど、今は〝怖い〟って思うことよりも祈ること、良くなる風に考えることがいちばん大事やとは思うんですよね。みんながみんな、そう思って願えば叶っていくのかなぁって思うし、もっとそこを大事にしたいと思って。で、〝頑張ろう〟っていうことはいろんな人が言ってくれてるんで、僕たちヴェルサイユが出来ることは、祈りであったり願いであったり…そういう気持ち的なところは大事にしていきたいなぁと思います。僕たちも当初は4月にツアーの予定があったんですけど、全部キャンセルして5月になったんですね。何でキャンセルしたかと言えば、気持ちを一つにしたいというところがあって。実際、まだそういう気持ちになれてない人もいると思うんですよ。それが1ヶ月でも遅らせることで、気持ちが一つになるなら遅らせよう、と。
——エンターテインメントの類いに携わる者は、こういう時に歯痒さも少なからずありますよね。
HIZAKI：でも、芸術っていうものがなくなってしまうと、心が安らぐところがないし、楽しむところもないし…
KAMIJO：オスカー・ワイルドの言葉じゃないですけど、芸術がなくなったら見本にする人生がなくなっちゃいますよね。

hudie.com

――全てが〝リアル〟しかなくなってしまうということですからね。

HIZAKI：そうですね。こういう状況というのもまだまだ続くと思うし、東京に住んでてもそれは実感していくし。だから、出来ることをちゃんとしていきたいなと思ってます。

――二人は、今回のことでメンタル面で変わったことなどはありました？

HIZAKI：むちゃくちゃありますよ。テレビをずっと観てて、現実を自分の目で見て…毎日泣いてましたね、テレビを観て。

KAMIJO：何だろう……二つの自分がいて。一つは、ただただ悲しみながらも、奮い立って何かをしていて。もう一人の自分は、その悲しみにただ飲まれて……よく〝人は一人じゃないんだよ〟って言うじゃないですか。それって、正直

言葉だったんですよね。ずっと、自分は孤独とかそういったものと闘ってきてたと思うし、それはもちろん曲の中でも。それを、痛烈にとどめを刺されたというか。上手く言えないんですけど、そういうポジティヴな自分とネガティヴな自分がいましたね。

――孤独感がより強くなったということ？

KAMIJO：そうですね。物凄く強くなりましたね、その時は。でも、僕たちはやっぱり……被災地の方々や、それ以外の地域の方が、少しでもいつもの生活に戻った時に、変わらない薔薇でありたいなとは思いますね。

――では、まさにその時にレコーディング中だったアルバムですが、どういうものになりそうでしょうか？

KAMIJO：アルバムのラストに入る、

――17分!?（笑）

KAMIJO：その曲の歌詞を〝よし、書き終えた。メンバーに聴いてもらおう〟というところで地震が起こったんですよ。だったので、その中で、ある種平和を願うような一文があったんですけど、それを〝平和〟ではなく〝平穏〟に変えたくなって変えました。やっぱり、今しか歌えない歌を歌いたいなと。それは、忘れちゃいけないことだし、学んでいかなきゃいけないことだし。楽曲の中にそれを込められたのは、大切な経験です。

――こうして考えると、ヴェルサイユって凄く生々しいバンドですよね。運命なのか何なのか。

HIZAKI：そうですねぇ。でも最近思うんですけど、今回のアルバムを作るにあたって、自分たちの出来ることっていうのを、個人的にもバンド的にも考え

もしてないですし（笑）、みんなに笑顔になってもらいたいとか楽しんでもらいたいっていう気持ちは当然あるんですけど、そういうものよりも、自分たちのいちばん強いところって、人の心を癒すところだったり、そういうところなんかなぁって。だからそれを今後も大事にしていきたいなって。自分たちに出来ることっていうのは、今回のアルバムもそうですし、今後も考えていきたいなと思います。

――HIZAKIくんがYouTubeに上げていたコメントに、〝少しでも誰かの為に、癒しになれれば〟ともありましたけど、HIZAKIくんがまず願うことは、〝癒し〟なんですね。

HIZAKI：〝癒し〟と言うといろんな捉え方があるかもしれないんですけど…激しい音楽でも人によっては〝癒し〟だし。癒しというか、安らぐっていう感じですね。あと、みんなが〝手を取り合って頑張って行こう〟って言ってくれる人はたくさんいるんですけど、安らぎを与えることだったり、亡くなっていった方に対しても歌える部分というのは、僕個人としても、ヴェルサイユとしても大事にしていきたいなと思います。

――確かに、気持ちを鼓舞するだけではなくて、安らぎを与えることというのも大切ですよね。では、その17分の曲を含むニュー・アルバム、今の時点で言えることはどういうことでしょう。

HIZAKI：前のアルバムの時は、メジャー・デビューのアルバムというので、気持ち的には楽曲のクオリティをまず良くしたいというのがあって。で、今回は〝自分たちに出来ること〟をまず考えましたね。

――具体的に挙がったことはどういうことでした？

HIZAKI：楽曲に対してもそれは言えることなんですけど、今までやってきてたこと…ツイン・ギターであったり激

であったりオーケストラであったりということは、より一層大事にしたというか。凄く〝ヴェルサイユ〟なアルバムになってますね（笑）。

――最後の曲が17分というのも象徴的ですしね。

KAMIJO：今日、その曲のオーケストラ・アレンジをやってたんですけど、もう…泣きそうになりました（笑）。歌に入るまでがすっごい長いんですよ。ヴァイオリンが入ってて……〝歌が入ってきた！〟って、むっちゃ泣きそうになりました（笑）。〝ここまで来た！〟って。

HIZAKI：なんか、泣けるアルバムになってますね。

KAMIJO：今までは〝哀しい〟というのが多かったんですけど、僕はとにかく〝切ない〟のがやりたくて。ヴェルサイユなりの…胸がぎゅってなるような感じですかね。

――決して哀しい作品ではないと。

HIZAKI：そうですね。

KAMIJO：哀しみを振り払う強さを手に入れたつもりでいます。

HIZAKI：たぶん、聴けば確実に涙が出るようなアルバムなんですけど、涙が出るからと言ってツラいわけじゃなく、そこから気持ちが晴れることもあると思うんで。

――気持ちを晴らすためには、泣いたほうがいい時もありますからね。

KAMIJO：そういえば最近僕、涙腺弱いですね（笑）。で、アルバムなんですけど、タイトルが『Holy Grail』といいます。まずはそのタイトルから想像を広げておいていただきたいですね。

HIZAKI：楽曲に関してはもう、完全にお客さんの求める…自分たちも当然それを求めてるんで、期待できると思います。

KAMIJO：凄く統一感のあるアルバムになりましたね。

――コンセプト・アルバムというわけ

蝴蝶网
hudie.com

ムのつもりではいますけど、わりといつも自由に作って、それが自然と型にハマってる感じなんで。

HIZAKI：でも、今までは曲は自由に作ってた感じなんですけど、今回は曲もコンセプトのもと、作っていたような感じもありますね。

KAMIJO：今回けっこう、今まで以上にメンバーの話し合いをしたんですよ。何段階かに分けて。だいたい僕とHIZAKIくんの話になるんですけど、お互いいろいろな思想を持ってるんで、それをぶつけ合って、〝こういうアルバムにしよう〟っていうのをみんなで話して。凄く話して話して話して…それで出来たアルバムですね。

——全員の意思が今まで以上に統一されているアルバムなんですね。

HIZA

ムを通して伝えたいことっていうのは当然いっぱいあるんですけど、それは次の機会に（笑）。

——そして、延期になっている〝新生〟ヴェルサイユの初ツアーも、5月4日から始まります。

KAMIJO：初ツアーか！（笑）

HIZAKI：やっとMASASHIくんが入って初めてのツアーです。去年、ホントはライヴの年にしたかったんですけど、後半はいろいろあってちょっと少なかったんで、今年こそは、ライヴまみれの年にしたいですね。

——現在、発表されているスケジュールを見る限りでは、そんなにライヴまみれな印象ではないですが…

HIZAKI：いや、ライヴまみれになります！

変わらない薔薇でありたいから

蝴蝶网
hudie.com

樹威

ファースト・ソロ・アルバム『XI』完成
今までの自分の力量＋挑戦＝XI

樹威がソロとして、アルバム『XI』でデビューを果たした。元々、その歌唱力に定評のあった彼らしく、切ない想いをエモーショナルに届ける歌をじっくり聴かせてくれる。と同時に、これまで出来なかった音楽的なチャレンジや、ルーツをうかがわせる曲調など、楽曲に対して幅広いアプローチを仕掛けた。7月には東名阪でのファースト・ツアーも決定している。ヴォーカリスト、そしてアーティストとしての"樹威"を感じ取ってほしい。

Interview : MIYUKI MURAYAMA

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

たんですよね。

「前々から、ひとりのシンガーとしてやりたい気持ちがあったんですよ。バンドをやっても、ソロをやってみたい気持ちは消えなかったですね」

——やっぱりソロとバンドは全く別モノ？

「バンドだと、曲作りもグルーヴ感を意識しなきゃいけないし、自分の歌とか目線だけじゃなくて、他のポジションの目線も気にしなきゃいけないですよね」

——ソロだと、歌いたい歌をそのまま作ればいいと？

「歌を中心に考えると言うよりは、こんなことをやってみたらどうかな?というのを前提に出来るんです。バンドだと5人各々の考え方があるし、どうしても出来ないこともあるけど、ソロなら実験的なことも、今まで出来なかったことも出来るんです」

——音楽的にチャレンジする部分が増したわけですね。

「バンドでは、メロディの部分でいろいろチャレンジしてたと思うんですよ。ありふれてなくて、でもちゃんと聴きやすいメロディを考えてたんです。でもソロだと、自分がいちばん気持ちよく歌えるメロディで、プラスちょっと実験的なものをやってみようかなと思ったんですね」

——以前に作った曲と新たに作った曲が収録されていますが、アルバムの全体像を考えて作曲もしました？

「どんなバランスになるかは、作りながら考えていったんですよね。最初は、キャッチー・チューン的なものを詰め込もうと思ったりもしたんですけど、そうしたらバランスが微妙になってきて。作りながら、次はどうしよう、その次はどうしようって、1個1個積み重ねていった感じです」

——シングルではなく、アルバムというものは、こだわったところですか。

「そうですね。僕、アルバムが好きなんですよね。シングルだけだと、曲としてはすごく伝えられると思うんですけど、アーティストしてどうなのかが伝わりにくいと思うんです。こういうものをやってますとか、こういうことを伝えたいとかは、アルバムでないと分からないだろうと思ったんで、アルバムにしました」

資料によるといきなりいちばん悲しい歌になってしまったとのことですが、当初からそのつもりで作っていったんですか。

「今までは、曲を作ってからタイトルをつけてたんで、曲と歌詞が切り離されてる状態だったんですけど、今回は〝招待状〟というキーワードがあって、それをどういう風に展開していくか考えたんです。実際にこういうことがあったわけじゃないんですけど、〝招待状〟って何なんだろう?って考えて」

——そこからこんなに悲しい物語が生まれたんですね。

「おめでたい話ももちろんあったんですけど(苦笑)。何かこうなったんですよね」

——しっとり歌を聴かせて始まりますけど、途中からは勢いがありますよね。

「デモを作った時に、前半はテンポを落として、アカペラっぽい感じのものが欲しいと思ったんですよ。中盤からバーッと疾走感を出すとより切なくなるんじゃないかなと思って、ビート感と疾走感と切なさを織り交ぜました」

——この曲に限らず、切なさを歌いたいという気持ちは強いんですか。

「僕のルーツって、小学校4年生から6年生ぐらいの時期に聴いた歌謡曲なんですよ。その頃の曲って、今でもものすごく良いと思うんです。メロディも切なさをちゃんと打ち出してる気がするし。そういうことがバックグラウンドにあるんで、切なくなっちゃったと思います」

——「招待状」も、ビート感とか勢いを出しても、それは切なさをより出すためなんですね。

「はい。とりあえず自分で泣けないとダメかなと思って、出来た時にデモ段階で聴くんですよね。それでサビま出来て号泣したら合格。これはいちばん涙的には合格点が高かったです(照笑)。いちばん鼻水すすった感じでした」

——こういう具体的な歌詞の書き方は、樹威さんらしいと思いました。

「でも、何か気持ち悪いですけどね(苦笑)。これを最初にプロデューサーさんとかに見せた時に、なんて悲しいヤツなんだって話になったんですけど」

——確かに、とても悲しいです。次が「イン ザ ブルースープ」。

です。メロディはよりシンプルに、あまり動かない感じのイメージがあったんですけど、結局サビは切ない感じになりました」

——リズムから出てくる曲もあるんですね。でも、サビは切なく。

「自然に切なくなりましたね。これもタイトルを先に決めてて、イメージ的には、六本木ヒルズとかものすごく高いビルから夜景を見下ろしてるシチュエーションなんです。ビルのいちばん上で風が吹いてて、下は人工で出来てる星がバーッとあって、地球を上から眺めてるような感じですね。そこから、よりリズム感がある感じでと思ったんですよね。心は躍ってるけど、でも…って」

——心は躍ってるけど、ハッピーではないと。

「全然ハッピーではなく、そこから真っ逆さまにいく感じです」

——「Bang girl」は、ライヴとファンのイメージそのままですよね。

「ライヴをより楽しめるような楽曲を考えた時に、そういうテーマが出てきたんです。ライヴって俺らも楽しいんですけど、それ以上にお客さんも楽しいと思うんですね。例えば、他のバンドとかのライヴを観に行ったりすると、こみ上げてくるものがあるんです。一生懸命叫んだり、振りをしてるファンを見てると、可愛く見えるんですよ。そういう一生懸命になってるところが輝いてるなって。そういう面を書いてみました」

——ファンの気持ちを代弁するような歌詞ですよね。

「こう思ってるのかなと思って、ファンになりきった感じですね。俺がバンギャルだったら、きっとこうするんだろうなと思いました(笑)」

——「未完成の楽譜」は、ジャジーなものを作ろうという意図が元々あったんですか。

「ロックで出来る範囲で本格的なジャズを作りたくて、アレンジャーさんによりジャジーな感じが伝わるようにアレンジしてもらいました」

——ジャズっぽいものを歌うのは、気持ちとしてはまた違ったりするんですか。

「歌い方が違うのかなと思います。自然

思ってたんです。今までは1曲の中で、Aはこう歌って、Bはこう歌って、サビはこう歌って…という風に、自分が出来る歌い方を全部詰め込みたかったんですね。今回は、その一つひとつを1曲通してやっていこうと思ったので、この曲に関しては声を張り上げる必要も全くなかったです。それで雰囲気がいちばん伝わるようになりましたね」

——冒頭の歌詞に、《もしもいつか幸せだと/思える時が来たら歌うのをやめよう》とありますが、幸せな状態であれば歌わなくてもいいと思っている？

「みんなそうかなと思うんですけど。幸せだったら、もう何もしないと思うんですね。本当に幸せの絶頂にいたら、どうなってもいいと思ったりすることってあるじゃないですか。そういうイメージで、100%幸せだと思ったら、歌う必要がないなと思ったんですね。この曲に関しては、〝曲〟よりも〝人〟のほうが大事だというのがテーマです」

——「Eternity」も切ない曲ですが、特にサビのメロディがいいですよね。

「サビはやっぱりいちばん考えましたね。乗せる言葉もリフレインに絶対しようと思ってましたね」

——これも、〝Eternity〟という言葉が先にあったんですか。

「これはテーマが先にありました。〝永遠って何だろう?〟というところから始まって、曲を作り終わった時に、フォルダ名を〝Eternity〟にしたんです。そこから歌詞を書いて、じゃあタイトルも「Eternity」にしようと」

——歌詞では、もうちょっとで忘れられるのに忘れられない状態が描かれてますよね。これもまた切なくて。

「忘れるって、どういうことなのかと思うんですよね。一回覚えたものを忘れることのほうが難しいですよね、絶対」

——覚えていることでも、どうでもよくなるとかはありません？

「でも、忘れてはないですよね。その時の気持ちはちょっとずつ薄れていくんですけど、絶対甦ってくるものがあるし、決して忘れないだろうと。そういう意味で、さよならを告げる必要がないんじゃないかと思っちゃうんです。この歌詞で

ど、どっか行っちゃうわけです。主人公は、その人を忘れて新しい恋を見つけようとして、あと少しで忘れられるのに…と思ってるんですけど、結局最後にさよならを言うのをやめたんです」

——樹威さんも、同じような状況の時にはさよならは言わずにいたい？

「俺はそうですね。さよならを言ったことによって、何が変わるのかなと思っちゃうんですよね。だったら、ずっと忘れないままでいいし、さよならも別に言う必要がないと思うんです。どうでもよくなったら、その話題すら出て来ないじゃないですか」

——さよならを言うことで、線を引くようなことはしない？

「さよならを言ってる時点で、まだ未練があるのかなと思っちゃうんです。この曲に関してはそういう歌ですね」

——歌詞はフィクションでも、樹威さんの恋愛観とか男性像が出てるんですよね。

「そうなんですかね。分かんないですけど(笑)」

——共感できるものではありますか？

「共感は出来ますよね」

——未練がましいと言うか、人間の弱い部分みたいなのが出ている歌詞が多いのかなと思うんですけど、樹威さん自身はどういうタイプだと思いますか。

「どっちかと言うと、僕はあまり未練とか感じないほうだと思ってるんですけど、そういう人を見たりするとちょっと賛同できないんですよね。そういう部分もある自分がイヤなんじゃないですかね」

——それで未練のある人を歌詞にしたりするんでしょうか。

「そうかもしれないです」

——「Amanda〜嘆きの後〜」は、タンゴのリズムが特徴的な曲ですね。

「これは、アルバムの中ではいちばん最後に作った曲です」

——モノクロのヨーロッパ映画みたいなイメージがありますよね。

「そうそう、そうです。最初に映像的に浮かんだのは、ヨーロッパのオープンカフェで、時代もちょっと古い感じで。オードリー・ヘップバーンとか、そういうキーワードが出てましたね」

——タンゴにチャレンジしてみて、どう

でした？

「やったことがなかったんで、どうやればいいんだろうと思ったんですけど、前半は喋るような感じで歌いました。それで最後は情熱的に終わる感じです。メロディとかリズムは、アレンジャーさんとかにいろいろ変えてもらった部分があるし、言葉も僕じゃないような感じの歌詞かなと思うんですけどね。時代背景を意識して、昔の人の情熱を書いてみたんです。今の人の情熱的というのとはちょっと違うかなと思ったんですよね」

——ただ感情を表に出してぶつけるのとは違うような。

「これは、最後まで感情を抱え込んだまま、一回も話したことのない人への想いなんですね」

——ハッピーエンドの曲が、本当に出て来ませんね（苦笑）。そして次が、通常盤のみに収録される「空という真実には呼吸と絶望、嘘という安堵と息苦しさは海の中」ですが、これは雰囲気を味わう曲ですね。

「趣味ですね（笑）。僕、映画が好きなんですけど、映画を観てると、音楽もバックで流れてて雰囲気を出したりするじゃないですか。音楽でも、言葉プラス音で、誰もが同じ映像を浮かべられるような曲を最終的に作りたくて、その実験的な1曲目、という感じですかね」

——水の中の音などもあって、海の中のイメージがありますね。

「イメージ的には海の中にいるんです。他にも、銃声とか爆発音とかいろんな音が入ってるじゃないですか。海の外に出て息をしたらそういう状態だし、海に潜ったら酸素がなくなっちゃうし。そういうシチュエーションで僕が喩えたかったのは、社会に対してとか、自分が今置かれてる状況なんですね。各々が感じる葛藤を、海と地上での戦争に喩えたんです」

——趣味と言えることをこれだけ打ち出せたのは、ソロだからこそ出来たことですよね。

「バンドだと、何だこれ？ってなっちゃいますもんね。僕、この曲すごく気に入ってるんです。Aメロのところは逆回転させてるんですよ。最初は歌詞のとおりにとおり真似て歌って、さらに一小節ごとにバラけて逆回転させたんです。楽器も、打ち込みとかそういうのを回転させてみました」

——歌うとか曲を書くとかとは別のクリエイティヴな楽しみをした曲ですね。

「これは第二弾も絶対やってみたいと思いました。またテーマは別にして、いろんな音を構築してみたいですね。」

——初回盤につくPVも作られている「最大公約愛」。これは作られた時期的には古い曲なんですね。

「ずっと昔に作ってて、違うフォルダに入れてた曲ですね。その中にあった曲の中で、これがいちばん時間が経っても色褪せてなかったんです。やっぱり温かくていいなと思ったし。だからPVも撮ったし、表題曲的な扱いにしました」

——良いと思えたのは、自分の原点的なところがあるからですか。

「聴いてると、昔のことも思い出したりするんです。仙台から東京に出てくる直前の景色とかその辺りの空気とか。曲を作ったのは、その時期より全然後ですけど。これ、ハッピーエンドじゃないですか？」

——あ、やっと出てきましたね！（笑）

「ようやく。タイトルも曲を作った時にすごく適当につけたんですけど、その時のままですね。どうしてこのタイトルをつけたのかがちょっと分からなくなったんで、じゃあこのままにしておこうと思ったんです。その時の意図が何かあったんだろうなと思って」

——「-1」は、作った当初はバラードだったとか。

「「最大公約愛」と一緒のフォルダに入ってた、昔作った曲ですね。その時はバラードで作ってたんです。でも、疾走感がある曲のほうが、僕の中で悲しいと思っちゃうんですよね。わざと疾走感を出して、そこに感情も何も乗せずさらっと歌ったほうが悲しく聴こえるような曲は、ヴィドールでもあったし。悲しい時って、感情を言葉に込められないし、その感情を押し殺そうとしちゃうじゃないですか。声も小さくなっちゃうし、そういうイメージですかね。それでプロデューした」

——それで切なさがより増したんですね。

「この曲は、僕が小学校4年生だったらきっと買っただろうなと思います。その時代にあってもおかしくないニュアンスがあるんです」

——樹威さんの音楽的な趣味が出てるんですね。

「ルーツ的なところが出てますね」

——この歌詞は女性目線ですよね。

「歌詞自体も昔からあったんです。今回のアルバムでは、女性目線の歌詞は書くつもりはなかったんですけど、〝私〟っていう目線でないとニュアンスが違うと思ったんで、女性目線の歌詞にしました」

——「夢のない詩」は、いちばん明るいと言うか、弾むような印象の曲ですね。

「いちばん爽快な感じですよね。元々爽やかな曲だったし、アルバム全体のバランスを見て爽やかな曲が欲しいとも思ったんで入れることにしました」

——そこに、こういうタイトルをつけたのはどうしてなんですか？

「僕、夢は素晴らし[illegible]と思うんですよ。でも、素晴らし[illegible]なんだって話じゃないですか」

——と言うと？

「夢を持って[illegible]はそ[illegible]えると思うんですよ、夢って最[illegible]って。でも、そう言うことって、僕には無責任にしか聞こえないんですよね。じゃあ夢をどうして見つけられたかを言うことのほうが絶対重要だと思うんです。今って、夢がなくて困ってますという人のほうが圧倒的に多いと思うし、どうしたら夢を見つけられるかというところから考えてるのに、いきなり夢を持ってみたいなことを言うのはちょっと違うと思うんです。夢があるなしで、何か変わるものじゃないということが前提にあって、強制的に見つけるものでもなければ、何年か経って変わったり、見つかったりするものだと言いたかったんですね」

——最後が「I'll always be wiz u」で、明るくアルバムが締め括られますね。樹威さんが聴き手に対して、〝一緒にいる〟という想いを伝えたかったんですか。

「メロディと歌詞に合う言葉がこれしかこれしか言うことがないなと」

——ソロとしてデビューするにあたって、いちばんファンに伝えたいことや、今いちばん出来ることとして挙げられることなんですね。

「それがそのまま歌になった感じですね。ちょっと「夢のない詩」の延長上なんです、僕の中では」

——聴き手を励ましたかった？

「そんなに頑張らなくていいんだというメッセージでもありますね。夢がなくて困ってますとか、そういうメッセージが多いということは、夢を持ったり、頑張ったりしないとこの世界では置いていかれちゃうって思ってるということじゃないですか。もちろんそうかもしれないですけど、別に頑張らなくても何も変わらないと思うんですね。頑張らなかったとしても、対人間の関係が崩れるかって言ったら、それで崩れてしまうんだったらその程度の関係だし、それでも崩れないならその人はたぶんすごく大切な人なんだし。そういうことを伝えたかったんですね。別に自分が変われなくても、変わらないんだと」

——これで11曲ですが、アルバム・タイトルに『XI』とつけたのはどういうところから？

「タイトルが先にあったんです。たまたま11曲になっただけで。タイトルの意味としては、今まで自分の中で持ってた力量プラスα、ということ。両手の指プラス1本付け加えてる新しい自分がいるということで、一歩踏み出してるという意味もあります。それと僕の名前が〝樹威〟なんで、それも掛けてます」

——このアルバムで、ソロの樹威だからこそ出せた面というのはどういうところだと思いますか。

「やっぱり楽曲のバリエーションですかね。どうしてもバンドだと、シングルのA面になる曲が多かったんで、キラー・チューンを頑張って作っていくのが俺の役割かなと思ってたんですけど、今回はそうじゃないので、自分がやっていきたいことを何も意識しないで作っていけばよかったんですね。だから、自分の中で狙わずに、すごく面白いチャレンジが出

めるというような、歌の面ではなく、曲なんですね。

「歌というよりは世界観ですね。それが前提にあって、次が歌かなって。歌に関しては、まだまだ足りない部分が見えたところもあったんで、それは今後の課題かなと思いますね」

——ソロのライヴも決まっていますが、その前にヴィドールの最後のライヴがありますね。先日は台湾でライヴがありましたが、〝解体〟を発表された後ということで、ヴィドールに対して改めて思うところは何かありましたね。

「何ですかね。久しぶりの感じがあんまりしなかったんですよね。ライヴが半年空いてたんですけど、当たり前にやれてたし」

——特別な感じとか、何か意識するということもなく？

「そういうのはなかったですね。そういうのがあって気張るかなと思ったんですけど、当たり前に普通に…という感じだったんです」

——それは5月7日に向けて、気持ちの整理がついたということなんですか。

「震災の後ということで、台湾の人が日本頑張れって感じで見てたんで、バンドがどうのこうのという感じじゃなかったんですよね。みんな〝Pray for Japan〟って言ってたし、そういう意味のライヴだったのかなと思います」

——残すところは5月7日のみですが、そこに向けての気持ちは？

「やってみないと分からないですけど、形として消えても、僕の中でヴィドールは消えていかないんじゃないかと思うんです。歌おうと思ったら、僕はどこでもヴィドールの歌を歌えると思うし。ライヴとしてはそこが最後なんで、終わってみたらどう思うかは分からないですけど。今もどういう心境かと言うと、まだ何とも言えないという感じです」

——どういう気持ちでライヴに臨みたいですか。

「もちろん、今までいちばんの最高のライヴをしなきゃいけないと思ってるんで、精一杯頑張ろうと思いますね。終わってから、ああすればよかったと思っても、

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ライヴを意識して、ノリの良い楽曲を

昨年12月、前ドラムの脱退に直面したAp(r)il。しかし、彼らは活動を止めることはしなかった。自分たちの想いを多くのリスナーに伝えるため、4人で頑張っていこうと決意したのだ。そして、今年の春から3ヶ月連続でシングルをリリースすることを発表した。まずは、第1弾作となる「Heart 8eat!!」で彼らの強い想いを感じてもらいたい。前向きな気持ちが伝わってくるはずだ。

Interview:ERI MIZUTANI

蝴蝶网
hudie.com

――今年に入り、4人体制となりましたが。

祥：新しいドラムを探すために活動を止めるのはもったいないと思い、前ドラム脱退後も、すぐに動き始めて。この4人が一致団結していけばいいんじゃないかなって思ったので、今、ドラムはサポートでやっています。

ヒナタ：とりあえず、今は4人でやるぞ！って。

涼：やるしかないかなってね。

――意気込み十分ですね。さて、そんな中、3ヶ月連続リリースが始まります。

ヒナタ：曲の感じは1ヶ月ごとに変えようと思っているんです。でも、トータルで見たとき、エイプリルが今年に打ち出したいことっていうのがドンッと出ているものになると思いますね。音楽性に関しては、今までどおりのところもあるけど、関わる人が増えてきた分、やれることの幅は広がってきたかなと。

――第1弾作はとてもノリの良い曲が集まっています。これは、全体的にライヴを意識して作っていったのですか？

ヒナタ：ライヴで盛り上がるのを前提として作っていったっていうのはあります。

祥：それは、前作「JUST 4U」を出したときから思っていたことなんですよ。次、A面に持ってくる曲は、毎回ライヴでできる曲になればいいねって。そこで、このリード曲をヒナタが持ってきてくれて。

ヒナタ：今までは、メンバーが書いてきた曲にメロディを足して完成させるっていう形が多かったんですけど、この曲は、僕がリズムとメロディから作って、後からギターを付けてもらうっていう、逆のパターンで仕上げていったんです。

祥：とはいえ、デモの段階からはけっこう変わりましたけどね。

hiro：最初はバラードだったしね。

一同：さすがに、それはない！（笑）。

ヒナタ：そこまで大きく変わったわけではないんですけど、シンセとかの音を増やすにあたり、テンポを変えていって。

hiro：とにかく、レコーディング直前まで練ってました。何せ、自分の

聴いたとき、まず、どうしようかなって。それから、ヒナタの意見をもらいつつって感じで完成させていきましたね。

ヒナタ：って言っても、〝ここは重く〟〝ここは軽く〟ってぐらいしか意見してないんですけど（笑）。

hiro：で、OK！　OK！って（笑）。

涼：その甲斐あって、良い感じにガラッと変わりました。

祥：同期とかも入ったしね。

ヒナタ：これ、ギターのアレンジにもこだわったんでしょ？

hiro：心がけたのは、いつもどおりってことでしたけどね。

――となると、テーマは、自由？

hiro：そうです、いつもどおり自由に。歌モノってこともあり、キラキラとした同期を邪魔しない音を乗せられたらなって思って弾いていきました。

祥：ベースは、跳ねるような感じを意識して演奏していきましたね。

涼：今回ほど動いているベースは珍しいと思いますよ。

hiro：どちらかというと、今までの曲って、ギターのアレンジが優先だったからね。

――そこが変化球であり、聴いていて、エイプリル変わったな、っていう嬉しい驚きがありましたけどね。

ヒナタ：それは自分たちとしても感じています。そういう新しさもありつつ、歌詞ではいつも提示しているリアルさを出しています。パッと聴いてパッと入ってい[illegible]の大事にしたので、シン[illegible]でいいかなって。なの[illegible]歌い方も丁寧に歌うというよりかは勢いを重視していって。例え[illegible]がずれていたとしても、ロッ[illegible]が出せればかっこいいと思っ[illegible]。でも、それは楽器がしっかりとしているからできたことなんです[illegible]。それだけに、難しいことは考え[illegible]聴いてもらいたいです。

――この前[illegible]「P[illegible]izm」というSEが入ってきます。[illegible]これは「Heart 8eat!!!」あ[illegible]で作ったのかなと思ったので[illegible]実際はどうだったのでしょう[illegible]

ヒナタ：そ[illegible]です、そうです。「Heart 8eat!!!」からライヴが始まるとしたら[illegible]と想定して作りましたね。今

蝴蝶网
hudie.com

涼　祥

蝴蝶网
hudie.com

ろほしいなと（笑）。

祥：そうやって考えると、これからのライヴの見せ方も変わってくるのかなって思いますね。

ヒナタ：4人体制になったからこそ、ガツガツしていこう、大人しくしている場合じゃないぞ、って思うんです。なので、ファンのみんなにも、このSEと「Heart 8eat!!!」が始まったら、大いにノッてもらいたいんですよね。サビとかでは、どんどんジャンプしてほしいし、ちゃんと笑顔を見せてもらいたいなって思ってます。

――「MAXXBUG」も大いにノレる曲となっていますが、こちらでイメージしたことというと？

hiro：これも、ライヴをイメージして作りましたね。

祥：実はこの曲、「JUST 4U」のときに候補として挙げられていた曲なんですよ。

hiro：僕は一生懸命こっちの曲を推したんですけど……。

涼：そのときは、みんなして「JUST 4U」がいい！って言ってしまったので、残念ながらボツ曲になってしまったという。でも、満を持してここで登場ですよ！

――良かったです（笑）。今回収録するにあたり、変化をつけたところなどはありますか？

hiro：当初は中途半端に大人しかったんで、今回はテンポを変えて、激しめな感じにしていきました。というのも、ライヴ仕様な感じにしたかったので。そうしたことで、まったりとした部分が消え、みんなが納得してくれるものになりました（笑）。

ヒナタ：で、hiroから、〝これでいける？〟って渡されて。この曲、とうとう蘇ったかって思いましたね（笑）。僕としては、このスピード感が好きで。

祥：ベースはスラップに挑戦しているんですけど、「Heart 8eat!!!」とは違った音にしたかったんです。向こうは跳ねる感じになっているけど、こっちはリズムの疾走感を大事にしているんです。両方、勢いはあるんですけど、雰囲気を変えたことで面白くなったし、そのおかげで、曲にメリハリが付いたと思います。

――きっと、前に出していたら、ここまでの曲にはなってなかったかもしれませんね。

祥：前のベースラインっていうのもあったんですよ。でも、それよりも今の方がずっといいです。

涼：ギターのアレンジに関しては、hiroと2人で話し合いを重ねて完成させていったんですけど、お互いに我が強いわけではないので、穏やかな感じでフレーズが決まっていきました。

――となると、テンションを相当上げた状態でレコーディングに臨まれたんですか？

涼：いやー、マイペースでした（笑）。

ヒナタ：エンジニアさん曰く、僕と祥はレコーディングになるとテンションが変わるみたいなんですけど、hiroと涼は、割と普通っていうか。

hiro：そんなことないよ。

ヒナタ：よく言うよ、毎回、譲り合ってるくせに。

hiro：ギタリストは、譲り合い、助け合ってこそ、ですよ（笑）。

ヒナタ：でも、今のバージョンに変わってからは、スタジオで合わせていても気持ち良いですね。毎回、〝これは盛り上がるぞ！〟って言いながらやってますから。ただ、この歌録りは大変でした。

――そういえば、録っているときに、揺れを感じたそうで。

ヒナタ：そうなんです、いざ録り始めるというときに地震が起きて。で、揺れがおさまったのを見計らってブースに入り、歌い終えることができました。

――その出来事があってから歌詞を書いたわけではないにせよ、力強く響く歌詞に心打たれましたよ。

ヒナタ：きっと、これから先のシングルではもっと響くものができるような気がします。

祥：これより驚いてもらえるものができると思います。傍から見たら、エイプリルって何がやりたいバンドなんだろうって思われるかもしれないけど、僕らは最初から一貫して、自分たちのやりたいことをやろうっていう想いが強いんですよ。その上で、何でもやれるバンドなんだっていうのを証明したいし。

――表現というのは、自由であるべきですからね。

祥：はい。なので、第2弾、第3弾でそこを見せていきたいと思います。

(問)〒169-0075　東京都新宿区高田馬場3-3-8-609
http://www.april-web.net/

ARENA37℃ 2011年5月号増刊 音楽専科社創業45周年記念号

蝴蝶网 hudie.com

RENA37℃ ARCHIVES

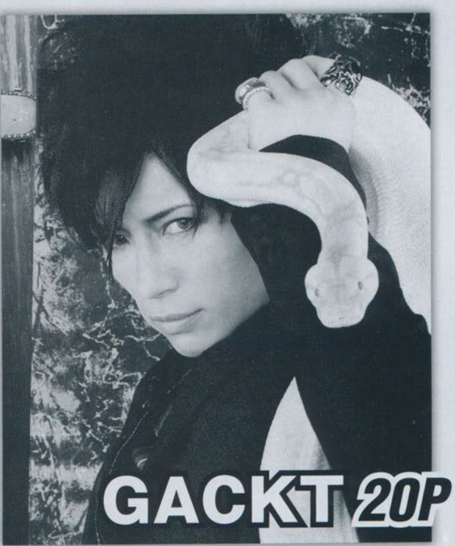
ナ サーティセブン アーカイヴス

A4ワイド判 オールカラー全**148**ページ! 定価**1890**円(税込)

URL=http://www.ongakusenkasha.co.jp/

4月28日発売!!

アリーナ37℃を華やかに彩る
4アーティストの勇姿を一冊に凝縮!



過去アリーナ37℃に
掲載された記事を厳選した
アーカイヴ集!!
めくるめく写真と感動の
記事を網羅した
4大ミュージシャンの
刺激と興奮が満載!!

制作・発行(株) 音楽専科社 〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックスビル5F TEL:03-3574-0201 FAX:03-3574-8548

音楽専科社公認公式サイト
http://mobile.ongakusenka.com/

音楽せんか?

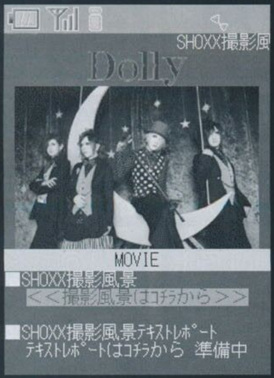
※ディズニーモバイルでも見ら

SHOXX ARENA37℃と連動したヴィジュアル系・邦楽専門サイト

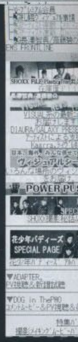
ARENA37℃、SHOXXと連動した企画が盛り沢山
その上独自の最新企画も拡大中!

今すぐアクセス

Dolly SHOXX連動撮影風景動画配信中!
→オリジナルの撮影風景やオリジナルの待ち受け画像をDLできます。



花少年バディーズ
試聴配信中
→花少年バディーズのニューアルバムを全曲試聴OK!



新連載も多数スタート!
VISUAL NEWS FRONT LINE
→最新のニュースを大量にアップ!
長澤智典のヴィジュアルロード
→ライター長澤さんが綴るヴィジュアル歳時記

今後も期待の新連載がスタート予定!
ヴィジュアルシーンなう
→日本全国、海外も含めて現地のヴィジュアル系の状況を共有しちゃおう

好評アーティスト連載も配信中!!

●黒田倫弘「無限スポンジ」●Dacco「楽ガキ」●マコト(ドレミ團)「週刊モバイルマコトピア」●-OZ-「週間!オズマガジン」●NoGoD「神無の戯言。」●聖(Dolly)「聖、飛び散る」●涼平(メガマソ)「メガマソ涼平の アイスクリーム夜中に食べたくなる!」●ひなた「ひなたの 毎度あり〜な♪」●えちうら「えちうら的微熱絵巻」●ご主人様専用奇才楽団Virgil「執事の呟き」●凛「凛画廊」

月額315円の会員になれば、待受け取り放題!! ムービー見放題
さらに、発売前の音源の試聴、ライヴスケジュールや
イベント情報も調べられるよ。
ほか、アーティスト情報満載の楽しいコンテンツを配信しています
詳しくは携帯からアクセスしてね★

http://mobile.ongakusenka.com/

■i-mode:「メニューリスト」→「音楽/映画/芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか?」 ■EZweb:「トップメニュー」→「カテゴリー検索」→「趣味・娯楽」→「音楽・映画・芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか?」 ■Yahoo!:「メニューリスト」→「芸能・映画・音楽」→「音楽情報」→「音楽せんか?」

株式会社 音楽専科社 〒104-8223 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F
E-Mail:ongakusenka@ongakusenkasha.co.jp

蝴蝶网 hudie.com

カエジソンのブログ オープンしました！

★東京店、原宿店、名古屋店、大阪店の日常や情報が満載の「スタッフブログ」▶ http://ameblo.jp/like-an-edison-blog/
★全スタッフより音源の聴き所などをお伝えする「ヴィジュアル・ソムリエ」▶ http://ameblo.jp/like-an-edison-sommelier/

店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

NQUEUR	4/22(金)	PM6:00～トーク&握手&5ショット撮影会
	4/23(土)	PM12:00～トーク&握手&サイン会 ※トークのみワン★スターと合同
ー	4/23(土)	PM12:00～トーク&握手&サイン会 ※トークのみRe:disと合同
	4/23(土)	PM3:00～トーク&5ショット撮影会♣
	4/23(土)	PM6:00～トーク&握手会
	4/24(日)	PM6:00～トーク&サイン&握手&撮影会
	4/27(水)	PM7:00～1時間店員
	4/29(金)	PM2:00～トーク&私物プレゼント抽選会(W購入で5ショットチェキ撮影会)
	4/29(金)	PM4:00～1時間店員
CTORY	4/29(金)	PM6:00～トーク&握手&サイン会
	4/30(日)	PM2:00～「ベルベット 暴動クイズ大会！～金鬼編～」&トーク&サイン会
	4/30(日)	PM4:00～トーク&握手&5ショット撮影会
e	4/30(日)	PM6:00～トーク&サイン&握手&7ショットチェキ撮影会
APPPPPPER	5/1(日)	PM4:00～トーク&握手会
an	5/ 1(日)	PM7:00～トーク&握手&サイン会
	5/ 3(火)	PM1:00～トーク&ゲーム&握手&サイン&ツーショット撮影会
	5/ 3(火)	PM3:00～コスプレシリーズ『卒業編』&トーク&6ショット撮影会
	5/ 5(木)	PM5:00～トーク&握手&サイン会
	5/ 8(日)	PM5:00～『フェルゼンとの逢引』フェルゼンver.Kayaと2ショット撮影会
	5/14(土)	PM6:00～トーク&握手&サイン会
	5/15(日)	PM3:00～トーク&握手会(W購入でサイン会)
	5/15(日)	PM5:00～【落書きパーティ】トーク&握手会※秘プレゼント有！?(W購入で動画撮影会)
	5/21(土)	PM6:00～アコーステックライブ&トーク&サイン会
	5/22(日)	PM6:00～トーク&アコーステックライブ&サイン会
クチャーズ	5/28(土)	PM1:00～トーク&握手&6ショット撮影会
	5/29(日)	PM2:00～内容未定
ania	6/11(土)	PM6:00～トーク&6ショット撮影会(W購入で2ショット撮影会)
	6/19(土)	PM4:00～トーク&握手&6ショット撮影会
ィーズ	6/25(土)	PM4:00～『花少年バディーズのガチバラード対決』&6ショット撮影会Ver.2

★名古屋店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

boogieman	4/23(土)	PM5:00～トーク&握手&サイン会 ＊対象商品:『Howling』
boogieman	4/23(土)	PM7:00～トーク&握手&サイン会 ＊対象商品:『monopolize』
Lycaon	4/27(水)	PM4:00～1時間店員
ギルド	4/29(金)	PM12:00～トーク&握手&5ショット撮影会
ZUCK	4/29(金)	PM3:00～ 【サプライズパーティ】トーク&握手会※秘プレゼント有！?(W購入でチェキ撮影会)
ケミカルピクチャーズ	4/30(土)	PM1:00～トーク&握手&6ショット撮影会
Moran	4/30(土)	PM3:00～トーク&握手&サイン会
R指定	4/30(土)	PM6:00～トーク&握手&サイン会
リルト	5/ 1(日)	PM12:00～1時間店員
ベルベット	5/ 1(日)	PM2:00～ 『四都鬼殺し名古屋前日！名古屋でごきげんようサイコロ発動！』&トーク&握手会
Lycaon	5/ 4(水)	PM2:30～アコーステックライブ&トーク&サイン会
Sadie	5/ 4(水)	PM5:00～トーク&握手会(イベント当日にサイン色紙プレゼント)
Dacco	5/ 5(木)	PM3:00～トーク&握手会(さらにW購入でサイン会)
VII-Sense	5/ 5(木)	PM5:00～トーク&握手&サイン&7ショット撮影会
Mix Speaker's, Inc.	5/8(日)	PM1:00～トーク&握手&サイン会
Tu[ism]	5/ 8(日)	時間未定 トーク&握手&サイン&撮影会
TOON-FACTORY	5/14(土)	PM1:00～トーク&握手&サイン会
yuina	5/21(土)	PM5:00～トーク&握手&サイン会
花少年バディーズ	5/29(日)	PM2:00～アコースティックライブ&トーク&6ショット撮影会
花少年バディーズ	5/29(日)	PM4:00～花少年バディーズのその場で一曲作ります会&サイン&握手会
Megaromania	6/17(金)	PM6:30～トーク&6ショット撮影会(W購入で2ショット撮影会)
Kaya	6/26(日)	PM2:00～『マリー・アントワネットの舞踏会』振り付け講座トークショー&サイン会

★大阪店イベント情報(♣:カメラタイム有り)

ケミカルピクチャーズ	4/22(金)	PM6:00～トーク&握手&6ショット撮影会
ギルド	4/23(土)	PM5:00～トーク&握手&5ショット撮影会
boogieman	4/24(日)	PM1:00～トーク&握手&サイン会 ＊対象商品:『Howling』
boogieman	4/24(日)	PM3:00～トーク&握手&サイン会 ＊対象商品:『monopolize』
樹威	4/25(月)	PM6:00～トーク&握手会
R指定	4/27(水)	PM4:00～トーク&握手&サイン会
Moran	4/27(水)	PM7:00～トーク&握手&サイン会
Arc	4/29(金)	PM4:00～トーク&5ショット撮影会♣
Kaya	4/29(金)	PM6:30～『ソーシエールのから騒ぎ』恋話会、悩み相談トークショー
リルト	4/30(土)	PM4:00～1時間店員
Lycaon	5/ 1(日)	PM2:00～1時間店員
Dali	5/ 1(日)	PM4:00～トーク&握手&サイン会
Dacco	5/ 2(月)	PM6:00～トーク&握手会(さらにW購入でサイン会)
ベルベット	5/ 3(火)	[illegible]2:00～トーク&握手&サイン会 [illegible]鬼殺し大阪前日！ベルベット[illegible]も選手権！～水[illegible]～』&トーク[illegible]
Mix Speaker's Inc.	[illegible]	PM4:00～[illegible]サイン会
VII-Sense	5/[illegible]	PM6:[illegible]ーク&握手&サイン&7ショット[illegible]会
TOON-FACTORY	5/14[illegible]	PM6:00～[illegible]サイン会
Lycaon	5/15(日)	P[illegible]00～トーク&握[illegible]会
yuina	5/22(日)	[illegible]2:00～トーク&握手&サイン会
Megaromania	[illegible](土)	PM2:30～トーク&[illegible]ショット撮影会
花少年バディーズ	[illegible]/19(日)	PM[illegible]:00～『[illegible]』&手形会

hudie.com

Like an Edison Release Information

東北地方太平洋地震におきまして、被害にあわれた皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。
被災地の一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

■ライカエジソンディストリビューション 今月のおすすめ

※価格はすべて税

Lycaon

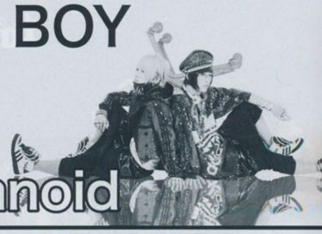
Mini Album ¥2,800

4/27 情欲のアクメ

イベントあり

★オリジナル特典：非売品フォト4枚組&SPECIAL DVD【Lycaonが名古屋、大須を紹介する映像】

ASTRO BOY



イベントあり

Mini Album ¥2,100

4/27 Humanoid

ユナイト

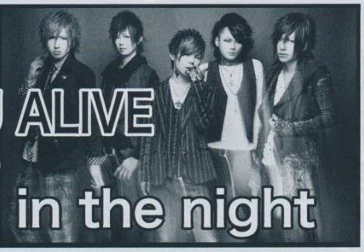
Maxi Single 連続リリース！

6/1 U-smeh- TYPE A ¥1,890 TYPE B ¥1,575

7/13 ミドルノート TYPE A ¥1,890 TYPE B ¥1,575

会場限定CDをライカエジソン限定発売！ 4/27 UNiTE. ¥1,300

EAT YOU ALIVE



Maxi Single ¥1,500

4/27 Dark in the night

MoNoLith

Maxi Single ¥1,575

5/25 Gravy Sauce

★オリジナル特典：DVD

マイナス人生オーケストラ

Maxi Single ¥1,000

4/27 桜ヶ丘流星群

0801弐209336

Maxi Single ¥1,890

5/11 さりげなく終電を逃せ！

ニンジャマンジャパン

Mini Album

6/8 斬 ¥2,100

PIECElang

Mini Album

4/27 PLACE ¥2,625

D'eiz

4/27 Maxi Single 棘 ¥800

VizeL

Maxi Single

5/11 Virgin ¥1,890

★メーカー特典：3枚組オリジナルポストカード

BLACK CAT

Maxi Single ¥1,890

6/15 碧色のリザレクション

ライカエジソン東京店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-15-14 坂本ビル1F／2F
☎(1F)03-3369-3119／(2F)03-3369-3708

ライカエジソン名古屋店
〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須2-1-15 伏見ヨックスビル2F
☎052-229-8211

ライカエジソン大阪店
〒542-0086
大阪府大阪市中央区西心斎橋1-6-8 トムズハウスビルディング2F
☎06-6252-6262

Like an Edison.com ラフォーレ原宿店
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿B1F
☎03-3746-6002

ライカエジソン WEBショップ
Like an Edison.com

ライカエジソン通販改革！

さらに便利になりました！

ライカエジソンのWEBショップがオープンしました！
これまでの電話受付、携帯サイト受付に加えパソコンからのご注文も出来るようになりました！
どんどん便利になっていくライカエジソン通販を是非ご利用下さい！詳しくは「ライカエジソン」で検索！！

PC>http://www.like-an-edison.com/

通信販売専用ダイヤル
0120-624-999
もしくはライカエジソン東京店(03-3369-3119)まで！

お問合せはお電話で！

全国一律 送料400円！！
＊代金引換の場合は手数料が別途300円です。

通信販売をご利用で、名古屋／大阪のイベントへご参加希望のお客様へ

通信販売でもイベント参加可能です(但し枚数制限がございます) ※一部対象外のイベントがございます。詳しくは通販センターまでお問合せください。
通信販売は東京店で受付しております(名古屋店／大阪店では通信販売を行っておりません)
尚、イベント参加希望のお客様の通信販売の受付は現金書留のみとなります。

★ライカエジソンドットコム ラフォーレ原宿店イベント

NoGoD 4月23日(土) PM2:00 6ショット撮影会	Administrator 4月23日(土) PM4:00 トーク&握手&5ショットチェキ撮影会	リルト 4月29日(金) 1時間店
ASTRO BOY 4月29日(金) PM3:00 30分店員	BugLug 4月29日(金) PM5:00 トーク&コスプレチェキ撮影会	boogiema 5月1日(日) PM トーク&握手&
yuina 5月5日(木) PM2:00 トーク&2ショット撮影会	イロクイ。 5月5日(木) PM4:00 大喜利+サイン会(カメラタイムあり)	ケミカルピクチ 5月28日(土) トーク&握手&6ショ

ベルベット

両極の美学

ギタリストにひゅうがを迎え、新生ベルベットとして再スタート。その姿を明瞭に描き出したのが、発売になったばかりの最新ミニ・アルバム『鬼凛』だ。5月からは、初となる単独公演ツアーも決定。実はこれも、まだまだ過激に攻めゆく姿勢を描き出したベルベットの、ほんの序章的な動きにしかすぎない。今年のベルベットは、何かしらやらかしてくれる。その姿を見逃すな！

Interview:TOMONORI NAGASAWA

hudie.com

のは、「Neo Magic」です。

リウキ：今回のジャケット写真や衣装には迷彩柄を用いています。実際にはカラフルに彩っているんですけど、もともと迷彩は、カメレオンが木々と同化して色を変えていくのと同じように森と同化するための柄。そういうマジック的な要素をSE／BGMとして制作したのが、アッパーながらもダンスチックな要素も内包した「Neo Magic」でした。

――そこから物語は、一気に「腐乱CHILD」へ突入します。

リウキ：勢いを重視した曲ですね。タイトルに記した『鬼凛』は、〈鬼と凛＝静と動〉という組み合わせによって出来ている言葉なんです。今回制作した初回盤と通常盤は、〈赤と青〉という対極を成す形として制作していて、この作品に収録した「腐乱CHILD」と「Worldrop」は、〈鬼と凛／赤と青〉と同じような対を成す楽曲として存在しています。「腐乱CHILD」は、その二面性をの片方を成す楽曲なんです。

――その二面性は、アルバムを作る上で大切にしたかったことだ。

リウキ：そうですね。一つの物事でも、人によって表現の仕方も捉え方も違う。それを、いろんな形で作品の中に描き出しました。

――「腐乱CHILD」に詰め込んだ想いも聞かせてください。

リウキ：勢いを持った楽曲なんですけど、歌詞には心の葛藤を描写しました。ポジティブな曲調なのにネガティブな歌詞になっているのが大きな特徴です。

ひゅうが：楽曲の構成面でもイントロ／Aメロ／Bメロ／サビと、パーツごとに異なる世界観を持ち、それが一つにまとまり大きな物語になっていきます。そのドラマ性を、ギターでも多彩にアプローチしました。中でも、ギターソロのハモリは、今のベルベットが持つツインギターらしさを一番に出した曲になりました。

――3曲目は、「E【R】iott」になります。これって…。

リウキ：ベルベットとして初めて作った楽曲です。今回、新メンバー体制になったので、始まりの楽曲を今のベルベットの姿としてリメイクしました。歌詞の世

iott」、続く1stシングル、2ndシングルと、登場するキャラクターを繋げた物語を描いていたせいなんです。だからむしろ、"今のスタイルとしてこう進化した"というかたちで、この曲を受け止めてもらえたらと思っているんです。

葉霧-礼-：ひゅうがが入って、一番最初にアレンジを手がけたのがこの曲でした。2年間という経験の中で得たものと新しい要素を同時に注入しています。一人一人のキャラクター性が、より臨場感を持って見える形にまとまったと思います。

――4曲目は、対を成す楽曲の一つである「Worldrop」になります。

猟平：ポジティブな曲調を持った「腐乱CHILD」の歌詞がネガティブであれば、ネガティブな表情を持った「Worldrop」にはポジティブな想いを描写しました。「腐乱CHILD」のサビだけはポジティブで、「Worldrop」のサビだけはネガティブだったり。まさに、いろんな面で対比した楽曲たちになりました。

リウキ：曲として先に完成したのは「Worldrop」だけど、歌詞として先に出来上がったのが「腐乱CHILD」。そこから、対を成す物語として、この2曲の制作が始まったわけなんです。

――完成した手応えはどうです?

リウキ：「腐乱CHILD」は、"ここで世界は終わってしまうかも知れない"という不安を抱かせながら、でも「Worldrop」には、"ここから先の世界も見せてあげるよ"と記しています。だけど、どちらの世界も、これからのベルベットが描き出す新しいスタイルを提示したものにもなっているんです。言ってしまえば「E【R】iott」だって、過去と対比しながら、新しいベルベットの姿を提示した、分岐的な曲に仕上がっているわけですからね。そういう未来へ向けた想いは、作品全体に散らばっているんです。

――初回盤には、「Worldrop」のPVを収録しました。

リウキ：映像ではライヴ感を出しているので、ぜひ臨場感を味わってください。

――初回盤の最後は、しっとりとした表情を持った「遊雪モノクローム」です。

リウキ：ベルベットは、こういうアプロー

葉霧-礼-(Gt)　猟平(Ba)　リウキ(Vo)　ナツカ(Dr)　ひゅうが(Gt)

会いを繰り返していき、でも、変わらない想いも心に残る。バンド活動を続けていくことは、止まることは許されないことであり、未来を描き続けていくことでもある。でも同時に、変わらない面もそこにはある。歌詞では、この「遊雪モノクローム」にも、「腐乱CHILD」の歌詞とは逆の想いを描写しています。言うなれば、この作品全体に、いろんな二面性が反映されているんです。

ナツカ：「遊雪モノクローム」は、まずメロディーの良さが胸にきましたね。ただし、しっとりとしたバラードにはしたくなかったので、テンポはゆったりながらも、リズム隊が楽曲全体を引っ張っていくノリを意識しました。実は、「腐乱CHILD」や「Worldrop」もジャムりながら制作したので、土台の部分が楽曲全体のノリを牽引しているところがあるんです。それは、この作品全体にも言えることだと思います。

――通常盤には、バラード「freesia～dolce～」を収録。これも、胸を打つ素敵な楽曲です。

ナツカ：原曲は僕が持ってきたんですけど、当初から"壮大なバラードを作りたい"というイメージがあって、とにかくメロディーにこだわって作りました。楽曲自体、ピアノの演奏が大切な要素になっているのも、バンドとしての新しい表現のこだわりの一つになりました。歌詞では、自分の愛した女性が亡くなってしまう。その悲しみを乗り越えつつ、でも、その女性をズッと愛し続けていく、という映画のような物語をイメージして、リウキに歌詞を書いてもらいました。

リウキ：そのときに言われたのが、"とにかく、パーフェクトラブストーリーにしてくれ"ということだったからね。それを聞いて最初は困ってしまい（笑）、まずは、自分の記憶をいろいろ辿り始めたんですよ。この曲のサビでは、同じ言葉を何回も繰り返しています。その人にとって本当に大事な言葉って、何度も何度も繰り返し、言葉にしながら伝えたくなるものじゃないですか。特にサビの歌詞には、自分でも一番感情が昂っていたときの気持ちを描写したんですけど、この歌

――それくらい、グッと胸打つ想いや物語を描写したわけだ。

リウキ：そう。楽曲って、何が良い曲なのかという査定基準ってわからないじゃないですか。だけど、少なくとも自分たちは、自分たちでいい曲だなぁと思えた楽曲ばかりを形にしているんです。特にメロディーに関しては、自分で歌っていて泣けるメロディーでなきゃ嫌なんですよ。バラードに関しては、特に。

――「遊雪モノクローム」も「freesia～dolce～」も…。

リウキ：泣きました。レコーディング中には、唄いながら泣いていましたからね。

猟平：ベルベットの曲って、ライヴで演奏していても、ついグッとくる楽曲が多いんですよ。特にワンマンで何曲かバラードを演奏したときは、けっこう"ヤバいなぁ"って泣きそうになってしまいます。

リウキ：だから化粧が落ちてしまわないように、グッと涙をこらえながら歌ったり。

――完成した『鬼凛』、それぞれどんな作品になりました?

ひゅうが：僕がベルベットに入るときの一番の印象が、"リウキくんの歌詞が楽曲の世界観を形作っているな"ということだったんです。だからこそ、その世界観を押し出す演奏を心がけながら新加入したわけですが。そこを、しっかりと描き出せた作品になりました。

葉霧-礼-：ひゅうがが加わったことで、ベルベットには、この2人のギタリストがいるからこそ描ける色があるということを再確認しました。そのうえで、楽曲の輪郭を活かし、いかに自分の個性を出せるか。その良さをつかむことが出来た1枚になりました。

猟平：ド頭から勢いよく楽曲が飛び出してゆく、今のバンドの勢いをしっかり感じさせる作品になっています。

ナツカ：1曲ごとに広がりを持った、その表情の豊かさを、まずは感じて欲しいです。

リウキ：この作品は、夢や元気を与えられる、まさに"魔法の1枚"ですよ。ぜひ5月からのワンマン・ツアーで、今度はみんなと一緒にその場で笑顔を共有したいなと思っています。

hudie.com

イ(Gt)

空-kou-(Vo)

ルビア(Dr)

つかさ(Ba)

SHOXX VOICE!!

リルト

蝴蝶网
hudie.com

で活動を再スタートさせました。

空-kou-：あきとを卒業という形で送り出してから、4人ともこれを〝新しく生まれ変わるチャンス〟と捉えてレコーディングに向かいました。

ルビア：元々、4月にミニ・アルバムを出すことは決めていたんですよ。だから、最初は5人で作る予定だったけど、4人になって最初の作品になるからこそ、リルトとして新しいスタートを切るキッカケに、今回の作品を捉えたんです。

——生リルトを描き出した2ndミニ・アルバム『自由化スタイル』。冒頭を飾っているのは、明るくポップにハジけ飛んでいる「DeaR」です。

ルビア：昨年からライヴではやっている曲で、ライヴでやるたびに〝また聴きたい〟って声が多かったので、今回収録しようってなりました。リルトを応援してくれるファンに対する想いを歌っている、けっこう綺麗目な楽曲。サビ始まりということから、アルバムでも1曲目を飾るに相応しい曲ですね。

レイ：「DeaR」は演奏してても、一リスナーとして聴いてても、気持ち良いっていうか。爽快感を持った曲って感じがしています。

つかさ：実は『DeaR』って、初めてライヴでやった時は、今のように同期は一切入ってない全生演奏のみの曲だったんですよ。その後もライヴでは、完全生演奏だったんだけど、今回収録するに当たって同期を加えたアレンジをしたら、聴こえ方が全く変わった曲になりましたね。だから、元々のヴァージョンを知ってる人が聴いたら、嬉しい驚きだと思う。

ルビア：「DeaR」に関しては、ライヴと音源ではヴァージョンが違うんですよ。ライヴ・ヴァージョンは、もうちょっと長いんだけど、音源では少しだけタイトにまとめようと思って、多少短縮した形で仕上げています。だからフルサイズを聴きたい方は、ぜひライヴで聴いてほしいですね！

空-kou-：そうやね。この「DeaR」はサビ歌始まりだから、ヴォーカルにはプレッシャーなんですよ（笑）。歌始まりの

けませんから。まぁ、その分ライヴではやり甲斐もあるんだけど。歌詞に込めた想いも、ルビアがストレートな想いとしてファンと一緒に歩いていきたいっていう想いも、て書いてくれたから、聴いてて伝わりやすいと思うな。

——2曲目の「炸裂フリーダム」も、カラフルポップに歌や演奏が炸裂した色鮮やかな楽曲になりました。

空-kou-：この曲のデモ音源を聴いた時点で、〝今回の作品の中で、PVを作るのにいちばんピッタリの曲〟だと思って、〝初回盤〟に収録したDVDには、この曲のPVを収録しています。

——それだけ強烈な印象を与えてたんだ。

空-kou-：『炸裂フリーダム』は、今の僕ら自身の姿や感情をそのまま描き出した歌だから、映像化するにはピッタリだと思えたし。実際のPVでも、観てる人たちが、〝コイツらほんま楽しそうやな〟というのが伝わる内容になったと思っています。

ルビア：実際に映像の中でも、みんなメッチャ笑ってるもんな。

空-kou-：曲も、砕けた表情を持ってるんだけど、歌詞でも、〝無駄に考えることなくハジけたらいいよ〟という、今の自分たちの生き方をそのまま、ハイテンションな感情のままに出せたなと思ってて。

つかさ：なんか、いちばんラフに演奏できた曲です。確かに自分も、いちばんリルトらしい曲だなって感じがしています。

——〝リルトらしさ〟というものを、メンバーはどのように考えています？

つかさ：けっこう自由な感じって言うか、〝ありのまの自分たちを出せばいい〟という意識でやっていること。どの曲からも、そういう姿が見えてくる。中でも「炸裂フリーダム」は、〝自分らの素のまんまの状態〟がいちばん見えてくる曲になった気がしていて、大好きです。

レイ：この曲も、気持ちいいですね。今回収録した4曲の中でも、リズム的に気持ちいい歌なんですよ。演奏しててハイテンションになりますね。

ルビア：「炸裂フリーダム」は、落書きをするみたいな感覚で詞や曲を作ってい

4人の"リルト"を詰め込んだ『自由化スタイル』

4人編成で新たなスタートを切ったリルトが、現編成とし
は初となる2ndミニ・アルバム『自由化スタイル』を4月2
にリリースした。ライヴもガンガン詰め込んでいるので、
そちらにも足を運んでいただきたい。音源とライヴでは、
違った楽しい表情を味わえるはずだから。

Interview:TOMONORI NAGA

とか別に気にせんでいいんちゃう!?〟っていう、僕の性格がそのまんま反映されています（笑）。

——普段からルビアさんは、〝たとえ落ち込むことがあっても、俺は俺なりのペースで進むんだ〟という考え方の人なんだ。

ルビア：周りはどう思おうが関係ない。ちょっとのミスだって〝何とかなるやろ〟と。そんな性格ですね（笑）。

——3曲目の「キミイロ」は、身体をつんざくようなウネリとグルーヴ感を持ちつつも、すごく耳心地の良い楽曲です。

ルビア：「キミイロ」は、全国の人たち発信したいメッセージ・ソングですね。収録した中でも、歌詞に込めた想いがいちばん強く出ている曲。〝今の流行りや周りの動きに左右されることなく、自分らしくいよう〟という、今の社会や学校生活で鬱屈している人たちにこそ届けたい想いを詰め込んだ歌です。

——ルビアさん自身、〝俺は俺〟という気持ちが強いからなんでしょうね。

ルビア：〝自分は自分〟という意志は、けっこう貫き通すほうですね。特に、自分らがやっているヴィジュアル系というジャンルは、いまだに一般の人から見たら退かれる存在じゃないですか。でも、そんな冷めた視線で見られても、〝僕らは、僕らが信じた道や音楽を表現していく〟って思ってる。そういう想いが、「キミイロ」の歌詞にもリンクしています。ちなみに、中へラップを取り入れたのは、リルトにとっても新しい要素になりました。

——熱い想いを伝える上で、ラップがいちばん最適な表現方法だった、と。

ルビア：そう考えたのは確かです。〝決まりなんか関係ねぇ、ブチ壊していこうぜ！〟的な熱いメッセージを伝える上で、ラップは何よりも最適な手段でした。

レイ：すっごく心地好い感じの曲なんだけど、優しさの中に強いメッセージが潜んでいるから、より強い実感を持って歌を受け止められるんじゃないかな。

——特に好きな歌詞は、どの辺でした？

レイ：《また大人になれるから》のところ。ツラい経験を重ねるたびに新しい自分を見つけ、大人になっていく。自分自身、

の言葉は胸に響いてきました。

つかさ：「キミイロ」は、曲も歌詞も、聴いてる人へ直接訴えかけてくるからね。何よりも、空-kou-くんの歌声も感情的だし。Aメロ／Bメロ／サビと、セクションごとに曲の表情が変わっていく。そこが、この曲の面白さなんですよ。

空-kou-：確かに「キミイロ」は、いちばん感情的に歌ってる曲だね。普通、人って世の中のレールから外れることを嫌うと思うんですよ。周りに馴染もうとしたり、世間に合わせていくことばかりを人は選んでしまう。でも僕は、人に〝変わってる〟〝変だよ〟〝オカシイ奴〟と言われるほど、それらを褒め言葉として受け止めている。《オリジナルカラーで塗り潰してやろう》と歌ってるけど、これからも自分の色を大切に、自分にしか出せない色を強く発色し続けていこうと思ってる。

——そして、最後がレイさん作詞による「ツンデレラマジック」です。

空-kou-：いちばん異色であり、いちばんロックしている曲。まさに新境地じゃない!?

つかさ：他の楽曲とは違った炸裂の仕方をしつつ、4人の色が出てる曲だからね。

レイ：歌詞は意外とロマンティックに書いてるけど。僕が言いたかったのは、どんな綺麗な格好やメイクをするよりも、ありのままでいることが君らしい、ということ。

ルビア：まさにレイくんなりのメッセージが、ポップ&ハードに炸裂した曲で描き出されているからね。

——〝通常盤〟には、ボーナス・トラックも収録。あれを聴いた時は驚きでした！

ルビア：むしろ、あそこで聴ける僕らこそが普段の姿。プライベートな4人が気になる方は、聴いて腹抱えてください！（笑）

空-kou-：アルバム・タイトルの『自由化スタイル』の通り、今のリルトはホント自由に、やりたいようにやってるね。

ルビア：今回は、〝自分〟や〝君〟という視点から、いろんなリルトらしい自由な姿を描けた作品になりました。

蝴蝶网
hudie.com

[illegible](Vo)

狛(Gt)

SHOXX VOICE!!

如月 洸一郎(Ba)

宙宇介(Dr)

PERESTROIKA

春人：最初はシングルの予定で、前作のレコーディングが終わってすぐ、始めの3曲のレコーディングに取り掛かっていたんです。でも、ペレストロイカとして活動していく上で、もう少し生み出したい曲があったし、ペレストロイカが終わるにあたって最後の1曲(「NEGATIVISION」)を別の形でも出したかったので、全部合わせてミニ・アルバムになったんです。

——順に伺いしますが、「ВВЕДНИЕ」のこのタイトルはロシア語？

春人：これはロシア語でイントロとか序奏っていう意味ですね。これはライヴの登場SEでもあるので、ライヴで表現していくものへの序奏というか、自分達へ向かうところへ意識を高めるような曲になっています。

宙宇介：これはペレストロイカの一番最初の曲ですね。バンド名を決めたときに朗読みたいな感じで始まったらいいんじゃないかと思ったので、そこから急にあういう現代的なサウンドになるのがペレストロイカっぽいかなと思います。

——次の「F.O.P」は、収録曲の中で一番激しい曲ですね。

狛：これはライヴでやる1曲目というのを想定して作ったので、SEから「F.O.P」の流れはライヴでも定番になっています。ライヴを意識した曲ですね。

——そんな中で、サビが急にメロディアスになるのが印象的です。

春人：この曲の雰囲気は如月さんの中のペレストロイカ像に近いと思います。激しくて、サビがスコンと抜けるような感じで。

如月洸一郎（以下、如月）：当初考えていたイメージをストレートに感じてもらえるように作った曲ですね。狛が僕らのイメージで作ったんですけど、ほんまにぴったりやなって感じがしました。

狛：曲の長さも考えて、3分ないんです。無駄を省いて、本当に必要なところだけで、シンプルだけどサビで聴かせられる、何回もループして聴ける曲ですね。

——サビ以外は、シャウトも激しくて、アグレッシブな雰囲気が伝わりますね。

春人：シャウトを録るときに、本当に憎悪のこもったシャウトにするために、ブースの中で、メンバーにかなりなぶられま

たりしたんです。

——想像ではなくて、実感することでリアリティが出せると。

春人：ただ上手いシャウトをすればいいっていうものではないので、痛い感じをリアルに出せたんじゃないかと思います。歌詞をあえて英語にしたので、シャウトの感覚とか雰囲気で痛みを感じてもらえるかなと思います。

——次の「VIRGIN PAIN」は、宙宇介君が原曲を持ってきたんですよね。

宙宇介：もともとシングルの予定だったので、シングルっぽい曲を作ろうかなと思って作った曲です。

春人：俺がごり押ししてこれをやりたいって言った曲ですね。

狛：あのときの春人は、すごく説得力がありました（笑）。

春人：最初はキーも違って、7弦ギターとか5弦ベースに合うように、サビまでのキーを変更して。サビのメロは、俺がつけたのを活かしたかったので、転調するような形にしました。

——この歌詞はラブソングですね。

春人：初めて付き合った相手をめちゃくちゃ好きになって、盲目的になって、失恋したときの話ですね。ネガの「17歳の孤独」っていう曲に通じるものがあるんです。自分の原点というか、自分が生きてきた上で一番最初に味わった死にたいほどの苦痛を表現したかったんですね。

——「UNBLESSED LOVE」は、通常盤のみに収録されるボーナストラックですね。

如月：それまでの3曲とのバランスを考えて、3曲に比べてダークなイメージで作りました。でも普通にダークやったらイヤやなと思って、春人と相談して。

春人：曲の中でテンポを変えるっていうのがまずあって。クラブっぽい、ダンスっぽい雰囲気とか、メタルっぽい雰囲気とか、いろんな表情を見せるようにしました。試行錯誤したんですけど、意外と面白い曲になりましたね。

如月：こういう曲を他のバンドさんとかで聴いたことがないし、オリジナル感はすごく出ています。

宙宇介：それだけ展開を多いので、各場所のアレンジも悩んだし、音のクオリティ

バンドとして成長するにはどうしたら いいのかを見つめ、話し合ってきた。

ミニ・アルバム『PAIИZ』をリリースしたPERESTROIKA。
ざまな「痛み」をコンセプトにした6曲を収録したこの作品で、
正体であったネガとの融合を果たす。5月には、東名阪で最後の
イベントを行い、その活動に幕を下ろす彼ら。PERESTROIKA
しての活動を経たその先に、どんな姿で現れてくるのか。その一
垣間見せているであろうこの作品を聴いて、次なる動きを待ちた

Interview:MIYUKI MURA

のアレンジの力を総結集しました。

狛：これが一番まとめるのに苦戦していたような気がしますね。

——これもラブソングですよね。

春人：曲に面白い展開があるので、普通に歌詞を書いてもつまらないなと思って、前半は女目線で、後半は男目線で書いてみました。内容については読んで理解してほしいですね（照笑）。

——次が、「WEIGHT OF THE LIFE」。

春人：ライヴをやってきて、「F.O.P」以外に、1曲目にできる曲がほしいなと思って、「F.O.P」と違うタイプの勢いのある曲を作ろうという感じでできた曲ですね。

狛：でも、こういう聴かせる始まり方は新しいかなと思います。

——命の重さという、今誰もが考えさせられたタイトルがついていますね。

春人：レコーディング前日の夜に、できていたものを全部書き直したんです。これだけ震災後に録ったんですけど、命の重さって何なんやろうと思ったので。なんで自分が生きているんだろうとか、なんで亡くなった人は俺じゃなかったんだろうとか、生きている価値あるんかなとか、そういう問いかけをしているんです。でも結局、命の重さとか、自分が生きている価値とか意味って、自分で感じていかないといけないと思うし、そういうメッセージ性のあるものにしたかったですね。

——そして最後が「NEGATIVISION」。この曲でもって、ネガへ融合すると考えていいんでしょうか。

宙宇介：そういうコンセプトだったので、どういう路線の曲にするか、意見がめちゃめちゃ割れまして。会うたびに皆新曲を2曲ずつぐらい作ってきていて、一瞬のうちにボツにされるのが続いていました。

一同：（苦笑）

春人：メンバーの仲が悪くなっていましたね（笑）。融合のイメージって各々にあったし、喧嘩みたいな状態になりました。

如月：最初は僕もムカついて、作曲作業も放棄するぐらいもめたんですけど、どんどん話していったら、パズルのように出来上がりが見えてきて、これだっていうのがわかりましたね。

宙宇介：この曲と「WEIGHT OF THE LIFE」を録ってるときに震災がありまし

て。阪神大震災も経験したので、そういう複雑な感じになった中で作ったので、痛みっていうコンセプトにすごく近い曲になったと思います。

狛：個人的にはこの曲が一番痛みが感じられる曲かなと思っています。暖めていたコード進行を大サビに持ってきて、そこが特に痛みを感じられる部分になりました。

——この曲でネガとどんな形で融合したんでしょう？

宙宇介：アウトロは、ぶっちゃけ雰囲気がネガですね。全く意識していないんですけど、自然にそうなった感じです。

春人：選曲でもめたりしたのを経て、逆に自分達が素直に行きつく先がここに出来たんじゃないかなと思います。意識しすぎて喧嘩とかになったのかなって、今思いますね。だから、この曲がひとつの融合ではあるんですけど、融合の全てと言うよりは、融合に続く道筋を作れた曲だと思います。

——4月30日のチャリティ・イベントには、ネガとして出演するんですよね。

春人：ネガっていうバンドにかける想いは、メンバー各々すごく重いものなので、本当にネガを慕ってくれる人にも協力してほしいし、ネガ名義でやることに意味があるんじゃないかと思います。

如月：僕は阪神大震災で被災したんですけど、支援物資にCDがあったんですよね。避難所ではCDは聴けないんですけど、僕が好きなバンドのCDがあって、それを見つめるだけで元気になれたんですよ。僕らも立ち上がって、募金とかに協力したいなと思います。

——ペレストロイカとしては、5月の主催イベントで最後ですが、やるべきことを終えたということなんですか。

春人：ペレストロイカとして活動するにあたって、ネガとしてそのまま活動していくのとは違って、自分達を客観的に見つめて、自分達がバンドとしてさらに成長するためにどうしたらいいのかを見つめて、話し合ってきたんですね。それでひとつの形に出来たと思うので、ネガに融合させたときに、カッコいいバンドになって戻ってこれるという自信がつきました。

SHOXX LIVE!!

葵 from 彩冷える

2011 Spring Tour“ONE”Live at 新宿BLAZE 2011.4.1

『葵 from 彩冷える 2011 Spring Tour “ONE”』と題し、3月5日の横浜SUNPHONIX ALLを皮切りに、全国10カ所で行われる予定であった今回の全国ツアー。しかし、0011年3月11日に起きた、東日本大震災の影響により、予定していた公演の一部中止を余儀なくされた。日に日に明らかとなっていく被害の大きさ…。事務所スタッフと度重なる協議をした結果、3月24日の名古屋ell.FITS ALL公演より、ツアー再スタートさせる事となった。この決断に至るまでには、葵自身、様々な事を想い、悩んだことだろう。“今、自分に出来る事”を一番に考え、精一杯の想いを唄に込め届けた。

葵のバースデー・ライヴともなった4月1日新宿BLAZE。会場には、多くのファンが彼の音楽を求め、集まっていた。関東でも、まだまだ余震が続き、不安な気持ちを抱いている彼女（彼）達にとって、葵の“今、自分に出来る事”＝“音楽を、笑顔を届ける事”は、大きな力になった事だろう。その証拠に、会場は、たくさんの笑顔で溢れていたのだから。

【セットリスト】1.Liar 2.Break out 3.Surrender Love 4.想い出になる前に 5.誘惑 6.あなたへ 7.夢の彼方へ 8.BREAV DREAMER 9.Everlasting Love 10.Guilty 11.恋文 12.涙 リフレイン 13.MI DA RA 14.beauty girl 15.Bytterfly 16.ONE 17.secret whisper 18.向日葵 EN1.pray EN2.さくらのうた（「さくら」〜「春が来た」）EN3.youth

SHOXX INFO!!

Gargoyle

1年半ぶりとなる新作リリース決定

1987年の結成以来24年間、1000本を超えるライヴを止まることなく続け、今も年間50本近いライヴを全国で展開する“ライヴハウスの帝王”Gargoyle。その彼らが、新作としては約1年半ぶり、14枚目のフル・アルバム『鬼書』（きしょ）を4月24日にリリースする。

彼らの持ち味でもある、メロディアスで疾走感に溢れるスピード・チューンの、ビリビリするような緊張感に満ちている。バラードやファンキーなナンバーなど、多様な音楽性の楽曲も織り込まれ、Gargoyleの作品としては最大ボリュームとなる全13曲55分収録。彼らの最新かつ真髄を体感できる作品だ。

また、発売記念ワンマン・ツアー“鬼の葬列”も決定。

5月1日・渋谷O-WEST、3日・神戸VARIT.、4日・岡山ペパーランド、6〜7日・福岡DRUM SON、15日・横浜サンフォニックスホール、20日・ESAKA MUSE、22日・広島クラブクアトロ（イベント）、6月3日・新潟BLACK PIG、5日・仙台HOOK、10日・金沢AZ、12日・名古屋ell.FITS ALL、26日・さいたま新都心HEAVEN'S ROCK VJ-3、7月2〜3日・札幌COLONY、15日・高田馬場クラブフェイズ、17日・ESAKA MUSE。

http://firstcell.net/gargoyle/

12012

新体制でのワンマン・ライヴ決定!!

メンバー脱退という危機を乗り越え、2月3日には宮脇渉（Vo）・酒井洋明（Gt）・塩谷朋之（Ba）・川内亨（Dr）という4人編成バンドとしての始動の決意を表明していた12012。だが、その時点ではまだ具体的な活動展開が発表されていなかったが、待望のワンマン・ライヴがついに決定した!!

■12012 8th Anniversary Live「departure」
6月5日（日） 新宿BLAZE
開場17:30/開演18:00
チケット前売¥3,800（税込/D代別） 4月16日より発売中
（問）フリップサイド☎03-3466-1100

『自分達に出来る事を精一杯やる事が一番だと考えました。今、胸の中にある想いを持って6月5日ステージに立ちたいと思います。 12012』

メンバーからは、このような言葉でワンマンへの決意が告げられている。

“今”自分たちがするべきことを模索した結果、敢えて当初の予定より時期を早めた形での12012始動ライヴを決めたという。ライヴ・タイトルからも伝わるように、バンド結成8周年と新体制の12012への4人の自信と意気込みに溢れている今回のライヴ。ぜひ彼らの“旅立ち”を目にしてほしい。なお、ライヴ当日は義援金募金活動も行ないたいとのこと。

http://www.12012.jp/
http://twitter.com/12012_OFFICIAL

hudie.com

SHOXX INFO!!

凛・HERO

東・阪ツーマンイベントが緊急決定!! 当日限定企画有り!?

凛とHEROが6月にツーマンイベントを東京・大阪で開催することが決定した。なかなか異色のこの組み合わせ。当日限定企画があるかもとのことで、何かが起こりそうだ。チケットは4月30日から各プレイガイドで発売なので、気になる方は要チェックです!!

UNDER CODE PRODUCTION & LOOP ASH PRESENTS
凛・HERO東阪ツーマン公演「PLATONIC KNOCK OUT」

2011年6月3日（金）OSAKA MUSE
開場18:00/開演18:30
前売券￥3,500（D別）/当日券￥4,000（D別）
2011年4月30日（土）よりローソンチケット（☎0570-00-0403）（Lコード：54786）／ライカエジソン大阪店（☎06-6252-6262）（初日は電話予約のみ）にて発売。
［問］OSAKA MUSE（☎06-6245-5389）

2011年6月9日（木）高田馬場AREA
開場18:00/開演18:30
前売券￥3,500（D別）/当日券￥4,000（D別）
2011年4月30日（土）よりローソンチケット（☎0570-084-003）（Lコード:71283）
［問］高田馬場AREA（☎03-3361-1069）

Sixh.

Sixh.FASHION OPERA 2011開催

ファッションショーとライヴを融合させたイベント『Sixh.FASHION OPERA 2011』が5月28日に開催される。イベントに関しての売り上げの一部は、日本赤十字社を通して東北地方太平洋沖地震への義援金として寄付されるとのこと。さて、このイベント、ますます進化するSixh.の新作秋冬コレクションのファッションショーに加え、人気急上昇中のキャラクター「MINTネコ」初のショータイムや、Sixh.バンドによるライヴが行われるようだ。さらに注目は、heidi.をはじめ、犬神サーカス団、シリアル⇔NUMBER・佐々木 仁など、豪華ゲスト・モデルが多数出演予定だ。そしてスペシャルゲスト、ゴールデンボンバー・歌広場淳（人気キャラMINTネコとゴールデンボンバー・歌広場淳とのコラボ「ねこじろう」の第2弾アイテムが大好評発売中）のモデル出演&トークイベントなどが行われることも決定。ファッションと音楽、スペシャルな夜の饗宴が期待できそうだ。当日の物販スペースではアーティストとのコラボTシャツ、グッズをはじめ、Sixh.限定アイテムも発売予定。5,250円以上購入した人にはノベルティーバッジも付くのだとか。チケットは下記ショップ、またはイープラスにて販売。限定数なので気になる人は急げ!!

『Sixh.FASHION OPERA 2011』
2011年5月28日（土）ラフォーレ原宿6F・ラフォーレミュージアム
開場/開演:18:30/19:30　チケット：3,500円（税込）
※ノベルティうちわ付き（当日会場で配布予定）
※下記全国店・ネットショップにて発売中！

h.NAOTO札幌ピヴォ店／h.NAOTO仙台フォーラス店／Sixh.大宮アルシェ店／h.NAOTOマルイワン新宿店1F特設ショップ5/18〜5/29／Sixh.ラフォーレ原宿店／Sixh.渋谷パルコ店／HANGRY&ANGRY BATTLES／h.NAOTO+原宿店／h.NAOTO+大阪店／Sixh.三宮ビブレ店／h.NAOTO天神ビブレ店
e-shop→ http://ses.s-inc.com/
イープラス→http://eplus.jp/

【お問い合わせ】
シンク カスタマーセンター
（☎03-5766-3850）
※入場整理券は当日11:00〜
ラフォーレ6F
会場受付カウンターにて配布。

宇宙戦隊NOIZ

ニュー・アルバム発売決定!!

3月から、『JAPAN TOY'S PANIC TOUR KING OF ONEMAN & EVENT SHOW 20“GENOM EMOTION”』で、全国をパトロールしてきた宇宙戦隊NOIZ。そのファイナ公演として行なわれる4月21日・渋谷O-EASTにて、ニュー・アルバム『I.M.P』の会場定先行販売を無理やり決行するとの情報が飛び込んできた!! “無理やり”というのも、界の平和を常に考えて来たNOIZらしく、今回の売り上げの一部を被災地への義援金とすべく、急遽決めたことなのだそう。

一般発売は6月を予定しているとのこと（今回は無料ダウンロードではなく販売です/笑）。彼らのオモワクについては、次号にてインタビュー予定!!

http://uchusentainoiz.com/

樹威

1stツアー決定

4月20日にアルバム『XI』でソロ・デビューを果たす樹威の、1stツアーが決定した。
■First Live Tour「11th finger」
7月19日・OSAKA MUSE
7月20日・名古屋ell.FITS ALL
7月22日・渋谷クラブクアトロ

また、アルバム・リリースの翌日である4月21日にはスペシャル・ライヴも行なわれる。
■Special Live「Club Jui」
4月21日・目黒BLUES ALLEY JAPAN
出演:樹威（Vo）、宅見将典（Gt）、川田瑠夏（Pf）、清水泰明（Vln）
［1st STAGE］開場17:00/開演18:00
［2nd STAGE］開場20:15/開演21:00
※入替制
（問）BLUES ALLEY JAPAN☎03-5496-4381

DELUHI

LAST TOUR発表…

昨年12月1日のライヴ以降、活動を一時休止していたDELUHIだが、夏の全国ツア“DELUHI LAST TOUR -VANDALISM-”をもって解散することが発表された。

“今後、より大きなステップへと進むため”と選択された活動休止という期間であっが、その状況の中で［Juri/Leda/Aggy/Sujk］という4人によるDELUHIの活動が継続ないという事態に直面したとのこと。その後の話し合いの結果、この4人でのDELUH存続させられない以上、活動を継続する意味がないと判断し、解散という道を選ぶことなったとのことだ。

これまでの活動の中で、着実に成長を遂げる姿を見せて来た彼らだけに、この選択は常に残念ではあるが、今後の4人にも期待したい。

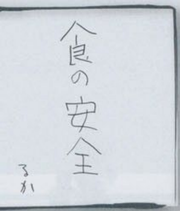
ラスト・ツアーのスケジュールは次の通り。
7月1日・札幌クラップスホール、3日・仙台ダーウィン、9日・新潟GOLDEN PIGS RSTAGE、10日・本八幡ルート14、15日・横浜サンフォニックスホール、17日・名古E.L.L、18日・心斎橋クラブクアトロ、20日・岡山IMAGE、21日・福岡DRUM SON、日・さいたま新都心HEAVEN'S ROCK VJ-3、27日・渋谷O-EAST。

http://deluhi.com/

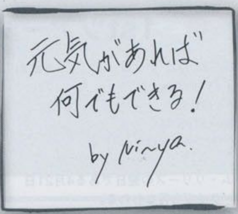
hudie.com

一筆入魂!! ザ・ミッション

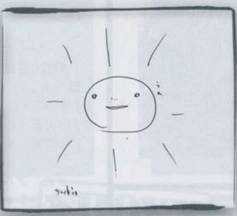
今月の【一筆入魂!! ザ・ミッション】は特別企画として、多くのアーティストの方たちから『前向きになれる言葉』を頂きました。拡張版として4ページにわたってお届けします。じっくり見てみてください。未曾有の震災があり、大変な時ではありますが、それでも春はやってくるのです。新生活も始まりました。元気を出せる人は元気を出していきましょう!



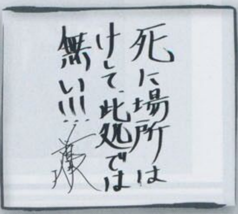
UKA(ナイトメア)



Ni~ya(ナイトメア)


咲人(ナイトメア)

柩(ナイトメア)

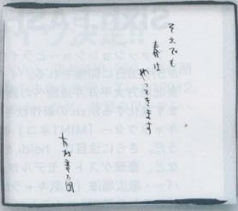


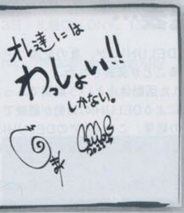
YOMI(ナイトメア)

ナカヤマアキラ(Plastic Tree)

佐藤ケンケン(Plastic Tree)

長谷川正(Plastic Tree)


有村竜太朗(Plastic Tree)



maya(LM.C)

SATOち(ムック)

YUKKE(ムック)

ミヤ(ムック)

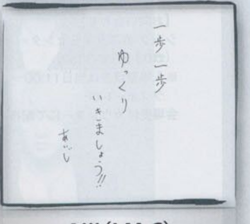
逹瑯(ムック)

KASA(D'espairsRay)

ZERO(D'espairsRay)

Karyu(D'espairsRay)

HIZUMI(D'espairsRay)



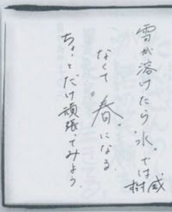
Aiji(LM.C)

テロ（ヴィドール）

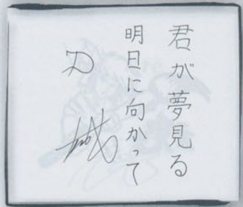
ラメ（ヴィドール）

ギル（ヴィドール）

シュン（ヴィドール）



ジュイ（ヴィドー

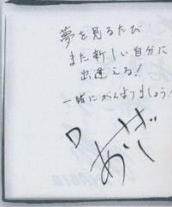


HIROKI（D）

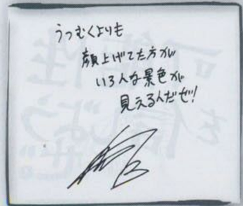
Tsunehito（D）

HIDE-ZOU（D）

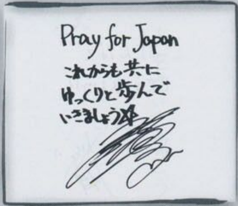
Ruiza（D）



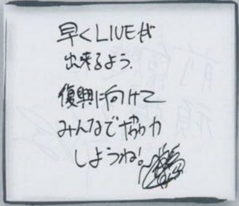
ASAGI（D）



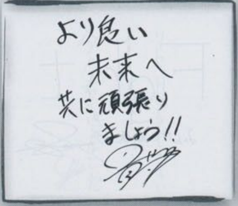
シン（ViViD）



靖乃（Kra）



結良（Kra）

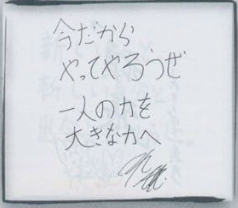


景夕（Kra）

KISAKI

Ko-ki（ViViD）

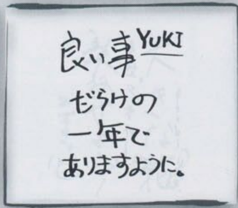
イヴ（ViViD）



怜我（ViViD）

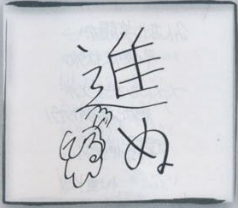
零乃（ViViD）

HIZAKI（Versailles）

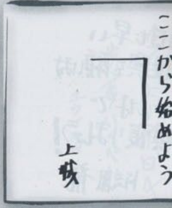


YUKI（Versailles）

MASASHI（Versailles）

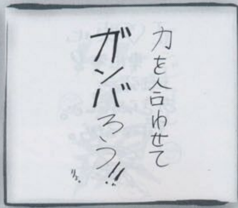


TERU（Versailles）



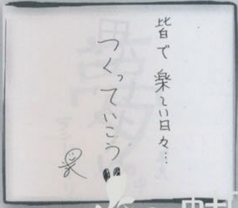
KAMIJO（Versai

葵

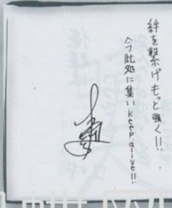


Яyo（ギルガメッシュ）

愁（ギルガメッシュ）



弐（ギルガメッシュ）



准（ギルガメッシュ

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

…のように、皆で力を合わせ 一つにまとまれる日本だ! 皆で一緒に未来を創り…

景(Sadie)

東日本大震災に被災された皆様へ 一日でも早く平穏な日々が戻ります様に祈っています 頑張ってください 亜季

亜季(Sadie)

ひとりの人間として ひとりの音楽人として みんなと一緒に力をあわせましょう 心をあわせましょう 美月

美月(Sadie)

少しずつ少しずつでいいから 未来に向かって共に 歩んでいけたらと思います。 剣

剣(Sadie)

見えない未来に不安を覚え 独りの夜に凍えそうな 一人じゃないよ手を伸ばしてごらん 遠く離れてても 真緒

真緒(Sadie)

共に未来を紡ごう! AYABIE

…NZO(AYABIE)

またみんなで笑顔になれるように、一緒に一歩ずつ前に進もう★

インテツ(AYABIE)

明るい未来の為に、決してあきらめず一緒にがんばりましょう

タケヒト(AYABIE)

みんなで一緒に乗り越えよう!! AYABIE 夢人

夢人(AYABIE)

魂!!

ガンバレ日本

…ダイ(THE KIDDIE)

Fight みんなで頑張ろう

そらお(THE KIDDIE)

前向きに頑張ろう

淳(THE KIDDIE)

みんなでささえあおう!! 一緒にがんばろう!!(^.^)

佑聖(THE KIDDIE)

可能性を信じようぜ。 揺紗☆

揺紗(THE KIDDIE)

明るい未来をもう一度!! heidi. ナオ

…ナオ(heidi.)

頑張 heidi. 義彦

義彦(heidi.)

魂!!

一緒 那オキ ♡

那オキ(人格ラヂオ)

アゴをシャクレ(笑) いくぞ〜! い〜ち に〜 さ〜ん DA〜!

悠希(人格ラヂオ)

1日も早い復興を願います みんなで頑張りましょう! ドレミ團 龍

…龍(ドレミ團)

みんなに笑顔が早く戻りますように… 一人一人にもできることが絶対にあるはずだから! 頑張りましょう ドレミ團 KEN

KEN(ドレミ團)

あしたはきっといい日です。 ドレミ團 マコト

マコト(ドレミ團)

君は希望の季節 桐

桐(heidi.)

今こそ一つになろうぜ!! heidi. コースケ

コースケ(heidi.)

俺達はいつでもみんなの帰りを待ってる ユキ

…(少女-ロリヰタ-23区)

思いやり 龍兎

龍兎(少女-ロリヰタ-23区)

空を見なよ。 総史

総史(少女-ロリヰタ-23区)

I♡東北 東日本!! 頑張ろ。あきらめないで。待ってるから。

零華(ドレミ團)

みなさん一人一人にたくさんの笑顔が届きますように

ユウ(ドレミ團)

今僕にできる事は みんなに元気をあげる事。みんなで1つになって乗り越えましょう。

なお（DaizyStripper）

光射す方へ!!

まゆ（DaizyStripper）

人に優しく。

夕霧（DaizyStripper）

えがおで

少女-ロリヰタ-23区 BAN

BAN（少女-ロリヰタ-23区）

たくさんの人が、君の笑顔を見たくて生きてる。

リョヲ丞（少女-ロリヰタ

We are all one!!

華遊（ν［NEU］）

道は一つじゃない

タクミ（ν［NEU］）

みつ（ν［NEU］）

笑顔は幸せへの近道 風弥

風弥（DaizyStripper）

絶対に気負けだけはするな また笑顔で会おう

hudie.com

Rei（DaizyStrip

止まってもまた歩きだせる。人は弱いけど強いから…

yu-ta（HERO）

上を向いて歩こう

SARSHI（HERO）

また行くから待っててね。

JIN（HERO）

リセットなんてできない 今から前に進めばいいんだ

Яel（ν［NEU］）

生

ヒイロ（ν［NEU

出会えた事は奇跡的です。それは必然なの。林 万作

万作（boogieman）

大丈夫. 晃

晃（boogieman）

やるしかないです。自分に向けて ユアナ

ユアナ（boogieman）

新しい人と、新しい自分と出会えますように。柊

柊（boogieman）

未来を信じて 一緒にがんばろう!

Yusuke（HER

新しい メイ 「夢」、「希望」、「光」、「未来」、「人達」 たくさんあなたを待ってる。

メイ（DOG inThePWO）

大きな花咲かせよう! みずき。

ミズキ（DOG inThePWO）

のびのび生きよう ハッピーターン!! 準々

準々（DOG inThePWO）

DOG in The PWOさん みなさんへ
明日も、今日も、明後日も 人生で1日しかないから、どんなに夜ねれなくても 朝が来たらカーテンをあけて、がんばるのです。
春の新生活 おーえんしてるぞ! by 春

春（DOG inThePWO）

今日より明日へ 一歩一歩いくべ!! ユウイチロー

ユウイチロー（boogie

塩を舐めもやしを喰らう! アンドKAJI

KAJI（アンド）

アンドけん 笑顔

けん（アンド）

アイス お菓子 スイカ ケーキ すし すきやき （好きな食べ物） アンド PECO

PECO（アンド）

夢の中 アンドキリ

キリ（アンド）

晴天 アンド 郁磨

郁磨（アンド

et child

ュアル系 貴重盤CD
ーティストグッズ
ロリータブランド古着
ーゼットチャイルド

新宿店	原宿店	池袋店	横浜店	相模大野店
◆closet child 新宿店 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12 YSビル1F (TEL 03-3365-6316) < OPEN :11:00~20:00>	◆closet child 新原店 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-7-6 COXY176ビル101 (TEL 03-3403-4108) < OPEN :11:00~20:00>	◆closet child 池袋店 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-5 七福久ビル3F (TEL 03-3983-5322) < OPEN :12:00~21:00>	震災の影響の為 一時休業中 7月中に再オープン 予定	CDの取り扱いはございません。 ◆closet child 相模大野店 〒228-0803 神奈川県相模原市南区相模大野 3-15NKビル2F (TEL 0427-47-1840) < OPEN :12:00 - 21:00>

買取大強化中

期間限定買取査定額大幅アップ 5.1-5.31
キャンペーン 20%UP 対象アーティストのアイテムは査定額20%UP

R指定 BORN Versailles アヲイ 人格ラヂオ 己龍
DEATHGAZE ゴールデンボンバー 摩天楼オペラ lynch.

ツアーグッズ・ファンクラブグッズ
物販写真・ツアーTシャツ
コラボアクセサリー・写真集等

アーティスト
グッズ
買取大強化中!!

ガゼット・シド
PlasticTree
ナイトメア・DIR EN GREY
Gackt雅等大歓迎!!

貴重盤超高価買取中!! 更に詳しい買取表はウェブで!!

- ●R指定 裏映像盤。PV集 DVD ¥2,000買取
- ●ViViD Take-off CD ¥3,000買取
- ●X-JAPAN PERFECT BEST 3CD ¥2,600買取
- ●ガゼット 鬼畜教師(32才独身)の悩殺講座 CD ¥7,500買取
- ●己龍 明鏡止水 [初回限定盤] CD+DVD ¥2,000買取
- ●ゴールデンボンバー ゴールデンアワー～上半期ベスト2010～[初回限定盤A&B] CD+DVD ¥3,600買取
- ●ゴールデンボンバー 金縛ねんごろツアーファイナル初ワンマン DVD ¥7,200買取
- ●SuG TOKYO MUZICAL HOTEL [初回限定盤] CD+DVD ¥2,000買取
- ●SHULA (シドVo.マオ在籍) Shu-la-tic CD ¥12,000買取
- ●シド 流通盤 CD ¥5,000買取
- ●deathgaze genocide and mass murder (初回盤赤ケース) CD ¥2,400買取
- ●新興宗教楽団NoGoD INDIES BEST SELECTION2005-2009 2CD ¥3,500買取
- ●有村 竜太朗 あおむしドロップ (帯付) GOODS ¥4,000買取
- ●摩天楼オペラ INDIES BEST COLLECTION CD+DVD ¥2,160買取

ゴールデンボンバー	己龍	Versailles	SuG	ViViD	愛狂います。	NoGoD	メガマソ	lynch.
ゴールデンベスト (初回限定A)	明鏡止水 [初回限定盤]	JUBILEE (初回生産限定盤)	BL⇔Rock Party MonstAr	Take-off	アルク (初回限定盤)	INDIES BEST SELECTION 2005-2009	Loveless.more Loveless (初回盤)	greedy dead souls
0円	2400円	2160円	7000円	3000円	2000円	3500円	2000円	3600円

配買取 宅配買取大募集中!!10点以上は送料無料!! 宅配買取用段ボールご用意致します

STEP2 佐川急便で送料着払いでお送り下さい。
STEP3 査定担当者が1点1点お見積もりを致します。
STEP4 査定額をメール、もしくは電話にてご連絡致します。
STEP5 了解いただけましたら、指定口座へご入金となります。

用ダンボールお届けいたします!!買取/対象ブランドの詳細はWEBで!!

ご不要なCD/DVD/アーティストグッズ/お洋服等お買取させていただきます。

宅配買取受付窓口・お問合せ先
160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12YSビル1F
クローゼットチャイルド TEL 03-3365-6316 webtakuhai@closet-child.com

買取一覧表はHPでご確認いただけます!! 毎月2万点以上のヴィジュアル系の商品買取実績!!

ュアル系オンラインショップ
テム8000点以上日本一の取り扱い量!
ゼットチャイルドのCD/レア盤
等が携帯電話&PC&スマートフォンにて
ただけます!!
//www.closetchild-cd.jp/

ゴシックロリータブランド古着オンラインショップ
h.NAOTO / Moi-meme-Moitie / alice auaa / BPN / ALGONQUINS / Angelic Pretty
BABY,THE STARS SHINE BRIGHT / Emily Temple cute / MILK
人気ゴシック・ロリータブランドのユーズドオンラインショップ!!
入手困難な予約完売品/今期物
定番物までを随時800アイテム取り揃えたゴスロリ専門オンラインショップ!!
http://closetchild.ocnk.net

/109-2古着オンラインショップ
FFALO BOBS JACKROSE Roen TORNADO MART
H Xfrm Diavlo
点出品!! お兄系/109-2系ブランド古着専門オンラインショップ!!
//m-closetchild.ocnk.net

Vivienne Westwood 専門オンラインショップ
80年代の貴重なヴィンテージアイテム 入手困難なオープライター等のレア物
人気のアクセサリー等の定番アイテムのリーズナブルなユーズドアイテム、
更に市場価格より最大7割引きの財布などの新作新品等を随時300点以上出品中!!
http://www.rakuten.co.jp/ainahaina/

ARTIST'S BOX

ミュージシャンが作るページ

葵 from 彩冷える の ヒナタごっこ

第61回

趣味は映画を観ることです。
海外の「デイアフタートゥモロー」のようなCGを駆使した、スペクタル映像の映画も好きです。よく映画館や家のテレビで観て来た映画の中の世界。

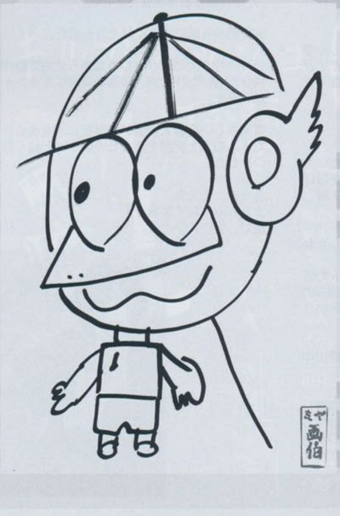
2011年3月11日。そのまるで映画のCGの世界が、僕の住む世界で現実となった。何度観てもテレビが映し出すその映像を、リアルに受け止められなくて、これも映画の中の世界であと数時間したらエンドロールが流れて終って欲しいって考えたりでした。
僕らの文明はめまぐるしく進化している。この星の支配者は人間だと誇示するかのように。そんな僕らを嘲笑うかのように自然の猛威はたくさんの方々の明日を奪っていきました。そんな自然の猛威を前に何もできない僕らがいました。それでも僕らは国内外からのたくさんの想いを合わせ、少しでも被災地の方々の力になりたいと自分たちのできることを行い続けました。その中で僕らがいつしか忘れていた大切な人と人との絆と言うものを思い出せたんじゃないかって思っています。
震災後一ヶ月ちょっと経ちましたが僕の住む東京から夜のギラギラしたネオンの明るさが減りました。こんなに暗い東京を想像したこともなかった。上京してからずっと嫌いだった景色。東京の夜のネオンってなんか欲が映し出されてるというか、その灯りがどうしてもキレイに見えなかった。自分もいつしかその灯りに染まってるんじゃないかって不安になる時もあった。そんな東京は今、眠るかのように静まり返っています。その仄かな灯りは薄気味悪いのではなくなぜかとっても優しい感じがするんです。それはきっとみんなで被災地の方々のことを想い、節電をすることによる暗闇だから。例え暗い夜が広がっていても心の暖かさを感じるから。みんなもよくテレビで目にしたであろうACのCMで「思いは見えないけれど、思い遣りは見える」というフレーズ。まさにその心遣いが東京の暗い夜に見えた気がしました。ネオンの灯りが少ない分、月灯りがキレイに見えるしね。
僕は今月１日にツアーのファイナルを迎えました。震災の影響により、四カ所の公演中止がありましたが、震災二週間後からツアーを再開しました。その開始まで本当に何度も悩み葛藤しました。ツアーの実施についてたくさんの意見を戴きましたし、このような事例も勿論なかったためスタッフ陣も判断に苦しみました。地震が起こった11日。僕は翌日に控えた札幌公演に向けて飛行機に乗るために羽田空港に向かう電車の中で地震にあいました。信じられない揺れを感じて、立っていられないほどでした。なんとか電車は最寄りの駅に進み駅のホームに立つと、構内の掲示板が聞いたこともない音をたてて激しく揺れて人々はみんなうずくまっていました。遠くで見える信号機はメトロノームのように揺れていました。その日から毎日強い余震が続く毎日。そして次々に起こる被害。
そんな中で公演を実施することに対して「今そんな無理をしてまで公演を実施して何の意味があるんだ」とか「もしライヴ中に地震が起きたらお前はみんなを守れるのか」とか。もっともなご意見ばかりでした。何度も考えました。自粛と言う言葉と何度も向き合いました。
でも、家で何もしないようにして自粛してるのって違う気がしたんです。こんな時だからこそ普段と変わらない自分でいないとダメなんだって。節電、節水、募金勿論します。だけど、それ以外は被災地のみんなが苦しんでるからって、普段の生活を自粛してお金も使わないようになって。それは決して被災地の方々の為になる自粛ではないと思うんです。それはむしろ「負の連鎖」。経済が廻らなくなると、この国自体が大変な事態となり被災地の方々を手助けするどころじゃなくなってしまう。被災地の方々のことを思うのであれば自分ができることを毎日しっかりすることなんだと思ったんです。社会人の方は仕事をしっかりする。学生はしっかり勉強する。僕は歌うたいだから歌を歌わないといけない。こんなときだからこそ「負の連鎖」を少しでも「笑顔の連鎖」に変えないといけない。そう思いました。僕達音楽家は音楽の力を信じないといけない。僕らが歌う音楽はきっとみんなの生活の中でみんなの活力の１つと

なって、その活力によりみんなの毎日が輝
て、それが他の誰かの生活を輝かして…っ
広がっていって、その輝きが被災地で頑張
てる方々に届くように。
日本は今、僕達人間は今、頑張らなけれ
いけない時だと思います。「被災地の皆さ
頑張って」じゃなくて「一緒に頑張ろう」
んです。僕も自分のできることを精一杯や
ます。だからどうかこのコラムを読んでく
た君も頑張ろう。春はもう訪れてしまった
れど、まだ心に春が来ないで春を待ってい
蕾たちは不安が立ちこめる冷たい冬の世界
立ち止まったままでいる。春に咲いた桜の
うに、その蕾達の笑顔が咲く日を夢見て。
たみんなで他愛もない未来の話をして笑い
える日を夢見て。

蝴蝶図
hudie.com

ムック ミヤの 魔よけ

お題3：パー〇ン



[編集部解説]
第3回目となる今回は、編集部たっての希望でパーマ〇をミヤ画伯に描いていただきました。お題を聞いた瞬間、ちょっと戸惑いを見せていた画伯も、周りのスタッフからの高評価（?）に照れていた模様でした。ただ、"違うキャラが混ざってるかも…"との声もあり（笑）。

著者近影

夢のぐるぐね大回

第3

アーティストがつなぐ、リレー連載

鬼龍院翔（ゴールデンボンバー）『タイの野球チームについて』➡ Le

どうも、V系と名乗って各方面から大バッシングのゴールデンボンバーです。
そんな中、優しいSuGのmasato君が、僕にバトンタッチして頂き本当にありがたいです。今度ラフォーレの前でクレープ奢ろうと思います。
さて、そんな甘党のmasato君が僕にくれたお題はこちら！
「タイの野球チームについて」
…ん？　僕ってタイに詳しかったっけ…??　まぁ、よく知ってますよタイの野球チームは。タイではナタポン・ミーブンロッド投手の一人勝ちですよね、むこうのテレビで彼を見ない日は無いよ。タイ中のマダムがもうメロメロで「ナタポン！　ナタポン！」と言って自宅のベッドで果てる事件が多発中。家庭崩壊に繋がる社会現象になって話題です。あ、ごめんやっぱりタイの事わかんないや。masato君、ホントごめん。
わざわざ電話で確認してくれたのに、あのとき電話で盛り上がっちゃったのがいけなかったねごめん。いや、あんときは面白いと思ってたんだよ僕。自分で言って。その結果このザマさ…。
もうタイの野球チームについて書ける気がしないよ…。1,200文字頂いてるのにまだ400文字くらいしか書けてない…。
あと半分以上、何書こう…、せっかくmasato君が回してくれたのに、本当申し訳ない…。今度原宿でロッテリア奢ろう…。
ヤバい…、マジでテーマについて書く事が無い…。せめてmasato君の心のケアだけはちゃんとしよう。
masatoイケメンmasatoイケメンmasato
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメン
masatoイケメンmasatoイケメンmasato
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメン
masatoイケメンmasatoイケメンmasato
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメン
masatoイケメンmasatoイケメンmasato
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメンmasatoイケメンmasa
イケメンmasatoイケメンmasatoイケメ
masatoイケメン
次回はDELUHIのLeda君にバトンタ
チ！　お題は何でもいいって言ってく
たから「ギター」にしようかと思ったけ
やっぱやめて
「わき毛」
にします☆　Ledaやん宜しくねん！

第十一回　総史

ーロリキター23区 THE コラム

りです。
Voの総史です。

すっかり春ですね。

ば僕はこの間、メガマソの豪くんと
ルゲームに参加してきました。

大切な顔を撃ち抜いてやりましたよ。
笑

のは冗談で、元から仲良かったんで
に仲が深まりました。

ガマソとの、2マンが4月24日に原
ロホールであります。

美しい顔の血豆を見たい方は、是非
越しください。うふふ。

の春的なNewsとして、5月8日に恵
ッドルームワンマンと、5月11日に、
」がリリースされます。

興味のある方は是非チェックしてみ

て下さい。

それから、それから、延期になったTHE LIVE ツアーは、夏開催予定です。こちらも楽しみにしていて下さい。

THE KIDDIE 佑聖

絶頂モンスターハイゲイン

第23回

カレーブームは永遠の佑聖です（･。･）

相変わらず究極のカレーを追い求めてる僕ですが、なんと最近とうとうやってしまいました。

はいそうですとうとう自分でナンを焼いちゃいました!!

作り方はいたって簡単で、ナン用の粉を買ってきまして、水と混ぜて焼くだけというもの。

だがしかーし!!
そんなに甘くはなかった!!

まずあれはコネコネするのがなかなか大変で、せっかちな僕にはライツー（辛い）な作業でした。

そして、だいぶのばさないとあの薄さに焼けないということ。

そもそも普通のフライパンではなかなか無謀なチャレンジだった!!

けど壁は高ければ高いほど燃えるじゃん？

恋愛だってそうなんだろ？　ナンだけに、そうナンだろ？

まあ結果粉っぽいバッサパサで変な形のナンとはとても呼べない物ができたよ。

食べた感想は、もちろんおいしくなかったな。

やっぱりナンはインドカレー屋さんで食べるのが一番だね（･。･）

そんな俺のインドカレー屋さんあるある聞きたい？

インドカレー屋さんあるあるその1!!
店員さんがやたら水を注いでくる。

インドカレー屋さんあるあるその2!!
怪しいミュージックビデオが流れている。

インドカレー屋さんあるあるその3!!
ラッシーがマジでうまい。これはガチ!!

そんな佑聖の究極のカレーを求める旅はつづく。

つーかいつからこんなカレーネタになったのだろうか（･。･）まいっか!!

さて先月の問題!!
魚を英語で言うと「Fish」
タコは「Octopus」
クラゲは「Jellyfish」
じゃあ「いくら」は？
もちろん
How muchだよね（･。･）

じゃあ今月の問題!!
小中大
中と大の間にもう一文字入れるとすれば、何が入るでしょう？

では、じゃらば。

DOON-FACTORY 第9回

ず
雫の
×まにあ半島〜一人旅

しぐらですねー。

りも近いですなぁー。

真剣に最後のワンマンツアーに向け体
や、筋トレ、いろんな面で自分をイジ
かもしれない…（笑）。

からランニングして最初は30分、徐々
てきたら1時にして、食べものもなる
ルシーに、筋トレはローラーと、背筋!!!

利で一日1万歩は歩きたいね!!!

食事制限とかはリバウンド済みなので
せんよ（笑）。

ウンド王SZK←スラムダンクか。

表し、直後大地震が起きて、ぶっちゃ
は何も手につかなかったような…。
友達、いろんな人に相談し、話を聞い
ったり、「バンド」どうこうじゃなく、
人間」としてたくさんいい経験をし
しれない。

入らずで親父と大好きな海外アーティ
来日ライヴ行ったり、普段親父と真剣
なかった自分だったけど、やっぱ親

は偉大であり、一生越せないと思うである（笑）。ゴルフのドライバーは勝てるんだけどなぁ…。
※オレちなみに280ヤードぐらいは飛ぶんだぜ←

思ったんだけど、親父登場しすぎじゃね??（笑）。別にファザコンじゃないよ←
ファルコンよ←ぇ

花粉症にもならず、インフルエンザにもならず、体調は常に万全!!!
※はやり目、親知らず以外（笑）。
人間健康が１番よ？

一日一日大切に。

待たなくても「明日が来るから」とか考えないで、今浮かんだ何かを行動に移せば何か変われるかもしれないよ?

昨日は戻らないのだから。そうそう、4月6日に初のアルバムをリリースさせてもらったんだけど、その中の曲でオレが歌ってるところが初めて入ったんだよ(ΦшΦ゛)

歌詞もオレが書いてたり（笑）。
以前はラップとかハモりだったんだけど、主メロになると音程も大事だけど、ニュアンスが１番大事よね。語尾を少しハスキーな枯れてる感じにしたりが大変だった…!!!!

ツアーまでもう少し!!!!!
前回のツアーなんて目じゃない程のパワーを見てくれよー(ΦшΦ゛)

…移動中の幸せなおともPSPがぶっこわれて新たなおともを探してんだけど、やっぱ3DSですかねぇ ?!（笑）。

またカメラマンSZKになるからパシャパシャ撮るでぇ !!!!!

じゃ、しずまにあ達は各地待ってろぃ !!!!

ばいちゃこきーん(ΦшΦ゛)ノ
今年日本はすごく大変だと思うけど、自分なりに被災地の力になりたいと思う雫より。

ドレミ團マコトの♪

月刊少年マコトピア

第86回　**3月のこと。の巻**

ずいぶん暖かくなりました、すっかり春ですね。マコトです。

先月、ここにも書きましたが3月、個人的に舞台に出演しました。

3月の初めから稽古が始まり、約1ヶ月間の間､バンド活動と両立というなかなか濃い1ヶ月を過ごしました。

正直、最初の方は、稽古も半分ぐらいしか参加できないかな？　とか思ってたんですが、結局、ほぼ毎日、しかも遅刻も無く参加しましたっ！

我ながら、頑張った♪

てか、みんな練習量がハンパない！　だいたい稽古はお昼くらいから夜まで、それをほぼ毎日って感じで、みんな早めに来て自主練したり…。

改めて、役者ってすごいなぁと思いましたね。

そう考えると、ほぼ1ヶ月間、キャストの皆と一緒に居る訳で、先月ここに書いた悩みの共演者のみんなと打ち解けれていないというのはすぐに解消されたね（笑）。

という事で、3月11日、あの瞬間も、稽古中でした。

みんなで稽古場をでて、近所の学校に避難し、その後、何時間もかけて帰宅し、翌日は稽古も無くて、一体自分は何をすればいいのか考えて、だけど何も出来なくて…。

本番が行われるかわからない状態ではあったけど稽古は再開して、そんななかで自分が出来る事、すべき事は、今、やろうとしてる事を全うする事だと決心し、それをする事で一人でも多くの人に笑顔を届ける事だと思いました。

色んなイベントが中止、延期になっている中、3月22日舞台初日を迎えました。

被災地から観に来てくれた方も居た。

1分、1秒を大切にかみしめながら全力で駆け抜けた1週間全9公演。最高の舞台になったと思います。

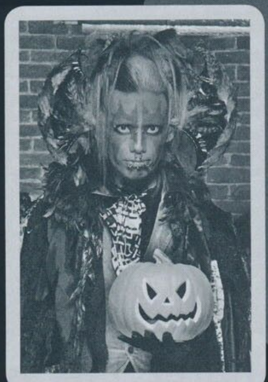
素晴らしい経験と出会いを財産に、今後もたくさんの人と笑顔を共有したい！　と強く思いました。

きっと、大丈夫。
また、みんなで笑おう！
絶対、会いにいくよ。

蝴蝶网
hudie.com

Mix Speaker's, Inc.

seekの凡人水族園 第百



東京に出て来て十年が経った。やはり東京という街は姫路の片田舎とは違い刺激も多い様に思う。多少人とずれた事をしていても都会の人間は兎や角言う事も無い。それだけ多種多様な人間が住み着いて居る。東京に出て来た頃の僕はそんな刺激多き街に随分と浮き足立っていたと思う。播州弁で言う所の「いちびったヤツ」だった。その当時ヴィジュアル界隈で流行り始めた「白目のコンタクト」を普段から装着し街を闊歩していた。

そんな東京に出て来て間もない或る日。初めて六本木という街を訪れた。DAISHI、AYA君と連れ立ってライヴを観に行ったのだ。ケバケバしい程の灯りと人混みに肩がぶつかりながらも赤髪ピアス白目のコンタクトの僕に目線を向ける人等いなかった。六本木交差点で信号待ちをしている時だった。2mにも届きそうな白人のオッサンが徐に煙草を差し出してきた。なんの疑いも無く煙草を一本戴いた僕は「センキュー」と彼に告げ青になった信号を渡り始めた。「さすが東京。異文化コミュニケーションやな」等と話していた瞬間。臀部への温もりと刺激を感じた。慌てて振り返ると2mのオッサンがニヤニヤと不敵な笑みを浮かべ僕の尻を揉んでいたのである。「コラコラおっさん。ワシ男や…ど」と言いかけて気付いた。オッサンは「そっち」の方がタイプのタイプだったのだ。時既に遅く「ヤメヤメヤメヤメヤメイ」と言った所で日本語の通じていないオッサンの手はエスカレートし後ろから前へとその範囲を移動させてきた。横観ればDAISHIが「こら。おっさん放さんかい」と突っかかっているが身長1mちょいしかないのでどう見ても子供が大人に甘えている様にしか見えない。AYA君と言えばもう既に100mは離れた電信柱から顔半分を出してこちらを覗いている。見た目は幾ら
にしても所詮は田舎者のガキだった僕ら
う手段を知らず慌てて近くのラーメン屋
び込んだ。完全にロックオンされてしま
ようでオッサンも平然とした顔で付いて
店員に事の次第を告げ警察を呼んでもら
とにした。数分後現れた警察は入ってく
り「揉めているというのは君達か。凄い
な。どこから来たんだ」と頭ごなしに責
ててきた。2mの白人男性を囲む赤髪と
と青髪。完全に見た目が災いしたのだ。
後警察にも事情を説明しオッサンもすご
と帰っていったが僕達にとって刺激の強
る六本木の夜だった。

あれから十年。僕の頭の色は赤から緑
変わった。あのオッサンは今夜も変わら
を探して彷徨っているのだろうか。

今月はこの辺で。しいくでした。バイ

DespairsRay マニアの覗き穴

第104ブレイク ZERO 編

こんばん
は。ZER　Oです。
最近は皆　様いかがお過ごしで
しょうか？　これが世に出る頃は震災
から1ヶ　月は過ぎた頃だと思います。
本当に大　きな傷跡を残したものになっ
てしまい　ましたね。沢山の
人の悲しみと苦しみが早く癒える事を　願いま
す。さてそんな中、3月に発売予定だった　CDとD
VDが4　月に延期
されて、今　頃は皆様
の手元　に届いて
いる頃で　しょうか？
あのライ　ブから早4ヶ月。当日の演奏曲が全て詰め込まれてい
ます。観る　だけでもなかなか大変なんじゃないかな？え？そうでも
ない？あっ　という間だって？流石っ！俺にとっては自分で観ていて
も一瞬一瞬　が凄く思　い出され
るDVDになりま　した。楽し　かった事
も、いっぱいいっぱいに　なってた　瞬間も全て
込み上げてきます。　だからな　のか長く　感じてしま
うのかもしれ　ません。　まぁきっとみ　んなの事　だからライ
ブDVDなの　にいつの　間にか叫ん　でたり、一　緒に歌って
たり、ヘドバ　ンしてた　り、拳突き上げて　いるであろ
う姿が俺　には容易　に想像　出来てしま
います。　それぞれ　の楽しみ　方でライブ
DVDを　楽しんで下　さいね。そ
してCD。　こちらは昔　で言う基本
B面曲が　詰め込ま　れています。
シングル　もアルバム　も全部持っ
てる！っ　て人からし　てみたらあ
んまり需　要はないの　かな？って
言うか全　部持ってたら　このアルバ
ムの意味　が…と…とりあ　えずね、初
回盤には　今までのPVが　全部収録
されたD　VDがつ　いてるから
要チェッ　クし　て下さい。
高画質で　是　非！！

ってな感じで、迷っていた方、興味を持たれた方、ぜひお買い上げよろしくお願いします！！
最後にバンドとして動けないこの状況の中、世の中に対して何も出来ない事に正直悔しい気持ちで一杯です。
でも出来ない事を悔やんでいてもしょうがないので、自分なりになにかやれる事はないのか？
色々模索しつつ、少しでも多くの笑顔を取り戻せたらなと思います。
少しでも早く世の中が良い方向へ向かいます様に。
ZERO

ギルガメッシュ CRAZY CHAIN

第11回 ■愁■

蝴蝶网
hudie.com

さぁさぁやってまいりました。ベース愁の番です。
これを皆が見てる頃は、桜の花も散りはじめ、暖かい季節になったあたりでしょうか？
新生活も始まり気分も一新してることでしょう。
そんな中ギルガメッシュはアメリカにおります。
なんでアメリカにいるのかって？
そう。ギルガメッシュは絶賛WORLD TOUR中なんです。
6月に日本ツアーがあるんですが、4月が初のアメリカツアー。
3月にはヨーロッパツアーがありました。
3回目のヨーロッパツアーなんで、わりと勝手を知った感じで順調にまわれました。
今回も凄く得るものがあったしツアーの移動は飛行機だったり列車だったりあるんですが、大体はベッドが十数個もある大型ツアーバスでの移動でして、ラウンジもついており皆でゴハンたべたり酒呑んだりDVD観たり出来るんです。
今回のツアーは移動中ほとんどそのラウンジにいたんですが、あるミュージシャンのDVDを皆で必死に観ていて皆はまってしまったんです。
僕もはまってしまった1人なんですが、そのミュージシャンの名は…
『長渕剛』さんです！
Wikipediaを見るといろんな話題が多い方みたいですが、ライヴー本に対しての集中力や準備がとてつもなく、更にはかなりストイックなんです。
鹿児島の桜島でのライヴ映像を観ていたんですがドキュメントも収録されており、ラ
観終わった頃には感動し、尊敬しました。
いやーやはり長年ミュージシャンをやっ
方には何か秘訣があるもので見習わない
けない部分も多いなぁと。
ミュージシャンだけではなく社会人にお
も何か考えることがあるような作品なん
非観てもらいたいです！

いやー長々と話しましたが、いま絶賛ア
カツアー中なんで、おもしろい話があれ
たしますね！
さぁお次はドラムのЯyoが連載書きます
お楽しみにね！

pray for JAPAN.

hudie.com

Moran Hitomiの「瞳孔反射」

第37回 『デビュー』

に、ついに、デビューしてしまいまし
粉症。生まれてこの方、完全に花粉的
だと思って生きてきた。花粉症で苦し
に「大変そうだね」とか心配するフリ
蒼人ぶりつつも、心の奥底では「俺に
なくてホント良かった～」と完全に調
っていた。それなのに、このザマであ
粉症というやつは、こういう風に例え
ができるらしい。一人一人が空っぽの
っているとする。そこに毎年毎年花粉
っていく。その花粉が箱から溢れたと
粉症というものは発症するらしいのだ。
箱の大きさも花粉が溜まる量も速度も
れ個人差があるから、子供の頃から既
してしまう人もいれば、一生発症せず
人もいる。つまり俺は今年、ついに箱
れちまったってわけ。
辛いってまず寝起き。花粉症用語では

これをモーニングアタックというらしい。鼻が詰まっているから口呼吸しかできず、更に抗アレルギー薬の副作用で口腔内の乾きが半端じゃない。目は眼ヤニで綺麗に塞がり、顔を洗わないと開けることすらままならない。床に入る瞬間はそれほど症状が出ていなくても、寝ているうちに苦しくて苦しくてうなされた揚句、「フガッ!!」という自分（の呼吸器官）の悲鳴で起こされることもある。

今年に入って花粉症の症状が出始めたとき、最初俺は現実を受け止めたくなかった。これは風邪かハウスダストなのだと、その現実を頑なに拒んできた。抗アレルギー済も、飲んで効いてしまったら花粉症確定なのだと思うと恐ろしくて、ずっと飲まずに我慢してきた。だけどもう否定できないところまできてしまった。いつまでも現実から目を逸らすわけにもいかないのだ。素直に花粉に白旗を振った俺は、周囲に打ち明ける。花粉症デビューしちゃったかもしれないと告げたのだ。すると、なぜかどいつもこいつもちょっと嬉しそうな反応をする。中には満面の笑みで、嬉しさほとばしる感じで、「お～～～、ついに仲間だね～。辛いでしょ」ってウェルカムしてくれる奴もいる。いやぁ、君らの仲間にだけはなりたくなかったよ…。

アレルギーと言えば、まだFatimaだった頃、ある日突然高熱（たしかインフルエンザ）を発症した時、熱と併発して全身に痒みを感じた事があった。高熱は3日ほど続いて、治まったのだが、いつ何時も常に体が痒くて仕方ないという症状がそのまま残ってしまった。

病院へ行き血液検査を受けると、アレルギー物質に対し、過剰に反応が出る慢性じんましんだと言われ、特にハウスダストの反応数値が高いと言われ、花粉も危険ラインだと言われていたので、多少の覚悟は出来ていたと言えば、そうなのだが。

この突如発生した慢性じんましん、高熱がきっかけだっただけに、すぐに治るだろうと高をくくっていたのだが、結局、年単位で付き合う事になった。とにかく病院へ行くのが面倒で、月に一度先生と「どうですか？　何か改善されてきましたか？」「いいえ、全く…」という不毛な会話を繰り返し、「アレグラ」「IPD」という薬を処方され続ける事一年、薬による一時的緩和はあるものの、薬が切れる度に体が痒くなるので、まったく改善の兆しは無かった。そこで先生のお薦め治療の一つとして、漢方を飲む事になったのだが、細粒の漢方薬というのは錠剤やカプセルの薬を飲むのと違って、すごく不快なものだった。それでもこの体質が治るのであればという希望を元に、それから一年半は我慢して続けていた。

相も変わらず先生との「どうですか？何か改善されてきましたか？」「いいえ、全く…」というやりとりは続き、発症から二年半ほど過ぎたころ、ついに先生から新たな治療案が提示された。血液製剤の注射だ。これはアレルギー物質に対し、体内に抗体を持った人の血液から作った薬を注射し、自分の体内でも抗体の生成を促すとか、そんな治療方法だった。週に一度注射をし、それを6週間連続で行った後、1～2カ月間をあけ、再び6週間の注射の繰り返し。三度目のクールが始まった時だった、「これで改善されなかったら、注射での治癒は望めない」と言われ、なかば諦めかけていると、なんだか痒みを忘れながら生活している自分に、ふと気がついた。それから数が月、時折体に痒みを感じる事があっても、ほとんど発症しないまで回復した。約三年という長いアレルギー生活だった。

それから数年後、なにかの病気をやった時、再びその病院を訪れた時、久々にその先生に会うと、「あら人見さん、久しぶり。アレルギー良くなって本当によかったわね」と言われ10歳位は年上の先生に、ほんのちょっこーーーーーーーーーっとだけトキメキました。

花粉症を発症し、あの長いアレルギーとの戦いを思い出し、憂鬱な気分ですが、もしかしたら、また何かの治療で治ったりしないかな、と微かな期待も捨てずにいます。誰か、いい花粉症対策教えてください。（切実）

この度の東日本巨大地震により、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。尊い命を無くされた方々のご冥福をお祈りするするとともに、ご家族及び関係者の皆様に心よりお悔み申し上げます。現在、災害状況がすべて把握されておりませんが、一人・一頭でも多くの命が助かり、一日も早く復旧・復興されることを切に願っております。

ヴィドールの 美doll? 散

第九十一体目 シュン の巻

粉症で苦しんでるシュンです。
世間は色々と騒がしくて、でも俺は毎
と生活してて。
決まってても震災がきても時間は全然止
いっていう。
気づけばもう今年も4月になっててね。
すぎるのは本当に早いなって思う今日
です。
ールに入ったのが2005年の7月。

今はもう2011年だし約6年の月日が過ぎたってちょっと信じられない。
人生の中できっと最も充実してて、がむしゃらな6年だった。
ライヴしてツアーして曲を作ってレコーディングして。
思い返したら楽しい事ばっかりではなくて、でも楽しい事もたくさんあって。
一生バンドだけで生きていけたらきっと楽しい人生だろうけどね。
結局そうはいかないから解体を目前にしてるわけで。
いつかは夢から覚める日が来るのかな、って頭によぎりつつも考えないようにしてた気がする。
何度も全国まわってそれを楽しみにしてくれるみんながいて。
いっぱい支えられて、辛い時に何度も救ってくれたみんなに一番伝えたい事は本当に今までありがとう、って事。
この気持ちは言葉で簡単に言えるほど軽いものじゃなくて。
でも今までみたいにCDや曲作りで返せるわけじゃないから。
せめて最後の新木場はヴィドールを好きでよかった、応援しててよかったって思ってもらえるようなライヴにしたい。
これからメンバー5人ともそれぞれの道を進んでいくと思うけど最後に本当の意味でみんなと一つになった姿を見せれたらいいな、って思います。
5月7日、みんな楽しみにしててね。
これでこのコラムも最後になるけど今まで本当にありがとうございました。
またいつかヴィドールとしてみんなに会える時がきたら笑顔で会いましょ。
またね！

heidi.『ハイジのアルプス日記』

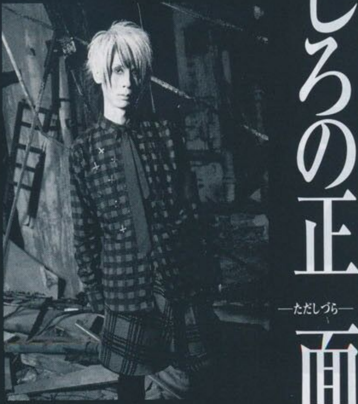
第24回：桐

みなさんこんにちは。ドラムの桐です
この号が発売されている現在heidi.はツアー真っ最中です。
そして今回のツアーはheidi.五周年ツアーです！
一つ一つ築いてきた五年があって今があるんだよね。長いようであっという間の五年だったな…（しみじみ）。
まぁ感傷的なのはこのくらいにして！　あくまで五年っていうのは通過点でらね。まだまだこれから！
このツアーで、これまで応援して僕らを支えてくれたみんなにありがとうの気持ちを伝えられるツアーにしたいと思っています！

そして、震災の影響で大変な思いをされてる方がまだまだ本当に沢山いると思います。
日本中が笑顔になれるように、こんな時だからこそお互い思いやりを持って支え合ってこうね！

蝴蝶网
hudie.com

うしろの正面
—ただしづら—



第142回
by 長谷川 正
/Plastic Tree

皆様こんちくわ。まずは東日本大震災において被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。この状況に際して、我々プラスティック トゥリーとしても可能な限り力になれることを思案しながら「アンモナイト（小）」というツアーを行っています。この悲しい出来事を目の当たりにした人々の心に、音楽という存在が少しでも灯りを点すものになってくれたら…と願うばかりです。今はただ、ベースをかき鳴らせる自分が存在出来ている事に感謝しながら、一つ一つのライヴを大切に作りあげて行こうと思ってます…もちろん、足を運んで頂ける皆さんと共に。

麺は固め!!
第155回　by 竹入隆行

地震がおこり、生活、心構え等が一変された人も少なくないと思います。

思っていたより世界中の国々の方々に助けて頂けたり、思っていたより人々が優しく、誠実に対応、支援をしている様子を知って、嬉しく思いました。

しかし、やはり心ない被災につけこむ犯罪もおこっています。悲しく、悔しい現実です…。

作詞をするため、「人間とは…」なんて考える度、気が狂いそうになるくらいの嫌な人間の一面です。

ところで、そんな極端な例ではなく、一般的な事なんですが、被災者、被災地支援に皆さんが頑張っています。
本当に素晴らしい事やと思っています。

しかし、たまにいろいろな事で矛盾や疑問を感じてしまう…。

「チャリティー」
有名人が集まって募金を募る…もちろん、良い事です、100% 正しいです。
でも「有名人に会いに行ってついでに募金」なんて言葉にしてしまうとなんか…。
もちろんついでにでも募金は頂きたいやろうし「きっかけ」になれば、という事なんやろうけど、きっかけがなければ募金しないの？…なんて事も考えてしまって、訳がわからなくなったりします。
逆に、僕らはバンドをやっているので、「チャリティーライヴ」なんて事をさせて頂く機会があります。

しかし、ライヴというのはプロモ
ションの意味も少なからずありま
チャリティーライヴに乗っかって、
前を売る。なんて事も可能っちゃあ
能な訳です…。

難しいです…。

何が誠実で何が誠実じゃないのか…

結局、個人個人ですよね…。
手探りで自分の出来る事を見つけ、
に進むしかないのですが、それって
震がなかったとしても同じ事やった
…

「常に誠実であれ」って事ですね。

とにかくみんなで頑張りましょう！

押忍！

SHOCK WAVE アポロ Vol.50

2011年5月18日（水）高田馬場AREA

★★★★★★★★★★★★★★★出演★★★★★★★★★★★★★★★

ケミカルピクチャーズ＊トーマス＊ポルターガイス
MEJIBRAY＊RAVI＊シンディケイト

毎月18日は、本誌イベント『SHOCK WAVE アポロ』の日♪
毎回、多彩な顔ぶれのバンドが競演！　5月のアポロもお見逃し無く♪

チケットは、イープラス（http://eplus.jp）ローソンチケット（Lコード予約 htt
l-tike.com　Lコード：74753）AREA店頭にて、絶賛発売中♪
※バンド予約は一切ありません。

詳細は
音楽専科社 HP [http://www.ongakusenkasha.co.jp/]
携帯サイト：音楽せんか？ [http://mobile.ongakusenkasha.com/]

（問）高田馬場AREA ☎03-3361-

Mix Speaker's,Inc.
待望のNEWアルバム発売決定！
◆インストアイベント開催に向けて準備中！
◆オリジナル予約特典考案中！

boogieman [-monopolize-]
待望の新作! 4/20発売!!CD¥1,575
◆インストアイベント開催決定！
・2011年5月3日(火・祝)PM7:00〜
・トーク&サイン&握手会(サインは私物1点)
◆オリジナル特典
・コメントDVD&アーティストカード

ゴールデンボンバー
★僕クエスト★6/1発売！
・[初回限定盤A]¥1,500
・[初回限定盤B]¥1,500
・[初回限定盤C]¥500
・[通常盤]¥1,000
◆オリジナル特典交渉中！

Lycaon
-情欲のアクメ-
4/27発売!!CD¥2,800
◆オリ特付！
インストアイベント
5月8日AM11:30〜
トーク&握手&サイン！

DDIE
DV¥1,575
260
が発売決定！
約特典付！

exist†trace
6/15Debut!【TRUE】
・[初回盤]¥2,400
・[通常盤]¥2,100
オリジナル予約特典の詳細はwebで

FEST VAINQUER
-BLAZE-
5/11発売!
M-CDs¥1,260
※オリジナル特典等、詳細はWebにて！

xTRiPx
【Disturb [da] bordeR】
・[初回盤]¥2,100・[通常盤]¥1,575
発売中！
オリジナル予約特典、イベントの詳細はwebにて！

V-last.
待望のNewシングルリリース！
発売中「L-GAME」¥1,890/¥1,260
オリジナル特典付！
インストアイベント開催決定！
詳細はWeb siteにて！

R指定
ソメイヨシノ
発売中[初回A]¥1,890
発売中[通常B]¥1,575
◆各タイプにオリジナル特典付！
◆インストアイベント開催！webにて！

gil
romise
¥1,890・Btype¥1,575
オリジナル特典付き！
インストアイベント開催！
その詳細はWebにて！

凛 待望の新作発売！ 凛
Flowers Bloom
☆5/25発売M-CDs+DVD「TYPE-A」¥2,100
☆5/25発売M-CDs+DVD「TYPE-B」¥2,100
オリジナル予約特典など詳細はwebにて！
☆その場で当たる！スピードくじキャンペン実施中！

Arc
【End at time】
★発売中2CD¥3,675
オリジナル予約特典
コメントDVD+アーティストカードセット！
◆インストアイベント4月23日開催決定！

Administrator
【Shining!】
▼発売中 CD+DVD[限定盤]¥1,890
▼発売中 CD[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典付♪
インストアイベント開催決定！

PERESTROIKA
【PAИZ】
4/20発売[typeA¥3,150][typeB¥2,625
◆オリジナル特典付き！
イベント開催決定！詳細はwebにて！

ベット
発売
2,625・Btype
ナル予約特典
決定！詳細はwebにて！

待望のメジャーデビューアルバムリリース決定
lynch.
【I BELIEVE IN ME】
CD+DVD通常盤¥3,000
※オリジナル予約特典考案中！

DragonWAPPPPPPER
「ONE' sLIFE」
▼発売中 CD+DVD[限定盤]¥1,890
▼発売中 CD[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典付！

Kaya
「QUEEN」
▼4/20発売 CD+VD[TypeA]¥3,675
▼4/20発売 CD[TypeB]¥3,150
待望のNEWアルバム！
◆オリジナル予約特典等交渉中！

ギャロ
[大魔王]
6/15 ¥1,500
▼オリジナル予約特典付
6月19日イベント開催決定！

イトメア
ル3typeリリース！
RMILION.】
-CDs+DVD ¥1,890
-CDs+DVD ¥1,890
M-CDs ¥1,260
予約特典考案中！

the GazettE
【VORTEX】
待望のNEWシングルリリース！
2011/5/25発売決定！
Optical ImpressionM-CDs+DVD¥1,785
Auditory Impression】M-CDs¥1,260
※2種同時予約購入特典考案中！

ダウト
★発売中【ONE】
・初回A¥1,890
・初回B¥1,890
・通常盤¥1,575
オリ特付！
イベント5/7開催！

SCREW
★発売中【DEEP SIX】
・初回A¥1,890
・初回B¥1,890
・通常盤¥1,575
オリ特付！
イベント4/24開催！

vistlip
▼待望のNEWシングル！
「SINDRA」
★A回vister CD/VD ¥1,890
★初回lipper CD/VD ¥1,890
★通常盤M-CDs¥1,260

▼インストアイベント開催に向けて、日程調整中！
▼さらにオリジナル予約特典も現在、考案中！
詳細はwebにて！

◆◆◆送料改定のお知らせ◆◆◆
送料全国一律500円⇒400円
日頃の感謝の意を込めて、従来の送料より100円値下げ致します。送料はプライスダウンさせて頂きますが、現状と同様にヤマト運輸を利用し、変わらぬ配送サービスにて、お荷物をお届け致します。
※2010年3月31日までに受注致しましたオーダーに関しましては上記の価格は適用されません。

Brand X

リース！
SALE!!
¥1,980
¥1,980
¥1,575
予約特典
開催決定！
websiteにて

BORN
【DEMONS】6/15 DROP!
☆「初回限定盤」¥2,625
☆「通常盤」¥1,575
★インストアイベント開催決定！
・7月2日(土)・PM6:00〜
・TALK OF THE DEMONS〜
アナタノタメニに囁きます。&握手会♪
※オリジナル予約特典などの詳細はwebにて！

現在、店内にて破格値コーナーを設置！
様々なアイテムが¥100、¥300、¥500、¥700と4つの価格帯にて大奉仕中！
お近くにお寄りの際は是非ご覧下さい！

アンド
★5/4 on sale『TRIGGER』
★「A-TYPE」CD+DVD¥2,730
★「B-TYPE」CD¥2,415
◆オリジナル予約特典：各タイプに考案中！！詳細はWebにて！

アンド
◆インストアイベント開催決定！
・2011年6月19日(日)
・PM4:30〜PM6:30
・KAJIプロデュース企画&握手&サイン会!
※参加方法などは、当店web siteをご覧ください。

イト
ース！
-smeh-16/1発売！
-A M-CDs+DVD¥1,890
YPE-B M-CDs¥1,575
ジナル予約特典付！
イベント6月26日開催決定！
ノート】7/13発売！
E-A M-CDs+DVD¥1,890
PE-B M-CDs¥1,575
ジナル予約特典付！
イベント7月31日開催決定！

樹威[VIDOLL]
[XI(エルフ]
4/20発売
初回盤¥3,800
通常盤¥3,150
オリジナル予約特典や、インストアイベントなどの情報は当店web siteにて！

DaizyStripper
待望のシングル！5/18発売決定！
【KISS YOU】
・A-Type M-CDs+DVD¥1,680
・B-Type M-CDs+DVD¥1,680
オリジナル予約特典考案中！

イロクイ。
【ニューシングルの発売が決定♪】
▼曖昧ストライプ
発売中！M-CDs+DVD¥1,600
◆オリジナル特典：ブランドエックス オリジナル フォトカードセット（個人5枚組）
◆イベント開催決定！
・イベント日時：2011年5月7日（土）PM6：00〜

ケミカルピクチャーズ
拝啓．．．
詐欺的道化師音楽愛腐女子様方へ所詮戯戯レ言サレド純粋無垢ナ音楽
★3/23[初回(専門店限定盤)]¥2,520
★3/23[初回(全国流通盤)]¥2,520
★3/23[通常盤]¥1,890
※各タイプにオリジナル予約特典付！
※インストアイベント開催決定！webにて！

Moran
【Apples】
★Z皿未発表音源7タイトル収録！
発売中 CD¥2,625
◆インストアイベント開催決定！
・2011年5月21日(土)PM7:00〜
◆オリジナル予約特典付き！

PICK UP ITEM
大佑と黒の隠者達
【漆黒の光】
☆4/20発売CD+DVD¥3,990
☆4/20発売CD¥3,150
※初回入荷分にはポスター付！
さらにアーティストカードSET付

※自主盤制作の音源持ち込み大募集！！
※委託販売、承ります。
詳しくは一度お電話にてご連絡下さい！！

Brand X webshop

通信販売をご希望の方へ
通信販売をご利用の際は必ずお読みください!!
当店の通信販売は①代金引換(着払い)と②先にご送金して頂く方法の2通りがございます。下記の注文方法をご覧の上、どちらかをお選びください！！また、どちらの方法でも「クロネコヤマトの宅急便」によるお届けとなります。一度お受けしました商品のキャンセルは固くお断りしております。

①代金引換（着払い）とにかく早く商品がほしい人！！
TEL・FAXまたは、葉書にて希望の商品・あなたの住所・氏名・電話番号をお知らせ下されば、すぐに商品をお送り致します。(FAX/ハガキの場合は第2希望まで明記してください。)※予約の場合は、商品が入荷次第ご発送致します。
▼
商品到着時に商品代金＋送料(全国どこでも¥700)を配達員にお支払い下さい。商品の到着は、ご注文から1日〜2日です。※予約の商品は当店に入荷してから1日〜2日でお届け致します。
▼

②先にご送金して頂く方法 なるべく安くほしい人！！
TELにて在庫の確認をして下さい。そして先に送金することをお申し付け下さい。
※予約の場合は入金確認後の受付になりますので発売日前までにこちらに到着するようにご送金下さい。
▼
現金書留・郵便為替
商品名、数量を明記の上、商品代金＋送料(¥400)をお送り下さい。
※予約の場合も同じです。

郵便振替
商品名を通信欄に明記の上、商品代金＋送料(¥400)を下記の口座にお振り込み下さい。
※予約の場合も同じです。
口座名：(株)ブランドエックス
口座番号：00130-9-147670
※振込手数料は、お客様のご負担となります。ご注意下さい。

銀行振込(webshopご利用の方のみ)
当方から送信される受注確認メールをご確認の上、下記口座に指定金額をお振り込み下さい。
銀行名：イーバンク銀行 タンゴ支店
口座種別：普通
口座番号：7009021
口座名：(株)ブランドエックス
※振込手数料は、お客様のご負担となります。ご注意下さい。

入金確認後、1日〜2日で商品をお届け致します。
※予約の場合は、商品が当店に入荷後、1日〜2日でお届け致します。

ランドエックス
p://www.brand-x.jp

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-2-5 池袋サンシャインプラザB1F
TEL. 03-3980-6780 am11:30-pm8:30 年中無休

通信販売をご利用のお客様で来店イベントに参加ご希望の方は、必ずご予約時に当店スタッフまで「イベント参加希望」とお申し付け下さい。

次号Vol.221予告

5月21日全国一斉発売!

☆久しぶりに、5人全員で表紙巻頭を飾ってくれたナイトメア。カメラマン・宮脇巨匠に、デザイナー・石松氏、ヘアメイクのよりちゃん。スタッフも、昔からの顔なじみの面子がそろっている事もあり、順調に進む撮影。表紙巻頭の撮影には、平均3～4時間ほど撮影時間（メイク・インタビューは別）がかかる事が多いのですが、この日は今までで最速ではなかったでしょうか!? 撮影時間、1時間ちょっと!! メンバーも、事務所社長N氏もびっくりの、スムーズ進行♪ その分、インタビュー時間をじっくりと取れ、ロング・パーソナル・インタビューと言う形で、お届けしています。そして、先月から始まったViViDのパーソナル・企画第2弾は、Dr.Ko-kiの登場です。ショップ店員と言うことで、実際の店舗をお借りしての撮影。営業時間前の早朝からの撮影にも関わらず、大好きな洋服に囲まれて、終始テンション・マックスのKo-kiでした。(S)

☆有村さんの毎年恒例撮影。今年は突如、牛久大仏に行ってきました。なぜ牛久だったのか……この企画のヘアメイクを手掛ける田中BOB氏が、“大仏がいい”と言ったからなのでした（笑）。3年ぐらい前から、“どんな撮影をするか”ということよりも“みんながどこへ行きたいか”という企画になりつつあります。果たして、来年はどこへ行く!?

ギルガメッシュのツアーを観るべく、ロンドンへ。会場のO2 Academyは、渋谷Oグループのように大小様々なハコが各地にあるそうで、今回はいわばO-WESTクラス。“次に来る時には、EASTとかアリーナでやりたい！”と意気込んでいたメンバーでした。(A)

☆DaizyStripperのシングル・インタビュー中のお話。Daizyのメンバーは本当によく発言するのですが（止めなければずっと話し続ける勢い）、今回はなおと風弥のやり取りが微笑ましいかったのです(笑)。なおが風弥とのレコーディングのエピソードを熱心に語っているのは原稿からも伝わると思うのですが、とにかく終始なおが風弥の方を向いて座っている。しかも隣なのにですよ？ どんだけ好きなんだ（笑）。相当可愛いやつだな、なお。そしてthe GazettEは最新シングル『VORTEX』の全員インタビューをお届けしましたが、来月号は表紙巻頭特集で登場です！ さらに深く掘り下げての特集。お楽しみに！（T）

来月の表紙&巻頭特集は
SHOXX Vol.221

the GazettE

待望のシングルを引っさげ、ヤツらが登場!!

右記のバックナンバーを希望の方は、定価に送料（1冊＝¥140、2冊＝¥220、3冊以上は全て¥450）を加えて、切手代用または小為替で、〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックスビル5F音楽専科社経理部「SHOXXバックナンバーVol.○」（○の中に号数を入れる）係まで申し込んで下さい（ただし、付録ポスターが付いてない場合もあります。ご了承ください）。
また、近くの書店でVol.221（5月21日発売）を買いそびれないようにするには、書店へ予約しておくと便利です。

バック・ナンバーのご案内

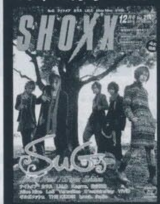
Vol.213
10年11月号 ¥1250

■創刊20周年特別号■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ムック8ページブックinブック封入■シド■ナイトメア■Alice Nine■Plastic Tree■Kagrra,■Versailles■LM.C■SuG■ViViD■heidi.■ギルガメッシュ■THE KIDDIE

Vol.208
10年6月号 ¥980

■西川…
（ナイト…
紙18ペ…
the Ga…
竜太朗…
Sadi…
KIDD…
（Kagr…
ヴィドー…
メッシ…
SCREW…
ViViD…
FACTO…
man■人…

Vol.214
10年12月号 ¥980



■SuG巻頭&表紙16ページ特集■LM.C8ページBook in Book封入!!■ナイトメア■Alice Nine■イガグリ千葉（仙台貨物）■Kagrra,■Lc5■THE KIDDIE■ヴィドール■Sadie■ViViD■Kanon×Kanon■BREAKERZ■jealkb■D'espairsRay

Vol.209
10年7月号 ¥980

■彩冷え…
14ペー…
トメア■…
有村竜太…
Tree■…
Nine■…
heidi…
D'espa…
Versail…
■零乃×…
■seek…

Vol.215
11年1月号 ¥1200

■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ViViD 8ページBook in Book封入!!■シド■Over The Edgeスペシャルセッション■ナイトメア■ムック■Plastic Tree■Alice Nine■AYABIE■THE KIDDIE■Lc5

Vol.210
10年8月号 ¥980

■ナイト…
紙20ペ…
TRIBA…
Vol.10…
Kagrra…
■THE…
■長谷川…
■Over…
OSAKA…
boogie…
Speake…
コト×ユウ…

Vol.216
11年2月号 ¥1200

■ViViD巻頭&表紙16ページ特集■YOMI（ナイトメア）■沙我（Alice Nine）■Plastic Tree■LM.C■D■ギルガメッシュ■D' espairsRay■陰陽座■AYABIE■Mix Speaker' s,Inc.■ゾロ■DaizyStripper■アンド■HERO■Waive■NoGoD■東京ミカエル。

Vol.211
10年9月号 ¥980

■the…
&表紙2…
■YOM…
イトメア…
（ViViD…
Tree■…
■Kra■…
■マコト…
Sadie■…
メッシュ…
Fatima…

Vol.219
11年5月号 ¥1200

■Plastic Tree巻頭&表紙12ページ特集■RUKI&戒（the GazettE）パーソナル・インタビュー■YOMI&Ni~ya（ナイトメア）■LM.C■ムック■武瑠（SuG）■怜我（ViViD）■Kagrra,■葵■Kra■ドレミ團■Sadie■SCREW■PENICILLIN■BREAKERZ

Vol.218
11年4月号 ¥980

■咲人（ナイトメア）巻頭&表紙16ページ特集■シド■the GazettE■SuG■AYABIE■Kagrra,■ViViD■Over The Edge'10スペシャル対談■ギルガメッシュ■Moran■Mix Speaker's,Inc.■ヴィドール■jealkb■DOG inTheパラレルワールドオーケストラ■ダウト

Vol.217
11年3月号 ¥1200

■Alice Nine巻頭&表紙18ページ特集■the GazettE 8ページBook in Book封入!!■シド■ナイトメア■ミヤ（ムック）■葵from彩冷える■ギルガメッシュ■一志（Kagrra,）■LUNA SEA■Kra■SuG■ViViD■THE KIDDIE■DOG inTheパラレルワールドオーケストラ■…×…■…EL■D'espairsRay■12012■heidi.■Sadie

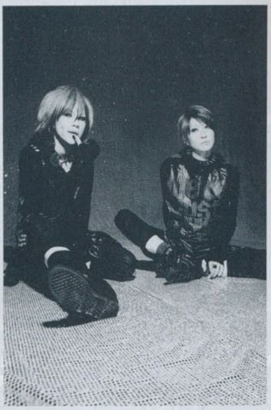
Vol.212
10年10月号 ¥980

■Alice…
紙14ペ…
the Ga…
樒&咲人…
■Kag…
葵 fro…
LM.C■…
SuG■…
■ViVi…
シュ■2…
-23区■…

蝴蝶网
hudie.com

.M.C

イン入りフォトを1名様に
現物にはサインが入ります。



DaizyStripper

リジナルシュシュを3名様に

boogieman

イン入りポスターを4名様に

2 有村竜太朗(Plastic Tree)

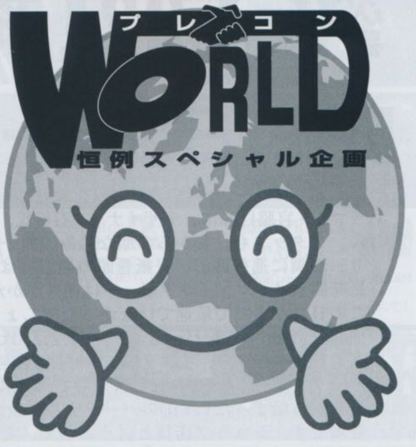
サイン入りフォトを2名様に
※現物にはサインが入ります。

3 ムック

サイン入りフォトを4名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。

4 Ko-ki(ViViD)

サイン入りフォトを2名様に
※現物にはサインが入ります。



2011年3月11日に起こった、東日本大震災において、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。たくさんの尊い命が犠牲となってしまった今回の大地震…。被災地では、なお不安な生活を送られている人達がたくさんいるという現状。今、私たちが出来る事、すべき事とは…?よく考え、行動に移したいと思っています。一日も早い、復興を願って……。さて、今月の画伯さんは…ムックの逹瑯くんです！ YUKKEくんの似顔絵!?

1 ナイトメア

サイン入りフォトを5名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。

蝴蝶网
hudie.com

⑫ 少女-ロリヰタ-23区

ミラーを3名様に

⑩ KISAKI

サイン入り非売品ステッカーを5名様に

⑧ HERO

サイン入りチェキフォルダを2名様に

⑬ ギルガメッシュ

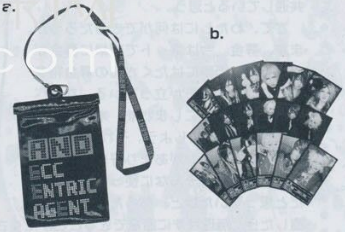
ヨーロッパツアーのスタッフパスを1名様に

⑪ アンド

a.パスケースを1名様に
b.エージェントバトルカードをセットで1名様に

a.

b.



⑨ v[NEU]

最新サイン入りチェキを5名様に(誰のが欲しいか書い

プレコンWORLDアンケート用紙 VOL.220

住所	〒	TEL　（　　　　）			
氏名	フリガナ		年齢		男・女

★A. よかった記事の番号を良かった順に3つあげてください。

1	2	3	理由

★B. 好きなアーティスト・バンドは？
(　　　　　)(　　　　　)(　　　　　)

★C. 最近気になっているアーティスト・バンドは？
(　　　　　)(　　　　　)(　　　　　)

★D. 今月号に対する意見・不満・または希望企画を聞かせて下さい。

★E. 希望プレゼントの番号(P136～137)

番

イラスト：達瑯（ムック）

アンケートのお願い

●アンケートに答えて、用紙を切り取り、はがきに貼って送ってね。コピー不可
●宛先は〒104-8228　銀座６－２－３　Ｄａｉｗａ銀座アネックス5F
音楽専科社　SHOXX 編集部　プレコン WORLD 係まで。
●締め切り：2011年5月21日当日消印有効
当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆今月の記事一覧（アンケート）

①ナイトメア　②the GazettE　③有村竜太朗(Plastic Tree)　④ムック　⑤SuG　⑥Ko-ki(
⑦LM.C　⑧THE KIDDIE　⑨DaizyStripper　⑩boogieman　⑪HERO　⑫v〔NEU〕
inTheパラレルワールドオーケストラ　⑭KISAKI　⑮アンド　⑯Versailles　⑰樹威　⑱
⑲ベルベット　⑳リルト　㉑PERESTROIKA　㉒少女-ロリヰタ-23区　㉓真緒(Sadie)　㉔
メッシュ　㉕アーティストBOX　㉖早耳情報　㉗一筆入魂!! ザ・ミッション　㉘ロックンロール

イラスト：AKEMI OHSHIMA

大島暁美のロックンロール日記

東日本大震災により被災された方々に、心よりお見い申し上げます。

3月11日。それは、先月のロックンロール日記の原を書き終えた数日後だった。未曽有の大地震、大津。原子力発電所の事故、水素爆発、放射能漏れ、汚水排水、計画停電、買いだめパニック、風評被害、国人避難命令……。日本人の誰もが今まで経験したとのない過酷な出来事が、次から次へと襲ってく。テレビの映像はいつか見たパニック映画みたいだ、新聞や雑誌に踊るセンセーショナルなタイトルはF小説みたい。でも、これは、現実だ。

あ、今、またかなり大きな地震があった。わたしはいマンションの11階に住んでいるので、発表され震度よりも体感震度がかなり大きい。3月11日のは立っていられないくらいの揺れだったし、その後余震で地震酔いになってしまったくらいだ。しかも下に飾ってあるバリ島から持ち帰ってきた木彫りのインドーチャイムが、地震のたびにシャラララーン、ャラララーンと音を奏でる。普段はその音に癒されいるのに、不気味なことこのうえない。古い建物がシミシきしみ、ウインドーチャイムがシャラララー……。しばらくはこの不協和音の合奏で、気が休ま暇がなかった。

テレビでは、言葉を失うほど悲惨な被災地の様子や、災された方々の映像がたくさん映し出されている。切な人を失い、家を失い、お金も仕事も失ってしまっ方々。それなのに「生きているだけで、幸せ」といっ、一つのおにぎりを分けあって食べている。譲り合っ、助け合って、涙を隠して必死に微笑もうとしてい。なんて美しいんだろう。すべてを失っても希望を捨てずに、前向きに生きようとしてる方々。人間って、本人って、こんなに素晴らしいんだとととても感動し。本当に、頭が下がる想い。それに比べて、買い占に走る東京の人たちの醜悪なこと。みんな自分のこしか、考えてない。スーパーの店頭から一気に消えお水だってトイレットペーパーだって、みんなが冷静自分の使う分だけ買ってれば、品薄になんてならなったはずだ。

震災が起こって以来、ずっとテレビとパソコン（主、Twitter）の前に張りついていた。どうしたらいのかわからなくて、そうするしか術がなかったとうのが正しいかもしれない。おかげで、今まで知なかった情報をたくさん知ることができた。政府は、ネットにはいい加減な情報が飛び交っているから信ないように」とお達しを出したみたいだけど、内外の学者さんが科学的データに基づいてきちんと発表しものもたくさんある。今まではせっかく発表しても目の目を見なかったのに、震災がきっかけで注目されページも多かったようだ（皮肉だね）。すべてを鵜みにするのは危険だとは思うけど、少なくても震災前よりはずいぶん原発のことに詳しくなったと思う。

「今、自分にできること」……そんな言葉を、最近く耳にする。誰もが自然の力の偉大さに圧倒され、作った本人にすら制御できない悪魔の機械=原発の惨状を見て、どうしようもない無力感を感じている。そんな中、「何かしたい」「何ができるんだろう？」と模索している人も多い。わたしもそんな一人だった。この状況を、パソコンの前で指をくわえて見ているだけではいられない。できることなら被災地に飛んでいって、炊き出しとか物資の仕分けとか、非力でもできることでお手伝いがしたいと思った。でも、混乱が続く被災地に生半可な気持ちで行ったって、プロの方の邪魔になるだけだろう。力仕事ができるわけもないし、医療ができるわけでもない。

たくさんのミュージシャンが、震災直後からそれぞれの方法で被災された方々をサポートしている。Twitterやblogで励ましの言葉を送り、みんなが元気になれる音楽を作る。基金を作ったり、募金を呼びかけたり、チャリティ番組をやったり。実際に被災地に物資を届けて、その様子をUSTREAMで中継したり、たくさんの写真と共にblogにアップする人もいた。一方、テントや寝袋を持って現地入りし、マスクで顔を隠してガレキの除去作業を手伝っている人もいる。考え方や手段はそれぞれだけど、みんな気持ちは一つ。被災された方を勇気づけ、明るい未来を取り戻そうという想いは全員に共通していると思う。

さて、わたしには何ができるだろうか。まず、募金。今はネットで簡単に募金ができるし、街頭にはたくさんの募金箱を持っている人たちが立っている。なるべく小銭はお財布にしまわず、ポケットに入れておくことにしよう。それから、節電。もともとエアコンがあまり好きじゃないので、電気代はそんなに使ってないほうだと思っていたけど、あらためて検証し直したら、無理せずに節電できることがたくさんあった。とりあえず、出かける時は細目にコンセントを抜くことにしよう。その方が、安全だしね。そして、買いだめをしないこと。朝のジョギング・コースに早朝からやってるスーパーを組みいれて、毎日、その日に食べる分だけ買い物をすることにしよう。買いすぎて腐らせちゃうこともなくなるから、これも一石二鳥だ。

Youtubeで被災された東北の造り酒屋の方が、「みなさん、花見をして、東北のお酒を飲んでください」と呼びかけている映像を見て、「東北のお酒とつまみ限定飲み会をしようかな」とTwitterでつぶやいたら、たくさんの方から反応をいただいた。東北の方がとっても喜んでくれて、いろいろ美味しいお酒やお勧めのおつまみを教えてくれた。これもわたしたちのできることのひとつなのかなと思いつつ、ただ今準備中。来月号では、その様子をお知らせできると思うよ！

震災後、たくさんのライヴやイベントが中止、延期になってしまった。Viju☆Love☆Nightも震災の翌々日だったので、交通やお店もとても開催できる状態ではなく、オーロラ三人娘オリジナル曲「オムライス」をみんなで踊ってPVを作っちゃおうパーティという初めての企画などを準備していたのだけど、残念ながら中止に（PVを作っちゃおうパーティは、5月22日に順延）。でも、参加してくれる方から、「ライヴが次々と中止になって寂しいから、Viju☆Love☆Nightは開催して欲しいです。ライヴより、電気を使わないと思うし（笑）」というメッセージをいただき、4月17日は開催することにしたよ。ライヴより電気を使わないかどうかはわからないけど、とにかくみんなを元気にしなくちゃ！ 自粛ばかりしてたら景気も気分も落ち込むし、それが結局東北復興の足かせになってしまうからね。

そうそう、先月、このページのイラストと広告ページでお知らせした「V-Love☆Live Vol.1」。その後、情報が途切れていたけど、関係各方面と協議の末に、開催することが決定したよ～！ V-ROCK FESTIVALで試みた「ライヴを中心としたお祭り」というスタンスで、来てくれた方みんなを笑顔にするイベントにしたいと思ってる。もちろん、被災した土地のファンの方々にも、笑顔が届くように計画中。みんな、是非、遊びに来てね!!

●V-Love☆Live Vol.1
－Suported by V-ROCK FESTIVAL－
2011年6月18日（土）
◆出演/Alice Nine、ゴールデンボンバー、AYABIE、樹威、摩天楼オペラ、LOST ASH（OP）、V-last.（OP）、and more…
◆会場/新木場STUDIO COAST
◆OPEN 13:00 / START 14:00オールスタンディング
◆料金/前売り ¥5,000（消費税込み）、当日券¥5,500（消費税込み）。当日ドリンク代¥500。入場整理番号付き
◆オフィシャルHP/http://v-love.info
◆問い合わせ/チッタワークス ☎044-276-8841

＊　＊

ある被災地の方が、「今回の震災は何千年に一度のことだそうだけど、ということは、わたしたちは何千年に一度しかできない体験をしている貴重な世代ということになります。この状況を、しっかり感じて大切に考えなくては」と書いているのを見た。なんて、ポジティヴな考え方！ たしかに、震災以降、人々の考え方が変わってきているような気がする。絆を大切にし、自然を大切にし、生きている意味をあらためて考えている人が増えてきている。多くの人が感じているように、人間は、日本人は、どこかで方向を間違えたレールの上を走り続けてきたように思う。この震災をきっかけに、正しい生き方、考え方に軌道修正するべきだ。そのためにやるべきこと、必要なことを一人一人がしっかりと考えて、歩いていかなくてはならない。いばらの道だろうけど、きっとわたしたちは乗り越えられるはずだと信じてる！

笑顔を忘れず、頑張れ、日本!!

V-Love☆Live Vol.1
－Suported by V-ROCK FESTIVAL－

2011年6月18日（土）新木場STUDIO COAST
◆出演／AliceNine、ゴールデンボンバー、AYABIE、樹威、摩天楼オペラ、LOST ASH（OP）、V-last（OP）、and more…
◆オフィシャルHP／ http://v-love.info

現実に向き合い、生まれたモノ

5月11日にリリースされる2ndシングル「I'z」は、過去の作品
てもメッセージ性の強いものに仕上がった。"今、自分たちが
できることとは?"を考えた結果、非常にたくましい4曲が出
のだ。理想だけを追わず、現実に真正面から向き合ったとき
見つけられると思う。少女-ロリヰタ-23区の本質、それがこ
には詰め込まれている。

Interview:ERI

I'z

少女-ロリヰタ-23区

lolita 2

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

メロディアスになろうと、

――おぉ、ハイブリットロックから一転して！

リョヲ丞：今回、伝わりやすさというのを重視したんですよね。あとは、勢いだったり、ライヴでの楽しさだったり。そういうところを踏まえ、各々がデモを持ち寄りました。

――リード曲の「I'z」は、今おっしゃった要素が全て詰め込まれた曲ですね。

龍兎：次はどんな曲でいこうかなって思ったとき、リョヲ丞から作品全体のコンセプトを聞いて。そこで、メロディアスながらもテンポアップした曲を持ってきたんですよね。

――この曲は楽器陣が目立っていますが、その案はデモ段階からあったのですか？

龍兎：そうですね。最近、同期がバキバキに入っている曲が多かったっていうのもあって、逆に、楽器が目立ったら面白いんじゃないかって考えたんですね。その結果、バンドサウンドが際立ったロックになったと思います。

BAN：ドラムは、前作のテーマと同じで、ヴィジュアルロックドラマーの要素をたっぷりと出していきましたね。普段、ツーバスのベタ踏みってやってこなかったんですけど、ここではそれが存分に出ています。

――演奏する側としてもそうだと思いますが、聴いていてもとても新鮮で。

BAN：新しいなって自分でも思います。今までミクスチャーとかデジタルロックな音楽が多かっただけに。でも、カバーアルバムでLUNA SEAの曲をカバーしたこともあり、王道なドラミングを出していくのもありだなって思ったんですよね。それも含め、この曲は学ぶところがたくさんありました。

ユ≠キ：自分もBANと同じで、メタル的な曲調は通ってこなかったんですけど、龍兎がこの曲を持ってきたとき、素直にいいなと思えたんですよね。なので、楽曲の持つ面白さを活かしつつアレンジしていって。毎回、曲によって表情を変えたいと思ってフレーズを考えているんですけど、これは色々と練っていきました。

龍兎：今までにないぐらいギターのハモリが多い曲なので、ユ≠キとは細か

龍兎

蝴蝶网
hudie.com

ユ≠キ

蝴蝶网
hudie.com

いところまで話し合っていって。そのおかげで、自分としても新しいギター像が見つけられたし、音で楽曲が華やかになるというのを感じることができましたね。

――歌詞に関しては、みんなで持ち寄ってきたものを合体させていったとか。

龍兎：それぞれの持ってきた言葉を合わせた感じですね。

リョヲ丞：この曲では力強さっていうのをテーマにしたんです。今まで以上に強く感じられる言葉を持ってきたいっていうのが全員の中にあって。だからこそ、前向きに頑張っていこうというメッセージを込めました。僕としても、そこを意識してベースを弾いていったんです。聴いていて気分が高揚するようなプレイっていうのを心がけていきましたね。

――こうした楽器陣の華やかさを引き立てているのが、総史さんの歌声であり。

総史：今回のレコーディングは震災後ということもあり、すごく考えさせられました。それだけに、被災地にいるファンの方に向けて歌っているところもあって。前向きに感じられる曲だからこそ、僕はマインドを強く持って、一言一言に感情を込め、精一杯歌っていったんです。

――次の「B.I.O.S-バイオス-」でも、伝えたいという気持ちが全面に溢れていて。

総史：この曲ができたとき、漠然とだけど、いい曲だなと思ったんですよね。メロディを始め、突き抜けるようなところが気持ち良くて。

リョヲ丞：生きるということの本質が、この曲には詰まっていると思います。後半に出てくる、痛み・希望・声・翼・愛・自分・あなた、そのキーワードを絡め、きっとまた輝けるということ伝えたくて。

――「I'z」とは、また違った説得力がある曲となりましたね。

リョヲ丞：ドラムと打ち込みだけになるセクションはBANのアイデアで、間奏の変拍子になるところはユ≠キのアイデアなんです。メロディアスとは言ってても、普通で終わらなかったとこ

リョヲ丞

蝴蝶网
hudie.com

――なるほど、そうきましたか（笑）。

BAN： なので、最初からこういう音にしたいっていうのは明確で。ドラム的にも、サウンド的にも、今後こういう形は活かされるんじゃないかなと思います。

ユ≠キ： 俺も最初からやりたいことは見えていました。というか、前回の時点から、次は絶対にやりたいフレーズっていうのが自分の中にあって。この曲を聴いたとき、それが確実に当てはまると思ったので、イントロの2番目に入れてみました。

龍兎：「I'z」とは違って、完成形があったところから始まった曲なので、いかにそこに近付けるかというのが自分の中での課題でもありましたね。シンセがメインになっていることもあり、ギターではそことのバランスも考えて弾いていって。最終的には、メンバーが思い描いていたことが100％具現化できたので、良かったなと思います。

――通常盤タイプBに収録される「天球シンフォニア」は、久しぶりに、リョヲ丞ワールド全開で。

リョヲ丞： あぁ（笑）。だからといって、初期のロリヰタって感じもしないと思うんですよ。

――確かに。繊細な曲調ではあるけれど、成長した今だからこそできる曲というか。それよりも、リョヲ丞さんが書き手としての自分を取り戻せた感じがして、聴いていて嬉しくなりました。

BAN： この曲があるから、他の曲が明確になっているっていうのはありますね。それだけに、僕としては、リョヲ丞の意見を元にして音を作っていって。前に出していたようなニュアンスを思い出しつつ、初々しい気持ちで叩いていきました。

龍兎： ギターもリョヲ丞のこだわりを形にしていったんです。その感覚も久しぶりだったんで新鮮でしたね。〝こういうギターを弾きたくてバンドを始めたんだよな〟って思い出せたりしましたから。

ユ≠キ： リョヲ丞のやりたいことっていうのはわかっていたので、俺は思いついたままを弾いただけですね。

総史： 僕も、この曲はリョヲ丞の思い描いていることをそのまま形にしてい

蝴蝶网
hudie.com

108-0074　東京都港区高輪3-4-13　レフォルマ高輪5F
ty Three Tribe」　http://www.lolita-23q.com/

きました。言うならば、リョヲ丞のために歌ったというか（笑）。

リョヲ丞：おっ、それは嬉しい（笑）。

総史：1番伝えたかった「忘れないよ」という部分を含め、聴き応えのある曲に仕上っていると思います。

——通常盤タイプCに収録される「鉄腕アトムのテーマ（仮）」は、タイトルが表すとおりの曲だと受け取っていいのでしょうか？

リョヲ丞：先程も言いましたが、今回の作品は震災後に作ったということもあり、色々と考えることが多くて。あの出来事によって環境だって変わってしまった。僕自身、ツィッターなどを見ていると精神的に追い込まれてしまうときもあって。そんな中、この曲が完成したんです。歌詞を見てもらえばわかるんですけど、ここでは、自己犠牲など、非常に重いテーマを扱っています。けれど、あえてデリケートな問題に真正面から向き合うことが、意味のあることなのではないかと。綺麗事だけを並べるだけがロリ犇タの音楽ではないと思っているので。

——色々と考えさせられる内容ではありますが、常にリアリティを提示するロリ犇タが表現するからこそ意味のあるものになっていると思います。それでも、重々しく聴こえないのは、ユ≠キさんがサウンド面で大胆なアレンジを試みたおかげかなと。

ユ≠キ：他の曲と比べたときに、どれとも雰囲気が似かよらないものにしたくて。なので、本来はもっと長い曲だったんですけど、本当に伝えたい部分だけを残していったんです。結果的に、2分強という短めの曲になりましたが、伝えたいことは伝えられたんじゃないかな。

リョヲ丞：僕たちなりの角度でメッセージを飛ばしたので、ぜひとも感じてもらいたいと思います。

——そして、5月8日には恵比寿リキッドルームでワンマンライヴが行われます。現段階で考える、この場所で伝えたいこと、見せたいこと、とは何でしょう？

総史：新曲披露はもちろんのこと、この先を感じさせるライヴを見せたいと考えています。来る人全員の思い出になるようなライヴをしたいですね。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

真緒

絶望を味わった事があるからこそ

2ndフルアルバム『COLD BLOOD』
(※当初予定されていたリリース日から変更があります。
リリース日は4月6日になりました)には、
さまざまな感情が詰め込まれている。そのどれもがリアルであり、
聴けば聴くほど深みを増していく。
今回のインタビューでは、作品に綴られた言葉を読み解くべく、
作詞者の真緒にスポットをあてることに。
歌詞に多く見られた"孤独"と"愛"。
この2つに隠された想いとは──。
今まで語られることのなかった胸の内に迫る。

Interview:ERI MIZUTANI

──いかがでしたか、アルバムのレコーディングは?

「振り返ってみると、大変でした。ライヴを挟みながらのレコーディングということもあって、声が思うように乗らないときもあったし。でも、それは自分でも気に入らなかったので、全部録り直したりして」

──以前に増して、より良いものを作りたいという気持ちが出ていますね。

「今、自分ができる最大限のものを表現したかったんですよね」

──その甲斐あって、素晴らしい作品となりました。前回のインタビューで、美月さんが"1枚目のアルバムはバラエティに富んでいたけど、色んなところに手を付けすぎた"とおっしゃっていましたが、今回は幅を広げつつ、軸がしっかりとしているという印象を受けましたよ。

「そこはメンバーが1番こだわった点でもあるんです。前作がダメだったというわけではないけれど、やりたいことがありすぎたかなと思うんですね。それで、

たシングルも含め、どうやったら良いものが作れるか、かといって、シングルに重点を置いたアルバムにはしたくない。そうやって両方のバランスを考え、アルバムを仕上げていきました」

──正直、シングル曲が目立つアルバムになってしまうかなとも思ったんです。でも、実際、できあがったものを聴いてみると、そうではなく。

「そこが、Sadieらしいですよね」

──ええ。それに、荒っぽさも健在で。良い意味で、結成6年が経ったのに落ち着かないバンドだなぁと。

「あはは(笑)。そういったところでは、新曲でも存分にSadieを出せていると思うので、自信を持って、バランスの良いアルバムになったと言えます」

──そうそう、ひとつ気になったのですが、歌詞には"孤独"と"愛"という言葉が多く見られます。まず、"孤独"から挙げると、1曲目の「慟哭」、7曲目の「ドレス」、9曲目の「霞に消える華」、12曲目の「瞼の憂鬱」に入っていました。

まで"孤独"という言葉にこだわるのは、何か理由があるのでしょうか?

「今回、何が歌いたいのかと自分に問いかけたとき、Sadieを始めた背景というのが浮かんだんですね。そこで、切っても切り放せないのが"孤独"というワードでした。結果的に、それが自分の中で1番伝えたいことだったということもあり、こうして、歌詞に自然と多く出てきたのだと思います」

──なるほど、そういうことでしたか。でも、明るい性格の真緒さんが"孤独"という言葉を自分の中から引き出すのは、なかなか難しいことなのでは?

「いや、今でさえ、社交的な性格ですけど、Sadieを始めたときなんかは、独りでいることが多くて。友達も作らない主義だったし。実は、僕、Sadieを始める前ってけっこう色々あって…。そのせいか、人を信じることっていうのができなくなっていたんですね。そういう鬱積した感情を吐き出すために始めたのがSadieで。けど、仲間ができ、先輩や後輩、さらには友達にも恵まれ、そうやって自分を取り巻く環境が変わってきたとき、孤独から解放された自分がいたんです。きっと、僕みたいな思いをしている子っていっぱいいてると思うんですよ。だから、そういう子たちを孤独から解放してやるのが、僕のヴォーカリストとしての宿命なのかなって」

──そういえば、初期のSadie(当時はサディ表記)の楽曲って、退廃的な雰囲気のものが多かったですよね。けれども、それがいつしか前向きになり、ライヴでは、オーディエンスに向かって"生きろ!"と訴えかけ始めた。そうした背景には、真緒さんの心境の変化が大きく作用していたのですね。

「はい。昔の自分を思い返すと、今辛い思いをしている子たちの気持ちが手に取るようにわかるんです。だったら、作品やライヴで少しでも救うことができたらと思うんですよね」

──ちなみに、孤独を抱えていた頃って、自ら、人を寄せ付けないオーラを放っていたのですか?

「自分では気付かなかったんですけど、いうのもあるし。メンバーとは最初から仲良かったんですけど、今仲良くなった人たちからは、"会ったときと全然印象が違います""もっと怖い人かと思ってた"とか言われますから」

──ずいぶんと損してきましたねぇ。

「かなり(苦笑)。何か、バンドっていうのはわきあいあいとやっていてはダメだっていう固定観念があったんですよね。周りは全員、敵だ! と思え、というか。まぁ、今思えば、自分に自信がないっていう劣等感からくるものだったのかなと思いますけど。でも、そんな内向的な性格ではダメだと気付いてからは、自分で自分の性格を変えていきました。そのおかげで、今ではこんなに社交的に(笑)」

──結果オーライですよ(笑)。それにしても、関わる人が増えれば増えるほど、自分が得るものって大きいですよね。真緒さんの場合、それが顕著に声に反映されているのではないのでしょうか。

「そういうのも、心境が大きく関わっているんですかね」

──そう思います。真緒さんからすると気付きにくいことかもしれないけれど、Sadieの楽曲って、人を惹き付けるものがあるんですよ。それって、真緒さんが痛みを知っているからだと思うんです。初期の頃は、自分の感情をただ吐き出すだけで冷たく聴こえるときもあったけど、今では、人を救う歌声に変わってきたせいか、とても温かみがあるんですよね。きっと、痛みを知らずにここまで来たら、人の共感を得られる楽曲は作り出せていないのではないかなと。

「絶望を味わったからこそ出せるものはあるのかな。こうして、人に影響を与える立場だからこそ、綺麗事ばかりは並べたくないんですよ。僕の表現するものに対して共感してくれる人がいる限り、絶対に、嘘のことも書きたくない。何か、最近、かっこつけなくてもいいかなって。それよりも、人間らしさを出した方が、オーディエンスには伝わるものがあるのかもしれないなって。だからこそ、僕はずっとオーディエンスと同じ目線であり続けたいなと思いますね」

──では、反対に、"愛"については

蝴蝶网
hudie.com

の愛っていうのが多いのかな」

——はい。確かに、ハッピーな愛の形っていうのはあまり出てきませんね。

「Sadieの根元が〝悲しみ〟なので、必然的にそうなってしまうんですよね。そこは、〝孤独〟と通じるところかもしれないです」

——歌詞を読んでいると、愛を求めているものが多いんですよね。それも、強がってはいるけど愛が欲しい、といったニュアンスで。もしや、真緒さんって、〝守ってもらいたい願望〟でもあるのかしら？と思ってしまったのですが。

「というより、僕がオーディエンスを守ってやるっていう気持ちの方が強いです。それはもはや、宿命でもあるし。でも、オーディエンスの愛で自分が生かされているっていうのもあるんですよね。とは言え、僕ができることって限界があるじゃないですか」

——そうですよね、オーディエンス1人1人のそばにいて守ることは不可能…。

「ええ、僕は神様でも何でもないので。けど、守りたいという気持ちは常にあって。でも、お互いが大きな愛で守られていたら、一緒に生きていこうって思えるんじゃないかなって。そこは僕の願いでもあるんですけど」

——真緒さんって、実際の恋愛に関しても、そういう考えをお持ちなのですか？

「うーん、どうなんですかね。どうなんでしょう？」

——いやー、そう言われても。

「でも、普通が1番って思いますよ」

——アー写で見せるコワモテの雰囲気からは想像もできない発言です（笑）。

「こう見えて、平凡な毎日が長く続いてほしいタイプなんで（笑）」

——もしかしたら、真緒さんにとっての愛は、〝信頼〟なのかもしれませんね。

「それ本当に大事ですね。僕は弱い人間だけど、〝Sadieの真緒〟という像に包まれたときに、自分を変えることができるんです。だから、ステージに立っているときは強い人間として、オーディエンスに勇気を与えたいし、その逆も然り。だから、いつまでもお互いに強い立場でいようねって、皆には言いたいですね」

●FACE MUSIC　〒550-0015　大阪市西区南堀江1-18-27-506　http://www.sadie-web.com/

蝴蝶网
hudie.com

girugämesh

WORLD TOUR 2011"HERE WE GO!!"

PARIS～LONDON～BOCHUM
ヨーロッパ3公演を独占レポート!!

多くのライヴが、震災の影響を受けて中止や延期になる中、ギルガメッシュは遠くヨーロッパで、日本に想いを馳せながら、懸命にライヴを行なっていた。
トでもすでに定評のある彼らだが、実際の様子はいかに？　パリ～ロンドン～ボーフムとヨーロッパに足を伸ばし、この目で彼らの人気ぶりを確かめてきた。
そこでの彼らの成長ぶりは、6月の"JAPAN TOUR"で、その目で確かめてほしい。

Photography:girugamesh staff（all area）,SHOXX（london）
Report & Interview:MIYUKI MURAYAMA

0316 @ LA LAITERIE(PARIS)

は、3月5日・モスクワで幕を開けた。その後ヨーロッパ各地を移動してライヴを重ね、東日本大震災が起きたあの日、彼らはベルリンにいた。震災後はブログなどが更新されなくなったため、メンバーの様子は伺い知ることは出来なかったが、16日にパリで顔を合わせたメンバーは元気な様子で、まずは一安心。それから4人は口々に日本の状態を尋ねてきた。インターネットがあるとは言え、やはり状況はなかなかつかめなかったようで、ブログに何を書いていいかも分からず、かなり戸惑いを覚えていたようだ。

そんな中で、彼らは今自分たちが出来ること、やるべきことを考え、ひとつの行動を起こしていた。

『今自分たちに出来ることは、日本であったことを直接ヨーロッパの人たちに伝えることだと思ったんです。それで、ちょっとでも日本への気持ちを持ってもらいたくて。それと、ベルリンのライヴからライヴハウスで義援金を集めて、ちょっとでも日本のためになるように、行動を起こしてます』と語る左迅の表情には強い意志がにじんでいた。

複雑な気持ちだったと打ち明けながらも、『お客さんはチケットを買って来てくれて、純粋に楽しみに来てくれる子もいるんで、俺らもしっかりライヴを楽しんでやろうと思った』と言う愁。

弐も戸惑いは大きかったようだ。『想像がつかなかったですね。成田空港から笑顔で行ってきます～って行ったのに、その数日後にあんなことになって。実際、（震災があったと）聞いてもピンと来なかったし、映像とかも観られなかったから、どれぐらいの状況なのかとか分かんなかったですね。でも、ライヴを観たいお客さんがいるわけだから、しっかりライヴをやって、また一回り二回り成長した姿を日本に帰った時に見せなきゃと思ったし、観に来てくれるお客さんのためにも、きっちりアーティストとしてやってきました』

この経験は、アーティストであることを改めて考えさせられる機会になったようだ。それは、『今一度歌詞を見直して、改めて（セットリストに）入れた曲もあるし、用意してなかったけど入れた曲も発信する僕ら、受け取られ方…結構悩みました。難しいところですよ』という愁の言葉にも如実に表れているだろう。

ベルリンの後、ブダペスト～ミュンヘンとライヴを重ね、『とりあえず、今自分たちに出来ることはライヴと募金活動しかないんで、とにかく今自分の目の前にあることをやろうと思っていた』と言うRyoや、『これまで以上に、ステージに立つと気持ちが入りますよね』という弐。そして震災のことが世界中に広まるにつれ、左迅は『MCをしている時の空気感も、頑張ってねというのが伝わってくるようになってきたし、日本の人への気持ちが強くなってきてる実感があった』と言う。

『日本の人たちも頑張ってるんだから、俺もやれることをやるぞという気持ちになってますね』とRyoが言うように、日本への想いは、彼ら自身がライヴへ向かう姿勢をも後押しした。

同時に、ライヴが出来ることの大切さやありがたみを感じることが出来たのは、彼らにとって大きな意味を持つことだっただろう。日本では現実的にライヴが出来ない場所があり、それ以外の地域でも多くのライヴが中止／延期されていったのを彼らも耳にしていただけに、『今日本だとライヴが出来てないんですよね。そんな中で俺らはライヴが出来るから、1本1本のライヴを本当に大切にしないといけないと思う』と言う愁の決意には重みが感じられた。

ライヴに対する想い、日本への想いを深くかみしめてステージに向かう彼らの姿をまず目にしたのは、3月16日・パリ、Le Trabendo。

会場は、フロアに対してステージが斜めにあるような変形した造り。そ[illegible]いかにもロック好きといった印象の[illegible]服装の女の子、男の子が埋め尽くしていく。開場と共に最前列を求めて駆け出したり、熱心にグッズの品定めをしたりする姿は、日本のファンと何ひとつ変わらない。けれども、これだけたくさんのファンが、パリでギルガメッシュを待っていたというのは、話には聞いていたものの、実際に目にすると何とも不思議な気持ちがした。

蝴蝶网
hudie.com

Girugämesh
WORLD TOUR 2011"HERE WE GO!!"

今回のヨーロッパ・ツアーで、パリ～ロンドン～ボーフムと3ヶ所のライヴを観たわけだが、やはりパリはいちばん最初に観たということもあって、日本とのノリの違いや、想像以上の盛り上がりぶり、彼らの曲の浸透度など、驚きが最も大きく、新鮮な印象を受けた。

開演前から異様なほどのテンションの高さを見せつけるオーディエンスは、最初からボルテージを思い切り上げる。そのまま、掛け声をあげ、拳を突き上げ、「睡蓮」のような聴かせる曲でもそれが止まらない。さらに、ギター・ソロなど、メンバー一人ひとりの動きひとつに、大きな反応を見せる。そのせいか、弐のテンションもひと際高かったようだ。Яyoも何度も立ち上がっては、オーディエンスをさらに煽り立てる。

"YEAH!"で始まる愁のMCはパリでも健在だが、そこにこれまでにな[illegible]ル&レスポンスが加えられていた。愁の言葉に続いて、そのまま大声でオーディエンスが叫ぶ。日本語の意味はおそらく分からないだろうし、それがな[illegible]け!"（彼らの地元のお気に入りの[illegible]メン店の名前）とくればさらに意味不明かもしれないが（笑）、とにかく一[illegible]に大声を出して、会場中が盛り上がる。そして最後に叫んだ"Pray for [illegible]"には、その場にいた数少ない日本人としてありがたく、心が温まる想いがした。

左迅も英語やフランス語を交え、コミュニケーションを取る姿は堂に入っていて、日本で見る姿よりもさらにロック・ヴォーカリスト然とした、クールなたたずまいを感じさせた。

これまで経験を積んできただけに、海外のライヴであることは意識していないと4人ともが口を揃えて語ってはいたが、観る側としては、オーディエンスの反応が異なるという点も含め、やはりライヴの印象はかなり違って見えた。ある意味力まかせと言うか、がむしゃらな印象を受けたのは、久しぶりだったような気もする。それほど力の入ったライヴだった。

ヨーロッパ・ツアーでは、ライヴを終えるとすぐに移動ということが多く、この日もすぐにパリを後にし、フェリーでイギリスへ。翌々日にはロンドンでのラ

蝴蝶网
hudie.com

0318 @ O2 ACADEMY(LONDON)

りタイトだったようだ。

それでも、ロンドンのO2 Academyでのライヴはパリ以上に充実した内容となった。

登場と共に、メンバーは気合いの入った表情を見せ、左迅が一気に会場全体をぐんぐん引き寄せ、引っ張っていく。そして「MUSIC NO REASON」が始まると同時に〝ロンドン!〟と呼びかければ、会場が一体になって加速していくような心地好さが広がった。彼らの持つ勢いやパワフルさが、言葉などの壁をたやすく超えて、イギリスの地で通じているさまをはっきりと目にした。躍動感溢れる「BEAST」では、ダイナミックな動きで、さらにオーディエンスを盛り立てる。

左迅の声がしっかりと前へ出ている感触があったことで、全員が余裕を感じられたのか、プレイもより的確さ、タイトさを増し、オーディエンスのリアクションの違いはあっても、最近の彼らしい、堂々たるライヴとなった。

コール&レスポンスでは、イギリス名物〝フィッシュ&チップス〟を織り交ぜて叫ばせるなど、心憎い遊びも取り入れ(オーディエンスは一瞬戸惑っていたが/笑)、一回一回のライヴを大切にしている姿勢が伝わってきた。

全ての演奏を終えた後、深々と頭を下げた左迅。顔を上げると、その表情は晴れ晴れと輝いていた。オーディエンスは最後まで高いテンションを保ち、興奮しっぱなしといった様子だ。国民性なのか、やはり日本とは異なる独特の熱さに、後ろから観ていても圧倒されるようだった。こういった環境でのライヴの経験が、彼らを成長させないわけがない。ヨーロッパ・ツアーを初めて行なった2008年からの怒濤の成長の理由は、こういった経験にあったのだろう。

再び海を渡り、イギリスを離れると、いよいよファイナルのボーフム、Zeche。ボーフム、ミュンヘンと、今回のツアーでは、ドイツ3ヶ所中2ヶ所はソールドアウトするほど、ドイツでの彼らの人気は凄まじい。メンバー曰く、ドイツのファンは日本のいわゆるバンギャルに憧れているとか。確かに、ギルガメッシュTシャツを着込んだ女の子たちが、やけに元気

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

WORLD TOUR 2011 "HERE WE GO!!"

319 @ ZECHE(BOCHUM)

がいいのが目につく。

開演時間が近づくにつれヒートアップしたオーディエンスは、SEが鳴る前から大興奮。ライヴ・スタートと共に、会場全体が激しいノリの渦と化した。そんな中、体を前方に折るようなノリを見せる一部のオーディエンスには、日本のファンの影響を感じる。パリやロンドンでは見かけなかった光景だ。

「driving time」では、フロアの人波が揺れ動き、ステージでは左迅が躍動する。声を振り絞るようにしながら、歌詞を噛み締めて「睡蓮」を歌い上げるなど、万全の体調ではなかったのかもしれないが、歌に対する高い集中力でそれをカバーしてみせた。スポットライトを浴びながら、たっぷりと存分にギターを聴かせた弐に続き、愁のドイツ語を交えたコール＆レスポンスは、かなりのウケをかっさらう。本編最後の「Never ending story」を終えると、惜しむようにЯyoは最後までステージに残っていた。

ファイナルだけに、4人もおおいにハジけて楽しみ、そんな空気感が自然とオーディエンスにも伝わった。会場に広がる一体感。誰もがこの場を心から楽しむ気持ちに浸っていたような気がする。最後は4人からの精一杯の音と想いが会場に溢れ、大歓声がそれに応える中、ヨーロッパ・ツアーは幕を下ろした。

ステージから降り、興奮醒めやらないメンバーに、ツアーの感想を聞いた。

左迅：募金も集まって、段ボールいっぱいの折り鶴とかももらって、日本のためにみんな考えてくれるんだなって、ヨーロッパの人たちの優しさみたいなものをいっぱいもらったツアーでしたね。曲で人の心を動かせるということを知ってから、曲とか歌詞も変わってきたし、人の心を動かせるんだという自信も最近は感じてたんで、そういう力をこういう時にこそ使いたかったんですね。MCでは、みんな頷いてくれたりして、伝わってるのがすごい感じられたし、何度ありがとうと言っても足りないぐらいの気持ちでいっぱいです。

弐：バンドとして目標を持ってツアーに臨もうという話があったんですけど、今

『GO』を完成させてから、メンバー間でもやってやるという意識が強くなったと思います。俺も一歩一歩前にっていう感じでした。とにかく今年はZeppまでは突っ走って、いい流れをつかめたらいいなと思います。ギター・ソロで前に出ると、お客さんもバーッと盛り上がってくれるのは素直に嬉しかったですね（照笑）。

愁：今までのツアーよりも収穫があったと思います。以前と比べると、メンバー間でもスタッフ間でも、次のライヴに向けてどうしようかというのを話して、セットリストとか曲間も調整して、いい感じに上がっていった気がします。コール＆レスポンスは、ツアーの途中から入れたんですけど、ああいうことこそ、言葉とかそういう全ての壁がないと思いました。日本でもアメリカでも、どこでも出来ると思うし、新しい挑戦でしたけど、上手くいって良かったです。これからは、もっと曲ごとの表情を見せていきたいですね。プレイ、パフォーマンス、表情で見せることで、どの国でも出来るし、初めて観たお客さんでも、どんな曲かある程度分かると思うんです、喜怒哀楽の4つぐらいは。そこまで伝えられてこそ、世界のバンドっていう気がするかな。

Яyo：楽しかったですね、単純に。海外の人ともコミュニケーションが取れるようになったし、気持ちに余裕がすごく出来て、楽しめました。ライヴでも、海外の人のノセ方を分かってきたと思います。海外でのライヴでは曲と曲の間は絶対歓声がすごいんで、間を多く取ってるんですね。日本だとシーンと静まっちゃうから、素早くカウントでつなげたりするのが必要なんですけど、海外だと絶対静まらないんで。そういうことも考えられるようになりました。海外ツアーは環境が整ってないところも多いんで、鍛えられるし、パワーアップしたギルガメッシュを日本のみんなにお届けしたいと思います。

日本を離れている間に震災が起きるという予想だにしなかった事態を懸命に受け止め、今するべきこと、出来ることに

Somnian★Rabb
ソムニアンラ
V ROCK界に新たな歴史が刻まれる。
LUXURY V ROCK
ラグジュアリーブイロック
最上級のLUXURY V ROCKを聴け!!
Somnian★RabbitがV ROCKファンへ贈る究極の愛の歌。 まずは何も言わず、『oneHeart』を聴いて欲しい。
聴覚への衝撃!! 脳内中毒を引き起こすメロディで、V系に新ジャンルを確立!! LUXURY V ROCKに乗り遅れるなっ!!
『one-Heart』PV視聴⇒ YouTube ソムラビ 検索 あなたの特別な1曲に…
— リリースを記念して全員プレゼント実施中!! —
HPよりCDをご購入頂いた方全員にメンバーフォトをもれなくプレゼントします!!
ソムラビホームページにて簡単予約。
今すぐ『ソムラビ』で検索!!
— スペシャル特典 —
ライブ会場で『SHOXXを見た』
先着5名様にポスターをプレセ
ACCESS!!
YouTube
Mobile Web
各CDショップ、amazonにて販売中!!
Now on sale!!
2011.03.14 [Mon] 1st Major single
『one-Heart』
追加プレス決定!!
初回1000枚が既に予約完売の為!!
TOWER RECORDS
HMV
amazon.co.jp
iTunes
レコチョク
TSUTAYA
¥1,575(tax in)/SRST-4511/発売・販売元:STARNITE RECORDS 【CD収録】1.Z-GENESIS/2.PARASITE/3.Dropstar/4.『one-Heart』 全国CDショップにて発売中!! レコチョク、iTunes配信開始!!

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

NIGHTMARE

ナイトメア移籍第1弾 Single

VERMILION.

2011.5.18 [wed] RELEASE!

VERMILION.【Type A】CD+DVD
¥1,890(tax in)YICQ-10079/B
CD
1. VERMILION. 2. ByeBye
DVD
「VERMILION.」Video Clip

VERMILION.【Type B】CD+DVD
¥1,890(tax in)YICQ-10080/B
CD
1. VERMILION. 2. ByeBye
DVD
「ByeBye」Video Clip

VERMILION.【Type C】CD only
¥1,260(tax in)YICQ-10081
CD
1. VERMILION. 2. ByeBye 3. trauma

NIGHTMARE TOUR 2011

the time rewind to ZERO

4.15(fri)
戸田市文化会館
OPEN 18:00 / START 18:30
info. ディスクガレージ 03-5436-9600

4.20(wed)
大阪国際会議場メインホール
OPEN 17:30 / START 18:30
info. キョードーインフォメーション 06-7732-8888

4.27(wed)
Zepp Sendai
OPEN 17:30 / START 18:30
info. キョードー東北 022-217-7788

5.1(sun)
愛知県芸術劇場大ホール
OPEN 16:00 / START 17:00
info. サンデーフォークプロモーション 052-320-9100

5.3(tue)
広島アステールプラザ大ホール
OPEN 16:30 / START 17:00
info. キャンディープロモーション 082-249-8334

5.4(wed)
福岡国際会議場メインホール
OPEN 16:30 / START 17:00
info. キョードー西日本 092-714-0159

5.8(sun)
東京国際フォーラム ホールA
OPEN 16:30 / START 17:30
info. ディスクガレージ 03-5436-9600

【チケット料金】全席指定：¥5,500(tax in) ※3歳以上有料、3歳未満入場不可【一般発売日】2011年3月12日(土)

4.27 東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館) ➡ Zepp Sendai 東日本大震災の影響により会館が被害を受け、復旧･再開の目処が立たないため公演会場を Zepp Sendai へ変更して開催致します。

Nightmare Official website [http://www.nightmare-web.com/] Nightmare Official mobilesite [http://m.nightmare-web.com/]

avex group

蝴蝶网 hudie.com

Printed in Japan
雑誌04537-06
特別定価980円
本体933円
株式会社 プロスト
凸版印刷株式会社
4910045370616
00933